

四川省の基礎調査と震災復興への取組み

# 四川省の経済・産業ガイド

2010年3月

財団法人 日中経済協会

四川蜀名市場諮問有限公司

**KEIRIN**



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

<http://ringring-keirin.jp>

## は し が き

中国・四川省は、諸葛孔明、劉備玄德などの登場する三国志の蜀の国として日本人にも馴染みが深い。また、中国 4 大料理の一つである四川料理は、唐辛子や山椒などの香辛料を使った特徴ある料理で、日本でもファンが少なくない。省都である成都是、ユネスコから「世界の美食の都」の称号を与えられている。四川省の人口は 8,000 万人を超え、GDP は省級行政区の中で第 9 位である。その中心に位置する四川盆地は北海道の 2 倍の面積があり、四方を 3,000m 級の山々に囲まれて、古来から気候温暖で物産豊かな「天府の国」と称された。このためか、人々の気質は温和で楽観的である。

2008 年 5 月 12 日 14 時 28 分、この平穏な地域は M8 の大地震に見舞われた。死者、行方不明者は 8 万人を超え、被災人口 4,600 万人、全半壊家屋 3,000 万戸、5,600 企業が生産停止に陥り、被害総額は 12 兆円に及んだ。こうした甚大な被害に対し、世界 61 カ国・地域や国際機関から様々な援助の手が差し伸べられた。わが国からも、政府、民間からの義捐金や救援物資が贈られたほか、地震発生直後に現地入りした緊急救援隊の救助活動の様子が全国に放映され、その真摯な態度が中国の人々に深い感動を与えた。中国国内では、中央政府の財政出動による復興支援のほか、全国 18 の省が被害の大きい市や県を相対で支援する「対口支援」を行っている。

日中経済協会は、毎年秋に日本経済界首脳をメンバーとする代表団を中国に派遣している。2008 年度は、北京で胡錦涛国家主席、李克強副総理との会談を終えたあと、被災後の四川省の復興と発展に資する協力について四川省政府と協議するため成都を訪問した。双方は、速やかな震災復興のため、日本と四川省との経済・貿易分野における協力をより一層強化する必要があるとの共通認識に基づき、「日中経済協会訪中代表団と四川省人民政府との協力強化に関する会議備忘録」を締結した。本報告書は、この備忘録の中の協力項目の 1 つである、日本企業と四川省との貿易、投資関係を促進するための情報広報協力の一環として作成されたものである。

本書「四川省の基礎調査と震災復興への取り組み—四川省の経済・産業ガイド」では、四川省の経済産業状況について、省内 5 つの経済区ごとに詳述したほか、震災復興の現状と復興支援政策及びその優遇措置について整理するとともに、四川省に優位性があり、日本企業との貿易投資ビジネスの可能性が期待される個別産業として、資源、環境、アウトソーシングの 3 産業をとり上げて紹介した。また、巻末では、四川省の文化と風土、観光名所なども解説した。

本書は、日中経済協会が財団法人 JKA の補助を受けて四川蜀名市場諮問会社に調査委託を行い、四川省商務庁及び四川省行政サービスセンター等の協力を得ながら作成されたものである。本書による情報提供により、日本企業と四川省とのビジネス関係が広範に促進される端緒となり、被災後の四川省の経済再建と更なる発展に貢献できれば幸いである。

2010 年 3 月

財団法人 日中経済協会



# 目 次

## 第1部 四川省と各経済区の基本情況

### 第一章 四川省の経済・産業概況

第一節 総論.....	6
第二節 産業の発展情況.....	14
第三節 四川省の交通と物流.....	23
第四節 人民生活.....	26
第五節 日本との関連.....	27
第六節 四川省の優位性.....	29

### 第二章 成都経済区——震災復興重点地域5都市

第一節 成都市——期待される西部地方の牽引.....	34
第二節 徳陽市——GM ハマーブランド購入が話題に.....	46
第三節 綿陽市——テレビ市場で30%のシェアを誇る長虹社.....	52
第四節 資陽市——工業都市を目指して.....	58
第五節 眉山市——蘇東坡の生まれ故郷.....	63

### 第三章 西北部生態経済区——汶川大地震の震源地2自治州

第一節 アバチベット族チャン族自治州——九寨溝に見られる別天地.....	68
第二節 カンゼチベット族自治州——最後のシャングリラ.....	73

### 第四章 東北経済区——天然ガスエネルギーと化学基地6都市

第一節 広元市——唯一の女帝の故郷.....	77
第二節 南充市——朱徳の生まれ故郷.....	82
第三節 遂寧市——岩塩「死海」を観光目玉に.....	87
第四節 達州市——資源を有効利用.....	92
第五節 巴中市——「赤軍」の根拠地.....	96
第六節 広安市——鄧小平の故郷.....	100

### 第五章 南部経済区——エネルギーと重化学工業基地5都市

第一節 内江市——成都重慶経済ゾーンの中心的立地条件を生かす.....	106
第二節 自貢市——井戸から取る塩.....	110
第三節 宜賓市——銘酒「五糧液」を生んだ風土.....	115

第四節 瀘州市——賞味できる歴史 1573 年 .....	120
第五節 樂山市——大仏と峨眉山 .....	125
<b>第六章 攀西経済区——エネルギー、チタンバナジウム新材料、 鉄鋼産業基地 1 自治州 2 都市</b>	
第一節 攀枝花市——一人当たりの GDP では四川省トップ .....	130
第二節 雅安市——お茶栽培の発祥地 .....	135
第三節 涼山イ族自治州——衛星打ち上げ基地 .....	140

## 第 2 部 震災復興と西部大開発

### 第一章 震災復興事業

第一節 震災からの立ち上がり .....	145
第二節 震災復興の政策措置 .....	151
第三節 震災復興の資金源 .....	153
第四節 震災復興の中のビジネスチャンス .....	155

### 第二章 四川省と西部大開発 .....

## 第 3 部 四川省の個別産業に関する日中貿易 投資ビジネスの可能性と課題

### 第一章 資源関連産業

第一節 四川省資源概況 .....	161
第二節 四川省の資源関連産業特徴 .....	164
第三節 外資投資奨励プロジェクト .....	166

### 第二章 環境保護事業

第一節 環境保護産業の定義 .....	172
第二節 四川省の環境保護産業の特徴 .....	174
第三節 政府が企業誘致のために公表するプロジェクト .....	178
第四節 民間企業が望む協力 .....	180
第五節 実施する上で注意すべき点 .....	181

### 第三章 アウトソーシングサービス産業

第一節 アウトソーシング産業の現状 .....	183
第二節 政府の優遇政策 .....	186
第三節 アウトソーシング産業の展望 .....	187

<b>第四章 外資企業が参入可能なプロジェクト</b>	
<b>——共生の場としての四川省</b>	
第一節 中国経済の中の四川省経済の見方.....	190
<b>第五章 結び</b>	
第一節 「世界の工場」から「世界の消費市場」へ.....	194
第二節 中国のGDPが世界2位へ.....	195
第三節 未来展望.....	195
<b>附録1：四川省の文化と風土</b>	
第一節 四川料理.....	197
第二節 四川省に関連する唐詩.....	198
第三節 四川省の観光資源.....	206
<b>附録2：四川省アウトソーシングサービス企業ベスト20.....</b>	<b>221</b>
<b>附録3：四川省環境保護関連企業ベスト20.....</b>	<b>222</b>
<b>附録4：四川省資源関連企業ベスト20.....</b>	<b>223</b>

# 第1部 四川省と各経済区の基本情況

## 第一章 四川省の経済・産業概況

### 第一節 総論

#### 1. 基本情況

四川省は中国の西南部の長江上流にあり、面積は48.5万平方キロで、東西に1,075キロ、南北に900キロ、人口8,800万人です。東は重慶市とつながり、南は雲南省と貴州省に通じ、西はチベットと隣り合って、北は青海省、甘肅省、陝西省と境を接しています。省面積は、新疆、チベット、内モンゴル、青海省に次いで全国第5位です。21の市（州を含む）、181の県（区と県級市を含む）を管轄、人口、資源、経済全てにおいて西部一を誇っています。

表1-1-1 2008年と2009年四川省の主要経済指標

	2008年	伸び率	2009年	伸び率
GDP	12506.3億元	9.30%	14151.30億元	14.50%
一般財政歳入	1041.8億元	18.90%	1174.24億元	21.90%
社会固定資産投資総額	7581.2億元	29.50%	12020.70億元	58.10%
社会消費品小売販売総額	4800.8億元	19.60%	5758.70億元	20.00%
外資利用額	33.4億ドル	66.10%		
省外資金利用額	2998.0億元	52.00%		

「2009年四川省統計鑑、中国統計出版社8月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

省都の成都は2,300年前に都市として生まれて以来、名前を変えることもなく、場所を変えることもなく、歴史を続けて来た中国随一の大都会です。国務院が確定した西南部の科学技術、商業貿易、金融、交通、通信センターであり、全国の都市農村統合発展改革試験エリアでもあります。西部地方でいち早く1兆元のGDPを達成しました。

#### 2. 四川省経済の全国での位置づけ

四川省は中国内陸部にあり、その経済的な位置づけはまさに中国の世界における位置づけに似ています。GDPは全国9位ですが、1人当たりでは全国30位とかなり下がります。その大きな理由は、広

大な農村地帯に多くの地下鉱物が未開発のまま眠っており、産業構造の改善が遅れていることです。

表 1-1-2 四川省経済の全国における位置づけ

2009年 GDP	省名	2008年 GDP	成長率	一人当たり	2009年 GDP	成長率	順位
1	広東省	35696	10.10%	37588	37775.49	5.83%	5
2	山東省	31072	12.10%	33083	33621.32	8.20%	7
3	江蘇省	30024	12.50%	33089	33478.76	10.45%	6
4	浙江省	21486	10.10%	42214	22716.98	5.73%	4
5	河南省	18200	12.00%	18322	19724.73	7.16%	17
6	河北省	16188	10.10%	19588	17067.99	5.44%	12
7	上海市	13698	9.70%	73124	14344.73	4.72%	1
8	遼寧省	13461	13.10%	24945	14696.23	9.18%	10
<b>9</b>	<b>四川省</b>	<b>12506</b>	<b>9.50%</b>	<b>11008</b>	<b>14050.78</b>	<b>14.50%</b>	<b>30</b>
10	湖北省	11330	13.40%	18786	12566.05	10.91%	14
11	湖南省	11156	12.80%	17521	12299.85	10.25%	21
12	福建省	10863	13.00%	30255	11855.08	9.14%	8
13	北京市	10488	9.00%	63029	11469.28	9.36%	2
14	安徽省	8874	12.70%	14249	10191.48	14.85%	25
15	黒竜江省	8310	11.80%	18763	8257.24	-0.63%	15
16	内モンゴル	7761	17.20%	26128	8967.52	15.55%	9
17	広西	7171	12.80%	14786	7903.47	10.21%	23
18	山西省	7028	10.00%	21103	7050.38	1.62%	11
19	陝西省	6812	15.00%	18386	7752.20	13.80%	16
20	江西省	6480	12.60%	14727	6954.12	7.32%	24
21	吉林省	6427	16.00%	18126	7072.25	10.09%	18
22	天津市	6354	16.50%	53175	7068.56	9.52%	3
23	雲南省	5700	11.00%	12809	6178.25	8.39%	28
24	重慶市	5098	14.30%	16014	5693.58	11.73%	22
25	新疆	4203	11.00%	17616	4005.41	-4.70%	19
26	貴州省	3350	10.00%	7264	3662.43	9.88%	31
27	甘肅省	3100	10.00%	11961	3373.78	6.23%	29
28	海南省	1459	9.80%	13361	1585.19	8.65%	27
29	寧夏	1070	12.00%	17540	1198.15	11.98%	20
30	青海省	966	12.50%	18940	1012.69	5.38%	13
31	チベット	392	10.10%	13754	434.34	10.80%	26

「2009年四川省統計鑑、中国統計出版社8月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

一方、成都市、綿陽市、徳陽市のような東部沿海地域に比べても遜色のない都市が成長しているため、人材、技術、資金、資源、インフラにおいて高い潜在能力があります。



表 1-1-3 四川省 GDP の推移及び外部資本の GDP の推移

期間	GDP の推移 (億元)	成長係数 1978 年=100	一人当たり の GDP の推移	一人当たり の GDP の成長 係数 1978 年 =100	外資系企 業の GDP	香港、マカ オ、台湾系 企業の GDP
1978	184.61	100.0	261	100.0		
1979	205.76	110.1	289	109.4		
1980	229.31	120.6	320	119.0		
1981	242.32	125.5	337	122.9		
1982	275.23	139.2	379	134.8		
1983	311.00	154.5	425	148.6		
1984	258.06	173.4	487	166.1		
1985	421.15	194.0	570	184.8	0.10	0.11
1986	458.23	204.8	614	193.2		
1987	530.86	222.6	702	207.3		
1988	659.69	239.3	861	219.8		
1989	744.98	246.9	960	224.1		
1990	890.95	269.4	1136	241.4	1.24	0.74
1991	1016.31	293.9	1283	239.5	3.61	1.97
1992	1177.27	330.9	1477	259.7	4.56	2.42
1993	1486.08	374.1	1854	290.7	6.62	3.33
1994	2001.41	416.5	2338	326.6	8.95	4.35
1995	2443.21	461.2	3043	365.2	13.23	6.14
1996	2871.65	510.1	3550	401.5	16.79	9.11
1997	3241.47	563.8	4032	446.7	22.04	11.39
1998	3474.09	618.3	4294	490.7	26.30	13.00
1999	3649.12	659.3	4540	541.7	27.97	15.12
2000	3928.20	715.1	4956	585.7	34.07	20.23
2001	4293.49	779.3	5376	633.5	46.59	24.05
2002	4725.01	859.2	5890	695.4	64.51	29.07
2003	5333.09	956.7	6623	771.4	81.95	35.78
2004	6379.63	1078.5	7895	866.5	101.29	42.19
2005	7385.11	1214.5	9060	967.3	129.10	53.07
2006	8637.81	1376.5	10546	1099.3	179.14	74.93
2007	10505.30	1572.0	12893	1261.7	257.71	106.27
2008	12506.25	1721.6	15378	1384.4	318.85	124.61

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

日本企業にとっては、日本または東部沿海地方での成功をもう一回享受する絶好の発展段階に差しかかっています。沿海部では土地や人件費が高騰して、外資系のみならず、中国企業も中部や西部へ

の移転を余儀なくされている今、四川省はその広大な市場と発展の潜在力を以って脚光を浴びています。

2008年にはマグニチュード8の特大地震に襲われ、GDPの成長率が9.5%と全国でかなり低い方でしたが、2009年には、対外依存度が低く内需が拡大しやすい特徴が威力を発揮し、14.5%と高い成長率を記録しました。

### 3. 四川省の経済発展の歩み

改革開放以来30年間、四川省の経済規模は中国の発展にほぼ並行して約17倍となり、1人当たりのGDPも約14倍になりました。特に注目すべきは外資系と香港、マカオ、台湾系の企業のGDPに占める割合が少ないことです。2008年に外資系のGDPに占める割合は2.5%で、香港、マカオ、台湾系は0.99%しかなく、自力更生型というのが四川省の経済の大きな特徴です。

2009年、1,090万の人口を擁する成都市のGDPが4,380億元、全体の31.17%に達しました。四川省の他の地方との格差が大きな問題になっています。この意味で、四川省はまさに中国の縮図です。

### 4. 四川省の地理的特徴

日本の人に四川料理、パンダ、三国志で親しまれている四川省は、農業が発達しています。竹の生える山地ですから、パンダが生息しやすい環境になっています。多くの関所があり、三国志の戦いが繰り広げられるのに相応しい地形になっています。地形的には西北部の高原山地地帯、四川盆地、西南部の山地の3つに分けられます。西部はチベット高原の東側斜面で、海拔4,000メートル級の高原・草原に覆われています。最高峰のコンカ山は海拔7,885メートルもあり、九寨溝、四姑娘山、海螺溝などの景勝地にも恵まれています。

四川盆地は16.5万平方キロで、中国4大盆地の一つです。3,000メートル級の山々に囲まれ、冬は暖かく、夏は涼しく、年間降水量は900から1,200ミリで、亜熱帯常緑広葉林が広がり、二毛作の農業に適しています。盆地の中心は成都平野で、2,000年前に作られ今も機能している都江堰のおかげで、平野には隈なく水が行き渡り、土地が肥沃で、全国有数の農業地帯になっています。

古代、四川盆地は大きな湖でした。岷江がチベット高原から運ばれてきた土砂で埋まり、長江が三峡の山々を切り崩し土砂が中下流に堆積されて、堆積平野となったと考えられます。

西南部は横断山脈の北部で、深い谷間には多くの川が流れています。垂直型温度帯に属し、インド洋の温かい空気の通路にもなっています。ライチ、パパイヤ、竜眼、マンゴなどの熱帯果物の産地として有名です。

今、四川盆地を中心に都市化の波が押し寄せていますが、省内32都市の規模はまだ小さく、インフラ整備は遅れています。四川省の都市の特徴は、ほとんどが川の合流点にあることです。船が交通

手段だったころの名残でしょう。都市は東部に偏って分布しており、人口 200 万以上なのは 1 都市だけです。省都の成都市は全国に 15 ある副省級都市の 1 つで、人材、産業、資本、技術、情報が一極集中し、他の都市がそれぞれの特徴を活かす分業体制をなしています。綿陽市は西部の科学技術都市であり、西昌市は衛星打ち上げ産業を目玉にし、攀枝花市は鉄鋼産業の町で、自貢市は塩関連産業の都、南充市はシルクのメッカ、徳陽市は製造業の主要都市になっています。宜賓市と瀘州市は酒造産業の中心であると同時に長江上流の港町でもあります。樂山市、都江堰市、峨眉山市などは著名な観光地です。

## 5. 四川省の文化的特徴

恵まれた生態環境は、中国文明の重要な源の 1 つである四川文明の発展に有利な条件を提供しました。

四川省には中原と同じように神権文明と礼楽文明が存在していたことが文献でわかっていましたが、三星堆遺跡と金沙文明遺跡の発掘により、その事実が考古学的に裏付けられました。秦による蜀の統一後漢の時代まで特色ある秦漢文化が繁栄し、漢の時代に道教の発祥地となり、唐の時代には経済と文学が大いに栄えました。仏教文化も世の注目を集める発展を成し遂げました。宋の時代には、戦乱を遠ざける盆地の地理的条件も手伝って、全国でもっとも豊かな地方となり、世界初の紙幣「交子」が発明されるに至りました。

また、科学技術においても古代から発展の一途を辿ってきました。都江堰に代表される水利工事のほかに、農業技術、シルク紡績技術、井戸から塩水を汲み取る製塩技術、青銅冶金技術が発達した上、天文学、数学、医学においても大きな成果を挙げています。その豊かな経済力と優れた技術力に支えられた方言文化、戯曲文化、茶の文化、酒文化、飲食文化、塩文化はいずれも地方色豊かです。

5 つの世界自然文化遺産は、北京に次ぐ全国第 2 位の多さです。国家級の歴史文化名城が 7 件、省級の歴史文化名鎮が 22 件あって、四川省の歴史文化の広範さと層の厚さを物語っています。全国重点文物保護単位は 64 件、省級の重点文物保護単位は 3,000 件です。四川料理は中国 4 大料理の 1 つ、五糧液は国宴での乾杯酒、蒙頂茶と峨眉毛峰は中国名茶として有名です。

四川文化は農業文化であるため、海洋性文化に比べて自然に委ねる閉鎖性と静態性が強いのですが、一方では移民文化でもあります。秦の時代に成都を起点に外部へつながる水運の大動脈が開発されはじめてから、省内外の文化人が盛んに往来したため、様々な文化が吸収され、ますます発展しました。近代になって、マルクス主義をはじめとする西洋の文化と科学技術に触れ、鄧小平、朱徳、陳毅らを輩出しました。

## 6. 四川省の歴史的特徴

四川省の歴史は、一言で表すと移民の歴史です。三星堆遺跡と金沙文明遺跡が3,000年の時を越えて日の目を見たとき、四川省に輝かしい文明が存在していたことが明らかになりました。それ以前に農業の発達により人々が定住するまでは、中華民族は広大な大地を転々とする生活を営んでいました。中華文明の始祖である黄帝は、四川省の塩亭県出身で養蚕と抄糸を発明した嫫祖という女性を娶り、中国全体の治水工事の指揮を執っていた禹が四川省北川県の出身と伝えられていますから、狩猟時代には四川省と中原の間で人々が盛んに交流していたと考えられます。農業の発達により、山々に囲まれた四川省は次第に三星堆遺跡と金沙文明遺跡に代表されるような独特の道を歩むことになりました。

蜀の国は、秦の始皇帝の兵馬俑坑に象徴されるような軍事力を持つ秦国によって滅ぼされましたが、秦国からの移民と現地の住民が融合し、むしろ中華文明としっかり結びつける結果となりました。

秦が倒れると、劉邦が四川省に封じられ、2回目の大掛かりな移民が始まりました。そして、ここを拠点とする前漢帝国が生まれました。

三国時代には劉備が諸葛孔明を連れて移り住み、3回目の移民が行われました。成都が地方政権の首都となり、大きな発展を遂げました。

以降、時に加速し、時に停滞しながらも、全体としては移民活動が弛まず行われていました。最大規模の移民は、明末の戦乱で四川省の人口が減り、清政府が湖南省、湖北省、広東省、広西省から多数の人々を移してきたときのものです。

現在の四川省の地には、秦の時代には蜀郡と巴郡、漢の時代には益州、唐の時代には劍南道と山東道と山西道が存在しました。宋の時代には成都、綿陽、広元、万州を四川路と総称し、4つの行政区域として分割管理しました。これが四川という名称のはじまりで、以来、四川省の名称が定着しました。民国時代には、省西部は西康省として治められていましたが、1955年に再び四川省に編入されました。1997年に重慶市が直轄市として独立し、今の四川省の版図が形成されました。

## 7. 行政区画及び各地の特徴

四川省は現在18の市と3つの民族自治州に行政区画され、経済的には5つのブロックに分かれています。それぞれの特徴を表にまとめました。

成都経済区は主に商業貿易、ハイテク、近代的製造業、サービス業を重点発展分野にしています。四川省でもっとも発展している地域で、GDPは省全体の50%以上を占めています。世界のトップ企業500社のうち130社がここに工場や営業拠点や開発センターを設けています。ここさえ押さえれば、西部地方の2割近くの市場を攻略したことになりますから、イトーヨーカドーやカルフルをはじめ中国に進出している外資系小売業者が多く出店しています。

表 1-1-4 成都経済区の特徴

成都市	省都で、政治、経済、産業、文化、教育、交通、観光の中心。成都平野の中心にあり、都江堰のおかげで、農業も発達しています。最近、インテル、ノキアなどの進出で電子工業、ソフト産業、アウトソーシング産業が発達しています。
綿陽市	四川盆地の北部にあり、農業も発達し、全国で30%のシェアを誇るテレビメーカー長虹社の本社所在地で、中国の航空宇宙の研究所が集まっており、科学技術の町を目指しています。汶川大地震の被害がもっとも大きかった、震災復興の重点地区です。
徳陽市	省の歴史を遡る三星堆遺跡のある観光地で、発電タービンや大型機械設備の製造基地としても有名です。地元の騰中実業社がアメリカ GM 社のハマーブランドを購入する計画が世界のマスコミを賑わせました。震災復興で産業構造を調整し、産業の再配置を図り、大きな成果を収めました。
資陽市	内江市から独立した若い市で、市内には鉄道車両の製造工場があり、高速鉄道が盛んに作られ、動車組という車両の需要が増えている今、今後の発展が期待されます。
眉山市	宋の時代の詩人の蘇東坡の生まれ故郷で、三蘇祠という観光名所があり、瓦屋山などの自然観光資源を生かす課題があります。樂山市から独立してまもなく、市としての都市建設が急ピッチで進められています。

「2009年四川省統計鑑、中国統計出版社8月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

西北部の主な産業は、水力発電、観光、鉱業、生態農業、牧畜業ですが、現在人気のある九寨溝や「最後のシャングリラ」はここにあります。

西部大開発の重要な目的の1つに、長江上流地域の経済を発展させ、住民の生活を豊かにしながら、生態環境を保護することがあります。長江の生態環境が良好であることは中国全体の発展にかかわります。これは中国全体の経済発展を持続可能なものにするための大きな計画ですが、この意味においては、四川省の課題は西北部生態経済区の建設です。

表 1-1-5 西北部生態経済区の特徴

アバチベット族 チャン族自治州	今度の四川省大地震の震源地ですが、世界自然遺産である九寨溝や黄龍はほとんど影響を受けていません。特に空港ができてから、観光産業の発展が注目されます。
カンゼチベット 族自治州	チベット族の集中居住地で、牧畜業や農業が主な産業でしたが、「最後のシャングリラ」の稻城と亜丁が人気を呼んでいます。交通が不便で、空港の建設を急いでいます。

「2009年四川省統計鑑、中国統計出版社8月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

攀西経済区の主力産業は、エネルギー、チタンバナジウム新素材、鉄鋼です。

表 1-1-6 攀西経済区の特徴

攀枝花市	鉄鉱と炭鉱が同時に発見され、60年代に全国から多くの人が集まり、栄えた町です。今は省内で1人当たりGDPと都市化指数のもっとも高い市になっています。
雅安市	ほぼ毎日降る「雅雨」、青衣江に特有の「雅魚」、皮膚が非常に綺麗な「雅女」が雅安市の「三絶」と言われています。省南部の山地に位置するため、大理石、石炭などの鉱産資源に恵まれています。
涼山イ族自治州	州都の西昌市に衛星打ち上げ基地があり、イ族の伝統文化の観光が人気を呼んでいます。観光をより発展させるため、州内の高速道路と成都の高速道路をトンネルでつなぐ工事が進んでいます。

「2009年四川省統計鑑、中国統計出版社8月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

南部経済区はエネルギー産業と重化学工業の基地です。

表 1-1-7 南部経済区の特徴

自贡市	昔から、井戸から汲み取った塩水による製塩が盛んな町で、現在でもソーダ関連の化学産業が発達しています。「恐竜の都」とも言われ、現地で発掘した恐竜を展示する恐竜博物館があります。
内江市	成都と重慶の中間地点にあり、成都重慶経済開発ゾーンの中心で、交通が便利です。産業構造は農業を中心とする四川省の典型です。
瀘州市	1573年に作られた醸造窯が見つかり、1573ブランドの酒が有名です。天然ガス関連の化学工業も産業の柱です。コンテナバースが建設されてから、長江の港町として重要視されています。
宜賓市	中国最大の酒造メーカーである五糧液の拠点城下町。何万ヘクタールもの蜀南竹海観光地があり、映画やテレビドラマのロケ地としても有名です。
樂山市	省南部の主要都市で、省で作られた大型設備は樂山港を通じて長江沿岸に運ばれていきます。世界自然文化遺産である樂山の大仏と峨眉山があり、観光に関連する交通、飲食、ホテルが主要産業です。

「2009年四川省統計鑑、中国統計出版社8月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

東北経済区は天然ガスの宝庫で、化学産業基地でもあります。

表 1-1-8 東北経済区の特徴

南充市	省東部最大の都市で、丘陵地帯が広がり、養蚕が盛んで、シルク産業が有名です。三国志の作家陳寿の故郷でもある古い町並みが観光地として人気です。
-----	---

広安市	鄧小平の生まれ故郷で、その業績を偲ぶ観光客が多く訪れます。鄧小平生誕 100 年の時に各地から寄付が殺到し、博物館や道路をはじめ、都市建設が大々的に推し進められました。
巴中市	中国工農赤軍の根拠地でしたから、「赤い観光」が人気です。農業地帯で、養豚が有名ですが、最近、出稼ぎ労働者の多いことでも有名です。省の後発開発重点地区です。
広元市	三国志の遺跡も多く、中国唯一の女帝である則天武後の生まれ故郷で、観光資源に恵まれています。また、省北部の門戸で、流通業や卸業が発達しています。
達州市	省の東端にあり、高速道路や鉄道などのインフラ整備で交通条件が大きく改善され、炭鉱をはじめ資源を重慶へ輸出する産業が盛んです。
遂寧市	成都に隣接する有利な地理的条件を生かして、地下の塩水で「死海」を作って話題を呼び、有名な観光地に成長しました。

「2009 年四川省統計鑑、中国統計出版社 8 月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

## 第二節 産業の発展情況

### 1. 第一次産業

四川省の耕地面積は 5,918.9 万ムー（1 ムーは約 666 平方メートル）、そのうち、水田が 3,128.7 万ムー、畑が 2,790.2 万ムーで、1 人当たりの耕地面積は 0.67 ムーしかありません。成都平野の都江堰灌漑区に代表されるような旱魃も洪水も知らない水利のよい地域は 2,594.4 万ムーで、省全体の 43.8%を占めています。

全国の 4.7%にあたる耕地で全人口の 6.6%を養えるのは、人口が多く耕地の少ない四川省に農地を丁寧に耕す伝統があり、二毛作または三毛作の習慣があるからです。西南部と西北部の唯一の食糧生産基地で、作付面積は全国 4 位ですが、出来高では 3 位です。特に水稻の作付面積は全国の 10%を占めており、出来高では 5 位です。さらに、水稻雑種強勢育種の研究は全国トップレベルで、毎年 5 万トンの水稻の種を供給しています。これは全国の取引量の 60%にあたります。

また、毎年、豚肉や白酒や野菜等の食糧を全国に供給しており、チベット向けの 50 万トンの食糧と大量の副食品の安定した供給基地でもあります。

作物の種類は、食糧では水稻が 42.6%、小麦 16.4%、トウモロコシ 18.1%、さつまいも 10.6%となっており、経済作物には菜種、野菜、果物、茶、漢方薬、花卉、養蚕、綿花、砂糖きび、タバコ、麻類があります。

一方、四川省は人口が多く、労働力の移出が盛んです。最盛時の 2007 年には 2,002 万人が全国各地へ出稼ぎに行き、それが省の農民収入の 1 番の柱になっています。

最近では政府の指導で特色ある農業を推し進めています。たとえば、西昌市のリンゴは全国でもっとも早い 9 月に収穫され、攀枝花市のマンゴーは全国でもっとも遅い 10 月に成熟します。江安県の夏

みかん、安岳県のレモン、成都市の水蜜桃や枇杷も生産規模が大きく、安価で全国へ販売されています。

四川省はチベット高原の東側斜面にあり、林業資源には恵まれています。近年、天然林保護の国家政策で木を切る労働者が木を植える労働者になっています。林業は「退耕還林」の政策（斜度 25 度の水田耕作を止め、林に戻すこと）です。主に丘陵地帯で速成の樹種を栽培し、中密度繊維合板の材料や多層フローリングの芯材にされます。

牧畜業でも、草原保護のため、放牧できる家畜の数が制限され、飼料による集中飼育が奨励されています。

都市と農村一体化協調発展の試験区に決まった成都市では、まず道路、水道、ガス、電力、通信などのインフラと年金保険、貧困救済などの社会福祉を企画段階から農村と一体化させ、「社会主義新農村建設」を合言葉に業務を進め、農村に大きな変化をもたらしました。

三聖花郷などでは、土地を花卉や果樹などを栽培する企業に貸し、自宅を四川省の典型的な民家に改造して、観光用の店舗として使っています。色とりどりの花が咲き誇る田圃の中に民家が散在し、理想郷的な田園風景を演出しています。成都市民のお茶好き・マージャン好きな性格も手伝って、商売大繁盛です。このパターンでは、農民の収入が土地賃貸料、花卉会社からの配当、観光業売上げまたは店舗賃貸料から得られ、大幅に向上しました。今ではホテル、レジャー、会議運営などの総合的な観光業に発展している農家もあります。

典型的なパターンは、大きな庭を持つ農家をインフラの整った集合住宅に住ませ、明け渡された土地を集中的に専業農家に貸して農業効率を高めたり、企業を誘致して地元農民の就職を促進したりするものです。農民が集中して住むことで、スーパー、飲食店、喫茶店などの商売が成り立ち、就業状況も改善されます。

農山村では果物、漢方薬、野菜などの栽培組合を組織し、地元産業の育成に取り組んでいます。規模が大きくなり評判が上がれば、業者もまとめて買いに来ますから、販売効率が上がり農民の増収につながります。

都市化の猛烈な勢いが農村の生活を変えつつあります。立ちのきにあった農民の多くは、賠償として与えられた家を賃貸しながら、タクシーの運転手や出稼ぎに転業しています。

いずれのパターンでも、政府の優遇政策で年金や保険に優先的に加入し、60 歳になれば年金を受け取ることができます。

## 2. 第二次産業

成都市内の人民公園に辛亥革命保路運動記念塔があります。1911 年 6 月 1 日、民衆は、清政府が外国勢力に鉄道建設の権益を譲渡することに反対し、自分たちの権益を守るために蜂起しました。「四川省に鉄道を」という合言葉のもとに、官僚、商人、労働者、農民のあらゆる階層が積極的に鉄道建



設の株を買い求め、建設資金を短期間に集めることができた」と記録されています。清政府がそれを横取りして外国に売り渡すことなど、到底受け入れられるものではありませんでした。この蜂起は四川省の民衆の第二次産業への情熱を端的にものごと、国民党の前身の同盟会のために社会的、組織的、広報的準備を行いました。

近代工業の代表である成都—重慶間の鉄道ができたのは、新中国になってからでした。それまでは一部の修理工場などがありましたが、真の意味での近代工業は皆無だったと言っていいでしょう。新中国になってから国は「三線建設」を推し進め、製造業と軍需産業を中心とする第二次産業の大掛かりな移転が始まり、四川省がもっともその恩恵を受けました。つまり、戦争にそなえ、沿海地方は第一線、中部の平原地帯や新疆、内モンゴルなどは第二線、中国の中央にあり、山に囲まれている四川省、貴州省は最後の砦の第三線とされました。

現在の成都、綿陽、広元、徳陽にある電子、発電タービン、航空機、原子力、衛星関連の工業は、その元を辿れば、東北や上海などから移転してきたものです。しかし、鉄道、道路、協力工場、原料調達などのインフラが整備されていない四川省の山奥では、近代工業の発展は容易ではありませんでした。政府の強力な指導のもとで一部の製品が作られても、品質的には満足できるものではありませんでした。四川省の第二次産業の発展は1978年の対外開放と経済活性化の政策の実施を待つほかありませんでした。

第二次産業の発展状況が地域の経済成長率と近代化レベルのバロメーターであることは、世界各国の経済発展の歴史によって証明済みです。第二次産業を発展させることは、地域の経済発展と近代化プロセスを牽引する唯一の手段だと見られてきました。四川省の1978年の第一次、第二次、第三次産業の比重はそれぞれ44.5%、35.5%、20.0%でしたが、2008年には18.9%、46.3%、34.8%に変わっています。一方、1978年の国営企業と民営企業のGDPの比率は96.6% : 3.4%でしたが、2008年には47.9% : 52.1%と逆転しています。第二次産業の発展とそれに従事する民営企業の発展が四川省の経済発展を押し上げているのです。

改革開放後、四川省でまず実施されたのは、農村の家庭単位での請負制と同時に、山間部の工場、研究所、大学の成都近郊・綿陽近郊への移転でした。GDPと就業状況がそのまま業績だという時代の風潮も手伝い、各地がこうした工場の誘致に努力を惜しみませんでした。これが省の第二次産業発展への第二の布石でした。

山村で生涯の半分を費やしていた知識階級や技術者は、インフラのより整備された都会に戻り、経済活性化というスローガンの下で、今度こそはと仕事に熱意を燃やしました。それが功を奏して、第二次産業は次第に発展のレールに乗っていきました。

省の第二次産業のGDPは、1978年には65.55億元だったのが2008年には5,790.1億元と88.33倍になり、年率に換算すると34.87%増にもなっています。1997年のアジア金融危機の影響等で時に停滞しながらも、発展速度は全体としてそれほど遅くはありませんでした。2003年、四川省共産党委員会が「工業で四川省を強める」戦略を打ち出し、工業を急速に発展させる一連の措置を制定したのを

機に、省の工業は新しい発展段階に入りました。

1978年から2008年までの間に、四川省における第二次産業従事者数は279.5万人から1,065.71万人になり、2.8倍に増えました。GDPの成長率が労働者の増加率をはるかに上回っている背景には生産効率の向上があります。1人当たりGDPは、同期間で2,345.26元から43,551.25元、実に17.6倍になりました。

四川省の第二次産業発展のもう1つの原動力は、新興民営企業です。物不足に悩まされた80年代初めには、茶など地元の農産物を加工して利益を得ようとする郷鎮企業が現れました。こうした企業の多くは、政策上の制限から、個人で資本金を出していても地元政府の名を借りて商売をしていたため、郷鎮企業と呼ばれました。名前と実態、権利と責任がはっきりせず、各地で政府との間にトラブルが起きました。80年代後期に政府が民営企業を容認するようになると、郷鎮企業はたちまち解体されました。

この機運の中、全国的に影響を及ぼした希望グループという民営企業が四川省に現れました。大学生が個人商売を始めること自体が大きなニュースになる時代に、大学を卒業した劉永好氏が公職を辞めて、4人の兄弟と共に鵝の飼料生産を始めました。後に農村の請負制が進み、農民の養豚熱が盛んになるにつれて、豚の飼料をつくるようになり、大きな成功を収めました。今は、全国各地に工場と販売網を持つだけでなく、銀行、不動産、教育の分野にも進出し、中国でもっとも成功した企業の1つになっています。ITの繁栄により億万長者が出現するまで、劉永好氏は長い間、中国の長者番付けのトップに君臨していました。

多くの若者が彼に刺激され、彼の物語が口々に伝えられ、彼を手本に成功したいと商魂を燃やすようになり、四川省には一時、民営企業の創業ブームが起きました。彼のように成功した人は少ないでしょうが、ブームが省の民営企業の発展の大きな推進力になったことは間違いありません。

ただ、四川省の第二次産業の特徴は、石炭石油天然ガスの採掘業、タバコ産業、電力産業、冶金工業、有色金属の冶金と圧延加工業、化学繊維製造業、製菓業、通信設備・コンピューター及び電子設備の製造業などの、資源や自然条件、資金、技術に頼る独占的産業が多く、国営的な性質の濃い産業と企業が業績上位を占めていることです。これらの産業の民間企業への開放と内需拡大への貢献度を高め、民営企業が参入しやすい飲料製造業、食品製造業、文化体育用品製造業、印刷業、紡績縫製業の技術力を向上させ、規模を拡大することが課題です。沿海地方より経済が遅れているのは、開放の不十分さと企業規模に深い関係があります。

四川省では、自然条件や天然資源に依存した産業が発達していますが、科学技術力を向上させ、より省エネ化・近代化した産業に育てるという課題があります。人口が多く市場も大きいという有利な条件が整っており、軽工業と伝統産業の建材、家具、皮革、羽毛、パルプなどの産業を省エネ技術と結びつけてより技術集約型で近代的な産業にグレードアップをさせる必要があります。重工業と化学工業の比重が大きく、四川省の経済発展のために大きな役割を果たしていますが、これからは、産業競争力を強めるために自動車や航空、宇宙産業をはじめとするハイテク産業を、現在の基礎の上にさ

らに発展させる必要があります。

### 3. 第三次産業

四川省には四川料理に代表されるような食文化がある上、宋の時代に「交子」と言う紙幣を世界に先駆けて発明したことは当時の流通業の繁栄を表しています。

「茶馬古道」を通して四川省産の茶や塩などを千年にわたりチベットに運んできましたし、「東呉の万里の船が泊まっている」成都から、チベットの紅バラや雪蓮花などの物産が全国へと流れていきました。このように、成都是、四川省の省都として物資の流通と人々の交流の中心的な役割を担ってきました。この古代の立派な基礎の上に、四川省の第三次産業が近年発展しています。

中国は縦5本横7本の幹線高速道路網の整備に力を入れていますが、そのうちの上海ーラサ高速道路と昆明ーフホト高速道路の交差点に成都があり、西部大開発の中心的な存在として、四川省の発展が期待されます。現在、成都ー西安間が開通しており、成都ー上海間もほぼ開通しました。成都ー昆明間はいくつかのトンネルが建設されており、成都ーラサ間は去年四川

大地震のあった汶川県まで延びています。幹線高速道路の建設もさることながら、省内の高速道路建設が急ピッチで進められています。西部大開発のおかげで、開通している省内の道路の総延長は20万キロを超え、そのうち高速道路は2,188キロに達しています。ほとんどの市は高速道路で連結されており、省を出入りする7本の動脈高速道路はほぼ完成し、四川省が全国各地と結ばれました。これにより、山地という物理的条件に制約されていた交通条件が著しく改善されました。特に成都市のすべての区と県は高速道路でつながり、大半の道路は成都市に登録している車両に無料で開放されています。

四川省には、空港が11カ所もあります。2020年までには、観光地を始め各地にさらに6カ所建設され、全部で17カ所になる予定です。そのうち、成都空港は旅客数・貨物数ともに全国4位という名誉に輝きました。このように、人の行き来や物流が観光事業の発展を大幅に促進しました。また、成都ー重慶間の高速度鉄道が開通し、330キロを2時間で結ぶようになれば、成都ー重慶経済開発ゾーンの実現に大きく貢献することになります。同時に23本の鉄道による西部地方の主要都市を結ぶ高速鉄



図 1-2-1 成都の近代建築

道網が計画されています。

その昔、四川省は高い山に囲まれ、交通は成都、樂山、宜賓經由で長江に出る水路しかありませんでした。李白も杜甫も何回も通過した浪漫溢れるルートですが、効率優先の時代風潮もあり、この水路はかなり廃れていました。近年、三峡ダムの建設で水位が上がり、特に重慶から下流の航行条件が著しく改善されました。省エネが叫ばれる中、水運が見直され、四川省は、今後増えるであろうコンテナや大型設備の輸送に対応するために、樂山や宜賓や瀘州の港の整備に乗り出しています。積み替えのコストを下げるために、トラックごと船に乗せて、目的港に着いたらトラックでそのまま目的地まで運ぶことも盛んに行われています。

四川省を旅行すると、同じ四川料理でありながら地方ごとに名物料理があり、料理人の料理に対する熱意が伺え、そのこだわりに感動します。経済の発展に伴い、人々の外食回数が多くなり、店の内装にも凝るようになり、落ち着いた環境の中でゆっくり美食を楽しめるようになっていきます。四川省の飲食店と喫茶店の多さは誰しも感じることであって、人々が悠々とマージャンを楽しむ光景も四川省ならではでしょう。

商業は、四川省の第三次産業への貢献度が最大の産業で、成都市にはイトーヨーカドー、西武、伊勢丹、パークソン、カルフル、オーシャン、好又多、ウォルマート、B&Q など中国に進出している外国流通企業が軒並み出店しています。国内の茂業百貨、北京華聯、王府井百貨、万千百貨及び台湾系の太平洋デパートも競争に加わり、国美、蘇寧、永樂、五星などの大型電器量販店も熾烈なシェア争奪を展開していて、成都是全国一の商業激戦区になっています。

同時に、成都周辺には生産資材、家具、日用品、薬品、食品、建材、自動車などの卸売市場があり、成都が物流の中心であることを示しています。大きな建材市場では2キロ四方の敷地があり、1,000社以上のメーカーが店を構え、どこも自社商品を並べ、市場というより博覧会のような感じです。

成都の卸売市場が発達している理由は、省内での販路のほか、雲南省、貴州省、チベットにまでその流通網が広がっているからです。特にチベットにとっては、北側はすぐに青海省や甘肅省や内モンゴル自治区まで出られますが、四川省ほどに商品の調達が便利ではありません。四川省からは最初の自動車道路が開通したアバとカンゼという二つのチベット族自治州があり、四川省の言葉がラサの標準語になっているなどの歴史的なつながりから、成都からの物資調達は圧倒的に多いのです。「全国



図 1-2-2 成都の近代建築

がチベットを支援し、チベットが成都を支援している」と言うのは、そのためです。

チベットへの人的支援のために四川省から派遣された関係者が定年になり、気候の温暖な成都に住居を構えて老後を楽しむ、ということも多いなど、チベットは四川省にとって商品を購入する「消費者」としてだけでなく、不動産などの「資金提供者」、また、定住による内需拡大の担い手としての役割を持っているのです。

四川省の不動産産業は成都や綿陽などの大都会に集まっており、沿海地方に比べてまだ割安感がありますから、省内各地やチベットから購入者が殺到してきています。インターネットの発達と四川省の経済成長に伴い、四川省でも高級人材を吸収するポストが増え、賃金も沿海地方との差が縮みつつありますから、沿海地方に勤めていた若い人がUターンを始めています。四川省の地方出身者が沿海地方に就職して家を購入する場合、その親は住宅購入のための資金援助を躊躇しますが、子供が成都で住宅を買うとなると、自身の定年後に一人っ子の子供と一緒に住もうと思ひ、自分たちの貯金を惜しみなく提供します。頭金を親が、月賦を子供たちが払うケースが多いという調査結果が出ています。

以前は、開発業者が自分たちの都合のいいように土地を買い上げていたため、町沿いの商業利用価値の大きい場所だけが開発され、立派なビルの後ろにはバラックが散在していました。経済が発展しても住民の生活が改善されないこの最悪な状況を変えるべく、省内の多くの都市の再開発において、土地を区画ごとに開発業者へ払い下げた結果、町全体の様子を一変させることができました。その際にできた団地は大規模で、開発業者は、競争に打ち勝つために洗練された環境づくりにしのぎを削っています。

四川省の人々の実用的な考え方は自家用車の購入によく反映されています。とにかく車を持つと、10年前、経済的なアルトという車種が流行しました。今、成都の自家用車保有台数は北京に次いで全国2位にランクされるようになり、流行していたアルトも買い換えられて、少なくなりました。今年、金融危機の影響への対応策として排気量1,600CC以下の自動車の取得税が安くなり、成都で自動車購入のブームが起きました。

成都の自家用車保有台数の上昇は、不動産の発展を促進し、さらに飲食業、高速道路の通行料収入により商業が繁栄し、省の内需拡大に大きく貢献しています。

郵便通信業は、7,000万人もの大市場を確保しているため、急速に発展しています。固定電話、携帯電話、コンピューターなどの通信端末機の保有台数は全国1、2を争う実力を持っています。

金融、保険、不動産、公共事業、情報コンサルティングなどのサービス業は全国平均レベルですが、観光業は、世界文化と自然遺産が北京に次ぐ多さという条件に恵まれ、急速に発展しています。また、観光好きな省民性のおかげで、外部からの観光客のみでなく、四川省自体が大きな観光市場でもあります。成都郊外で農家生活を楽しむ「農家楽」をはじめ、どこの観光名所に行っても省民が中心となって賑わっています。

教育、文化、ラジオ、テレビ、科学研究、病院、スポーツおよび社会福祉事業の分野は、四川省政府がその発展に大いに力を入れています。湖南省のテレビ局や山東省のスポーツ、北京の教育のよ

うに、全国に影響を及ぼすような業績は今のところありません。

表 1-2-1 四川省の大学

学校名	所在地	ホームページ	備注
四川大学	成都	<a href="http://www.scu.edu.cn">http://www.scu.edu.cn</a>	211 全国重点
西南交通大学	成都	<a href="http://www.swjtu.edu.cn">http://www.swjtu.edu.cn</a>	四川省重点
電子科技大学	成都	<a href="http://www.uestc.edu.cn/">http://www.uestc.edu.cn/</a>	211 全国重点
西南财经大学	成都	<a href="http://www.swufe.edu.cn/">http://www.swufe.edu.cn/</a>	四川省重点
西南民族大学	成都	<a href="http://www.swun.edu.cn">http://www.swun.edu.cn</a>	四川省重点
成都理工大学	成都	<a href="http://www.cdut.edu.cn">http://www.cdut.edu.cn</a>	四川省重点
西華大学	成都	<a href="http://www.xhu.edu.cn">http://www.xhu.edu.cn</a>	四川省重点
西南科技大学	綿陽	<a href="http://www.swust.edu.cn">http://www.swust.edu.cn</a>	四川省重点
四川農業大学	雅安	<a href="http://www.sicau.edu.cn">http://www.sicau.edu.cn</a>	211 全国重点
成都中医药大学	成都	<a href="http://www.cdutcm.edu.cn/">http://www.cdutcm.edu.cn/</a>	四川省重点
四川師範大学	成都	<a href="http://www.sicnu.edu.cn">http://www.sicnu.edu.cn</a>	四川省重点
西華師範大学	南充	<a href="http://www.cwnu.edu.cn">http://www.cwnu.edu.cn</a>	一般大学
中国民用航空飛行学院	広漢	<a href="http://www.cafuc.edu.cn">http://www.cafuc.edu.cn</a>	一般大学
西南石油学院	南充	<a href="http://www.swpi.edu.cn">http://www.swpi.edu.cn</a>	一般大学
四川理工学院	自貢	<a href="http://www.suse.edu.cn">http://www.suse.edu.cn</a>	一般大学
成都信息工程学院	成都	<a href="http://www.cuit.edu.cn">http://www.cuit.edu.cn</a>	一般大学
瀘州医学院	瀘州	<a href="http://www.lzmc.edu.cn">http://www.lzmc.edu.cn</a>	一般大学
川北医学院	南充	<a href="http://www.nsmc.edu.cn">http://www.nsmc.edu.cn</a>	一般大学
成都医学院	成都	<a href="http://www.chdmc.cn">http://www.chdmc.cn</a>	一般大学
内江師範学院	内江	<a href="http://www.njtc.edu.cn">http://www.njtc.edu.cn</a>	一般大学
樂山師範学院	樂山	<a href="http://www.lstc.net">http://www.lstc.net</a>	一般大学
成都体育学院	成都	<a href="http://www.cdsu.edu.cn">http://www.cdsu.edu.cn</a>	一般大学
成都学院	成都	<a href="http://www.cdu.edu.cn/">http://www.cdu.edu.cn/</a>	一般大学
攀枝花学院	攀枝花	<a href="http://www.pzhu.edu.cn">http://www.pzhu.edu.cn</a>	一般大学
宜賓学院	宜賓	<a href="http://www.yibinu.cn">http://www.yibinu.cn</a>	一般大学
綿陽師範学院	綿陽	<a href="http://www.mnu.edu.cn">http://www.mnu.edu.cn</a>	一般大学
西昌学院	西昌	<a href="http://www.xcac.sc.cn">http://www.xcac.sc.cn</a>	一般大学

インターネット情報をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

大学は211（21世紀に100の大学という統合プロジェクト）全国重点大学の資格を取るために、合従連衡が展開され、今は27校になりました。華西医科大学や成都科技大学などが合併され、3校がこの「211」の資格を取りました。学校数が減った分、資金が保障され、優秀な大学生の養成と科学研究の成果が期待されます。改革開放当初、大学はエリートを養成する存在でしたが、経済の発展に伴い、国民教育の性質を帯びるようになり、エリート教育はむしろ修士や博士課程に移った感があります。

表 1-2-2 四川省の専門学校

成都紡績高等専科学校	成都	<a href="http://www.cdtc.edu.cn">http://www.cdtc.edu.cn</a>	専門学校
四川料理高等専科学校	成都	<a href="http://www.shic.edu.cn">http://www.shic.edu.cn</a>	専門学校
成都電子機械高等専科学校	成都	<a href="http://www.cec.edu.cn/">http://www.cec.edu.cn/</a>	専門学校
康定民族師範高等専科学校	康定	<a href="http://www.kdntc.edu.cn">http://www.kdntc.edu.cn</a>	専門学校
ア/師範高等専科学校	汶川	<a href="http://www.abtc.sc.cn/">http://www.abtc.sc.cn/</a>	専門学校
達県師範高等専科学校	達州	<a href="http://www.dxtc.edu.cn">http://www.dxtc.edu.cn</a>	専門学校
四川警官高等専科学校	瀘州	<a href="http://www.scpolicegz.com">http://www.scpolicegz.com</a>	専門学校
四川天一学院	成都	<a href="http://www.tianyi.org">http://www.tianyi.org</a>	民営専門学校
成都航空職業技術学院	成都	<a href="http://www.cavtc.net.cn">http://www.cavtc.net.cn</a>	専門学校
四川機電職業技術学院	成都	<a href="http://www.scdy.edu.cn">http://www.scdy.edu.cn</a>	専門学校
四川電力職業技術学院	攀枝花	<a href="http://www.scemi.com">http://www.scemi.com</a>	専門学校
四川司法警官職業学院	成都	<a href="http://www.sjpopc.net">http://www.sjpopc.net</a>	専門学校
四川警安職業学院	成都	<a href="http://www.scjavc.cn/">http://www.scjavc.cn/</a>	専門学校
四川信息職業技術学院	成都	<a href="http://www.sceats.com.cn">http://www.sceats.com.cn</a>	専門学校
広安職業技術学院	広安	<a href="http://www.scdy.edu.cn">http://www.scdy.edu.cn</a>	専門学校
四川商務職業学院	成都	<a href="http://www.scsww.net.cn">http://www.scsww.net.cn</a>	専門学校
四川交通職業技術学院	成都	<a href="http://www.svtcc.net">http://www.svtcc.net</a>	専門学校
達州職業技術学院	達州	<a href="http://www.dzzjy.com">http://www.dzzjy.com</a>	専門学校
四川建築職業技術学院	成都	<a href="http://www.scatc.ne">http://www.scatc.ne</a>	専門学校
四川工商職業技術学院	都江堰	<a href="http://www.sctbc.net">http://www.sctbc.net</a>	専門学校
四川工程職業技術学院	成都	<a href="http://www.scetc.net">http://www.scetc.net</a>	専門学校
四川郵電職業技術学院	成都	<a href="http://www.sptpc.com">http://www.sptpc.com</a>	専門学校
内江職業技術学院	内江	<a href="http://www.njzyjsxy.com">http://www.njzyjsxy.com</a>	専門学校
四川国際標榜職業学院	成都	<a href="http://www.scpivotpoint.com">http://www.scpivotpoint.com</a>	民営専門学校
成都農業職業技術学院	成都	<a href="http://www.cdnkxy.com">http://www.cdnkxy.com</a>	専門学校
宜賓職業技術学院	宜賓	<a href="http://www.ybzy.cn">http://www.ybzy.cn</a>	専門学校
成都芸術職業学院	成都	<a href="http://www.cdartpro.cn/">http://www.cdartpro.cn/</a>	専門学校
四川託普信息職業技術学院	成都	<a href="http://www.scsoftcollege.com">http://www.scsoftcollege.com</a>	民営専門学校
四川職業技術学院	成都	<a href="http://www.scvtc.com">http://www.scvtc.com</a>	専門学校
眉山職業技術学院	眉山	<a href="http://www.msgzy.com">http://www.msgzy.com</a>	専門学校
瀘州職業技術学院	瀘州	<a href="http://www.lzy.cc">http://www.lzy.cc</a>	専門学校
南充職業技術学院	南充	<a href="http://www.nczy.com">http://www.nczy.com</a>	専門学校
四川水利職業技術学院	成都	<a href="http://www.swcvc.net.cn">http://www.swcvc.net.cn</a>	専門学校
綿陽職業技術学院	綿陽	<a href="http://www.myvtc.edu.cn">http://www.myvtc.edu.cn</a>	専門学校
四川航天職業技術学院	成都	<a href="http://www.sacvt.com">http://www.sacvt.com</a>	専門学校
楽山職業技術学院	楽山	<a href="http://www.lszyxy.com">http://www.lszyxy.com</a>	専門学校
雅安職業技術学院	雅山	<a href="http://www.yazjy.com">http://www.yazjy.com</a>	専門学校
成都東軟信息職業技術学院	成都	<a href="http://www.ccnit.com">http://www.ccnit.com</a>	民営専門学校
四川化工職業技術学院	成都	<a href="http://www.sccvtc.cn">http://www.sccvtc.cn</a>	専門学校

インターネット情報をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

大学のエリート教育も必要ですが、「世界の工場」である中国にもっとも必要なのは熟練した労働者であり、専門学校の役割が非常に重要だと認識されています。

表 1-2-3 四川省の民営連合学院

成都理工大学工程技術学院	成都	www.cdutetc.cn	民営連合学院
成都理工大学放送映画学院	成都	www.cdysxy.com	民営連合学院
成都信息工程学院銀杏ホテル学院	成都	www.yihms.com	民営連合学院
四川師範大学成都学院	成都	www.scnucas.com	民営連合学院
四川師範大学文理学院	成都	www.cdxy.edu.cn	民営連合学院
四川外国語学院成都学院	成都	www.cisisu.edu.cn	民営連合学院
電子科技大学成都学院	成都	www.cd.uestc.edu.cn	民営連合学院
四川大学錦城学院	成都	www.scujcc.com.cn	民営連合学院
西南科技大学都市学院	成都		民営連合学院
四川大学錦江学院	成都	www.scujcc.com.cn	民営連合学院
四川音楽学院綿陽芸術学院	綿陽	www.cymyadc.com	民営連合学院
西南財経大学天府学院	綿陽	www.tf.swufe.edu.cn	民営連合学院

インターネット情報をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

大学を卒業しても就職できず、専門学校に入って技術を習得して、初めて就職できるという例も出始めています。国としても専門技術の教育に力を入れています。四川省には38の専門学校がありますが、校舎とキャンパスは大学に劣らないほど、非常に立派になっています。市内の校庭を不動産開発業者に譲り、その補償金で郊外に立派な校舎を建てるというケースも多く見られます。

また、民営連合学院とは、企業が有名大学の名前を借りて郊外に立派な校舎を建て、大学入学には点が足りないが専門学校以上の教育を受けたいという学生を募集して教育するものです。国の補助金が少なく、学費の高いのが特徴です。

### 第三節 四川省の交通と物流

#### 1. 航空

四川省には成都双流国際空港をはじめ、九寨、綿陽、攀枝花、宜賓、広元など11の空港があります。

特筆すべきは滑走路の本数、旅客の運送量、貨物の取扱い量、ターミナルビル面積の全てにおいて全国4位の成都双流国際空港です。2008年5月31日に上海、北京、広州に続いて、世界最大のエアバス380型機が成都での離着陸に成功し、成都双流空港の能力を内外に示しました。2本目の滑走路は2009年10月に完成し、稼働しています。2011年完成予定の第二ターミナルビルには地下鉄と遠距



離旅客専用線と連絡でき、現在の第一ターミナルと合わせて、2つのターミナルビルの建坪は13.8万平米に達し、現在の年間受入能力1,200万人をはるかに超え、3,000万人の旅客の受入れができるようになります。貨物輸送については2,000平米の倉庫があり、毎日、350トンの貨物を取り扱えます。

現在、香港、マカオ、台湾を含め、国内の74の都市へ定期便が飛んでいます。国際的には、東京、大阪、福岡をはじめ、25本の国際線があります。成都には日本人が少ない上、日本への観光ビザの取得に制限があるため、日中往来の国際線は北京か上海か大連を経由する必要があります。中国経済の発展、日本との経済往来が日増しに多くなるにつれて、状況が改善されるでしょう。

四川省には成都発動機グループと成都飛行機製造グループがあり、ボーイングやエアバスのアウトソーシングを長年請け負ってきた経験もあり、これから、中国の国家プロジェクトである大型旅客機の製造において中核的な役割を担うことになるでしょう。

## 2. 鉄道

清の時代に、鉄道の権益をめぐり辛亥革命の導火線となった保路運動が起こったにもかかわらず、解放前は四川省には鉄道がありませんでした。現在は、成都－重慶線、成都－宝鶏線、成都－昆明線、成都－達州－万州線、内江－昆明線で省外と連絡できます。

現在成都では新しい駅を作り、それを中心に地下鉄とモノレールと遠距離旅客専用線が建設される計画です。今年5月にモノレールの成都－都江堰線が開通し、10月には地下鉄南北線が、来年には地下鉄東西線が完成する予定です。さらに、350キロの時速を誇る旅客専用線として成都－綿陽－樂山線が建設中で、北は西安へ、南は貴陽へと伸ばしていく計画です。また10年以内に、綿陽－遂寧－内江－自貢－宜賓の環状線、成都－重慶線、成都－蘭州線、瀘州－宜賓－長江沿線、重慶－瀘州－昆明線が建設される予定です。一般鉄道としては、四川チベット鉄道なども含め、将来的には省外と連絡できる鉄道が21本も計画されています。

10年後、樂山に住み、成都で働き、2時間で九寨溝や西昌へ観光に行き、西安の兵馬俑も日帰りで見学でき、8時間あれば北京、上海、広州へ列車で行けるようになります。在来線を貨物輸送に切り替える計画ですから、輸送能力はアップし、駅に多くの出稼ぎ労働者が集まる改革開放以来の風景が過去のものとなるでしょう。

## 3. 高速道路

1995年に四川省最初の高速道路となる成都－重慶線が開通してからの15年間で、成都－綿陽線、成都－樂山線、成都－雅安線、達州－重慶線、成都－南充線、西昌－攀枝花線、成都－都江堰線、都江堰－汶川線など27本の高速道路が開通し、延長距離は2,188キロになっています。現在では、省外に向けて7本の高速道路があり、省内21の市と自治州のうち、17の市と自治州の政府所在地が高速

道路で結ばれ、省の経済発達地区は高速道路によるネットワークでカバーされています。

2008年と2009年には、震災復興と金融危機対策として、20本の高速道路が新しく着工され、その延長距離は全国2位の2,503キロになっています。これらが完成すれば、中国内陸部であるがゆえに外資製造業の投資が少なく、なかなか発展しなかった四川省の道路交通事情が改善されるでしょう。

#### 4、一般道路

1949年、四川省と西康省（四川省の雅安市、カンゼ、涼山とチベットの昌都地区にまたがる省で、1955年7月に廃止された）には8,581キロの簡易道路がありましたが、橋梁と排水施設が老朽化して、実際に通行できる距離は半分もありませんでした。

成都市の安仁鎮には四川省の大地主の劉文彩の屋敷がありますが、そこには30年代の古いフォード社の乗用車が展示されています。この1台の乗用車のためだけに成都から安仁鎮まで30キロの道路が作られました。当時のインフラがいかに立ち遅れていたか、社会資本がいかに少数の階層に集中されていたかが偲ばれます。

新中国になってからは、道路建設が大々的に推し進められました。1984年、カンゼチベット族自治州の得栄県にも道路が延び、省内のすべての県に自動車を取り入れ可能にする目標は達成されました。2008年には省内道路の総延長が22.4万キロとなり、1949年の26倍になりました。11本の国道、36本の省道、929本の県道、6,693本の郷道のネットワークは四川省の大地を網羅しています。

道路インフラの整備は近年の四川省発展の大きな原動力にもなっています。

#### 5. 水運

長江沿いの水運はそのコストが安いことから、改めて注目を集めています。重慶が直轄市として独立して以来、四川省は楽山、瀘州、宜賓の港の建設に力を入れてきました。楽山港には大型設備専用埠頭が建設され、徳陽市で作られた三峡ダム用のタービンもここを経由して運ばれています。瀘州港は多目的埠頭の建設が完成し、千トン級の埠頭が2つあり、年間取扱貨物量はコンテナ50万個にもなります。宜賓港もコンテナ50万個の出入り貨物量を目指して、改造工事を進めています。

車ごと船に乗り入れ、運転手も休め、省エネで、高速通行料も要らず、長江沿いの重要都市を往復できる方法は歓迎されています。

現在、水運が開通している川は176本あり、通航ダムや湖は147あり、7級（航路幅18メートル以上、水面通航できる高さ3.5メートル、水深2.2メートル以上）以上の通航距離が4,026キロあり、50万トンの処理能力を有する重要港が21箇所、また30の1,000トン級の埠頭があります。

## 6. 物流

四川省政府は省を中国西部の1つのかなめ、3つのセンター、4つの基地に建設する戦略目標を打ち出しています。つまり、西部地区の交通・通信のかなめ、西部地区の物流センター、商業貿易センター、金融センター、重要戦略資源開発基地、近代的加工製造業基地、科技成果産業化基地、農産物加工基地ですが、物流産業は非常に重要な位置を占めています。

四川省の物流企業は2008年末までに1,000社を超え、一定の規模と機能を備えている企業も100社以上になります。5,000平米以上の倉庫を持つ企業が83社を数えます。今、各物流会社が鉄道、空港、港に依存しながら、道路、航空、水運、海運の一貫したサービスを統合しています。同時にコンテナを運ぶトレーラーやコンテナ専用車、冷凍車、箱型トラックの新型車を増やし、物流市場の発展に対応しようとしています。

高速道路の整備により、成都市を中心に1時間経済圏、2時間経済圏、4時間経済圏が生まれて、四川省の物流産業には輝かしい展望が開けています。

全国的な物流大手のUPSやDHLも参入し、競争を激化させています。各地の物流会社がネットワークを結び、これまで中国郵政の独壇場であった速達の市場に食い込んでいます。

物流情報サービスも、インターネットの発達により整備されてきました。

### 第四節 人民生活

#### 1. 人民生活と省民性

四川省は、歴史上、移入者が多かったため、他の宗教、習慣、文化の人々とも穏やかに付き合い開放的な省民性が培われました。また、都江堰のおかげで旱魃も洪水もない豊かな地域であったため、貯蓄よりその時々を楽しむを享受するという考え方が広がりました。唐の時代の詩人たちの残した多くの作品は省民の穏やかな気質をものがたり、省の

表1-4-1 2008年成都市年間給与評価値（人民元）

職業類別	給料	国有企業	民営企業
平均	下	10350	7941
	中	24319	17200
	上	105527	68857
管理職	下	19144	13244
	中	56405	38744
	上	186916	146254
技術職	下	12645	10088
	中	32220	23560
	上	94716	72387
事務員	下	11313	8219
	中	21429	16800
	上	76817	48733
商業従事者	下	9234	7368
	中	17515	13598
	上	67929	44163
生産従事者	下	9265	7656
	中	21521	15000
	上	73739	37293

(四川省招商引資局パンフより)

ブランド商品が酒、茶、料理、シルクなどのぜいたく品であることから、その豊かさの一端を窺うことができます。四川省はかつて劉備、関羽、張飛が兄弟の契りを結んで蜀の国を興した地ですから、人々は、人間関係と商売においては特に「義」を重視してきました。

## 2. 四川省の給与レベル

成都市の国有企業、民営企業の給与レベルは、上記の通りです。

## 第五節 日本との関連

### 1. 日本との関連

近代まで、四川省は日本とほとんど関係を有しませんでした。最初に四川省を訪れた日本人は雪村友梅といい、元の時代に留学僧として北京に滞在していましたが、どういうわけか、政府によって四川省へ流されてきたのです。その時の心境を自作の詩に反映させています。

函谷関西放逐僧、	函谷関の西、放逐の僧、
同伴只有一根藤。	同伴只だ一根の藤有り。
終南秀色連天地、	終南秀色天地に連なり、
慶幸平生此一行。	慶幸す、平生に此の一行。

現在、四川省に進出している日本の有名企業は、イトーヨーカドー、トヨタ自動車、コベルコです。イトーヨーカドーが成都に入ってから 10 年以上の歳月が経ちました。現在、成都に 4 店舗あり、まもなく 5 店舗目が開店することになっています。イトーヨーカドーは、毎日の開店時に総経理が入口で客を出迎えたり、日本並みの生鮮食品を揃えたりするなど、サービスに新風を吹き込みました。結局、日本的なサービス精神が成都という全国一の商業激戦区で市民に喜ばれ、競争に打ち勝ったのです。

トヨタ自動車は、成都でプラドとコースターという車種を作っています。2 車種とも売れ行きがよく、四川省の模範企業になっています。

コベルコは、シャベルなどの建設機械を作っていますが、四川省の建設、特に震災後の復興に大きく貢献しています。

このほかにも、日本の多くの銀行、保険会社、商社が支店や事務所を置いています。このように、四川省の経済発展は日本企業の注目をますます引き付けています。

特筆すべきは、四川省の日本語教育です。現在、四川大学、西南交通大学、電子科技大学、西南民

族大学、成都理工大学、西華大学、四川外国語学院、樂山師範学院（樂山）、西南工業大学（綿陽）に日本語科が設けられており、毎年、300名の卒業生を輩出しています。これまで日本語を勉強した人たちの多くが沿海地方で就職していたのが、最近では、日本企業の進出が増え、またインターネットの発達でアウトソーシング産業が急伸していることもあり、日本語能力のある人材に対する需要が多くなってきているため、沿海地方からUターンする人が増えています。

## 2. 日本への感情

四川省の人々は親日的だとよく言われます。それは歴史的に日本との接触が少なかったため、人々が偏見なく日本を考えることができるためかもしれません。数ある進出企業はみな日本を代表する立派な企業で、労使紛争や消費者の申し立てなどマイナスな印象を与えるようなニュースもなく、日本的なサービスをそのまま成都に移植したので、むしろ成都市民に喜ばれています。イトーヨーカドーが成都で成功していることが何よりの証拠です。

一方、四川省で日本語科を設けている大学は9校にも上り、これに日本語の専門学校を加えると、日本語を勉強する学生が数多くいます。日本のアニメやテレビドラマやゲームが好きな若者も少なくありません。そのため、成都では日本語検定の受験者が多いのですが、北京や上海のように多くの枠があるわけではないので、日本語能力テストやJ-テストの試験を申し込み、席を確保するだけでもひと苦労です。成都での席が取れなかったために、年1回のチャンスを逃がさぬよう、内モンゴルやチベットに赴いて受験する人もいます。現在は、日本語能力テストが年2回行われるようになり、席は比較的容易に確保できるようになりました。

以前は日系企業が少なかったため、日本語を習得しても沿海部へ行かねばなりません。最近では、インターネットの発達により、アウトソーシングという新しい業態が成都や綿陽にも根を下ろし、日本語能力の活用が地元で増えています。

表1-4-2

四川省社会商品小売総額の推移

期間	小売総額(億元)
1990	348.6
1991	399.85
1992	470.63
1993	572.18
1994	742.17
1995	958.98
1996	1137.34
1997	1292.5
1998	1409.39
1999	1516.65
2000	1671.43
2001	1880.24
2002	2070.14
2003	2293.72
2004	2615.24
2005	2981.37
2006	3421.65
2007	4015.57
2008	4800.8
2009	5758.7

(2009年四川省統計年鑑、

中国統計出版社8月)

### 3. 四川省の日本企業

四川省では、上記のイトーヨーカドーが最も市民生活に密着し、日本企業として最も高い知名度を誇っています。1 店舗目は高い売上を実現したものの、高い家賃や市の中心部であるが故の小規模な店舗などが原因で、当初、利益の出せない経営が続いたといわれます。その後、イトーヨーカドーのブランド力が認知され、2 店舗目からは順調な経営が続いています。現在は4 店舗になりましたが、中国市場に時間をかけて取り組む成功事例となっています。

伊勢丹デパートは進出して間もないものの、デパートとしてのブランド力は定着し、富裕層に喜ばれています。

トヨタとコベルコは日本の製造業の代表的な企業ですが、当初、中国政府の産業配置政策で四川省に進出したといわれます。その後中国経済の上昇気流に乗りました。特に西部大開発と震災後の復興で SUV 車と工事用機械の需要が増大し、生産が追いつかない状態です。

それ以外に、パナソニック、ソニー、ダイキン、オムロン、東芝、NEC、三菱エレベーター、富士通などが事務所や販売統括会社、合弁会社を設立しています。三菱東京UFJ銀行や東京海上火災保険をはじめ、銀行や保険の事務所も少なくありません。



図1-5-1 イトーヨーカドー万達店

## 第六節 四川省の優位性

### 1. 四川省に日本企業が少なかった理由

中国は「世界の工場」になっていますが、多くの日本企業がまさに中国を工場としてとらえています。工場であり、輸出が前提である以上、海から近い方が好条件であったことから、進出先は沿海地方に集中しています。沿海地方は、日本に近いだけでなく、上海、大連、青島、ハルビン、瀋陽などは日本と歴史的なつながりがあり、親近感があることも要因でしょう。

実は、中国は「世界の工場」であると同時に、現在では巨大な消費市場でもあります。特に金融危機以降は自動車の販売台数が1,300万台を突破して、世界最大の市場に変身しています。欧米企業が

真っ先に巨大市場として中国をとらえ、自動車や携帯電話などの分野で大きな成功を収めています。

特に携帯電話では、日本企業は撤退を余儀なくされました。最近、中国の携帯市場が世界一の規模になったため、日系企業が3G技術を通じて中国市場での巻き返しを計画する動きが出ていますが、市場にはまだ現れていません。

市場としての認識が薄いだけに、メーカーの進出のみが目立ち、サービス企業は出遅れています。イトーヨーカドーは大きな成功を収めているものの、フランスのカルフルや台湾の好又多やマレーシアのパークソンに比べると、品質は良いものの、量的にははるかに及びません。

## 2. 欧米の企業が日本企業より多い理由

成都には、有名なインテルをはじめ、エアロテック社(米)、AIG(米)、3M(米)、富士ゼロックス(米)、モトローラ(米)、フィリップス(オランダ)、BASF(独)、シーメンス(独)、ラファンキー(仏)、アルカット(仏)、アルストン(仏)、ミチエリタイヤ(仏)、エリクソン(スウェーデン)、ボルボ(スウェーデン)、ノキア(フィンランド)、ABB(スイス)などたくさんの欧米企業が進出しています。

その理由としては、四川省の軍需工場で培われた産業基盤と技術者の存在や、市場を重要視して製品の現地販売を目的としていることが挙げられます。中国から遠く離れているため、従業員も現地採用が原則ですから、日本企業のように日本へ持ち帰る際の輸送コストや往来時間などを考える必要があまりありません。むしろ、四川省は人的コストも土地も安く、政策的にも多くのメリットがある上、西部に広がる広大な市場が魅力でしょう。また、チベット高原の東側斜面に位置し、シャングリラや九寨溝のある四川省は、オリエンタルな神秘さに溢れ、非常に中国らしいと映ったかもしれません。

## 3. 今、なぜ四川省なのか

改革開放以来、中国政府は沿海地方を優先的に発展させる政策を取ってきたため、四川省と沿海地域との間に大きな経済格差があることは否めません。しかしながら、四川省はその豊かな伝統文化、恵まれた自然環境、教育を受けた人材、独自の産業基盤を頼りに自力更生型の発展を遂げてきました。西昌衛星打ち上げ基地を始め、宇宙開発産業群が確立し、航空産業では戦闘機を筆頭に、エンジンの開発、ボーイングとエアバスとの多くの協力プロジェクトが成都で行われています。IT産業ではソフト開発、チップ製造、アウトソーシング、電子機器の製造が特に盛んです。三峡ダムの発電タービンや原子力タービンは四川省で作られ、豊かな資源とエネルギーを後ろ盾に、新素材、鉄鋼、化学工業も飛躍的に発展しています。

西部大開発のおかげで以前にネックになっていた交通インフラも改善されました。また、四川省には11の空港があり、30余りの国際線と200の国内線が開通し、2008年には延べ1,724万人の利用者

がありました。高速道路が縦横に張り巡らされ、重慶、西安、貴陽などを含む西南部の市場の一体化が着実に進んでいます。高速鉄道は中国の花形産業ですが、成都―重慶間高速鉄道は2010年3月に着工され、全長309キロ、最高時速350キロ、総投資額390億元で、2014年に開通予定となっています。また、昆明、西安、蘭州、貴州、ラサとの連結も計画されています。

8,800万人の人口や、社会商品小売額が5,758.7億元に上り、なおも年20%増加し続ける状況など、西部全体に強い浸透力と放射力を持つ巨大な市場は四川省ならではの魅力です。

インターネットが発達している今、四川省は豊かな人材を駆使し、インターネットで納品できるBPO事業の発展に力を入れています。

#### 4. 他省との比較

成都平野を中心に農業が発達し、気候が温暖で、生活しやすい環境に恵まれている四川省は、省内だけでなく中国西南部や中国全土の人をひきつける力があります。それは、成都が大都会に発展した大きな理由です。人が集まれば、大きな市場が形成されます。それは成都が全国一の商業激戦区になった所以です。

四川省は中国の中央に位置し、交通の発達によって中国各地と結ばれています。沿海地方は地価、人件費が高騰してきているため、投資効率という視点から見れば、四川省は魅力があります。

産業基盤が形成されていますから、工業製品のニーズが高く、市場として理想的です。原料調達とエネルギー供給が保障されます。資源依存の製造業であれば、コストダウンにも効果的です。

沿海地方では人材の奪い合いが起っていますが、四川省では会社に忠誠的で優秀な人材を安定的に確保しやすい、というのが成都の外資系企業の共通の感想です。大学も多く、特に日本科では毎年1,000人以上もの卒業生を輩出します。

四川省は中国においても発展途上省であり、日本の企業が日本国内、または沿海地域でのかつての成功を再現するのに最も適しているはずですが、シナリオ通りの目的を実現するのに理想的な地域であるといえます。

四川省は、沿海地域に比べ、土地コスト、人件費、資源の確保、エネルギーの供給、拡大を続ける内需の市場、外注協力メーカーの充実などの面でメリットがあります。なかでも、ほかの中西部の省と比較して、整備された産業基盤、十分に確保可能な技術者と熟練労働者の存在、桁違いの市場規模が魅力でしょう。

#### 5. 四川省の未来展望

四川省は、インフラ整備、資源の有効利用、宇宙航空開発、新素材開発、生態環境建設、都市と農村との統合、成都重慶経済エリア形成など、国家プロジェクトである西部大開発においては重点的な



役割を果たしています。

10年前に始まった西部大開発は三つの段階に分けられます。2001年から2010年までは基礎を固める第一段階で、重点は産業構造の調整、インフラ整備、生態環境の建設、科学技術と教育の強化、市場メカニズムの確立、投資環境の改善などです。2010年から2030年までは加速的発展の第二段階ですが、第一段階の成果を踏まえて独自産業を育成し、経済の産業化、市場化、生態化を実施して、経済成長の躍進を実現します。

2009年1月27日に四川省第十一次人民代表大会第三次会議が開かれ、2009年度にGDP14.5%増の14,151.3億元に、2010年度の目標が10%増であることが発表されました。

西部大開発の第一段階の締めくくりであると同時に第二段階の始まりでもある2010年には、四川省はインフラ建設を中心とした多くのプロジェクトを展開しています。

12本の高速道路建設が着工され、その総延長は3,020キロに達します。

鉄道では成都—都江堰間の旅客専用路線が5月1日に開通予定で、成都—綿陽—樂山間および成都—蒲江間の旅客専用路線の建設が始まります。地下鉄と旅客専用路線が乗り入れる新しい成都駅の建設も始まります。

成都双流空港の第二滑走路が完成し、運用が始まります。

瀘州や宜賓の港湾改造工事も完了し、水運能力の向上が期待されます。

瀑布溝発電所が発電を開始し、溪洛渡、向家壩などの中型水力発電所建設も順調に進み、上海や宝鶏への送電工事も急ピッチで行われています。

家電、携帯、コンピュータ、自動車、バイクなどの農民購入補助を引き続き実施し、内需拡大を促進します。

民営企業とハイテク企業の加速的発展にも尽力します。

これらインフラ建設と内需拡大措置によって、日系企業がもっとも心配している奥地の物流問題が著しく改善され、中国西部の中心としての四川省の地位も一層強固なものとなるでしょう。

2031年から2050年までは、全面的に近代化を実現する第三段階です。既に発展を遂げた一部地域がさらに実力を増し、国内外の近代化した経済体系に溶け込んで発展し続けるとともに、山地地方と比較的発展の遅い農業・牧畜業地域の発展が促進され、西部住民の生産生活レベルが総合的に高まり、格差が全面的に縮まることが期待されます。

日本企業は、四川省の発展を長期的視野に入れ、今のうちに何らかのかかわりを持つことが得策と思われる。

## 6. 成都重慶経済区

四川省の経済発展の未来を展望するには成都重慶経済区については触れなければなりません。今は重慶市と四川省と成都市では積極的に推進していますが、まだ国家レベルのプロジェクトには指定

されていません。西部全体の発展を牽引し、内陸の対外開放のレベルを向上させ、中国経済の第四のエンジンを打ち立てるのに重要な意義がありますから、国内外から注目と期待が集まっています。

成都と重慶を中心とするエリアは二つの特大都市のほかに六つの大都市があり、それに多くの中小都市が都市群を形成しています。都市の密度は一万平米キロ当たり 1.76 都市で、西部地方で最も都市が密集している区域です。2008 年の都市人口は 4,046 万人あり、都市化のレベルは 43.8% になっています。計画中の成都重慶経済区には四川省の 15 の市と重慶市の 31 の区と県が入っています。

戸籍人口が 1 億 163 万人があり、就業人口が全国の 7% も占めています。農村には 2,500 万人の余剰労働力があるといわれています。ここには 135 の大学と 789 の専門学校があり、80 万人が在学しています。多くの科学研究機関があり、30 万の科学技術者と 210 万人の専門技術者が活躍しています。

交通インフラの整備が進んでいます。初歩的に 3,936 キロの鉄道、3,353 キロの高速道路、13 の空港、それに一般道路、水運、パイプラインによる総合交通運送システムが形成されています。陝西省、甘粛省、雲南省、貴州省、チベット自治区、青海省、湖北省、湖南省と密接な経済関係にあります。

成都と重慶地区は悠久な農業歴史があり、すばらしい自然条件と豊かな物産のおかげで人類が生活するのに最も適した地域になっています。それに、天然ガス、水力資源、バナジウム、チタン、アルミニウム、鉄鉱、銅鉱などの資源にも恵まれ、巨大な潜在力を持っています。9ヶ所の世界文化自然遺産と地質公園があり、観光業の持続的発展のためにいい条件を提供しています。

成都重慶経済区は改革開放、特に西部大開発以来、産業が発達して、宇宙航空、プラント設備製造、自動車オートバイ、エレクトロニクス、バイオ製薬、冶金建材、紡績アパレル、食品、国防科技開発などの工業体系が打ち立てられました。資源が開発されて、経済発展のために豊富なエネルギーと原材料を提供しています。経済社会は急速に発展し、特に第三次産業の発展が著しく、西部地方の重要な物流、商業貿易、金融センターになり、全国重要な観光目的地にもなっています。今は成都重慶地区の総合的な実力が西部地区で最も強い区域になっています。国際的に産業が発展途上国に移転し、インターネットを通じて BPO が西部地方へ直接発注されるようになり、東部沿海地方の産業が絶えず西部地方へ移転し、さらに東南アジアの中国西部地方との経済連携が日増しに強まり、成都重慶で実施されている「都市と農村の一体的発展に向けた総合改革試験」も各省が精力を傾けた震災復興事業も発展のために新しい原動力を提供し、成都重慶地区は発展を速める新しいスタートラインに立っています。

しかし、国際金融危機の影響や西部地方の産業の構造的な矛盾、技術開発能力の不足、競争力の欠如、インフラ整備の遅れ、内陸的な発展モデル、旱魃や地質的災害など西部の発展を制約する要素は成都重慶経済区の直面する挑戦になるでしょう。

## 第二章 成都経済区——震災復興重点地域 5 都市

### 第一節 成都市——期待される西部地方の牽引

#### 1. 基本情況

成都市は四川省の省都で、地理的にもちょうど省中央にあり、蓉城、錦官城、天府の国とも呼ばれ、四川省の政治、経済、文化、教育、交通、金融の中心を担っています。また、中国の 14 の副省級都市のひとつで、国家経済と社会発展計画の特別計画都市でもあります。面積は 12,390 平方キロメートル、人口は 1,125 万人を誇ります（常駐人口は 1,270.6 万人、市街区域人口は 497.15 万人）。電話市外局番は 028、郵便番号は 61 で始まる 6 桁です。

市の花は芙蓉、市のシンボルは太陽神鳥、市の木は銀杏、市の歌は「I love this city」です。

成都市は、1993 年、国務院によって西南地区の科学技術、商業貿易、金融センターと交通ターミナルに定められ、2007 年、上海浦東新区と天津滨海新区が国家総合改革試験区に決定されたのに続き、都市と農村の総合改革試験区に正式に批准されました。さらに、2008 年には、杭州と大連とともに国から最優秀観光都市に選ばれました。

また、中国の 56 の少数民族のうち 54 が成都に暮らし（その総数 60,538 人）、そのうち 3 分の 2 が市区に住んでいます。

成都市は四川盆地西部の岷江中流に位置し、チベット高原の東の斜面にあるため、平均海拔は 500 メートル以上、海拔最高点の大雪山峰は 5,364 メートルあります。平野面積は 36.4%、丘陵面積は 30.4%、山地面積は 33.2%です。平野部は西北部が高く、西南部は低く、岷江に建設された都江堰は

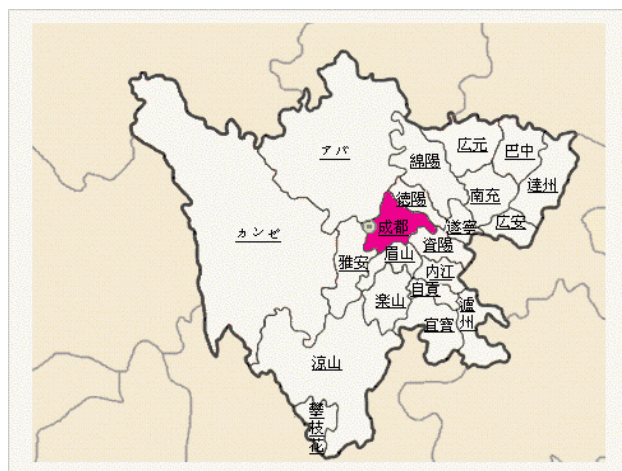


図 2-1-1 成都市の四川省に置ける位置

2000 年にわたって成都平野を潤し、洪水も旱魃も無い「天府の国」を造りあげました。

亜熱帯季節風の気候帯に属していて四季があり、夏は涼しく、冬は暖かく、年平均気温は 16.7℃です。年平均降雨量は 945.6mm と理想的であるものの、年間日照時間がわずか 1,071 時間しかない上、日差しも弱いため、不満を抱く人も多いです。隣接するチベット自治区のラサ市の年間日照時間(3,000 時間)にはるかに及ばず、上海や重慶などの長江沿岸の都市(同 1,800 時間)に比べても非常に少なくなっています。また、曇りの日は往々にして大気汚染が疑われますが、これは成都盆地特有の気候によるものです。昔から「蜀犬日に吠ゆ」という言葉がありますが、これは 2 通りに解釈されていま

す。1つは、あまりに曇りの日が多く、たまに太陽が顔を覗かせると犬が怪しんで吠えるというもの、もう1つは、人々が高い山々の谷間に暮らしているため、太陽を拝む時間が少ないからだというものです。

表 2-1-1 成都市の市街区域の概況

市街区域	青羊区	面積 68 平方キロ、人口 75.3 万。成都市と四川省の政府機関のある市の中心部を占めており、商業も発達し、杜甫草堂や金沙遺跡をはじめ観光名所に恵まれています。西地区は、道路の発達により不動産開発が盛んです。
	成華区	面積 111 平方キロ、人口 80.9 万。成都駅があり、新しい駅もこの区域に計画され、交通ターミナルとしての役割を担っています。多くの古い工場が郊外へ移転し、跡地に高層マンションの建設が進み、住民が集中し、イトーヨーカドーの4店目がここで開業することになっています。
	金牛区	面積 108 平方キロ、人口 104.8 万。ハイテク開発区が目玉で、商品の卸センターとしても有名です。
	錦江区	面積 62 平方キロ、人口 67.4 万。市中心部の商業地帯もあり、閑静な住宅地もあり、所轄の郊外地方は幸福梅林や花香農居などの観光農業が発達しています。
	武侯区	面積 78 平方キロ、人口 90.7 万。武侯祠、多くの大学、ハイテクパークなどがあり、市街地の中でも比較的大きく人口の多い区です。
	龍泉驛区	面積 555 平方キロ、人口 57.4 万。自動車、宇宙産業を含む国家科学技術開発区があり、桃や枇杷の産地として観光農業の発展にも力を入れています。
	青白江区	面積 392 平方キロ、人口 38.5 万。従来の化学工業に加え、鉄鋼業の移転を受け、成都市の重工業地区に成長しています。
	新都区	面積 481 平方キロ、人口 66.6 万。飲料（コカコーラ）、印刷、建材、機械加工などの産業が発達し、大学の移転を受け、成都市中心に近いことから、不動産開発が特に盛んです。
	温江区	面積 277 平方キロ、人口 39.3 万。成都市内からの大学の移転を受け、不動産開発、遊園地の建設で注目を集めています。アウトソーシング産業の育成に取り組んでいます。

「2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

市は現在、9つの区、4つの県級市、6つの県と1つの特別開発区を管轄しています。市街区域は成都平野の大半を占め、成都市 1,000 万の人口のうち、600 万人が市街区域で生活しているなど、商業

施設、文化施設、政府庁舎が集まる最も発達している地区です。

表 2-1-2 成都市の県級市の概況

県級市	彭州市	面積 1420 平方キロ、人口 78.6 万。地震による観光地や農業への被害が成都で最も著しかったものの、市街地域は被害がなかったため、回復も早いです。
	崇州市	面積 1090 平方キロ、人口 65.5 万。観光、農業、ハイテクが産業の柱です。
	都江堰市	面積 1208 平方キロ、人口 61.7 万。地震の被害が非常に大きかったものの、都江堰、青城山などの観光施設が徐々に修復されています。
	邛崃市	面積 1377 平方キロ、人口 65.7 万。漢の時代から富裕層が集まっていると「史記」に記載されていますが、現在は酒造が主な産業になっています。

「2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

市街地域からはかなり離れていますが、経済の発展や地域の特徴から独自の都市系統を形成しているのが県級市です。経済力のある市に付属する場合や、四川省の涼山イ族自治州の州都の西昌市のよ  
うに、州や地区に管轄される場合があります。

表 2-1-3 成都市の県の概況

郊外県	大邑県	面積 1548 平方キロ、人口 51.8 万。市最高の海拔 5364 メートルの西嶺雪山があり、温泉も多く、観光地として栄えると同時に古い街並みがよく保存しているため、映画やテレビドラマのロケ地としても有名です。
	蒲江県	面積 580 平方キロ、人口 26.6 万。3 つの湖があり、レジャー産業が発達しているのに加え、ミカンやキウイの産地として有名です。
	金堂県	面積 1156 平方キロ、人口 87.3 万。農業地帯ですが、第二空港の候補地になってから、不動産開発が盛んです。
	陣県	面積 437 平方キロ、人口 49.1 万。「農家楽」という人気の農家観光発祥の地で、観光農業が発達しています。
	新津県	面積 332 平方キロ、人口 30.1 万。中国一の大富豪となった劉永好氏が豚の飼料を産業化したことから、飼料産業が発達しています。
	双流県	面積 1068 平方キロ、人口 93.5 万。成都空港があり、倉庫、物流、工業が盛んで、県としては全国 100 強に入っています

「2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月」をもとに四川蜀名市場諮問有限公司整理

このほかの地域は、県という行政単位で管理されています。北京や上海の発展過程をみると、都市化が進めば区に昇格することになるでしょう。ただし、そのためには国務院の経済・社会発展に関する

る厳しいノルマをクリアしなければなりません。

## 2. 成都の「世界一」と「中国一」

紀元前 250 年前後に作られ、2,000 年あまりにわたって機能し続けてきた都江堰は、世界文化遺産にも選ばれ、成都市の有名な観光地であると同時に成都市民の誇りでもあります。

紀元前 61 年、成都市の臨邛で採掘に成功した天然ガスは、塩の生産や調理、照明などに活用されました。

四川省は養蚕の発祥地で、蜀錦は世界最初の錦紡績製品です。後漢時代（紀元 25 年—220 年）に発明された足踏みの「錦織機」は、当時世界最新鋭の機織機でしょう。

漢の時代（紀元前 202 年—紀元 220 年）には、漆器芸術品と茶文化が誕生しました。

唐の時代には、成都で世界に先駆けて木版彫刻による仏教経典の印刷を始めました。現存する「陀羅尼経咒」「金剛経」の残頁と樊賞家の家系などは、世界最初の印刷物です。

北宋時代には、成都の商人が協力し合って「交子」という世界初の紙幣を発明し、政府も成都で「交子務」という管理貯蓄銀行を設立しました。

紀元前 250 年前後には、当時の四川省行政長官であった李冰が石の人形を作って都江堰の施工基準にしました。中国初の測定機器です。

紀元前 141 年には、蜀郡の太守・文翁が成都初の官営学校「文翁石室」を創りました。

前漢時代（202 年—紀元 8 年）には、司馬相如、枚乗、賈誼、楊雄が漢賦という詩の形式を確立しました。

漢時代の演劇の繁栄を物語る、滑稽劇用の人形が出土し、成都が世界に誇る作品として称えられています。

後蜀時代（紀元 943 年—965 年）には、皇帝・孟昶が「豊年納余慶、嘉節号長春」（豊年にたくさんの喜びを納め、素晴らしい季節に長い春を歌おう）という史上初の対句を作りました。同時に設立された「翰林図画院」は、皇室画院としては中国初です。

また、この時代には、画家の黄荃が工筆花鳥画派を確立し、趙崇祚が文学史上初めての詩集「花間集」を編集しました。

紀元 355 年以前には、中国に現存する最古の地方誌「華陽国誌」が成都で編纂されました。

外資系小売企業の数と売上は全国一です。

2010 年 3 月、成都市はアジアの他都市に先駆けて UNESCO によって「美食の都」の名誉を授けられました。

### 3. 成都の国際交流

成都市は山に囲まれた中国の内陸に位置し、交通が不便だった時代には外国企業から敬遠されましたが、改革開放以降、四川省の経済発展に伴い、世界の注目の的になりました。

現在、成都に総領事館を持っている国は、アメリカ、ドイツ、韓国、タイ、フランス、シンガポール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、ベトナムなど10カ国を数え、英国成都ビザセンター、ベルギー経済貿易委員会成都事務所、香港特別行政区成都事務所、マカオ特別行政区成都事務所などの政府系駐在事務所も増えてきています。

成都市は日本の甲府市、アメリカのフェニックス市、フランスのモビリエ市、イタリアのパレルモ市など多くの都市と姉妹友好都市関係が結ばれています。

### 4. 成都の総合的な実力

成都市は西部地区で経済が最も発達しており、総合的な実力でも首位に位置しています。西部11省のGDPのなかで四川省のGDPが3分の1を占め、成都が四川省の3分の1強を占めるから、成都市のGDPが西部地区全体の約1割を占める計算になります。

解放前の成都には修理工場が少しある程度で、近代化した工業らしいものはありませんでした。新中国になってからは成都が三線建設の重点地区に指定され、沿海地方や東北地方から多くの工場が移転してきました。工業体系が整っておらず、加えて国営的体制から生まれる障壁に拒まれ、大きく発展することはできませんでした。

工業の発展は改革開放後、国営企業制度改革の完成以降でした。特に成都の投資環境が著しく改善された近年、以前から発展に力を入れてきた電子、飛行機、発動機、自動車、宇宙産業について、インテル、トヨタ自動車、一汽ワーゲン、吉利自動車、ノキア、コベルコ、シーメンスなどの近代的工業を代表する企業が成都に根を下ろしました。

成都市の目標は、中国西部で創業環境が最もよく、居住環境が最も優しく、総合的な実力が最も強く近代化した、地域の中心である大都市となることです。同時に中国中西部の金融センターの構築を目指しています。現在、世界トップ500社のうち130社が成都に進出しており、100社に上るグローバル研究開発機構が成都にて世界の変革と科学技術の進歩のために貢献しています。成都の電子情報産業、生物医薬産業、化学化工産業、家具や製靴産業、アニメとマスコミ産業、展示展覧産業、航空宇宙産業、観光産業の迅速な発展と大きな成功は、成都の全国10大都市と西部中心都市として地位をしっかりと固めています。

2008年のGDPは3,901.99億元に達し、前年比15.3%にもなっています。第一次産業は235.5億元、第二次産業は1,504.0億元、第三次産業は1,584.9億元で、その比率は7:45:48になっていること

から、発展途上の中国国内では進んだ産業構造になっています。常駐人口の一人当たりのGDPは26,527元（3,634ドル）に達し、民営経済のGDPは前年比21.2%増の1,691.9億元で、GDP全体の50.9%を占めています。

成都には405万世帯、1,270万人の常駐人口があり、都市部従業員の平均年収は30,364元で、可処分所得は15,580元です。農村住民の純収入は5,642.3元で、消費支出は3,997.8元となっています。

表2-1-4 成都市の経済状況

GDP	総額	3900.99 億元
	第一次産業	270.15 億元
	第二次産業	1816.66 億元
	第三次産業	1814.17 億元
	一人当たりのGDP	30855 元
平均給料	国営	37017 元
	民営	22863 元
住民一人当たり可処分所得		15580 元
住民一人当たり消費支出		11986 元
農民一人当たり純収入		6481.5 元
農民一人当たり生活消費支出		4565.1 元
年金加入者数		526.26 万人
年金収入総額		185.51 億元
就職者数		728.96 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

1992年、省都としては初めて国家衛生都市に選ばれ、中国都市社会経済発展レベル評価委員会によって「中国都市総合実力50強」の第11位に評価されました。中国社会科学院発表の「中国都市発展報告（2008-2009）」では成都の総合実力は第4位にランクされました。

成都はまだ、全国一の商業激戦区です。国内系の茂業デパート、王府井デパート、北京華聯、成都華聯に加えて、イトーヨーカドー4店、カルフォル6店、西武デパート1店、伊勢丹デパート1店、オールマット2店、パックスン6店、オーシャン2店などの外資系もあれば、太平洋デパート2店、新世界デパートの香港系もあります。2007年に社会消費品販売総額が1,357.2億元に達します。業界から見ると、卸業が163.7億元で、小売業が938.2億元で、ホテルと外食業が250億元です。民営企業と外資系がかなり大きなウエイトを占めています。取引額が1億元以上の商品交易市場が28ヶ所あり、そのうち、10億元以上のものが12ヶ所あります。対外貿易も飛躍的な成長を続けています。年間輸出入総額は95.2億ドルになり、前年比36.9%も増えています。

金融機関の2008年の年末預金残高は16,880.44億元あり、証券営業所は80カ所あり、従業員が2764人で、証券投資者が164万人で、2007年の年間証券取引高が22,705.3億元になっています。保険会



社が46社あり、保険費収入が494.28億元になっています。

そうした総合的な実力に支えられて、成都の都市インフラは長足の進歩をとげることができました。

表2-1-5 成都市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	2418
道路面積 (万平方メートル)	5509
橋梁数 (個所)	497
街灯 (千個)	125
バス保有台数	6825
タクシー保有台数(台)	12732
公衆便所数 (個所)	1539
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	1817
水道普及率 (%)	94.12
都市ガス普及率 (%)	93.62
一人当たり道路面積 (平方メートル)	13.57
公園数 (個所)	107
公園緑化面積 (平方メートル)	4642
一人当たり公園緑地面積(平方メートル)	11.43
市街区域の緑化率 (%)	38.58
下水排出量 (万立方米)	47448
下水道の長さ (キロ)	4366
下水処理率 (%)	85.19
ごみ処理率 (%)	100.00

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

生活環境と投資環境がますますよくなって、物価も不動産価格も沿海地方より割安感があることから、将来の発展を見込んで成都にたくさんの人が集まってきています。中には、国際企業の成都進出によりやって来るビジネスマン、地方の企業が成都に営業拠点を置くために来る人、もともと沿海地方で勤めていたがUターンしてきた四川省の若者、地方で定年を迎えた人が生涯の貯蓄で成都に住宅を購入して子供と一緒に住む人、若いころは新疆やチベットで過ごし、定年後は成都で老後を送りたい人など、目的はさまざまです。

実際、成都の経済は孤立した経済ではありません。四川省を始めとする西部地区で生産された品物は成都経由で全国へ売られていきますし、全国から集まってきた商品とサービスも成都を通じて四川省を始めとする西部地区へ分散されていきます。中国政府は成都のこうした機能を高く評価して、今後拡大していく計画です。

## 5. 期待される西部経済の牽引

成都の西部全体を牽引する役割を十二分に発揮し、西部大開発を背景に、交通、電信、観光の面で壮大な計画が発表されています。特に、国際金融危機の影響で、中国政府が内需拡大やインフラ建設に力を入れたため、計画の実施が著しく早められました。

成都市は現在、成都—宝鶏、成都—昆明、成都—重慶、達州—成都の4本の鉄道が結ばれていますが、さらに今後は、建設の進む上海—武漢—成都、成都—蘭州、成都—貴州、成都—青海、成都—ラサなどの高速鉄道の拠点になり、成都—綿陽—樂山、成都—西昌、成都—重慶の旅客都市鉄道のターミナルになります。

現在、成都では2本の地下鉄が同時に建設され、1本目は2010年10月の運転開始に向けて着々と準備が進められています。自動車を中心とする交通から、エコ経済、温暖化防止の機運の中で、公衆輸送手段の発達により、大きく変わろうとしています。

成都から108、213、317、318、319、321の6本の国道が放射状に分布し、成都を全国としっかりと結んでいます。そのほか、2,306キロの市内道路が成都市内を縦横無尽に巡らされ、物流と人員の行動をより自由に、より迅速にしています。そのうち、高速道路が437キロあり、大半は市民に無料に開放しています。成都のどこにいても1時間で成都の市街区域に入ることができます。成都の自動車保有台数は120万台に達し、自家用車は90万台を超え、北京に次いで全国2位になっています。

成都双流国際空港は国際航路が25本あり、世界の主要都市と空で連絡しており、また国内航路も140本あり、旅客と貨物がともに全国4位になっています。4本の滑走路が計画されており、現在急ピッチで3本目の建設工事が進められています。

2008年四川省の旅客輸送量総数は1,187億人キロで、そのうちの60%以上が成都経由です。また、貨物輸送量総数は1,513億トンキロ、そのうちの50%が成都を経由しています。成都を中心とする四川省内の人の移動の規模と成都の西部経済の牽引力の強さを物語っています。

電信については全国7つある一級通信交換センターの1つで、2007年の処理高が115.3億元に上りました。成都市内だけで固定電話のユーザーが418.9万戸、PHSユーザーが119.1万戸、携帯電話のユーザーが1163.4万戸に達しています。

交通の発達により、2007年には国内外から4,253.6万の観光客が成都を訪れ、観光収入は395.4億元に上っています。観光施設も整備・改善が進み、現在三ツ星以上のホテルが256社、旅行社258社、国際旅行社が39社あります。また、海外旅行に出かけた成都の人は延べ14万人になっています。

## 6. 歴史沿革

2300年前の秦の始皇帝の時代には、現在の成都の地に城が築かれ、「一年に居る所は聚と成り、二

年に邑と成り、三年に都に成る」という言葉に因んで、成都という名付けられたことが定説になっていました。しかし、2001年に発見された金沙遺跡により、成都の都市としての歴史が紀元前611年に遡ることができることがわかり、蘇州を超え、遺跡を変えることなく同じ場所で栄え続ける都市としては最も長い歴史を誇ることになりました。

いったん、中華文明圏に属した後の成都の発展には目まぐるしいものがあります。秦の時代には都江堰が建設され、北へは秦の都の咸陽への陸路が築かれ、東へは成都から長江へ入る航路が開通され、成都平野の豊かな物産を以って、秦の中国統一に大きな役割を果たしたに違いありません。

秦の末期に劉邦が四川省を根拠地に漢の王朝を開くことができました。成都に益州刺史を置いて、四川省全体を収めました。この時期、成都の都市人口は7.6万世帯、40万人もあり、全国6大都市に名を連ねました。錦織が発達し、錦官城の別名で呼ばれるようになりました。養蚕製糸、紡績、製塩、冶金、兵器、金銀器、漆器などの手工業も発達して、「史記貨殖列伝」には成都の卓王孫という人物が全国の富豪ランキングのトップに躍り出ているほどでした。文学的には司馬相如、楊雄など後世に大きな影響を与える文豪を輩出しています。

三国時代には劉備によって打ち立てた蜀の国は四川省と陝西省の一部しか領有していませんが、魏と呉と対等に渡り合う実力を持っていました。

唐の時代には社会経済がさらに発展し、長安、揚州、敦煌と並んで四大都市になっています。長安は政治的な優位性がありますから、「揚一益二」（揚州が第一で、成都が二番目だ）とも言われています。「蜀繡」が尊ばれ、宮廷で喜ばれました。成都は中国木版彫刻の発祥地で（前述「成都の「世界一」と「中国一」」をご参照ください）、李白、杜甫などの有名詩人も四川省を舞台に詩作に耽っています。（後述「四川省に関連する唐詩」をご参照ください）

宋の時代には経済の発展はさることながら、特筆すべきは、シルクの交易量は全国の70%のシェアを占め、「交子」という紙幣を世界に先駆けて発明し、流通していたことです。

宋元以降もずっと四川省、ないし西南部の政治、経済、軍事、文化の中心であり続けました。

1949年12月27日、成都が解放され、川西特別区の所在地になり、1952年には四川省が回復され、省都となりました。1989年、国務院の批准を経て、計画特別市となり、省と同じ経済管理権限を持つようになりました。

## 7. 科学技術と教育

成都の科学技術の水準は西南部のトップレベルにあることは言うまでもありません。科学技術者が44万人、1,000人あたりの従業員の中に占める科学技術者数が253名で、全国的に見ても多いほうです。5つの国家級重点実験室、3つの国家級エンジニアリングセンター、2,500の技術開発機構、40あまりの大学を有しています。このため、電子、バイオテクノロジー、新技術、光学、光ファイバー通信、核技術応用、レーザーなどのハイテク領域では高い総合的なレベルを誇っています。

医学分野ではアジアで最多病床数を誇る四川大学華西病院を中心とする医療ネットワークがあり、設備と医療技術ともに西南部で一位の座を占めています。

成都には四川大学、電子工業大学、西南交通大学、西南財経大学の4つの重点大学に加え、12の一般大学、8つの独立学院、28の専門学院があります。日本語科を設けている大学は7つもあります。

(「表1-2-1 四川省の大学」を参照)

## 8. 観光資源

成都には都江堰、青城山、パンダ生息地という3ヶ所の世界文化と自然遺産があり、共に国家AAAAA級観光区に指定されています。紅砂村花郷農居や宝光寺桂湖や劉氏莊園などが成都ならではの特徴を評価され、国家AAAA級観光区に選ばれています。

チベット高原の東の斜面にあることから、都江堰、青城山風景名勝区、西嶺雪山風景名勝区、龍門山風景名勝区、天台山風景名勝区など国家級の観光名所に指定されている風光明媚な場所がたくさんあります。龍池森林公園、西嶺雪山森林公園、天台山森林公園、白水河森林公園も国家級の森林公園です。

さらに武侯祠、杜甫草堂、成都永陵博物館、金沙遺跡博物館、古船棺遺跡、文殊院、青羊宮などに代表される重点文物保護場所が17ヶ所もあります。

特筆すべきは成都の北の丘陵地帯にパンダ繁殖飼育研究センターです。パンダ保育園、中年パンダ別荘、老年パンダ別荘、研究センターなどが丘の上に点在し、両側に竹林が生えている道に沿ってパンダを見学することができます。丘の上に上れば、白鳥や鴨が泳いでいる大きな湖が見下ろされ、観光名所としてもパンダの生態を見学する場所としても人気があります。

最近、雲南省の麗江が観光地として栄える影響を受け、成都でも古い佇まいを感じ取れる「古鎮」観光が流行しています。洛帯古鎮、黄龍溪古鎮、安仁古鎮、平楽古鎮、街子古鎮などが人気を集めています。

## 9. 都市と農村の調和の取れた発展

2007年に国務院の許可を経て、成都が都市と農村の調和の取れた発展のモデル都市に選ばれました。このことは、これまでの深圳経済特区や上海浦東経済特区に匹敵する重要な意義を持ち、中国の将来に大きな影響を及ぼすことが期待されています。

社会主義新農村のヴィジョンは「経済が発展し、生活が豊かで、文明的な風習があり、村の景観がすばらしく、民主的な管理がなされている」ということです。中央政府と各地の政府はこのヴィジョンのもと、積極的に社会主義新農村の建設に取り組んでいます。その最も重要な課題は土地資源の有効利用です。それを巡って4つの分野で「建設」の取り組みが進められています。

まず「経済建設」については、農民の安定収入を確保するためにいろいろな方法が試されています。土地を持って花卉や漢方薬草栽培の農業企業に出資し、農家が配当と給料を得ることで安定収入を実現します。同時に、花卉や漢方薬草栽培の畑を観光資源に観光事業を展開したりすることでも収入を得ることができます。また、農家を電気、ガス、水道、下水、インターネットなどを完備した集合住宅に住まわせることによって、明け渡した農家の庭などの土地を不動産開発や企業誘致にまわし、都市化を実現することで、商業や飲食業などのサービス業が生まれ、生活条件と収入安定を図ります。さらに、庭などの土地を整理して専業農家に生産を請け負わせ、生産性を上げます。果物、野菜、経済作物の村単位の規模栽培で村の収益を高める努力もなされています。村が企業を興すことで農家の福祉を図るところもあります。これらのことによって農村の活性化を実現します。

「政治建設」については、教育を受ける権利を保障し、また教育により民主的な素質を高めるため



図2-1-2 成都の農家楽

に、農村の民主制度と法律制度の構築に努め、農民の民主的権利が行使されるように導きます。

「文化建設」については、民衆による文化活動の幅を広げ、農民の精神文化生活を豊かにします。

「社会生活建設」については、内需拡大と

経済の持続的発展を実現するために、義務教育と職業教育を行い、医療衛生体系の建設に力を入れ、社会保障制度を普及させ、強化します。

これまでは、道路、電気、水道、通信、下水、都市ガスなどの政府のインフラ建設の資金は都市部に集中的に投下され、農村部については自主的発展に任されていました。ただでさえ、農村部の生産力は低かったことから、都市部から更に遅れをとることになりました。政府の資金投入はなく、農村部の電気料金は都市部より高く、交通インフラも遅れていることから、すべての商品の価格が高くなっていました。2007年に都市が農業を支援する政策が発表され、2006年には農業税が廃止され、補助金が支給されるようになってからも、インフラ建設資金の不足は農村発展にとって致命的な問題でした。

都市と農村の調和の取れた発展のモデル都市では、農村の道路、電気、水道、通信、下水、都市ガス、金融機関、保険、年金などをすべて都市と同じように設定し、農村にも公共財政の恩恵を行き渡らせ、中国経済の持続可能な発展を促すものです。

成都の農村では社会主義新農村建設を合言葉に、早速いくつかのモデルが現れました。成都から10

キロほどしか離れていない紅沙村では農家が土地で出資して、集まった土地を花卉栽培の会社にリースし、収入を農民に配分します。農民が栽培会社に勤めて給料を稼ぎ、会社に利益が出れば、配当をもらうことができます。同時に、政府が道路の建設舗装をして、花畑に変身した農地に散在した農家を改造して、喫茶店とレストランと雀荘を集合させた観光事業を展開します。この結果、紅沙村は成都市民の憩いの場となりました。このシステムにより農民の収入が土地リース代、給料、配当、観光収入または店舗家賃と多角的になり、人々は、都市並みまたは都市以上の生活を営むことができます。近くに高層マンションも開発され、成都市内の人も惹かれて移住するようになりました。

都市から遠いところでは政府がインフラの整った集合住宅をつくり、大きな庭を構えて散在している農家を住まわせ、明け渡した土地を道路などのインフラ用地に充てるか、農地に復元して専業農家に耕させるか、企業を誘致して地元の人を就職させるかのいずれかに活用します。これにより、農民の収入源を多様化させます。



図2-1-3 成都の花弁農家

一村一品というスローガンで、農業の集約化を実現し、規模の優位を獲得し、関連産業を発展させるなど、方法はさまざまです。山地に桃や梨を栽培し、春は花見客を、夏と秋には果物狩りの観光客を呼び込み、同時に産地としての知名度を高め、ブランド化を図ることで果物も売りやすくなります。村全体を農村体験をできる公園にして、安い価格で都市から消費客を呼び込む努力をしている村もあります。成都周辺には4つ星を誇る農家接待施設が多数現れ

ています。

こうした経験は四川省の農村部の災害復興にも活用されています。

成都市では市内の製造業に土地を明け渡させ、周りの農村地帯に移動させることによって、獲得した資金で工業の近代化を実現し、農村の雇用創出に貢献しています。同時に成都市内の商業用地、住宅用地、公共用地を確保します。つまり、都市部と農村部とを連動させながら、特に農村部の底上げをすることによって、成都の総合的競争力を増強させることを目指しています。

これまで宝の持ち腐れと言われてきた山林所有権、土地請負権、宅地使用権、水産養殖権などが投資、担保、流通に利用できるようになって、農村に多くのビジネスチャンスが生まれています。そしてこれらは確実に農民の増収に貢献しています。

今後の目標は、産業構造を調整し、経済的効率を高め、エネルギー消費を減らしながら、12%のGDP成長を続け、2010年には4,000億元以上を実現、第一次産業と第二次産業と第三次産業の比例を5:45:50にし、常駐人口の65%の都市住民化を目標にします。創業環境を良くし、民営経済のGDPに占める割合を60%にします。水、大気環境の総合的な改善を続け、市民生活、居住環境、交通システム、社会治安、安全生産情況、就職状況、医療年金などの調和の取れた発展を目指します。

## 第二節 徳陽市——GM ハマーブランド購入が話題に

### 1. 基本情況

徳陽市は四川盆地、成都平野の東北部の縁にあり、中国の設備製造業の重要な基地で、大型タービン、ボイラー、発電機の製造においては中国ないし世界の最高レベルを誇っています。同時に、衛生技術とリサイクル資源利用の設備製造の国際モデル都市であり、西南地方最大の電線ケーブルの生産基地であって、アジア最大のシガータバコの生産基地でもあります。社会経済発展レベルでは四川省でベスト3に数えられ、従業員平均給料においては全国ベスト50入りを果たしているなど、成都—徳陽—綿陽経済ゾーンの重要な一角を担っています。そのほか、蛋白飼料、食糧、食用油、新エネルギー、大型鉄鋼圧延の生産基地としても有名です。

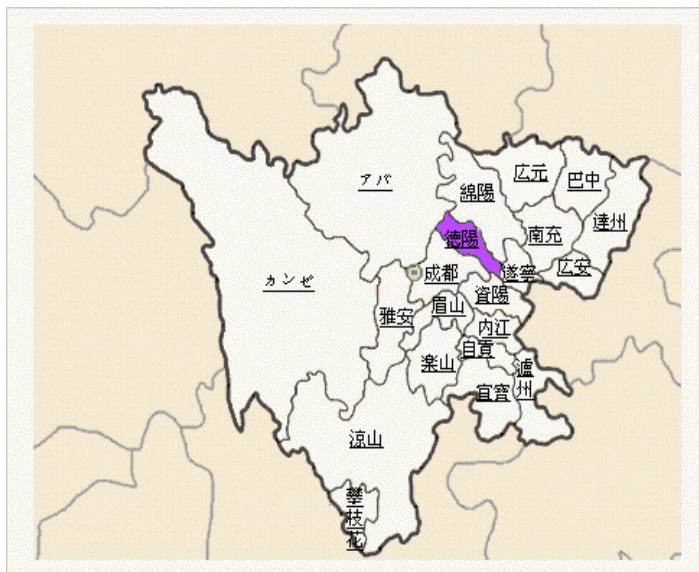


図2-2-1 徳陽市の四川省における位置

樟の木が市の木として、バラが市の花として選ばれています。

最近、ニュースになったことは、徳陽市に本拠を置く四川騰中実業有限公司が、最終的には合意は破棄されたものの、アメリカのGMのハマーブランドを購入することに暫定合意に達したことです。このニュースがマスコミを通じて世界に報道され、徳陽市もその名をより知られるようになりました。騰中実業は機械加工を主に行う企業で、徳陽市でもそれほど有名ではなく、徳陽市の人に聞いても今回のニュースで初めて知ったという答えが返ってきます。背後には大きな財団が控えているようです。また、自動車メーカーではありませんから、転売説やイメージアップのための宣伝説など、様々な憶測をよびました。

徳陽の歴史は長く、巴蜀の発祥地の一つです。「三星堆遺跡」の発掘により、古蜀文化の輝かしい光を垣間見ることができました。

特筆すべきは徳陽が中国の農村改革の発祥地であることです。安徽省鳳陽県の土地請負と同時に、広漢県の金魚郷でも密かに土地請負を開始し、向陽鎮では全国に先駆けて「人民公社」の看板を下ろして、家庭単位の請負制を始めました。中国の今日の繁栄の基礎はここから始まったといっても過言ではないでしょう。

以降、土地請負制の実施に伴い、四川省の農民の積極性と創意性が大いに喚起され、食糧生産量が増加し続け、養豚も発展し、全国でもっとも豊かな農村を実現しました。工業の発展も大きく促進しました。

表 2-2-1 徳陽市の基本状況

市(州)政府所在地	徳陽市	
URL	http://www.deyang.gov.cn/dyweb/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	旌城区	
市街区域面積	6 平方キロメートル	
所轄県(市)	広漢市、什邡市、綿竹市、羅江県、中江県、	
面積	648 平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量、886.8mm、年間平均気温 16.9℃、年間日照時間数、1000.6 時間。	
人口	387.4 万人	
民族	漢民族、回民族、チベット族、ミャオ族、満州族、チャン族、チワン族、白族、イ族、蒙古族、ドン族、ブーイ族など 15 の少数民族。	
主要資源	鉱物資源、天然ガス、水利資源	
資源産業	食品加工業、製造業、酒造工業、服装工業、	
観光資源	三星堆遺跡、西部一全国三位の規模を誇る徳陽孔子廟、綿竹年画村、三国誌遺跡など	
環境評価	良	
環境保護関連産業	ごみ処理、清潔技術、新エネルギー設備製造業。	
アウトソーシング産業	発展途上	
交通	空路	
	水路	
	高速道路	成都—綿陽高速道路、第二成都—綿陽高速道路計画中
	道路	大型設備を運ぶための道路が整備されている。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

## 2. 徳陽市の総合的な実力

徳陽市は中国の重要工業都市で、中国二重、東方電機、東方タービンなど中国一流の、世界でも名



を知られた企業が本拠地を構えています。化学工業では四川金路、四川宏達、四川美豊などの上場企業があります。人々の生活に密着している食品加工工業は、劍南春というお酒、蘭劍ビール、徳陽醤油、天府落花生が特に知られています。製薬産業、縫製アパレル産業も長足な発展を遂げています。

耕地面積の大半は都江堰灌漑区域に入り、市内には多くの川が流れるなど水資源に恵まれ、農業インフラが整備されていることから、四川省の食糧、綿花、食用油、養豚、養鶏、蚕糸、麻の生産基地を担います。豊富な農産物により食品加工業のための十分な原料が提供され、発展の原動力にもなっています。

徳陽市は旌城区、広漢市、什邡市、綿竹市、羅江県、中江県を管轄していますが、四川省の「十強県」には什邡市が第二位、綿竹市が第三位、広漢市が第八位、旌城区が第十位とそれぞれ名を連ねていることから、徳陽市全体の実力が四川省三位になっています。

徳陽市の天然ガス資源は四川省の17%に当たる1,000億立方メートルの埋蔵量を誇り、成都市を中心に広く工業用と民生用の天然ガスを供給しています。リン鉱石、天然ガス、石灰石、石炭、ミネラルウォーターなど35種類の鉱物資源が発見され、そのうちリン鉱石は埋蔵量が16,938.52万トンに達し、四川省全体の25%を占めます。25%以上含有量を誇る15の鉱床はすべて徳陽市内にあって、生産量は四川省の90%を占めています。

表 2-2-2 徳陽市の経済状況

GDP	総額	695.04 億元
	第一次産業	129.41 億元
	第二次産業	383.47 億元
	第三次産業	182.17 億元
	一人当たりの GDP	19084 元
平均給料	国営	33001 元
	民営	27348 元
住民一人当たり可処分収入		12640 元
住民一人当たり消費支出		9904 元
農民一人当たり純収入		5184.6 元
農民一人当たり生活消費支出		4606.9 元
年金加入者数		70.87 万人
年金収入総額		34.55 億元
就職者数		210.03 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

交通については、成都からの宝鶏鉄道が徳陽を經由しています。徳陽市の工業発展に必要な原料と部品が運ばれてくると同時に、ここで作られた多くの製品が鉄道で全国へ運ばれていきます。

改革解放後、四川省で作られた最初の幹線道路は、徳陽—成都—樂山の道路で、「大件路」といい

ます。これは、徳陽で作られた大型タービンや発電機などの設備を成都経由で樂山に運び、船で全国各地へ搬送するものでした。現在では大件路は一般道路に退化しましたが、代わって成都—綿陽高速道路が徳陽市の市街区域のすぐ近くを走っています。震災復興で什邡市、綿竹市を通る第二の成都—綿陽高速道路が計画され、すでに建設が始まっています。成都—南充の高速道路も徳陽の中江県を通っています。三本の高速道路が市内を通り、徳陽市の経済発展のために大きな役割を果たしています。

60 キロ離れた成都空港へは高速道路で1時間で結ばれていますから、空路も大変便利です。

中国民用航空飛行学院、四川エンジニアリング職業学院、四川建築職業技術学院と成都理工大学徳陽ブランチなどの学校が徳陽の発展のために知的サポートを提供しています。

表 2-2-3 徳陽市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	218
道路面積 (万平方メートル)	465
橋梁数 (個所)	11
街灯 (千個)	35
バス保有台数	241
タクシー保有台数(台)	550
公衆便所数 (個所)	95
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	417
水道普及率 (%)	98.41
都市ガス普及率 (%)	80.51
一人当たり道路面積 (平方メートル)	11.04
公園数 (個所)	6
公園緑化面積 (ヘクタール)	331
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	7.86
市街区域の緑化率 (%)	30.37
下水排出量 (万立方米)	4136
下水道の長さ (キロ)	327
下水処理率 (%)	74.01
ごみ処理率 (%)	100.00

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

### 3. 徳陽市の都市建設

徳陽市の総合的な実力に支えられ、さらに市街区域が成都平野という立地条件も手伝い、都市の建設が飛躍的に推し進められました。1983年、徳陽県が国務院の批准を経て、広元市、遂寧市、綿陽市とともに、綿陽地区から独立して徳陽市となりました。それから27年が過ぎ、四川省の一つの県に過ぎなかった徳陽市は全国にその名を知られる工業都市へと進化を遂げました。

最近、徳陽市最初の五つ星の太平洋国際ホテルが開業しました。徳陽市が都市人口 100 万人の大都会として確固とした一歩を踏み出す象徴的な出来事でした。

徳陽市の工業は中国の三線建設最大の遺産と言えましょう。近代的な工業体系の中でますます大きな役割を果たしており、全国各地から企業や人々が押し寄せてきています。街のレストランや喫茶店に入ると、四川省、上海、東北、徳陽の方言が隣りのテーブルから聞こえてくることは、徳陽ならではの風情と言えましょう。

徳陽市では南北方向の通りを泰山、華山、廬山など名山の名前を取って命名し、東西方向の通りを長江、珠江、岷山など大河の名前を取って命名しています。新しい徳陽を故郷にし、建設を進めようという人々の意気込みが感じられます。

徳陽の街中を散歩すると、市街区域の周りに立派な工場が立ち並び、市の中心部には新築したマンション、オフィスビル、デパートなどの建築物が林立する風景を目にすることができるでしょう。川幅が 500 メートルを超える綿遠河が市内を通り、夜のライトアップの時には川面に建物が投影され、その幻想的な光景が人々を魅了しています。

工業の街は工場や煙突が特徴だという常識を覆して、徳陽の街は常緑の街路樹と公園に覆われています。特に川沿いに作られた公園は住民の憩いの場となっています。

#### 4. 歴史沿革

「三星堆遺跡」の発掘により、徳陽市が紀元前 21 世紀前後、古蜀国の都だったことが明らかになりました。当時の文化が「金沙遺跡」を始め、各地で継承されました。

秦の始皇帝に統一されてから、蜀郡の郡守の李冰が都江堰を建設すると同時に、徳陽地区でも大掛かりな治水工事を行い、平野部で自動灌漑を実現しました。什邡市には李冰を奉る祠があり、1994 年には当時の江沢民総書記による記念碑が立っています。

後漢時代に姜氏一門に三人の親孝行の子供が現れ、朝廷に表彰され、全国的に有名になりました。以降、地元の人々は儒教の道徳を重視し、情の深い穏やかな気質が評判になりました。唐の時代にさらに高宗皇帝から表彰され、徳陽県が置かれることになりました。徳陽の地名と風習と



図 2-2-2 新しい DEC 社の工場

が相俟って、道徳が尊ばれ、徳陽の孔子廟は西部一、全国三位の規模を誇るようになりました。それが徳陽という地名の始まりです。

三国時代にはここを舞台に熾烈な戦いが繰り広げられ、多くの人物を輩出し、多くの遺跡を残しました。

唐の時代には、玄宗皇帝が「安史の乱」を逃れるために、徳陽市羅江县に離宮を構えました。

清の時代には日本の明治維新に倣って君主立憲を目指す「百日維新」が計画され、その中心人物である六君子の一人の楊銳が徳陽の出身でした。

## 5. 未来展望

2008年には大震災と世界的な金融危機という二重の衝撃に襲われました。しかし復興の動きは速く、東方電気は既にタービンと発電機の生産を始め、史上最多の注文を獲得しています。さらに、産業、インフラ、公共施設や住宅は震災前より立派になっており、社会経済の発展は20年早まったと誇らしげに紹介されています。

震災復興を契機に徳陽市は産業の再配置を実施して、更なる発展の基礎を固めました。成都と綿陽の間にあるという有利な地理的条件を活かして、製造業を原動力に社会経済の発展を引っ張り、成都—徳陽—綿陽経済圏で互いにライバルであると同時にパートナーであるという関係を確立し、独自の地位を確保する計画です。

徳陽市は2010年にGDP単位当たりエネルギー消費量を20%削減し（2005年比）、民営経済の比重を60%に引き上げ、900億元の地域GDPを確保し、1,000億元をも目指す目標を掲げています。徳陽市を「最も活力に満ち、就職率が最も高く、都市と農村の差別が最も小さく、社会治安が最もよく、生態環境が最も優れ、市民の素質が最も素晴らしい」、西部地方で最も調和の取れた都市にしようと市民は意気込んでいます。



図2-2-3 震災区新農家

### 第三節 綿陽市——テレビ市場で30%のシェアを誇る長虹社

#### 1. 基本情況

綿陽市は四川盆地の西北部の涪江の上流にあり、山地が61%、丘陵が20.4%、平地がわずか18.6%で、谷や山間平地に広がっています。綿陽市は四川省の第二の大都市で、西部では都市規模やGDPで第4位を争う実力を持っています。国務院によって「科学城」（科学の都市）の名誉を授けられています。

綿陽市に本拠を置く長虹社は軍需の電子設備で有名なだけでなく、テレビ、クーラー、洗濯機、携帯電話などの家電製品で、多いときに30%のシェアを誇っていました。同じく綿陽市にある九州電器社はアンテナやデジタルテレビのアダプタなどでトップシェアを誇っています。また、科学城にある多くの研究施設は、中国の宇宙、衛星、航空、原子力などの国家プロジェクトの研究開発を担当しており、科学城を担う中心的な存在です。

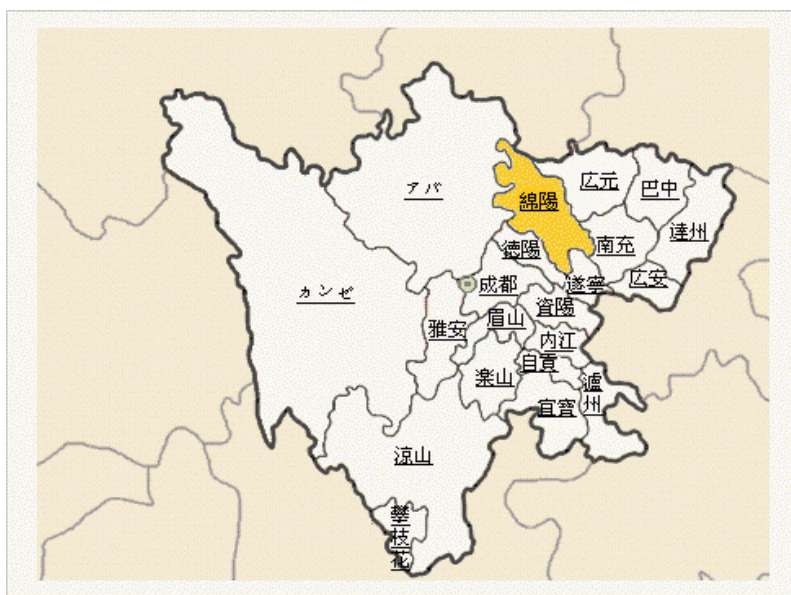


図2-3-1 綿陽市の四川省における位置

綿陽市所属の北川チン族自治県は龍門山断裂帯にあり、汶川大地震の震源地から50キロしか離れておらず、県の市街地が山崩れの土砂で一部覆われるなど、地震による遭難者を最も多く出した県になりました。建物のほとんどが倒壊しただけでなく、山崩れでできた最大の堰止め湖も綿陽市街地域をはじめ広範な地域の人々の生命と財産を脅かしました。道路も寸断され、人も少ない山奥に、ロシアが救済用に繰り出した大型ヘリコプターによって大型機械が運び込まれ、解放軍の懸命な努力で、初めて堰止め湖の危険を除去できました。綿陽空港は震災区の中心部にあるため、多くの人や救済物質がここを経由して震災区へと運ばれていきました。綿陽市のボランティアが九州体育館に逃れてきた震災区の人々に対して心温まる援助を施した様子は、テレビを通じて世界へ報道され、多くの人に感動を与えました。綿陽市の名も、綿陽市民のボランティア精神とともに全国の国民の心に刻まれました。

また、市内に多くの少数民族が生活していることも綿陽市の大きな特徴です。チン族、回族、チ

ベトナム族など40の少数民族が20万人も暮らしています。特に北川県は全国唯一のチャン族自治県で、治水の大禹の故郷だと言われています。チャン族は中国で悠久の歴史を誇る民族で、漢民族の先祖の一つでもあると伝えられています。

表 2-3-1 綿陽市の基本情況

市(州)政府所在地	綿陽市	
URL	http://www.mianyang.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	涪城区、遊仙区	
市街区域面積	1570 平方キロ	
所轄県(市)	江油市、三台县、塩亭県、安県、梓潼県、平武県、北川チャン族自治県	
面積	2.0 万平方公里	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 835.5mm、年間平均気温 16.8℃、年間日照時間 1216.8 時間。	
人口	540.7 万人	
民族	漢民族以外に、チャン族、回族、チベット族など 40 民族。	
主要資源	鉱物資源、農業資源、水利資源。	
支柱産業	家電、電子機器製造業	
観光資源	李白の故郷、李白記念館、劍門の関、翠雲廊国家級森林公園、七曲山大廟、北川地震遺跡、大禹の故郷など。	
環境評価	良	
環境保護関連産業	廃水処理、排気処理、ごみ処理、環境保全用資材。	
アウトソーシング産業	IT、flash、アニメのアウトソーシング及び人材派遣。	
交通	空路	空港あり
	水路	少々
	高速道路	成都—綿陽高速道路、綿陽—広元高速道路、綿陽—遂寧高速道路(建設中)
	道路	成都から北への重要拠点で、北の門戸です。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

今回の大地震で県の市街区域が全壊し、国務院の許可を得て、地震遺跡博物館になりますが、チャン族の民族文化、民族習慣を保存することも震災復興の重要な課題です。新しい県政府所在地は山東省の援助で建設が進められています。

## 2. 綿陽市の総合的な実力

2008年、綿陽市は中国都市総合実力ランキングでは第69位に、中国西部地区都市総合実力ランキングでは第5位に輝きました。綿陽市は1985年まで三線建設の重点地区で、多くの軍需工場が集まっていた。改革開放後、いかに「軍需から民用品へ」の転換を実現し、工業化と都市化を推し進めつつ、いかに科学技術で綿陽市を強くするかは大きなテーマでした。今では、軍需、電子機器、家電、特殊鉄鋼、発電、建材、機械製造、食品を包括した工業体系を形成し、全国に名を馳せた長虹社や九州社はその傑出した代表であるといえるでしょう。

綿陽市は中国国防工業の重要な科学研究および生産基地で、17万人の各種科学技術者が懸命に働いています。多くの分野で中国一もしくは世界一のレベルに達しています。市内には中国エンジニアリング物理研究院、中国ジェット推進研究開発センター、中国ガスタービン研究所など18の研究機関、民営ハイテク企業300社が集まり、西南科技大学を代表とする28の大学と職業学校があります。50社の基幹企業が巨大な生産能力を持っています。

表 2-3-2 綿陽市の経済状況

GDP	総額	743.16 億元
	第一次産業	158.09 億元
	第二次産業	331.59 億元
	第三次産業	253.49 億元
	一人当たりの GDP	15012 元
平均給料	国営	26045 元
	民営	17650 元
住民一人当たり可処分所得		12200 元
住民一人当たり消費支出		9959 元
農民一人当たり純収入		4752.4 元
農民一人当たり生活消費支出		3923.9 元
年金加入者数		90.93 万人
年金収入総額		25.26 億元
就職者数		283.75 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

科学城としては国家級ハイテク産業開発区、科学教育創業パーク、西南科技大学経済技術開発区、

現代農業科技モデルパーク、南郊工業団地などの開発区が設けられ、技術開発、ソフトウェア開発、留学生創業などの育成に勤めています。

毎年10月16日は綿陽科学技術デーに定められています。

こうした科学技術力と生産能力に惹かれて多くの金融機関が入ってきています。中国銀行、中国工商銀行、中国建設銀行、中国農業銀行の四大国有銀行のほか、交通銀行、浦東発展銀行、招商銀行、中国郵貯銀行、中信銀行、興業銀行が軒並み支店を開設しています。地元の綿陽市商業銀行も競争に加わり、金融面から科学城を支えています。

綿陽市には3,000本近くの川があり、豊かな水資源に恵まれています。堆積平野や丘陵地帯は農業の発展に適しています。耕地面積は611.15万ムー（1ムーは666平米）あり、そのうち、水田が259.57万ムーで、田畑が352.08万ムーあります。二毛作が行われ、四川省の食糧、養豚、野菜の基地となっています。

綿陽市は省都の成都から98キロ離れており、四川省西北部の鉄道、高速道路、一般道路、水路、空路を持ち合わせた重要な拠点です。

鉄道は全国各地へ通じ、つい最近までは鉄道が四川省外へ行く唯一の手段で、成都に近くて始発の列車が少なかったため、出稼ぎに行く農民工で常に溢れていました。現時点では綿陽市を通るのは成都—宝鶏線しかありませんが、現在施工中の鉄道は成都—綿陽—樂山旅客専用線、成都—蘭州線があり、今後5年間に、綿陽—重慶旅客専用線、綿陽—遂寧—内江—宜賓旅客専用線、綿陽—北川—茂県線が計画されており、さらに10年以内には綿陽—九寨溝旅客専用線が検討されています。このように、6本の鉄道による交通ネットワークの構築が計画されています。

震災で綿陽駅が損壊したため、現在、12億元を投資して未来の発展に適した新しい駅を急ピッチで建設しています。

綿陽市内の自動車道路は6,160キロに達し、市内は1時間以内の交通圏を形成しています。成都—綿陽、綿陽—広元、綿陽—遂寧の3本の高速道路が放射状に広がっているほか、綿陽—九寨溝、黄竜バイパス線などが計画されています。

綿陽の空港は2001年に建設されたものの、成都空港に近いことが災いして航空会社が集まらず、便数も少なかったため、重複投資の典型として、中央テレビが取り上げました。毎日2、3便しかないのでは、膨大な空港の運営コストを賄うことができません。その上、乗り入れの空港会社に地元政府が補助金支出を強いられていますから、赤字が累積していました。震災で大きな注目を集まったことや、料金を下げて成都の観光客をひきつけ、路線を増やして新しい顧客を開拓するなどの経営努力により赤字を減らしています。現在、四川省第2の空港になっており、北京、上海、広州、新圳、アモイなどの航路を持っています。

水路はダムなどの活用により、大きな運送力を形成しています。

綿陽で大きな運送市場は各県への連絡バスです。バスターミナルは毎日20,000人の利用者があり、ターミナル面積は12,000平米、広場は4,000平米、駐車場は20,000平米に達しています。



市民の足となっているのは、主にバス、タクシー、人力三輪車です。

### 3. 住みやすい都市を目指す都市建設

綿陽市を訪れてまず驚かされるのは、長虹社の巨大な工場のほかに、四川省第2の都市ながら大都会の雑踏がなく、街が清潔なことです。富楽山を遠くに望み、川沿いの柳がそよ風に揺れる風情のある景色に心が打たれるでしょう。

表 2-3-3 綿陽市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	403
道路面積 (万平方メートル)	936
橋梁数 (個所)	97
街灯 (千個)	49
バス保有台数	855
タクシー保有台数(台)	1077
公衆便所数 (個所)	196
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	702
水道普及率 (%)	93.62
都市ガス普及率 (%)	89.40
一人当たり道路面積 (平方メートル)	11.83
公園数 (個所)	8
公園緑化面積 (ヘクタール)	632
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	7.99
市街区域の緑化率 (%)	33.44
下水排出量 (万立方米)	6629
下水道の長さ (キロ)	774
下水処理率 (%)	83.57
ごみ処理率 (%)	99.48

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

綿陽市は涪江、安昌江、芙蓉溪の三つの川の交差点に位置し、三つの川が市内に形成した水面面積は、杭州の西湖より1平方キロメートルも大きい5.05平方キロメートルです。これが綿陽市に山の静けさと水のダイナミックさをもたらし、街の清潔さにもつながっていると思われます。4つの新しいダムが計画されており、近い将来、綿陽市街区域の水面面積は14平方キロになる見込みです。電子工業と科学研究が経済の支柱であることから、低炭素社会へと向かう現代の趨勢から見ると、綿陽の未来は約束されているといえます。

綿陽市の45.7%の面積が森林に覆われ、市内の王朗自然保護区は九寨溝と隣り合わせており、パン

ダが最もたくさん生息している場所です。自然を尊ぶ都市の建設理念が生まれるのも当然といえるでしょう。

綿陽市の総合的な実力に裏付けられ、高層マンションが市街区域に新築され、不動産産業が著しく発展して、「三江六岸」の水に恵まれた風光明媚な都市に近代的な要素が加えられ、街は一層綺麗になりました。

ここ数年間、綿陽市は相次いで、国家衛生都市、国家園林都市、国家環境保全モデル都市、国家優秀観光都市、全国精神文明建設先進都市などの名誉に輝きました。

## 4. 歴史沿革

綿陽は「涪城」や「綿州」と称され、紀元前 201 年に建設され、2,200 年の歴史があり、文字通り「歴史文化名城」（歴史と文化の名都市）です。中国最初の王朝を打ち立てた大禹はここに生まれています。前漢時代や三国時代に歴史上大きな役割を演じ、晋の時代に郡が置かれました。唐の時代には偉大な詩人李白を、宋の時代には文壇の領袖欧陽修を、詩画の巨匠の文同を輩出しました。そのほかに、杜甫や陸遊がともに綿陽を読んだ詩があります。清の時代に綿州へと昇格されました。1913 年、「綿山の南の都市」という意味で綿陽県が設置され、名前が定着しました。

1952 年、綿陽行署が設置され、四川省西北部の 14 の県を管轄していました。1985 年に綿陽行署が分割され、綿陽市、広元市、遂寧市、徳陽市が生まれました。綿陽市はその中で最も経済的実力を持つ市になりました。

今、530 万の綿陽市民は、先哲の知恵を受け継いで、綿陽を住みやすい科学城にしようと意気込んでいます。

## 5. 教育の街

綿陽市は豊かな文化的伝統を受け継ぎ、図書館、博物館、劇場、体育館の整備と同時に、教育産業の育成にも力を入れています。「人民が満足できる教育を行い、満足できる学校を建設し、満足できる教育者を育成しよう」というのが政府の合言葉になっています。

中国の大学受験は、科挙試験の名残か、統一試験の方式を採用しています。中国の大学は 211 大学、重点大学、一本、二本、三本、専門学校、職業学校とランク付けられています。学生の成績が各省の試験院に集められ、各学校は自校のランクに従って、学生の志願を参考にしながら、適した学生を採用していきます。このシステムは、一回の受験で自分の成績に合う学校に行くことができるという合理的な点もありますが、一回の試験では学生の能力のすべてを評価できないという反対意見もあります。今は改革の試行錯誤が繰り返されている状態です。

綿陽市は 8 年間にわたって、学生 1 万人あたりの進学率では四川省トップの座を占め続けています。

これは「綿陽現象」として全国的に注目を集めています。それが大きな魅力となって周辺の県や市の人々をひきつけています。中学生の子供を持つ家庭がこぞって住宅を買ったり借りたりして、綿陽市へ引っ越しています。この動きは、不動産をはじめ綿陽市の内需拡大の重要な力となっています。

綿陽中学校、南山中学校、科学城第一中学校、三台中学校、江油中学校、安県中学校は、大学受験の優秀な成績で国家級重点中学校に選ばれています。四川省級の重点学校も数多くあります。民間企業も教育産業に大きなビジネスチャンスを見出し、西南科技大学都市学院、東辰実験学校、英才学校、綿陽外国語学校、綿陽双語学校などが民営学校の代表です。

綿陽市には西南科技大学、綿陽師範学院をはじめ、10の大学と短大がありますが、清華大学、四川大学、西南財経大学も綿陽市の教育インフラを重要視して、分校や合弁キャンパスの建設を計画しています。

## 6. 未来展望

「あなたの街にはデパートが少ないね」と指摘されると、成都の人の場合、上海や北京を思い浮かべ、「なるほど、そうですね」と相槌を打ちます。しかし、綿陽の人は「別に買い物に不自由していません」と負け惜しみを言います。それもそのはず、25年前にはほかの県と同じスタートラインに立っていましたが、今や四川省第2の都市であり、西部でも第4の都市を争う実力を持つようになったのです。自分たちの都市に強いプライドを持つのも頷けるでしょう。

今、この誇り高い綿陽市民は、科学技術資源の利点を十二分に発揮することで資源利用効率アップを重点的に推進し、綿陽市を人と自然の調和した都市にすることを目指しています。同時に、西部地区でも先端の近代化をさらに推進して、活力と競争力を備える都市を目指しています。

最近では、総投資額160億元の長虹社のPDPプロジェクト、九州社の1,000万台のデジタルテレビ用アダプタープロジェクト、長城特殊鋼社の1万トンチタン材プロジェクト、15万台のトラック生産プロジェクトなどが、綿陽市の実力を増強するとともに市民の自信を深めています。

## 第四節 資陽市——工業都市を目指して

### 1. ハイライト

婁弘という人物は一般の中国人には知られていませんが、資陽の人に聞けば誇りをもって紹介してくれるでしょう。婁弘は、2,400年前の春秋時代末期に資陽の地に生まれ、博学多才で天文と音楽に精通した、東周時代の歴史記録を司る官吏でした。紀元前521年、孔子が数ヶ月にわたって婁弘に師事し、天文、音楽について教えを請い、政見と知識の交流をしたと伝えられています。

苒弘は3代の周の王を補佐し、周王朝の支配の確立に大きく貢献しました。しかし、紀元前492年に陥れられ、「殺されても悲しみはないが、周王朝の統一ができなかったことが心残りだ」と、言い残して、切腹の刑に処せられました。河南省の人が彼の死を悼み、彼の血を箱に入れたところ、3年後に緑の玉に変わったと言われています。これが「碧血丹心」という言葉の始まりです。

孔子が最も尊敬される中国では、苒弘はすっかり孔子の陰に隠れましたが、孔子の先生としても、しかるべき尊敬を受けても良いでしょう。

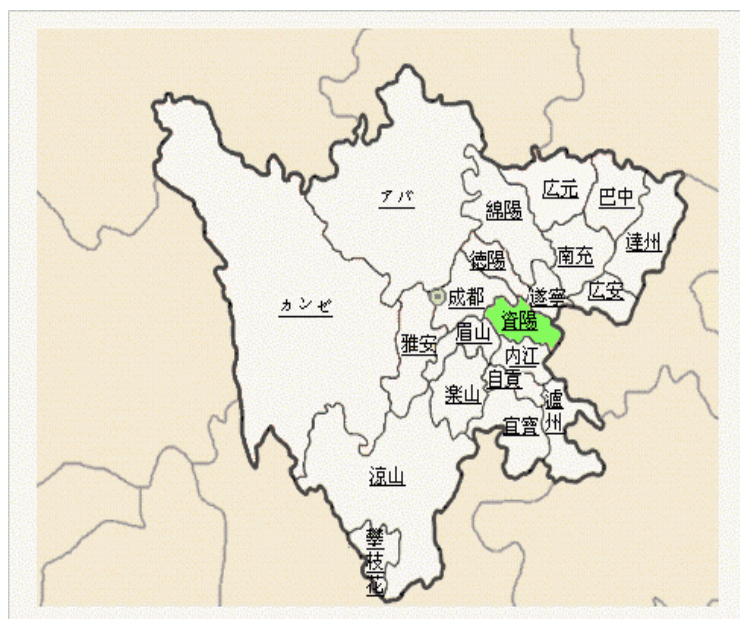


図2-4-1 資陽市の四川省における位置

## 2. 基本情況

資陽が県として誕生したのは前漢の武帝の建元6年（紀元前135年）でした。資水（今の沱江）の北にあるため、資陽という地名になりました。2000年12月には市になりました。

資陽市は人類の誕生地でもあります。1951年、今から3万5千年前の旧石器時代に生活していた「資陽人」の頭蓋骨の化石が発見されています。

2005年12月22日、資陽市雁江区で後漢時代の銅馬車が発掘されています。この「中国後漢第一車」は馬の高さが0.81メートル、馬車の長さが2.05メートル、幅1.25メートル、重さ150キロです。

中国人民解放軍の主要な指導者の陳毅將軍は、資陽市の輩出した優れた人物の一人です。1919年にフランス留学して1922年に中国共産党に入党し、1927年に南昌蜂起に参加し、中国人民解放軍の創立に参加しました。土地革命戦争、抗日戦争、解放戦争を経て、新中国になってから、上海市長、外交部長、国務院副総理、政治協商会議副主席などを歴任しました。1955年に中華人民共和国元帥の職を授けられましたが、1972年、「四人組」の迫害を受け、病苦の末に亡くなりました。

## 3. 経済的実力

資陽市は市として独立してまだ10年に満たない若い都市ですが、社会経済の発展には著しいものがあります。2008年、金融危機の影響を受けながら、前年比14.2%の成長率を実現しています。また、

契約外資利用は1,028万ドルになり、同256.2%も増えています。

表2-4-1 資陽市の基本情況

市(州)政府所在地	資陽	
URL	http://www.ziyang.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	資陽市街区域	
市街区域面積	1633 平方キロメートル	
所轄県(市)	簡陽市、安岳県、樂至県	
面積	0.8 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 877.6mm、年間平均気温 17.3℃、年間日照時間 951.0 時間。	
人口	497.2 万人	
民族	漢族、満州族、回族、朝鮮族、モンゴル族、ダフル族、トゥー族 など 46 民族	
主要資源	土地資源、森林資源、水利資源、環境資源	
資源産業	安岳レモン、臨江寺の豆瓣、簡陽の羊肉スープ、	
観光資源	安岳石刻、資陽半月山大佛、河東大物、簡陽石景山「人頭石」、 「張飛營」、樂至陳毅古居、報国寺などの観光地、簡陽三岔湖、簡陽龍泉湖	
環境評価	良	
環境保護関連産業	ゴミ処理、排気廃水処理、新型エネルギーの開発	
アウトソーシング産業	IT	
交通	空路	
	水路	
	高速道路	高速道路あり、成都へは1時間で到達できる
	道路	成都重慶経済区連絡線上の重要拠点です。

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

人口500万人中、農業人口が420万人にも上ります。418万ムーの農地を有するものの、一人当たりに換算すると1ムーにも満たない、典型的な「丘陵部に広がる農業都市」です。地下に鉱物資源が無く地上にも資源が少ない資陽市は、神話のような工業発展を成し遂げました。

資陽市の工業は自動車関連産業を中心に展開されています。「成都・資陽工業開発区」には、四川凱力威科技社の 210 万セットのタイヤ製造基地をはじめ、8 企業が入居しています。その昔農業機械の修理工場だった南駿自動車は、今や年間 5.7 万台のトラックやバスを生産する四川省でも著名な企業に成長しました。資陽市には南車車両工場があり、中国の鉄道運輸の急速な発展に伴って、中国最大の車両製造企業になっています。

今、資陽市は車製造、食品加工、医薬、紡績、建材の 5 つの基幹産業を確立しており、2008 に 180.1 億元の GDP を実現し、規模以上工業の 83.5% を占めています。

表 2-4-2 資陽市の基本情況

GDP	総額	467.63 億元
	第一次産業	132.76 億元
	第二次産業	214.85 億元
	第三次産業	120.01 億元
	一人当たりの GDP	11068 元
平均給料	国営	23232 元
	民営	17667 元
住民一人当たり可処分所得		12619 元
住民一人当たり消費支出		9511 元
農民一人当たり純収入		4441.3 元
農民一人当たり生活消費支出		2834.2 元
年金加入者数		58.10 万人
年金収入総額		16.11 億元
就職者数		200.51 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

資陽市は四川省の農業基地で、年間食糧生産量を 220 万トン以上に保っています。山羊の飼育と魚介類の養殖は四川省一で、レモンの生産量は全国一です。市の 47% の面積は森林に覆われ、水利施設のダムは 377 ヶ所もあって、良好な生態環境に恵まれています。今後、大型の食品加工企業を育て、農民の所得アップを促進することが大きな課題です。

#### 4. 交通運輸

資陽市は重慶、成都、眉山、内江、遂寧、徳陽の 6 市と接しています。高速道路の成都—重慶線が市内を通り、物流の動脈と言えましょう。建設中の内江—遂寧線も、計画中の第二成都—重慶線も市内を通ることになっています。国道 321 号線（広州—成都）、319 号線（アモイ—成都）、318 号線（上海—ラサ）も市内を通っていて、総延長 3,000 キロメートルの道路網を形成しています。

鉄道の成都－重慶線も資陽市を通っており、主に貨物の輸送を担っています。新設の成都－重慶旅客専用線により、資陽市の交通はさらに便利になると期待されています。

## 5. 都市建設

表 2-4-3 資陽市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	139
道路面積 (万平方メートル)	252
橋梁数 (個所)	36
街灯 (千個)	8
バス保有台数	139
タクシー保有台数(台)	235
公衆便所数 (個所)	27
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	274
水道普及率 (%)	88.96
都市ガス普及率 (%)	81.73
一人当たり道路面積 (平方メートル)	9.40
公園数 (個所)	4
公園緑化面積 (ヘクタール)	168
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	6.26
市街区域の緑化率 (%)	28.80
下水排出量 (万立方米)	1475
下水道の長さ (キロ)	208
下水処理率 (%)	80.00
ごみ処理率 (%)	95.15

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

2009年、市は、都市インフラの整備に15億元を投資し、300万平方メートルの市街地域道路の新築・増築を実施して、市街区域の面積を28.3平方キロメートルに拡張しました。工業が発展するにつれ、外部からの投資が増加して人材も集まり、農村の余剰人口を工業や都市へ移転することに成功しました。不動産産業も発展し、市内のいたるところに新しいオフィスビル、マンション、公共施設、商業施設が立ち並んでいます。

## 6. 未来展望

資陽市の「工業神話」はこれからも続くでしょう。国家鉄道車両の製造及び輸出基地、西部地方の自動車及び部品製造基地、有機食品の加工配送基地、世界的に有名な観光の目的地となることを目指

しています。近年、資陽市の市外局番は成都と同じ028に統一されるなど、成都との経済統合も確実に進められています。

現代的な交通システムネットワークを打ちたて、投資環境のグレードアップに努め、工業開発団地の整備を速め、地元の工業経済をさらに発展させ、成都と重慶からの工業移転を受けて成都重慶経済圏に溶け込み、活力に富む資陽市を作ろうと、政府も市民も意気込んでいます。

## 第五節 眉山市——蘇東坡の生まれ故郷

### 1. ハイライト

市の中心部にある三蘇祠は宋の時代に眉山に生まれた蘇洵、蘇軾、蘇轍の親子三人を祭る祠で、眉山人は誰もが誇りをもって三人の文学的業績を説明することができます。蘇軾は蘇東坡とも言われ、中国の文学史上たくさんの詩を残し、日本でも非常に有名です。

元の時代、彼らの棲家を改築して祠とし、その業績を称えてましたが、明の末期に戦禍に焼かれ、五つの碑と一つ

の鐘を残すのみとなりました。その後、清の時代に再建されて以降修復が繰り返され、現在は56,800平米の敷地を持つようになりました。

蘇東坡らの文学的業績を称え、清の時代に造園された当時の外観がそのまま保存され、眉山を訪れる人は必ず見学しています。蘇東坡の肖像画が町のシンボルマークにもなっています。

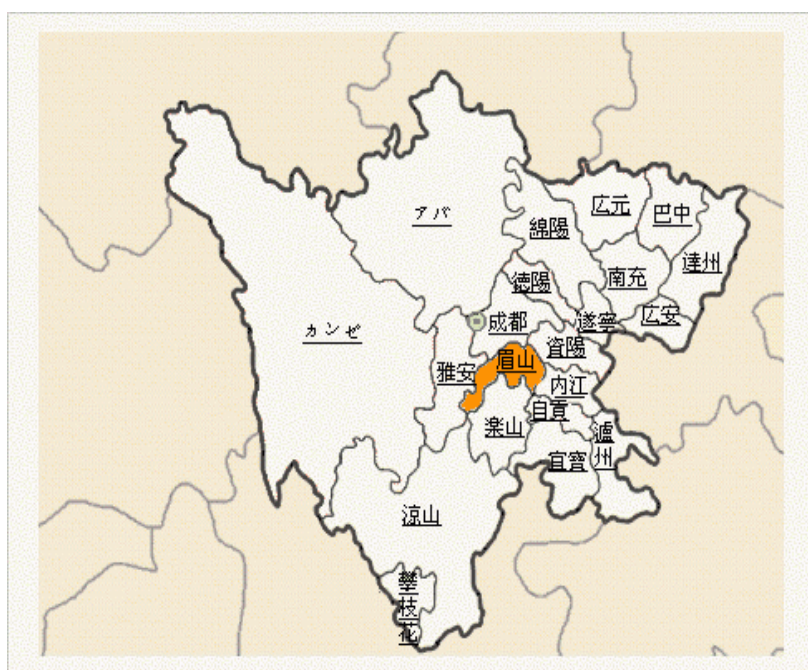


図 2-5-1 眉山市の四川省における位置

### 2. 基本状況

眉山市は成都平野の西南部にあり、2000年に国务院の批准を経て樂山市から独立しました。成都と樂山の間位置し、交通は便利です。岷江と青衣江が市内を流れ、多くの沖積平野を形成しているため、農業の発展に非常に有利です。



西部は山地と丘陵になっており、豊かな森が広がり、生態環境に恵まれています。林業専用地区が20万712ヘクタールで、711.9万㎡の材木量があり、瓦屋山は有名な森林公園になっています。ここも道教の発祥地の一つで、太上老君の昇天の地だと言われています。雲海や御来迎を目当てに、多くの観光客が訪れています。

表2-5-1 眉山市の基本状況

市(州)政府所在地	眉山	
URL	http://www.ms.gov.cn/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	眉山市街区域	
市街区域面積	1331 平方キロメートル	
所轄県(市)	仁寿县、彭山县、丹棱县、青神县	
面積	0.7 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 1012.1mm 年間平均気温 17.5℃ 年間日照時間 875.6 時間。	
人口	346.6 万人	
民族	漢民族を含めて 39 民族	
主要資源	気候資源、水利資源、鉱物資源	
資源産業	アルミニウム、シリコン、化学、芒硝、機械、材料、食品、木竹建物	
観光資源	三蘇博物館、洪雅瓦屋山、眉山老峨山	
環境保護関連産業	廃水処理、排気処理、ゴミ処理、新型環境保護材料	
アウトソーシング産業		
交通	水路	
	高速道路	高速道路あり、成都へ1時間で到達できる
	道路	成都への野菜基地として県道、村道が整備される
	航空	

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

成都市に隣接しており、成都へ農産物を卸したり、観光客を誘致したり、企業の移転を受け入れるにも、非常に有利な立地条件です。

近年の発展には著しいものがあります。成都経済区の中ではまだ実力は弱いものの、大きな発展の潜在力があり、隣接する成都市はハイテク、観光、サービス業を主として発展し、製造業を近くに移

転する計画ですから、四川省の産業構造調整の中で、眉山市は最もその恩恵を受ける地区となるでしょう。

### 3. 経済的実力

眉山市には各種の水利施設が 27,887 ヶ所あり、農業の発展に大きく寄与している上、毎年豊作を約束しています。15 本の川があるため魚の養殖が盛んで、養殖面積は 14.8 万ムーに達し、水揚げ量は年間 31,050 万トンに上ります。

表 2-5-2 眉山市の経済状況

GDP	総額	412.71 億元
	第一次産業	97.71 億元
	第二次産業	212.38 億元
	第三次産業	102.62 億元
	一人当たりの GDP	13691 元
平均給料	国営	19943 元
	民営	17985 元
住民一人当たり可処分所得		11431 元
住民一人当たり消費支出		8292 元
農民一人当たり純収入		4754.2 元
農民一人当たり生活消費支出		3354.5 元
年金加入者数		63.46 万人
年金収入総額		16.17 億元
就職者数		186.41 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

成都市という巨大な消費市場に隣接していますから、四川省の農産物や水産物の生産基地として大きな役割を果たしています。

林業もまた、豊かな資源に支えられて発達しています。それに伴う食品加工、建材、家具の製造業も急速な発展を遂げました。

市内 144 ヶ所の水力発電所による年間発電量は 11 億 kW/時間に達し、眉山市の発展のために十分なエネルギーを提供しています。

長い間、15 の県を持つ樂山市の管轄下にあったため、「大木の下によい草は生えない」という諺どおり、工業などへの投資が回ってきませんでした。独立して以来、企業誘致や資金導入の面で権限が大きくなり、産業経済が急速に発展しています。

## 4. 都市建設

眉山市は国連の開発計画組織の「21世紀中国都市企画、管理及び発展」プロジェクトのモデル都市であり、中国の都市交通デジタル化建設のモデル都市でもあります。新しい都市であることから、都市計画の理念が応用され、広い道路の両側には立派な建築が立ち並び、庭園風の街路樹は手入れが行き届いており、順調に育っています。

表2-5-3 眉山市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	300
道路面積 (万平方メートル)	412
橋梁数 (個所)	15
街灯 (千個)	13
バス保有台数	236
タクシー保有台数(台)	418
公衆便所数 (個所)	34
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	384
水道普及率 (%)	87.46
都市ガス普及率 (%)	80.94
一人当たり道路面積 (平方メートル)	12.92
公園数 (個所)	3
公園緑化面積 (ヘクタール)	366
一人当たり公園緑地面積 (平方メー)	11.47
市街区域の緑化率 (%)	31.34
下水排出量 (万立方米)	2238
下水道の長さ (キロ)	258
下水処理率 (%)	64.16
ごみ処理率 (%)	100.00

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

インターネットは都市のみならず農村にも普及しており、デジタル電話は44.33万件に達し、携帯電話登録数は61.63万件で、通信分野では四川省のトップレベルになっています。

## 5. 交通情況

ここ5年来、40億の資金を投資して交通インフラの整備に取り組んでいるため、交通ネットワークの建設は四川省でもかなり進んでいます。市内の自動車用道路は3,641キロに達し、国道213号、省

道 103 号および 106 号が幹線になっています。そのうちの 98 キロメートルは市内を通る 2 本の高速道路（成都—樂山線と成都—雅安線）です。鉄道では、成都—昆明線が南北に走り、低コストの交通手段を提供しています。

眉山市街区域から 5 つの県城までは 30 分の交通圏内にあり、省都の成都へは 1 時間の距離です。

## 6. 未来展望

蘇東坡の故郷である眉山市の文化的伝統は古く、市民は、自分たちの文化的伝統に誇りを持って継承しつつ、大きな自信を持って社会経済を発展させようと意気込んでいます。現に成都から工業の移転を受け入れています。まもなく樂山—眉山—成都—徳陽—綿陽の都市間高速鉄道が着工するなど、成都経済圏の建設が推し進められる中、眉山市は成都経済圏に溶け込み、成都に近い立地条件が経済発展プラスの影響をもたらすことでしょう。

最近、眉山市電話の市外局番が成都と同じ 028 になるなど、成都市から多くの企業移転を受けただけでなく、物理的、心理的にも成都経済圏への統合の効果が大きいと思います。成都から見れば、眉山はもう遠い存在ではなくなったのです。

### 第三章 西北部生態経済区——汶川大地震の震源地 2 自治州

#### 第一節 アバチベット族チャン族自治州——九寨溝に見られる別天地

##### 1. ハイライト

アバチベット族チャン族自治州はチベット高原の東南部の斜面に位置し、地域には多数の山脈と溪谷が分布します。有名な世界自然遺産の九寨溝はここに位置します。バスや自動車で行くと、雄大な風景に出会うことができます。何千万年も前の氷河侵食でチベット高原の斜面に大きな谷ができ、谷から見上げると、最も高いところは雪山で、その次は高山草原、さらに降りてくると、灌木が、その下には針葉樹、広葉樹が広がっています。世界中の植物相を同時に目の当たりにでき、また、谷底は夏でも雪やモミジなどが見られ、四季をひとつの山で楽しむことができます。その谷底には決まって溪流があり、急流や浅瀬、滝に加え無数の湖が存在します。汚染が無いので、透き通った水が日差し具合により幻想的な色彩を放っています。九寨溝と四姑娘山は、その中でも一際きれいなところ

##### 2. 基本情況

アバチベット族チャン族自治州は人口 88.2 万人で、その名の通り、多くの民族が共同で生活しています。構成は、チベット族が 52.3%、チャン族が 17.7%、回族が 3.2%、漢族が 26.6%、その他の少数民族が 0.2% となっています。

雄大な山脈、広々とした草原、原始の森、急流など、地形は変化に富み、気候も多様で、独特の地理環境を成しています。生きた化石と言われるパンダをはじめ、他の地域では絶滅した動植物が多数存在しています。工業文明が発達

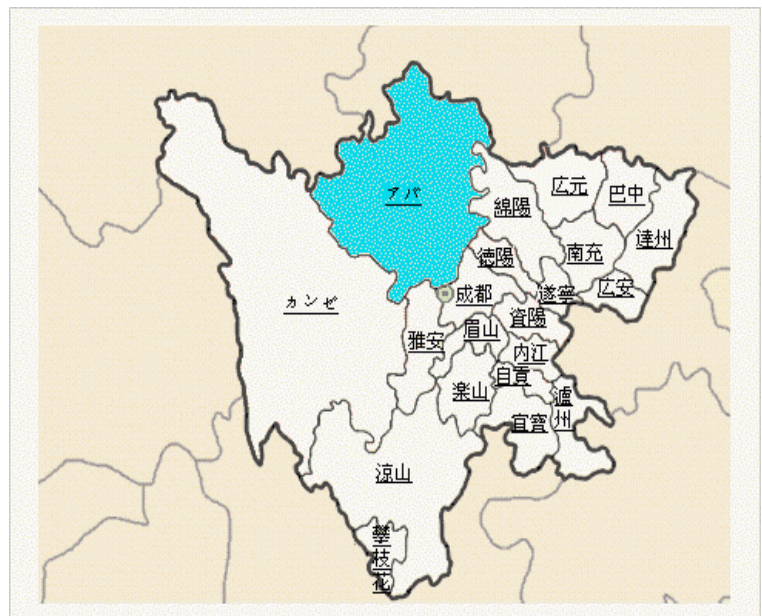


図 3-1-1 アバチベット族チャン族自治州

している今、このような安らぎ、素朴さ、美しさを伴う大自然の風景はここをおいて他にないでしょ

う。これが、九寨溝と四姑娘山が人々を引きつける最も大きな理由です。

ここで生活するチベット族の多くは農業に従事しています。日照時間が成都の倍もあり、季節も成都より2ヶ月ほど遅いため、キャベツやジャガイモの収穫量は成都平野に比べかなり多く、季節をずらして販売できるため、成都市民の食卓を豊かにしてくれます。

表3-1-1 アバチベット族チャン族自治州の基本情況

市(州)政府所在地	馬爾康県	
URL	http://www.abazhou.gov.cn/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	馬爾康県	
市街区域面積	6639 平方キロメートル	
所轄県(市)	馬爾康、汶川県、理県、茂県、松潘県、九寨溝県、金川県、小金県、黒水県、壤塘県、阿坝県、若爾蓋県、紅原県	
面積	8.3 万平方キロメートル	
自然条件	年間降雨量 588.8mm、年間平均気温 9.1℃、年間日照時間 2178.5 時間	
人口	88.2 万人	
民族	チベット族、チャン族、回族、漢族など	
主要資源	土地資源、水利資源	
資源産業	観光、牧畜、水力発電	
観光資源	静かで古風ある自然景色、例えば九寨溝、黄龍など世界自然遺産。花湖、神座、阿坝県各莫寺など。	
環境評価		
環境保護関連産業	自然森林の固め、退耕還林、退牧還草、湿地保護、水土保護、小さい流域と乾燥した河谷の治理など	
アウトソーシング産業		
交通	空路	九寨溝空港あり
	水路	
	高速道路	高速道路が汶川県まで通っています。
	道路	観光道路はよく整備されている。

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

### 3. 経済的実力

アバチベット族チャン族自治州の一番の花形産業は何といても観光業でしょう。州内には世界自然遺産の九寨溝と黄龍という景勝地をはじめ、パンダの故郷である臥龍や臥龍パンダ繁殖飼育センター、赤軍長征時の革命関連遺跡、エキゾチックなチベット族とチャン族の民族情緒、神秘的なラマ教など多くの観光資源があり、毎年、延べ400万人の国内外観光客を惹き付けます。観光客の数が地元人口の5倍近くにも上るという事実は、アバ州の魅力を雄弁に物語っています。

特に2003年9月28日の九寨黄龍空港の開業により、それまで山道で10時間を要していた成都から九寨溝への道のりがわずか40分に短縮されたため、北京、上海、広州など全国の主な空港からたくさんの観光客が訪れています。空港は海拔3448メートルの高原にあり、安全性、投資性、機能性、生態環境を十分に考慮された近代的な施設です。

アバ州には総延長6,018キロメートルの自動車用道路があります。そのうち、国道は922キロメートルで、成都とラサを結んでおり、1425キロメートルの省道と1,610キロメートルの県道が州内の県、鎮、村を網羅しています。成都—汶川高速道路が開通し、さらにラサへの延長が計画されています。綿陽—九寨溝高速道路も建設中です。アバ州全域を通る成都—ラサ間的高速鉄道も西部大開発の重要なプロジェクトとして計画されています。

表3-1-2 アバチベット族チャン族自治州の経済情況

GDP	総額	75.63億元
	第一次産業	20.20億元
	第二次産業	22.89億元
	第三次産業	32.54億元
	一人当たりのGDP	8459元
平均給料	国営	30585元
	民営	18752元
住民一人当たり可処分所得		11829元
住民一人当たり消費支出		7575元
農民一人当たり純収入		2555.3元
農民一人当たり生活消費支出		2325.7元
年金加入者数		17.44万人
年金収入総額		3.45億元
就職者数		49.81万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

アバ州には8万ヘクタールの耕地があり、とうもろこし、チベット大麦、大豆、ジャガイモ、小麦、

蚕豆、蕎麦、菜種、麻、野菜などを栽培しています。422 万ヘクタールに及ぶ草原は、総面積の 50% を占めています。300 万頭のヤクや羊が放牧され、中国屈指の牧場になっており、畜産品は全国に売られています。303 万ヘクタールの森林面積があり、杉、松、樺、檜、櫟などが生い茂っています。中には多くの貴重な漢方薬となる植物や野生動物が存在します。

ウラン、金、鉄、マンガン、チタン、錫、大理石などの鉱物資源にも恵まれています。草原の草は、枯れた後どんどん堆積していきませんが、その積み重なった草は何千万年もの時を経て、適切な温度と圧力により、炭になります。これが泥炭です。泥炭は、有機肥料をはじめ多くの用途が開発され、重要な資源になっています。泥炭の貯蔵量は 70 億立方メートルあり、世界一です。

チベット高原東部の斜面にある多くの急流は、アバ州に豊富な水力資源をもたらしています。300 ヶ所以上の水力発電所が建設され、アバ州の工業経済の重要な柱になっています。

食品加工、流通、商業、鉱業などの民営企業の利益が州の GDP の半分を占めていることもアバ州経済の大きな特徴です。経済の多角化により、アバ州の経済は活力に満ちています。

また、生態環境建設も、アバ州政府の重要な任務です。アバ州などの長江上流の生態環境は上流地域の経済の持続的発展に寄与すると同時に、長江中流と下流はもとより中国全体の発展に関わっているからです。人工造林、飛行機での播種造林、道路沿いの緑化、退耕還林（耕地を森に戻すこと）などの実施により環境が著しく改善されたばかりでなく、パンダや金糸猿などの国家一級保護動物が有効に保護されました。

## 4. 都市建設

アバ州は四川省の 4 分の 1 の面積を占めますが、人口は 80 分の 1 に過ぎず、さらに農業、牧畜業、鉱業が主な産業であることから、大きい都市が育ちません。

州都の馬爾康はチベット語で「火が盛んに燃え上がる地」という意味ですが、「繁栄発達」の意味が込められた地名になっています。馬爾康は、アバ州の政治、文化、金融、交通、情報センターで、省都の成都へは 365 キロメートルです。15 の民族で構成される人口は 5.5 万、都市人口は 2.5 万程度です。

都市は小規模ですが、中国の民族政策により、住宅、商業施設、文化センター、公共図書館、ラジ



図 3-1-2 黄竜風景



オ局、テレビ局、劇場、映画館、病院、疾病予防コントロールセンター、産婦人科専門病院、本屋や、6,000人が在学しているアバ大学が建設され、アバ州の社会発展に大きく寄与しています。農業、牧畜業にも科学技術が応用され、経済が飛躍的に発展しました。

アバ州で都市化が進んでいるもう1つの県は、九寨溝と黄龍という景勝地のある九寨溝県です。観光業が最も大きい産業の柱ですから、2003年、7,000人の小さな町に空港が開業し、ホテル、旅館、飲食業、商業施設、バスターミナルなどが建設され、経済が急速な発展を遂げました。

## 5. 歴史沿革

秦の時代から県制が敷かれ、チベット族、チャン族、漢民族が生活していましたが、交通が不便で産業も未発達だったため、実際は領主による支配が新中国になるまで続いていました。農業も牧畜業も品種改造が行われず、生産能力が低く、食糧が不足して、経済収入はアヘンに頼っていました。

毛沢東率いる赤軍は、長征の途中、国民党の追撃を避けるために、アバ州の経路を余儀なくされました。ここに16ヶ月間滞在し、その間に少数民族による革命政権を打ち立て、8つの4,000メートル級の雪山を乗り越え、無人の沼沢を通りぬけて、ようやく長征を完了したのです。

1952年の開放後、アバチベット族チャン族自治州が樹立されました。以来55年間、民主改革、禁煙運動、道路などのインフラ建設、産業振興、教育普及などを実施し、アバ州は、封建領主制の社会から1,000年の時を経て、近代社会への参入を果たすことができました。

## 6. 大川健三さんと四姑娘山

四姑娘山は今、アバ州の小金県にあり、四川省で最も人気のある観光地ですが、ここは一人の日本人と切っても切れない縁で結ばれています。大川健三さんという方で、NEC社でコンピュータの自動設計システム開発に長く携わり、特許や発明賞を取得しました。主な趣味はネイチャーフォト、登山、パラグライダーです。休暇を利用して世界各地の辺境地や山地などを旅行しました。2000年3月に四姑娘山に魅了され、退職して四姑娘山に住居を構え、四姑娘山の美しい風景を世界に発信することに専念しました。2000年6月から中国四姑娘山自然保護区管理局特別顧問に就任しています。



図3-1-3 四姑娘山

四姑娘山地方の住民は彼の功績に感謝し、尊敬しています。大川氏は現地のチベット族の女性と結婚し、四姑娘山の宣伝に力を注いでいます（詳しくは付録をご参照されたい）。

## 7. 未来展望

今は成都などの大都会と経済的に緊密に連携し、四川省の野菜、漢方薬、畜産品、果物の重要な供給基地になりました。昔は、茶馬古道でしか外部との連絡ができませんでしたが、今は総延長 6,000 キロメートルの道路が州内に張り巡らされ、空港も建設され、インターネット、電信なども発達し、アバ州は全国としっかりと結ばれています。以前は松明による照明も贅沢でしたが、現在は 130 万 kW の発電能力により草原を照らし、村々に光と同時に情報、効率性、利便性、豊かさ、幸せな生活、そして未来を届けています。

雄大な自然を活かし、観光業はアバ州最大の産業になっています。

かつては一部の僧侶と上流階級の領主しかチベット文字の読み書きができませんでしたが、現在はどこにでも学校があり、周囲には本を読み上げる生徒たちの朗々たる声が響いています。西部大開発の進展につれて、鉄道も計画され、アバ州の未来はさらに明るくなるでしょう。

## 第二節 カンゼチベット族自治州——最後のシャングリラ

### 1. ハイライト

稻城、亜丁の空港建設は急ピッチで進められています。ここは「最後のシャングリラ」と呼ばれ（詳しくは付録を参考されたい）、これまで交通が不便で観光客に敬遠されていましたが、空路開通により、最も人気の集まる景勝地になると期待されています。

多宗教、多民族、多文化の調和、融合が人類の理想ですが、そのユートピアがここに見出せるといわれています。人と自然の融合はどういうものかも、ここで感じ取ることができます。

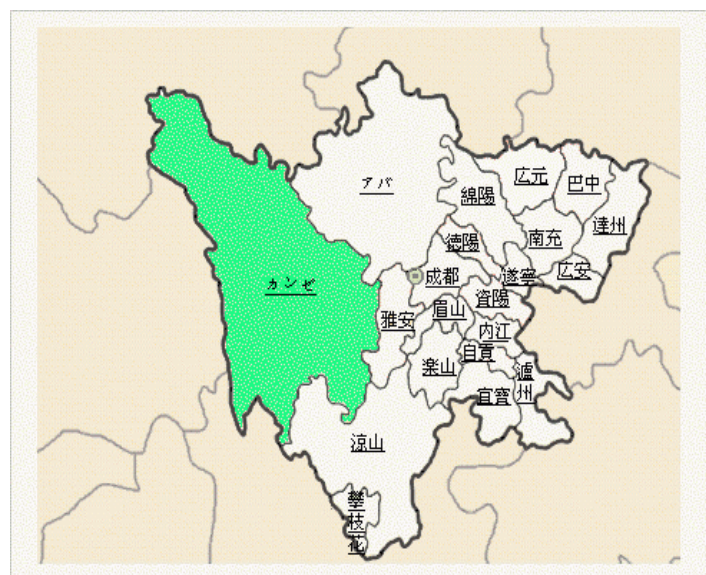


図 3-2-1 カンゼ自治州の四川省における位置

表 3-2-1 カンゼチベット自治州の基本情況

市（州）政府所在地	康定県	
URL	http://www.gzz.gov.cn/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	康定県	
市街区域面積	11486 平方キロメートル	
所轄県（市）	康定県、瀘定県、丹巴、九龍、雅江、道孚、炉霍、甘孜、新龍、徳格、白玉、石渠、色達、理塘、巴塘、郷城、稻城、得栄	
面積	15.3 万平方キロメートル	
自然条件（降水量、平均気温、日照時数）	年間降雨量 856mm、年間平均気温 7.3℃、年間日照時間 1648 時間	
人口	99.1 万人	
民族	チベット、漢、回、イー、チャン、ナシなど 20 民族がある	
主要資源	土地資源、水利資源、環境資源	
資源産業	観光、鉱物、水利	
観光資源	貢嘎山観光地、海螺溝観光地、田湾河観光地、木格措観光地、伍須海観光地、二郎山観光地、塔公観光地、瀘定橋、徳格印経院、塔公寺、白利寺、理塘寺など有名な観光地がある。	
環境評価		
環境保護関連産業	汚水処理、ゴミ処理	
アウトソーシング産業		
交通	空路	空港建設中
	水路	
	高速道路	
	道路	道路が観光事業のネックになり、整備が急務です。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

## 2. 基本情況

チベット高原の東南の斜面にあり、州内の山と川は南北方向に配列しています。海拔 6,000 メートルの山々が 45 もあり、最高峰は海拔 7,556 メートルの大雪山をいただくコンカ山です。また、金沙江、大渡河、雅礮江が平行して南へ流れています。雪山、高原、峡谷、草原と地形は変化に富み、森林、

鉱物、自然資源に恵まれています。

カンゼチベット族自治州は四川省からチベットへの交通線上にあり、昔からお茶と馬の交易の中心地帯です。チベット仏教の教派は完全に伝承され、チベット文化文献がよく保存され、チベット医学理論研究と製薬が最も早く発展したところです。

90 万の人口のうち、チベット族が 78.4%を占め、漢族、回族、イ族、チャン族、ナシ族などの 25 の民族が、狭い範囲に集中的に居住したり、チベット族に溶け込んで暮らしています。



図3-2-2 亜丁風景

### 3. 経済的实力

康定県はカンゼチベット族自治州の政治、経済、文化、交通センターであり、周辺はコンカ山、海螺溝などの景勝地があることから、観光業が主要な産業になっています。

高原気候は気温が低く、冬が長く、降水が少なく、豊富な日照が特徴であることから、峡谷の平坦部は農業を主とし、高原草原は、牧畜業が主な産業としており、森林地帯は、木材、漢方薬を産出しています。各県は自動車道で結ばれており、四川-チベット自動車道の沿線は経済活動が活発です。

鉱物資源としては、金、銀、銅、鉄、モリブデン、リチウム、大理石と御影石があり、開発が期待されています。水資源も豊富です。

### 4. 観光資源

今後、稻城亜丁の開発が期待される中、今一番の観光地はコンカ山とその麓にある海螺溝です。コンカ山は、チベット語で「最高の雪山」という意味で、海拔は7,556メートルに達し、文字通り四川省の山の王様です。海洋性季節風の影響で、4,600メートルから雪線になっており、大規模な氷河があります。海螺溝氷河は14.2キロメートルにも及び、森林地帯に伸びています。景勝地の面積は1万平方キロに達し、森林に囲まれた湖、10ヶ所以上の温泉があります。

表3-2-2 カンゼチベット自治州の経済情況

GDP	総額	94.01 億元
	第一次産業	23.66 億元
	第二次産業	34.64 億元
	第三次産業	35.71 億元
	一人当たりのGDP	9640 元
平均給料	国営	29921 元
	民営	27744 元
住民一人当たり可処分所得		11471 元
住民一人当たり消費支出		8882 元
農民一人当たり純収入		1925.6 元
農民一人当たり生活消費支出		1676.2 元
年金加入者数		14.64 万人
年金収入総額		3.79 億元
就職者数		62.46 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

## 5. 未来展望

カンゼは四川省、雲南省、チベット、青海省の間において、歴史的、政治的、軍事的に重要な位置を占めてきました。四川省政府はカンゼの発展が四川省全体の均衡発展と社会の安定に寄与すると考え、非常に重要視して、政策的、資金的、文化的、人員的に支援を行っています。西部大開発で、カンゼチベット族自治州の空港と道路をはじめ、インフラが一層整備され、観光業、資源産業は大きく発展するでしょう。



図3-2-3 稻城風景

## 第四章 東北経済区——天然ガスエネルギーと化学基地 6 都市

### 第一節 広元市——唯一の女帝の故郷

#### 1. 基本情况

広元市は四川省の北部に位置し、陝西省と甘肅省と境を交えて四川省の「北の門戸」と言われます。昔、四川省の外に出る道としては広元を通るか、成都から船で岷江を經由して長江に出るかの二者択一でした。現在、観光名所になっている名月峽が広元の重要性を端的に物語っています。70メートルぐらいの広さの嘉陵江の峽谷地帯に、もちろん、船も通りますが、船を引っ張る人たちの小道が川岸に沿って伸びています。崖には

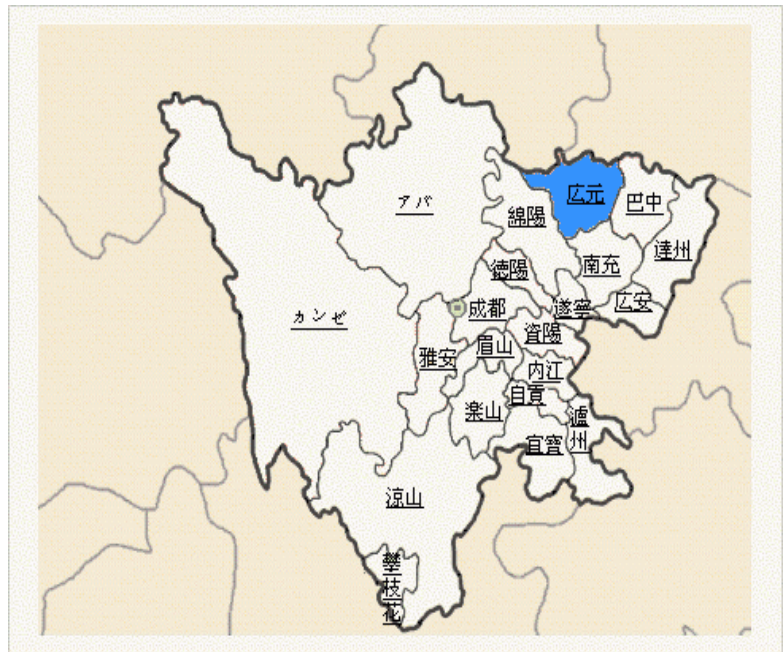


図 4-1-1 広元市の四川省における位置

秦の始皇帝の時代に作られた栈道があります。それは崖の岩に穴をあけ、木を差し込み、その木の上に木の板を敷いたもので、人と荷物を載せた馬が通ったそうですが、今は崖に穴が残るだけとなりました。開放前に作った自動車道もありますが、山腹に彫りこまれ、半ばトンネルのような凹んだところを自動車に通っています。開放後に作った鉄道も、自動車道の対岸のコンクリートで固めた路肩を通りぬけていきます。

現在は、四川省から陝西省への高速道路は別のルートを通っていますが、広元の交通路としての重要さはそれでもなお際立っています。

広元市と聞いてまず思い出されるのは、中国唯一の女帝——則天武後の故郷であり、美人の生まれる都市であることです。現に彼女を記念するための「女兒節」という祭りが残っています。広元一帯の地域をめぐり、三国時代に熾烈な戦いが繰り広げられていましたから、関連の遺跡が 140 か所も残っています。観光事業については豊かな資源に恵まれています。

四川省と陝西省の間には秦嶺という山が横たわっていますが、中国の地理学的には南北の境になっています。特に冬は秦嶺の北側の斜面には雪が積り、木という木が葉を落として冬の景色に衣替えを

しますが、南側の斜面は樹木が鬱葱としている南方系の風景です。正月に列車で出稼ぎ先から帰省する人たちがこの境界線を過ぎると、「やっと家に帰ってきた」と、安堵感を覚えます。

表 4-1-1 広元市の基本状況

市(州)政府所在地	広元	
URL	http://www.cngy.gov.cn/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	市中区、元坝区、朝天区	
市街区域面積	4535 平方キロ	
所轄県(市)	旺蒼県、青川県、劍閣県、蒼溪県	
面積	1.6 万平方キロ	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 783.2mm、年平均気温 16.4℃、年間日照時間数 1253.4 時間	
人口	310.4 万人	
民族	漢民族が 99.7% 占め、回民族、チベット族、満州族、チャン族、ミャオ族、モンゴル族などが生息しています。	
主要資源	天然ガス、鉍物資源	
資源産業	天然ガス、観光業、アルミニウム精錬、農業	
観光資源	劍門の関、則天武后を祭る皇沢寺、千仏崖、天台山国家森林公园、翠雲廊、名月峡古栈道、赤軍文化公園。	
環境評価	優	
環境保護関連産業	新エネルギー、汚水処理、リサイクル技術など	
アウトソーシング産業		
交通	空路	空港あり
	水路	水運少少あり。
	高速道路	成都西安高速道路があり、重要拠点です。
	道路	四川省の北の門戸、交通が発達しています。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

## 2. 広元市の経済的実力

広元市は成都、西安、重慶、蘭州の 4 つの大都会の中央に位置し、昔から四川省、陝西省、甘肅省

周辺地区の交通の要所になっており、物流センターでもあります。鉄道では成都—宝鶏線と広元—旺蒼線が市内で交差しており、108号と212号の国道線も市内で交差しています。高速道路は南へは成都へ、北には西安へ直通しています。嘉陵江水運では直接重慶に到達することができます。広元空港が再開され、北京や上海へは空路でも行けます。

西部大開発で、蘭州—重慶鉄道や広元—南充高速道路や広元—巴中高速道路が計画されていますから、広元の交通上の優位性が一層クローズアップされることになるでしょう。

広元市は「三線」建設の重点地区でした。現在は四川省のエネルギー、有色金属、漢方薬の生産基地で、さらに牧畜業も発展しています。特筆すべきは、2008年までに確認された天然ガスの埋蔵量が2,000億立方メートルを超え、2010年には4,000億立方メートルの累積埋蔵量が発見されると見込まれていることです。さらに、広元地区は稀に見る天然ガス気田構造と見られ、最終的には5兆立方メートルの埋蔵量があると推測されています。石炭の埋蔵量も豊かで、確認されているだけでも4.64億トンになります。水力と火力の発電も発達しており、シノペックや広旺エネルギーグループや旺蒼炭鉄工廠などの大企業が資源開発に取り組んでいます。

表4-1-2 広元市の経済状況

GDP	総額	233.56 億元
	第一次産業	69.90 億元
	第二次産業	80.38 億元
	第三次産業	83.29 億元
	一人当たりのGDP	8557 元
平均給料	国営	23758 元
	民営	19775 元
住民一人当たり可処分所得		9551 元
住民一人当たり消費支出		7153 元
農民一人当たり純収入		3164.5 元
農民一人当たり生活消費支出		2689.7 元
年金加入者数		72.50 万人
年金収入総額		12.63 億元
就職者数		155.87 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

広元市の耕地面積は234.4万ムーで、水田が103.1万ムー、田畑が131.3万ムーあります。森林面積は1,364万ムーで、市全体の43%が森林に覆われています。木耳(キクラゲ)、椎茸、カサタケなどの山の幸に富んでいます。60頭のパンダをはじめ、金糸猿などの国家重点保護野生動物が76種類も生息しています。さらに、野生植物が2,900種類、国家重点保護野生植物が34種類あります。

山地が多いものの、126万ムーの標準化農地が造成されたほか、果物基地、漢方薬基地、山菜基地、



牧業基地などが建設されています。胡桃の生産量は5.2万トン以上で、全国の5分の1を占めています。製菓工業と食品工業の強力な支えとなっています。

機械電子、建材、食品工業、紡績、製菓などの工業はしっかりとした土台を持っています。

広元市の経済は交通の便利さから投資を誘致する能力と周辺地方を牽引する能力に優れていますから、卸業や商業が発達しています。駅とバスのターミナルでは大きな鞆を持って、服装や食品を仕入れに来る人たちにを見かけます。

広元市が人気を集めているのは何といても観光業です。則天武後の生まれ故郷とその祠である皇沢寺、140ヶ所にのぼる三国遺跡、市内を貫く剣門古道国家級名勝地、赤軍時代に広元市93%の版図に共産党による政府が打ち立てられ、4.7万人が赤軍に参加していました。ここから10人の将軍を輩出しています。赤軍文化公園には約4,000点の赤軍関連の文物が展示されています。

### 3. 都市建設

広元市は鬱蒼とした山に囲まれ、嘉陵江と南河が通っており、中国風の近代的な建物の街が河に沿って展開しています。市街区域の中心には小さな丘があり、広元市の市民の憩いの公園になっており、丘の上には鳳凰を象った鳳凰楼が立っています。則天武後の生まれ故郷の広元市の象徴的な存在です。河畔には柳が植えられ、綺麗な遊歩道になっています。河が交差してできた大きな水面は広元市の空気を新鮮なものにしています。夜になると、町の灯火が川に映り、幻想的な雰囲気を醸し出します。

25年前に広元が市としてスタートした時の中心部は、現在の市全体のほんの一部に過ぎず、70%の新しい市街地は、市になってから開発した街で、広元市の経済発展と都市化の進展を立証しています。

広元市政府は企業誘致を熱心に行っていますが、改革開放の当初は、たくさんの企業が市内に入ると野菜や豚肉が高くなり、快適な生活が損なわれるという考え方があったため、「三線」建設で入っていた造幣工場の成都への移転を許した一方、自動車工業の受け入れを拒否したいきさつがあります。この苦い経験からの反省により、非常に開放的で投資しやすい環境が整っています。



図4-1-2 広元市の町風景

表 4-1-3 広元市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	218
道路面積 (万平方メートル)	465
橋梁数 (個所)	11
街灯 (千個)	35
バス保有台数	241
タクシー保有台数(台)	550
公衆便所数 (個所)	95
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	417
水道普及率 (%)	98.41
都市ガス普及率 (%)	80.51
一人当たり道路面積 (平方メートル)	11.04
公園数 (個所)	6
公園緑化面積 (平方メートル)	331
一人当たり公園緑地面積(平方メートル)	7.86
市街区域の緑化率 (%)	30.37
下水排出量 (万立方米)	4136
下水道の長さ (キロ)	327
下水処理率 (%)	74.01
ごみ処理率 (%)	100.00

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

#### 4. 歴史沿革

広元市は昔から利州と称され、2,300 年の歴史があります。紀元前 316 年に秦の国がここを經由して古蜀国を攻め込み、葭萌県を置きました。以降、蜀の地と秦の国との絆の役割を果たしていました。三国時代には歴史に残る多くの戦いが行われ、劉備によって漢寿県と名前を改められました。その後、晋寿県、益昌県、西益州、利州、綿谷県、義城郡と名前を変え、唐の時代になって利州として定着し、四川省の北部を管轄する役所が置かれました。

元の時代になって元帥府が設置され、「易経」の「大哉、乾元」の意味を取って広元と名前が決まりました。

1933 年から 1935 年には、中国共産党を指導した赤軍が広元を中心に六つの県の政権を樹立しました。

1949 年に開放され、「三線」建設が行われ、工業体系が確立しました。1985 年、広元市が国務院の批准を経て成立して、広元市は発展の新しい段階に入りました。

## 5. 未来への展望

震災復興において、中国国内の経済力の強い 20 の省が、汶川大地震による 19 の重度災害県と甘肅省陝西省の被災地域をそれぞれ援助することが国務院の指導で決まっています。香港とマカオ特別行政区政府は、「私たちも省クラスで、経済力もあるので、震災復興の力になりたい」と、中央政府に申し込み、広元の市街区域の再建を支援することになりました。他の省と違い、主に資金的支援を行なっています。

香港とマカオの支援で新しい理念や管理方式が広元に導入され、また香港とマカオとの提携を深めることで、社会経済の発展は 10 年早まるだろうと期待されています。

天然ガス、石炭、発電などの資源の優位性を産業の優位性にし、交通、流通、食品工業、観



図 4-1-3 広元市の山村風景

光業などのメリットを十二分に発揮することで、広元市には明るい未来が開けています。そう遠くない将来、豊かな自然環境と力強い経済力を併せ持つ開放的な広元が、四川省の北部に現れるでしょう。

## 第二節 南充市——朱徳の生まれ故郷

### 1. ハイライト

朱徳は 1886 年 12 月 1 日に四川省南充市儀隴県に生まれ、1909 年雲南陸軍講武堂に合格し、同年、中国同盟会（国民党の前身）に加入し、辛亥革命に参加しました。1922 年にドイツに留学し、中国共産党に参加しました。1925 年ソビエトへ行って軍事を学び、次の年に帰国しました。1925 年、南昌で国民革命第三軍幹部教育師団を作り、1927 年、それを率いて南昌蜂起に参加して、蜂起軍第九軍軍長に就任しました。1928 年に湘南蜂起を指導し、革命政権を樹立して、同年、蜂起軍を率い、毛沢東の井岡山の部隊と合流し、中国工農革命軍第四軍を作りました。

土地革命戦争、抗日戦争、解放戦争をへて、中国人民解放軍総司令官、新中国の創建者として、多大な貢献をしました。解放後、1955 年、中華人民共和国元帥を授けられ、中央人民政府副主席、中国

人民解放軍総司令官、国家副主席、国防委員会副主席などを歴任しました。

1976年7月6日、90歳で北京で亡くなりました。鄧小平と並んで、四川省出身のもっとも有名な人になり、四川人の誇りになっています。

南充市には朱徳邸宅、赤軍第四方面軍総指揮部遺跡などの革命文化遺跡があります。

## 2. 基本情況

南充市は2,200年の歴史を持つ文化名城で、四川省東部の嘉陵江畔の地域中心都市で、シルクの街、果物の町など様々な美称を持っています。

南充市の総人口は742.1万人で、そのうち都市人口は86.36万人と、四川省第2の規模を誇ります。市街区域面積は225平方キロメートルで、四川省で3番目になります。都市建築密度では四川省で2番目で、2

番目に長い環状高速道路を持っています。5つの大学を持ち、大学数は四川省で3番目にランクされ、市内の嘉陵江にかかる橋は6つで、四川省随一です。

清の時代の初め、張獻忠率いる農民蜂起軍によって、四川省の社会経済は大きく停滞、後退し、成都の人口は8万に激減したといわれます。そのため、四川省の中心は一時南充に移されました。清の時代の科挙試験場が、閩中に保存されています。

## 3. 経済的実力

温暖な気候と肥沃な土地のおかげで、多種類の食物や作物が産出されています。養蚕、みかん栽培、養豚が全国的に有名で、中国の4大養蚕製糸、シルク生産、輸出貿易の基地になっています。

エネルギー資源が豊富で、石油の埋蔵量が7,779万トン、天然ガスの埋蔵量は7,000億立方メートルもあり、嘉陵江が市内を流れていますから、水力発電能力にも恵まれています。塩の地質貯蔵量は1.8万トンあり、中国最大の天然塩鉱で、大型化学工業の基礎を備えています。今後の開発が期待さ

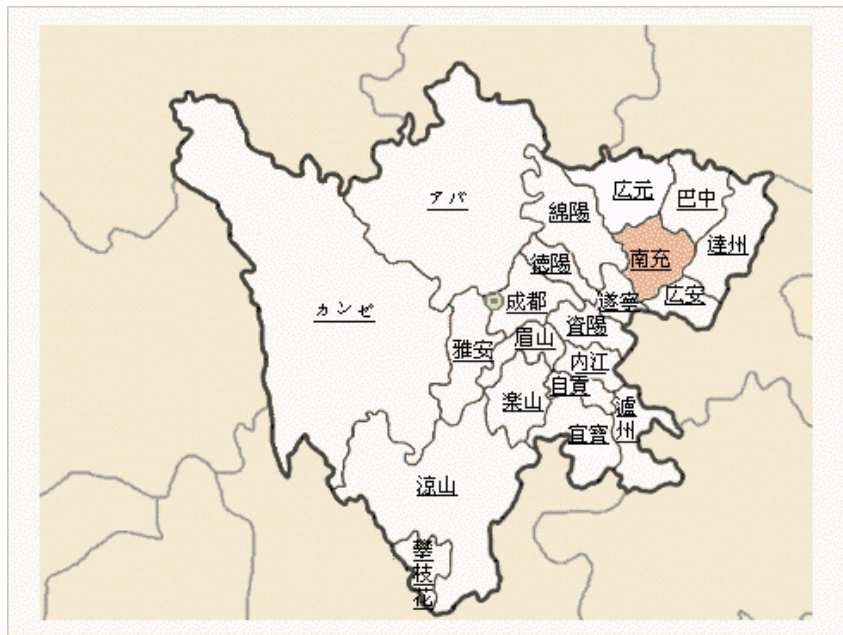


図4-2-1 南充市の四川省における位置

れています。

表 4-2-1 南充市の基本情況

市(州)政府所在地	南充	
URL	http://www.nanchong.gov.cn/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	順慶区、高坪区、嘉陵区	
市街区域面積	2527 平方キロメートル	
所轄県(市)	閬中市、南部県、営山県、蓬安県、儀陇県、西充県	
面積	1.2 万平方キロメートル	
自然条件	年間降雨量 1201.2mm、年間平均気温 17.5℃、年間日照時間 1090.8 時間。	
人口	749.5 万人	
民族	漢族、モンゴル族、回族、チベット族、ウイグル族、ミャオ族、イ族など	
主要資源	土地資源、森林資源、水利資源、環境資源	
資源産業	紡織業、食品加工、エネルギー電力、医学化学、牧畜業	
観光資源	全国で有名である歴史古城閬中があり、白塔古廟と嘉陵江第一山錦屏山があり、美しい白雲山、静かな昇鐘水庫があり、太蓬山、金城山、凌雲山での宗教文化も楽しむことができる。閬中藤王閣、観星楼、漢恒侯祠、万卷楼、張憲祠、李淳風墓、袁天罡墓などはあなたを懐古気分引き付ける。	
環境評価		
環境保護関連産業	廃水処理、排気処理、固体廃棄物の処理	
アウトソーシング産業		
交通	空路	航空あり
	水路	水運
	高速道路	高速道路
	道路	四川省東部最大の都市で、交通の拠点でもある。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

南充市の人口は成都に次いで四川省の第二位ですが、優れた科学技術力と十分な労働力が南充市の経済社会の発展を支えています。社会労働力の 88% を占める農村労働力が全国へ出稼ぎに出かけ、南充市の農民生活の向上と内需拡大に寄与しています。

南充市は豊かな人口で巨大な市場を形成しており、その特殊な地理的条件から、物資的集散地とし

ての機能も高いです。シルク大世界、西門総合卸市場、川北食糧卸市場などの大型卸市場を持っています。

南充石油精煉工場は中国石油西南部の最大の精煉企業です。南充石油学院もありましたが、学部教育と修士過程は成都に移りました。成人教育などが南充に残っていますが、石油需要が増えている四川省にとっては重要な存在です。

表 4-2-2 南充市の経済状況

GDP	総額	601.95 億元
	第一次産業	171.19 億元
	第二次産業	256.17 億元
	第三次産業	174.59 億元
	一人当たりの GDP	9687 元
平均給料	国営	19536 元
	民営	14777 元
住民一人当たり可処分所得		9776 元
住民一人当たり消費支出		7623 元
農民一人当たり純収入		3863.1 元
農民一人当たり生活消費支出		2815.5 元
年金加入者数		83.39 万人
年金収入総額		21.37 億元
就職者数		280.34 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

#### 4. 交通運輸

南充市は西へは成都、東へは湖北省、北へは陝西省、南へは重慶市とそれぞれつながっていますから、交通の要所にあります。今は自動車道、鉄道、航空、水運による交通ネットワークを形成しています。

自動車道では国道 318 号と 212 号が市内で交差して、その枝分かれのような市道と村道が全ての郷鎮に通じてます。高速道路では、環状高速道路、成都—南充、南充—広安、南充—重慶が開通しており、南充—広元、成都—巴中、南充—万州、南充—達州の 4 本が建設中です。交通インフラの整備により南充市の投資環境は向上しています。

鉄道は成都から湖北省、湖南省への交通動脈線上にあり、南充駅は四川省東部の最大の駅です。

南充市の高坪空港は北京、広州、深圳への定期便が開通しています。今後は順次、上海、攀枝花、九寨溝、武漢、西安への定期便が就航する予定です。

嘉陵江の浚渫工事と南充港の拡張工事が終われば、南充市の水運はますます発展するでしょう。

## 5. 都市建設

南充市は、市の中心部の五星花園、南北に走る滨江大通り、東西をつなぐ清泉寺嘉陵江大橋が交通の大動脈となっています。嘉陵江沿いに、東西を連絡しながら、南北方向へ大都会が形成され、日々進展を遂げています。

表 4-2-3 南充市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	399
道路面積 (万平方メートル)	854
橋梁数 (個所)	39
街灯 (千個)	13
バス保有台数	535
タクシー保有台数(台)	1020
公衆便所数 (個所)	222
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	750
水道普及率 (%)	97.11
都市ガス普及率 (%)	95.76
一人当たり道路面積 (平方メートル)	12.32
公園数 (個所)	10
公園緑化面積 (ヘクタール)	598
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	8.63
市街区域の緑化率 (%)	38.10
下水排出量 (万立方米)	5340
下水道の長さ (キロ)	635
下水処理率 (%)	42.51
ごみ処理率 (%)	81.69

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

順慶区、高坪区、嘉陵区の堤防建設は緑の公園の面積を大幅に増やし、市民の憩いの場になり、市内道路の再開発は交通事情を改善し、都市機能を効率的にすることができました。11階建ての政府庁舎の周りには中心集会区と4つの公園があり、3万人収容のスポーツスタジアムも建設されました。改修後の北湖公園は、南充市のために現代的な雰囲気を増し、広い水面、豊かな森林、古風な建物が調和し、観光の名所となっています。

## 6. 未来展望

三国誌の作家の陳寿の故郷であり、観光地になっている閬中市は、古い街並みをそのまま保存しており、人気を博しています（詳しくは付録をご参照されたい）。これからも南充市の内需拡大に貢献していくでしょう。

南充市は、基礎産業、インフラを発展させながら、四川省東部の中心都市、商業流通センター、文化科学技術センターへと邁進していく計画です。成都、重慶とちょうど三角形を形成し、石油精錬、シルク生産、豊かな労働力のメリットを発揮しての相互補完の地域協力は、南充市にとっては重要な意義があります。

### 第三節 遂寧市——岩塩「死海」を観光目玉に

#### 1. ハイライト

1億5,000万年前の地球の2回にわたる造山運動により、遂寧市大英県の地下には塩湖の盆地が形成されました。塩水の貯蔵量は42億トンで、地下水の塩分濃度は22%を超えます。これは中東の「死海」に酷似しており、人は湖面に浮かんで新聞を読むことができます。

地下塩水をくみ上げて作った中東の死海に準える室内大型観光地の「中国死海」には10億元の人民元が投資され、山に囲まれた山村に様々な観光施設が建てられました。2003年に開業してから、「死海浮かび」をはじめ、水上スポーツ、リゾート、リハビリテーションなどを結びつけ、流行の観光地となりました。

死海の海水にはナトリウム、カリウム、カルシウム、臭素、ヨウ素などの鉱物と微量元素が含まれ、リュウマチ、皮膚病、肥満症、心臓疾患と脳疾患にリハビリテーションの作用があり、疲労回復、精神的ストレスの解消にも役立ちます。

成都へ114キロメートル、重慶へは180キロメートルで、ともに高速道路と鉄道で連絡されていますから、観光地としての発展が期待されます。

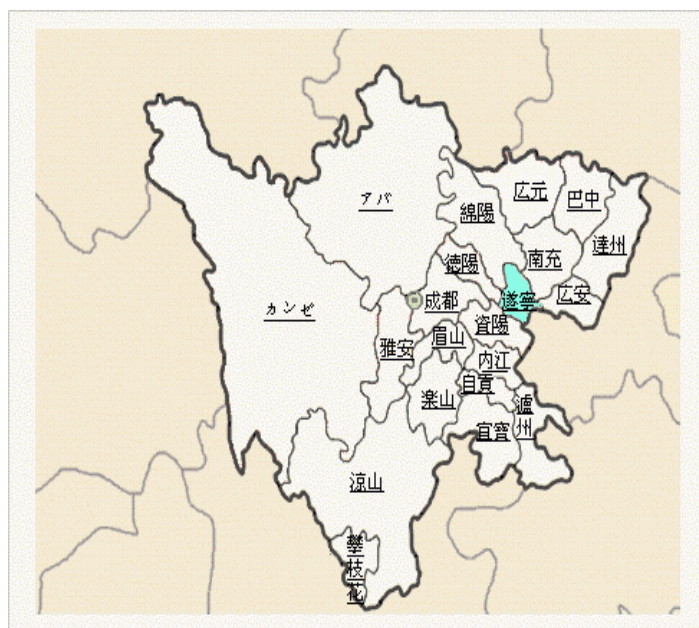


図4-3-1 遂寧市の四川省における位置



表 4-3-1 遂寧市の基本情況

市(州)政府所在地	遂寧	
URL	http://www.suining.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	船山区、安居区	
市街区域面積	1875 平方キロメートル	
所轄県(市)	蓬溪県、射洪県、大英県	
面積	0.5 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 859mm、年間平均気温 17.1℃、年間日照時間 935.3 時間。	
人口	384.9 万人	
民族	漢民族以外、回族、チベット族、モンゴル族、ミャオ族、イ族、チワン族、チャン族、ウイグル族、カオシャン族など 44 少数民族がある	
主要資源	ガス資源、鉍物資源	
資源産業	化学産業、紡織産業、牧畜業	
観光資源	子昂郷里—金華山、川中西子湖—赤城湖、川北迷宮—高峰山、佛中の聖—宝梵寺、中国死海、卓筒井、四川宋磁器博物館	
環境評価		
環境保護関連産業	汚水処理、排気処理、ゴミ処理、新型エネルギー自動車、太陽エネルギーなど	
アウトソーシング産業	IT 行、製薬業、物流業など	
交通	空路	
	水路	水運少々あり
	高速道路	成都から東へ重慶、武漢、上海への高速道路が通っている。
	道路	幹線道路を中心に県道、村道も発達している。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

## 2. 基本情況

遂寧が地名として確定されたのは、三国時代後の東晋時代でした。東晋の將軍桓温が四川省にある成漢国政權を平定し、50年にわたる内乱に終止符を打ちました。彼がこの地を訪れたときに、のどかな田園風景に感銘を覚え、平和を祈願する意味で、遂寧という地名をつけたのが定着しました。その平和を愛する気持ちは、今でも遂寧の人たちに受け継がれています。

遂寧市は四川盆地中央を流れる涪江の中流にあり、長い歴史と、発達した農業と工業と貿易を以て、四川省の中部の政治、経済、文化の中心的な役割を果たしてきました。中でも綿花の栽培が盛んで、それに支えられて、紡績業が最も発達しています。1985年、国務院の批准を経て、遂寧市が設立されました。

遂寧市は人口密集地域であり、1平方キロメートル当たりの人口密度は706人で、全国および四川省の平均をはるかに上回っています。人口の大半は涪江沿いの堆積平野と丘陵地帯に生活しており、この地域の人口密度は1平方キロメートル当たり813人にもなっています。

表4-3-2 遂寧市の経済情況

GDP	総額	372.67 億元
	第一次産業	102.76 億元
	第二次産業	171.95 億元
	第三次産業	97.96 億元
	一人当たりのGDP	10467 元
平均給料	国营	23603 元
	民营	15103 元
住民一人当たり可処分所得		10605 元
住民一人当たり消費支出		8582 元
農民一人当たり純収入		4287.1 元
農民一人当たり生活消費支出		2792.4 元
年金加入者数		28.57 万人
年金収入総額		8.96 億元
就職者数		153.07 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

## 3. 経済的實力

遂寧市の綿花の生産量は、四川省全体の43.3%も占めていますから、紡績業は優位産業です。成都に隣接していますから、工業工場の移転を積極的に受けています。ここ数年来の工業の発展には著しいものがあります。

遂寧市には 228.18 万ムーの耕地があり、作物種類が 367 種類あります。四川省の食糧、綿花、果物、桑、砂糖きび、野菜生産と養豚の重要基地です。一人当たりの食糧生産量は 400 キロになります。

表 4-3-3 遂寧市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	266
道路面積 (万平方メートル)	549
橋梁数 (個所)	29
街灯 (千個)	10
バス保有台数	167
タクシー保有台数(台)	395
公衆便所数 (個所)	66
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	317
水道普及率 (%)	83.31
都市ガス普及率 (%)	76.87
一人当たり道路面積 (平方メートル)	11.99
公園数 (個所)	10
公園緑化面積 (ヘクタール)	353
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	7.71
市街区域の緑化率 (%)	37.43
下水排出量 (万立方米)	2326
下水道の長さ (キロ)	412
下水処理率 (%)	77.94
ごみ処理率 (%)	81.87

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

亜熱帯常緑広葉樹林の森林地帯でもあり、面積の 32%が森林に覆われていて、四川省で最初に緑化ノルマが達成できた市です。樹木の種類は 437 種類に及び、水杉、銀杏、蘇鉄など国家保護の植物も数多く含まれています。優秀品種のみかん、梨、桃、李、リンゴ、枇杷、さくらんぼなどは全国的に人気です。また、遂寧市産の蚕豆は宮廷への貢品として有名でした。

キャベツ、白菜、大根、ナス、ササゲ、インゲン豆、トマト、胡瓜、しし唐、にんにくの芽、芋など豊かな野菜は現地の需要を満たすだけでなく、成都、重慶などの大都会にも輸出されています。

遂寧市には 270.5 万人の労働人口があり、総人口の 70.4%を占めています。第一次産業の GDP における比重が大きく、農民の収入はまだ低い水準にあることから、工業化、都市化への道のりはまだ長いといえましょう。

## 4. 交通運輸

成都重慶経済区の中心に位置する遂寧は交通の便に恵まれています。鉄道では、国家プロジェクトの成都—重慶、成都—上海の幹線鉄道が通っています。成都—重慶間は時速 200 キロメートルの動車組（寝台夜行新幹線）により 2 時間以内で結ばれています。これにより、成都—重慶間の航空便が取り止めになり、高速バスも値下げを始めました。

高速道路では成都—遂寧—南充線、遂寧—重慶線が通っていますが、遂寧—綿陽線が建設中で、遂寧—内江線が計画されており、5 本の高速道路が放射状に伸び、遂寧市の交通はさらに便利になります。

成都と重慶の両方に近い立地条件と観光資源も手伝って、市内には横 3 本、縦 4 本の道路が整備されています。

## 5. 都市建設

遂寧市は市としての権限を持ってから、25 年経っていますが、この 25 年間は遂寧の歴史上最も発展が早い時期でしょう。道路が整備され、新しいマンションが立ち並び、デパート、スーパー、映画館、劇場、スタジアム建設されています。

## 6. 観光資源

「死海」のほかに、宋磁博物館も見所です。

1991 年、遂寧市の金魚村で 1,005 点に及ぶ宋の時代の磁器をはじめとする多くの文物が発掘されました。中国で一度に出土した宋の時代の磁器としては最多数を誇り、この地の往時の栄光が偲ばれる出来事でした。これを契機に遂寧市は宋磁博物館を建設し、宋の時代の磁器を中心に 11,454 点の展示物を保管し、四川省唯一の宋の時代の磁器博物館になっています。

## 7. 未来展望

遂寧市は成都重慶間の「和諧号」快速列車の開通により、成都と重慶への距離が近くなりました。重慶への高速道路の開通により、成都から重慶への距離が 30 キロ短縮され、両都市を結ぶ最も重要な動脈となりました。農業の近代化を推し進め、農産物の高度加工をして付加価値を付け、農民の収入を向上させることがこれからの課題でしょう。成都に隣接し、重慶にも近く、交通が便利なことから、成都重慶経済圏の発展につれて、商品を成都と重慶に輸出し、成都と重慶からの投資を誘致し、成都

と重慶の観光客を呼び込むことが、遂寧市の発展にとって有意義な取り組みとなるでしょう。

## 第四節 達州市——資源を有効利用

### 1. ハイライト

達州は四川省の東北部に位置し、四川盆地の縁の大巴山の内側にあつて、陝西省、湖北省、重慶市と境を接していますが、高山峡谷の地形であるため、昔から交通が不便で閉ざされた区域といわれてきました。「大巴山は、遠くから眺めると雲とつながり、近くから見ると険しくて登れない。この山から向こうの山へ呼びかけることができても、歩けば丸一日かかる。船で渡ると危険で、歩くと足が棒に

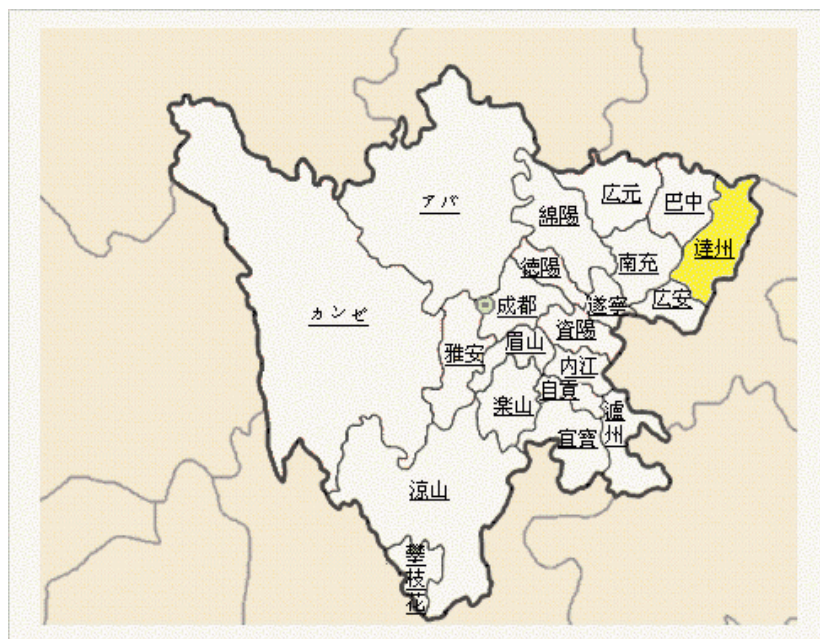


図 4-4-1 達州市の四川省における位置

なる。四川省を出るのは、至難の業だ」という民謡が、交通の不便さを端的にものがたっています。

1926 年に、初めての自動車道路が建設されました。その後、250 ヶ所で 38 種類の地下資源が発見され、なかでも 7.63 億トンの石炭と 3.8 万億の天然ガス立方メートルの埋蔵量が確認されました。鉄道と高速道路も開通し、資源基地として大きな発展を遂げました。天然ガス田は、新疆のタリム盆地と内モンゴルのゲルドースに次いで開発価値が高く、「中国気都」といわれています。

### 2. 基本情況

総人口 650 万人の農業都市で、豊かな資源に恵まれ、工業と交通も発達しています。

長い歴史を持ち、殷周時代には巴国に属していました。宣漢にある巴人文化遺跡は 3,700 年前の栄光を伝えてくれます。1,900 年前の後漢時代に県が置かれて以来、代々に州、郡、州が設置され、繁栄を続けてきました。唐の時代と宋の時代には李嶠、李適之、韓晃、劉晏、元稹、張商英の六人の宰相を輩出しました。一つの地域から六人の宰相が現れるのは稀ですが、山に囲まれている地方ではなおさらです。

達州市は中国西部地方でもっとも有名な成都、重慶、西安、武漢の間に位置し、4 省結合部の商業貿易、交通の中心都市です。もっとも、この中心的な役割を担っているのは達州市だけではありませんが、達州市は豊かな資源に支えられて、有利な条件がそろっているため、特に大きな発展が期待されます。

表 4-4-1 達州市の基本情況

市(州)政府所在地	達州	
URL	http://www.dazhou.gov.cn/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	達州市街区域	
市街区域面積	451 平方キロメートル	
所轄県(市)	万源市、達県、宣漢県、開江県、大竹県、渠県	
面積	1.6 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 1473.5mm、年間平均気温 17.3℃、年間日照時間 1051.8 時間。	
人口	676.3 万人	
民族	漢民族を含めて回族、モンゴル族、トゥチャ族など 38 民族がある	
主要資源	鉍物資源、水利資源、森林資源	
資源産業	ガス、鉄鉍物、石炭	
観光資源	達県真佛山廟、宣漢樊カイ百里峡観光地、達県鉄山森林公園と省級大竹銅羅山竹海公園、万源市八台山雲海、達市鳳凰公園、観光地：九龍湖、南江昇鐘、真佛山、鉄山森林公園。	
環境評価	良	
環境保護関連産業	汚水処理、空気コントロール、騒音と振動、排気固体処理、環境測定	
アウトソーシング産業	ソフトウェア、人力資源	
交通	空路	空港あり
	水路	水運
	高速道路	高速道路が重慶、成都へ連絡でき、西安への高速道路も建設中。
	道路	山地だから、県道、村道の整備が急務。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

重慶市に最も近いことから、資源の大半は重慶市へ供給されています。また、将来を見据え、成都

の不動産に投資する人々も多いです。実際に、成都の不動産の70%が外部から投資されていると言われています。

### 3. 経済的实力

工業では、石炭、天然ガスのほかに、鉄鉱、マンガン鉱、バナジウム鉱、アルミ鉱にも恵まれ、石灰石や石膏などの非金属資源も豊富にありますから、豊かな資源により、エネルギー、化学、冶金、貿易、医薬、建材を主体とする産業体系が形成されています。水力資源にも富んでいますから、水力発電も大きな産業になります。四川省の重点発展都市になっています。

農業では、栽培農業、養殖業、飼育業、農産物加工業を発展させ、伝統的農業から現代農業への転換を試みています。四川盆地の縁で、東北部が高く西南部が低い高山峡谷の地形になっています。平地は全体の面積の1.2%しかなく、農業は主に28.1%の丘陵地帯で行われています。一人当たりの農地が少ないため、丁寧に耕して単位面積の収穫量を上げる努力がなされています。

大都会に囲まれ、周辺の都市群にも購買力がありますから、椎茸や木耳などの生産業と魚介類の養殖業が発達しています。

表 4-4-2 達州市の経済状況

GDP	総額	603.99 億元
	第一次産業	185.01 億元
	第二次産業	245.72 億元
	第三次産業	173.26 億元
	一人当たりの GDP	10580 元
平均給料	国営	22085 元
	民営	18846 元
住民一人当たり可処分所得		9748 元
住民一人当たり消費支出		7726 元
農民一人当たり純収入		4096.7 元
農民一人当たり生活消費支出		2991.7 元
年金加入者数		45.70 万人
年金収入総額		19.86 億元
就職者数		287.97 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

### 4. 交通運輸

達州市は、長江沿いに成都から上海まで通じる高速道路上の重要拠点で、東西交通の動脈です。南北方向には達州—重慶線と達州—西安線が走り、西安と重慶へはともに日帰りできるなど、交通は非

常に便利です。国道 318 号線と 210 号線が市内を貫通し、交通ネットワークを形成しています。

達州空港からは北京、広州、成都線が就航しています。

渠江の水運は重慶で長江に入り、水路は武漢、上海へ連絡しています。

達州の鉄道交通は四川省東部の重要な拠点です。成都—達州線、襄樊—重慶線、達州—万州線、それに建設中の達州—巴中線がここで交差しており、達州駅は西南地区の 4 番目の駅として、全国と結ばれています。

## 5. 都市建設

達州市は山に囲まれているため、多くの建物が山を削ってできたわずかな基礎の上に聳えています。建設コストは平地より高いと思われませんが、豊かな資源に支えられて、達州市の都市建設は道路の拡張やインフラの整備を通じて飛躍的な進歩を遂げました。

産業の発達で人口が集まり、ケンタッキー、国美家電、新世紀百貨などの有名チェーン店が進出し、達州市の繁栄に新しい要素を加えました。

表 4-4-3 達州市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	99
道路面積 (万平方メートル)	152
橋梁数 (個所)	16
街灯 (千個)	8
バス保有台数	121
タクシー保有台数(台)	1053
公衆便所数 (個所)	31
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	225
水道普及率 (%)	97.58
都市ガス普及率 (%)	97.68
一人当たり道路面積 (平方メートル)	4.90
公園数 (個所)	8
公園緑化面積 (ヘクタール)	369
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	11.89
市街区域の緑化率 (%)	46.42
下水排出量 (万立方米)	2632
下水道の長さ (キロ)	123
下水処理率 (%)	51.98
ごみ処理率 (%)	84.23

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

山地にあるために、洪水に見舞われることが度々ありました。達州のインフラ整備は上流のダム建



設、堤防の修繕、都市の排水システムの整備など広範囲にわたっています。

近年の石炭の値上がりが達州市の鉱業関係者の収入を大きく改善し、達州市の内需拡大にも大きく寄与しました。

タクシーは、営業ライセンスが安く取得できるため、現在車両数が1,053に上っています。政府がほかの都市同様にタクシー産業から収入を得ようとして、これまでのライセンスを廃止し、ライセンス取得の経済的なハードルを高くしようとしたところ、タクシー運転手のボイコットを招き、結局、現状維持で決着するなど、大きなニュースになりました。

## 6. 未来展望

達州市は地理的に成都重慶西安の三角形の真ん中にありますが、長い間、不便な交通に制約されて経済発展が遅れていましたが、鉄道と高速道路が建設開通され、インフラが劇的に改善されました。特に豊富な資源がますます注目を集めています。経済的には重慶市との関係がより緊密で、重要な石炭と農産物の供給基地となっています。重慶市の経済発展に従い、達州市の経済も力強く牽引されました。今後、成都重慶経済区の発展するにつれて、達州市も新しい発展が期待されています。

## 第五節 巴中市——「赤軍」の根拠地

### 1. ハイライト

1932年、中国工農赤軍第4方面軍は「四川省の北部は陝西省の北部よりもっと豊かで、地形も険しく、ゲリラ戦に適している。加えて、四川省には軍閥が乱立し、混戦を続けているため、赤軍の入る絶好のチャンスである」として、巴中地区を占領し、人口500万、面積4万平方キロメートルの革命根拠地を作りました。後に指導者の張国トウの過ちにより多くの犠牲を払い、アバ州や延安への移転を余儀なくされましたが、川陝革命根拠地博物館、川陝赤軍将帥林、中国工農赤軍第4方面軍指揮部、中国工農赤軍第4方面軍病院など多くの革命遺跡を残しています。今は愛国主義教育基地及び観光名所として内外から多くの見学者を迎えています。

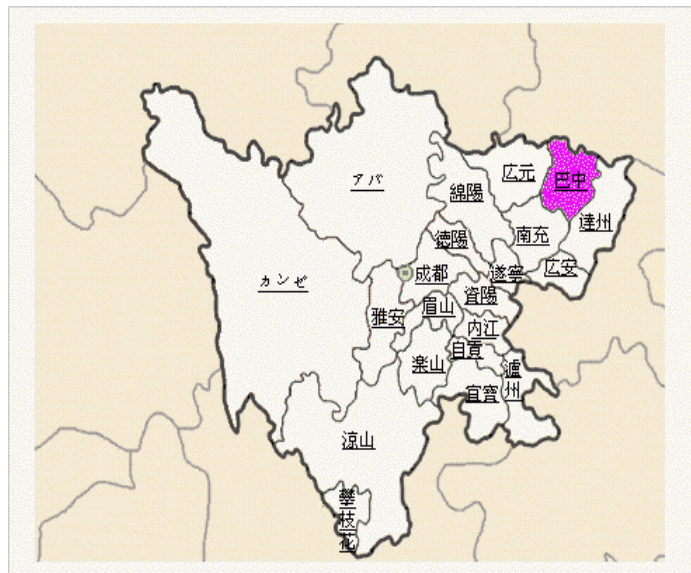


図4-5-1 巴中市の四川省における位置

今後は愛国主義教育基地及び観光名所として内外から多くの見学者を迎えています。

表 4-5-1 巴中市の基本情況

市(州)政府所在地	巴中	
URL	http://www.cnbz.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	巴中市街区域	
市街区域面積	2566 平方キロメートル	
所轄県(市)	通江県、南江県、平昌県	
面積	1.2 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 1093.4mm、年間平均気温 16.7℃、年間日照時間 1422.1 時間。	
人口	381.0 万人	
民族	漢民族を合わせて全部 35 民族	
主要資源	土地資源、森林資源、水利資源、環境資源	
資源産業	陸地農業、牧畜業、食用菌、お茶、干し果物	
観光資源	諾水河観光地、光霧観光地、空山国家森林公园、中峰洞	
環境評価		
環境保護関連産業	ゴミ処理、排気廃水処理、新型エネルギーの開発	
アウトソーシング産業	IT	
交通	空路	
	水路	
	高速道路	高速道路が開通したばかりである。
	国道	山地だから、県道、村道の建設が急務。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

## 2. 基本情況

巴中市は四川省と陝西省の境目にあり、四川省の北部の門戸に当たります。劉邦がここの巴峪関と牟陽城を根拠地にして中原を攻めていったことは有名な話です。後漢の時代には、漢昌県が置かれました。劉備が四川省に入ったときには張飛の率いる一軍がここを通っています。唐の時代には 7,200 体の仏像が山に掘られ、仏教芸術の輝かしい歴史を垣間見させてくれます。中国十大石窟にも選ばれ

ています。

市内には秦嶺山脈の支脈である大巴山が数百里にわたって横たわり、雄大な景観をつくっています。峡谷瀑布が多く、原生林が広がっています。光霧山原始森林、南陽森林公園、佛頭山森林公園、南江大小蘭溝自然保護区が特に有名な観光名所になっています。

自生する 600 種類の樹木は、四川省の生物遺伝子の宝庫と称されています。

森林には熊、豹、カモシカ、鹿、山椒魚、山猫、竹ねずみなど 20 種類の国家保護動物が生息し、四川盆地北縁山地の動物遺伝子の宝庫とされています。

表 4-5-2 巴中市の経済状況

GDP	総額	213.95 億元
	第一次産業	89.23 億元
	第二次産業	51.19 億元
	第三次産業	73.54 億元
	一人当たりの GDP	6806 元
平均給料	国営	18640 元
	民営	14255 元
住民一人当たり可処分所得		9570 元
住民一人当たり消費支出		7298 元
農民一人当たり純収入		3018.4 元
農民一人当たり生活消費支出		2739.6 元
年金加入者数		16.75 万人
年金収入総額		8.86 億元
就職者数		184.43 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

### 3. 経済的実力

主要工業製品は鉄鉱石、石炭、電力、セメント、酒、シルク、アパレル、紡績、冷凍肉、精練食用油、飲料水などで、前年比 22.8%増の 28 億元の GDP を実現しました。

江口醇酒造工場と小角楼酒造工場はともに一億元以上の売り上げがあり、その優良な品質と手ごろな価格で、全国に販売され、人気を博しています。

農業は国家の食糧貯蓄基地であり、輸出基地でもあります。経済作物では養蚕、タバコ、お茶、菜種、果物、砂糖きび、生姜などがすでに規模的優位性を形成しており、「天崗銀芽」が最も有名なお茶で、国際博覧会で金メダルに輝いています。「雲頂緑芽」、「雲頂茗蘭」、「光霧茗峰」なども四川省のブランドです。

山地ですから、椎茸、木耳、胡桃、栗、銀杏、山羊、牛、わらびなどが特に有名です。

鉱物資源にも恵まれており、埋蔵量は、鉄鉱石が 8,355 万トン、石炭が 6,190 万トン、天然ガスが

1, 100 立方メートル、御影石が 10 億立方メートルなどで、開発が期待されています。このほか、銅鉱、金鉱、大理石なども豊富です。

四川省の市の中では経済的な実力がまだ弱い方ですが、革命根拠地だったことで中央政府が大きな関心を有しており、西部大開発の重点農業開発地区にも指定されています。毎年、貧困地区扶助の特別予算が交付され、近年はインフラ整備も大きく改善され、経済発展のテンポも速いです。

最近、赤軍の業績を偲ぶ観光が流行っています。巴中市には赤軍の革命遺跡がたくさんあることから、観光業の発展も期待されています。

#### 4. 交通運輸

巴中市は、交通が不便だったからこそ革命政権が早く誕生したと言えましょう。逆に平和な時代になった今、成都から 400 キロメートル、西安から 650 キロメートルもある交通の不便さが経済発展の妨げになっていたとも言えます。

西部開発で広元—巴中の高速道路が開通し、南充市や陝西省の桃園へ通じる高速道路も着工しています。達州への高速道路も計画中です。

これまで巴中市には鉄道が無く、宝鶏—成都線からも襄樊—重慶線からも 200 キロメートルほど離れているなど、多量の物質の運輸が極めて不便でしたが、現在達州市への鉄道建設が着工しています。

また、巴中空港の建設も四川省政府で検討されています。

#### 5. 都市建設

山に囲まれた都市の中央部分を、巴川がアーチを描きながら静かに流れ、川沿いには堤防が整っており、岸に沿って綺麗な遊歩道が作られています。整備された大通りも川に沿って延びています。

川には 3 つの大橋がかかり、兩岸の森の中に建物が点在しています。

#### 6. 未来展望

四川省の最後の市ですが、地方還付などの方式で、均衡と調和の取れた発展を掲げた四川省から支援を受けています。

投資環境の改善により、投資が巴中市に集まり、巴中市への産業移転も盛んです。以前は出稼ぎ労働者の送り出していましたが、産業移転の受入により地元での雇用が増えることにより、生活品質の向上と内需の拡大が期待されています。

交通が不便なために経済が立ち遅れていましたが、高速道路などの交通インフラの整備によって、巴中市の経済は日増しに発展を続け、資源、環境、農業、観光などの分野における優位性が一層発揮

されることが期待されます。

表 4-5-3 巴中市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	192
道路面積 (万平方メートル)	265
橋梁数 (個所)	27
街灯 (千個)	4
バス保有台数	101
タクシー保有台数(台)	324
公衆便所数 (個所)	27
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	195
水道普及率 (%)	83.67
都市ガス普及率 (%)	61.67
一人当たり道路面積 (平方メートル)	8.83
公園数 (個所)	4
公園緑化面積 (ヘクタール)	247
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	8.23
市街区域の緑化率 (%)	28.25
下水排出量 (万立方米)	1550
下水道の長さ (キロ)	176
下水処理率 (%)	61.94
ごみ処理率 (%)	71.91

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

## 第六節 広安市——鄧小平の故郷

### 1. ハイライト

広安市は重慶市に近くに位置し、「人」の字の形を成す重慶市に、広安市はちょうど挟まれたところにあります。高速道路で成都まで3時間かかりますが、重慶市の市街区域の中心部には30分で到達します。

地理的な原因で、広安市の観光事業や経済発展は重慶市に依存するところが多いです。例えば、商品を重慶に売り、必要な原材料を重慶から仕入れてきます。また、重慶の人にとっても日帰りできる広安市への観光旅行が気軽にできることから人気を集めています。

広安市のもう一つのハイライトは中国の改革開放、社会主義近代化の総設計者である鄧小平氏の生まれ故郷ということです。鄧小平氏は1904年8月22日に生まれました。その祖父の鄧鶴軒が明の時代に兵部の員外郎の身分で江西省から四川省へ赴任してきて、広安に定住しました。鄧家は明の時代

にも清の時代にも高官を輩出しており、現地では高貴な家系です。

鄧小平は、生まれてすぐ鄧先聖と名づけられ、塾に入るときに、聖人に先んじるという意味がよくないとして、先生に鄧希賢と改められました。20年後に革命に参加した際、本人が鄧小平と改名しました。

16歳で重慶に出てフランス留学予備校に入り、その後、フランスに留学し、周恩来の紹介で中国共産党に入りました。土地革命、抗日戦争、解放戦争を経て、党中央の指導者になりました。文化大革命期間中、2回「打倒」されましたが、復帰して、最終的に政治的理想である改革開放を実現しました。

鄧小平、故郷の発展に大きな関心を寄せていました。フランス留

学後70年間、広安に帰ったことは無かったのですが、「広安の仕事をよくしよう」と、指示していました。

鄧小平の故居と鄧小平記念館は今や広安市の最も人を引きつける観光名所になっています。

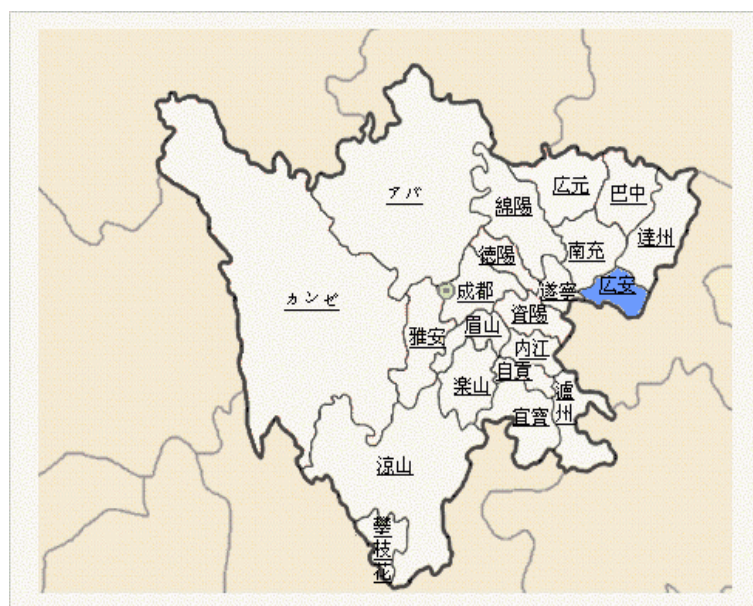


図4-6-1 広安市の四川省における位置

## 2. 基本情況

広安市は四川省の東部にあり、1998年に広安市として設立され、重慶市に最も近い市として、重慶市経済圏の玄関口となっています。四川盆地の縁に位置し、東部は丘陵地帯、西部は溪谷山地で、東低西高の地形を成しています。北から南へ市の中部を渠江が貫き、北から南へ市の西部を嘉陵江が流れています。

鄧小平関連の観光名所のほかに、カルスト地形の華莹山も昔からの仏教文化とその神秘的な景観を以って観光客を引き付けています。石林、湖、洞窟、瀑布、温泉、峡谷、竹林、森林など多彩な地形が、広安市を、中国優秀観光都市、四川省園林都市、四川省衛生都市の名誉に輝かせています。

## 3. 経済的実力

改革開放以来、特に広安が市として設立されて以来、広安市では鄧小平理論の旗印を高く掲げて、経済発展、社会進歩、政治安定と人民生活の向上のために取り組み、経済的な実力が著しく増強しま

した。2008年のGDPは404.9億元に達し、1996年比で5倍にもなっています。

重慶へは30分で行ける有利な立地条件は、重慶への農産物と資源の輸出を便利にしています。重慶からの観光客も内需拡大に大きく寄与しています。

表4-6-1 広安市の基本情況

市(州)政府所在地	広安	
URL	http://www.guang-an.gov.cn/	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	広安市街区域	
市街区域面積	1536平方キロメートル	
所轄県(市)	華エイ市、岳池県、武勝県、臨水県	
面積	0.6万平方キロメートル	
自然条件	年間降雨量1191.3mm、年間平均気温17.3℃、年間日照時間1362.4時間。	
人口	466.4万人	
民族	回族、チベット族、ミャオ族、イ族、チワン族、パイ族など43民族がある	
主要資源	鉱物資源、森林資源	
資源産業	エネルギー、建材、食品、観光	
観光資源	沿口古鎮、鄧小平郷里、龍須溝観光地、宝箴塞、後臨峽、石林観光地、岳池翠湖、岳池鳳山公園	
環境評価	良	
環境保護関連産業	ゴミ処理、汚水処理、排気処理	
アウトソーシング産業	IT、人力資源	
交通	空路	
	水路	水運
	高速道路	重慶へ行くのには四川省の中で最も近い。
	道路	鄧小平100年生誕記念の時に、全国からの寄付でインフラ整備が大きく進歩した。

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

インフラの建設も大々的に推し進められました。道路建設の推進、3Gの携帯電話ネットワークの開通、通信の光ファイバー化が実現しました。広安市市街区域が20平方キロメートルに拡大され、都市

のインフラも日を追って完備されてきました。同時に各県の都市再開発と都市化も大きな成果を収めています。

表 4-6-2 広安市の経済情況

GDP	総額	404.90 億元
	第一次産業	100.59 億元
	第二次産業	163.90 億元
	第三次産業	140.41 億元
	一人当たりの GDP	10862 元
平均給料	国営	23465 元
	民営	20297 元
住民一人当たり可処分所得		12053 元
住民一人当たり消費支出		7800 元
農民一人当たり純収入		4290.5 元
農民一人当たり生活消費支出		2675.3 元
年金加入者数		24.83 万人
年金収入総額		11.42 億元
就職者数		201.18 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

エネルギー、建材、食品加工工業が基幹産業として確立しました。中国華電グループが出資、建設した 240 万 KW の広安石炭発電所は広西で最大の企業です。広安愛衆社は上場企業で水力発電を主な業務にしています。渠江セメント工場と溪口セメント工場は 400 万トンの生産能力があり、四川省東部で大きなシェアを持っています。岳池酒造工場も鄧府酒造工場も藍剣ビール工場も食品企業として有名です。

広安市も成都同様に年間日照時間が 1,200 時間程度しかありません。降水量が多く、年間 1,200mm あります。4 月から 9 月までの間に日照と降雨が集中していますから、農業生産に適しています。

#### 4. 交通運輸

成都—南充—広安高速道路、重慶—広安—達州高速道路、隣水—墊江高速道路が開通し、広安市を中心とする交通の骨格が形成されました。各県や郷鎮も道路ネットワークで網羅されています。市内のどこからでも 30 分で広安市外区域に入ることができます。

鉄道については、重慶—武漢線の電化が完了しました。駅は 6 つあり、四川省東部地方の物質と旅客の集散センターになっています。毎日 12 本の旅客列車が通り、成都、重慶、北京、広州などへ到達できます。



水運については、渠江と嘉陵江がともに長江に注いでいるため、重慶、南京、上海まで直通で行くことができます。

空港こそありませんが、高速道路で1時間の重慶江北空港があります。

## 5. 都市建設

2004年は鄧小平氏の100年生誕記念でしたが、広州や深圳をはじめ、鄧小平氏の改革開放政策の恩恵を受けた多くの都市と企業が、広安市に対し、道路、博物館、学校、病院の建設など都市再開発の援助をしました。これによって、広安市の都市建設が10年早まったといわれます。道路が広くなり、両側に美しい街路樹が植えられ、遊歩道には築山や花壇が作られ、町全体が公園になりました。新しい建物も多くなり、都市の景観が大きく変わりました。

表4-6-3 広安市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	85
道路面積 (万平方メートル)	200
橋梁数 (個所)	12
街灯 (千個)	10
バス保有台数	40
タクシー保有台数(台)	327
公衆便所数 (個所)	28
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	200
水道普及率 (%)	85.00
都市ガス普及率 (%)	84.68
一人当たり道路面積 (平方メートル)	7.98
公園数 (個所)	6
公園緑化面積 (ヘクタール)	368
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	14.68
市街区域の緑化率 (%)	42.33
下水排出量 (万立方米)	686
下水道の長さ (キロ)	217
下水処理率 (%)	87.46
ごみ処理率 (%)	88.28

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

鄧小平氏の故郷は広安市街から7キロメートル離れた協興鎮にあります。援助資金が集中的に投下された場所のひとつです。鄧小平氏への感謝の念を表すために、四川省政府の許可を得て、ここに29.91平方キロメートルの保護区を設立し、改修した故居、洗硯池、翰林庭など鄧小平氏が青少年時

代に生活した場所を中心に、陳列館、銅像広場が建設されました。現在、国家AAAA級観光名所に指定されています。

2004年4月に広安職業技術学院が設立され、高等教育学校の無かった広安市の歴史に終止符を打ちました。現在は「科学技術で市を興す」戦略が実施され、基礎教育が強化され、高等教育の成果が顕著になっています。

## 6. 未来展望

2012年までに、広安市街区域を人口40万人の中心都市にし、国家生態花園都市、国家文明都市、国家衛生都市、国家最優秀観光都市を目指します。渠江兩岸に特色のある景観ゾーンを作り、渠江の西岸の開発を行います。産業規模、経済規模、人口規模の持続可能な成長を実現します。

重慶市が直轄市になって以来、中央政府の強力な支援があり、経済が急速に発展しています。重慶から30分という近い立地条件の良さも広安市の経済発展の有利な条件となるでしょう。

## 第五章 南部経済区——エネルギーと重化学工業基地5都市

### 第一節 内江市——成都重慶経済ゾーンの中心的立地条件を生かす

#### 1. ハイライト

内江市は地理的にちょうど成都と重慶の間に位置しています。人材、投資、商品が2つの大都市に流出してしまうか、独自の立地条件を生かして発展を遂げていくかは、内江市にとっては今後の分かれ道となっています。交通の利便性からたくさんの人々が内江市を通過しますが、その人たちを引き止めて市の内需拡大に如何に役立たせるかが大きな課題です。

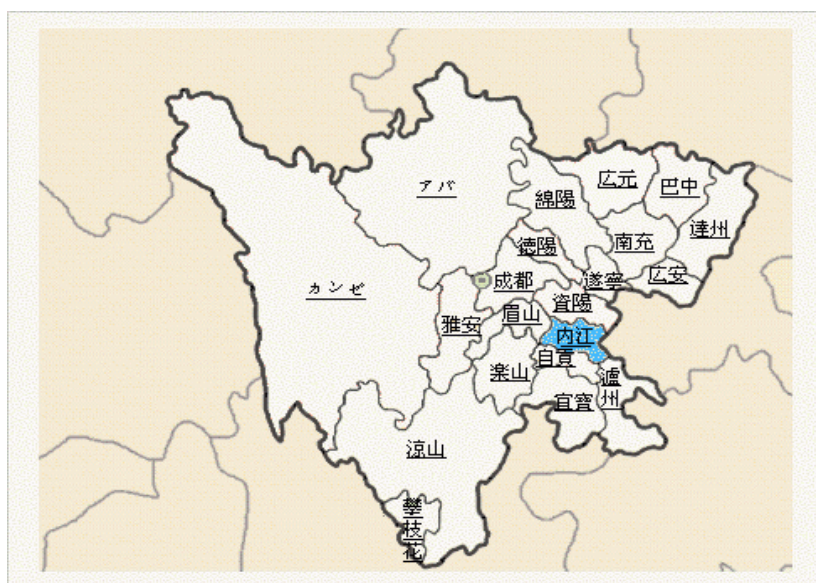


図5-1-1 内江市の四川省における位置

西部大開発により、内江市では第二次産業が発展しました。成都と重慶の二大都市に商品を提供するとともに、内江市を長江上流の生態環境の整った公園都市にするべく、観光業をはじめとする第三次産業により地域経済を発展させていく計画を立てました。2つの大都市の市民を中心に、都会の雑踏に疲れた人たちに心の安らぎの場を提供することが狙いです。

成都と重慶との連結を密接にし、自らの特徴を強調しながら成都重慶経済圏に溶け込むことによって地域経済を発展させることを目指しています。

#### 2. 基本情況

内江市は四川盆地の中央にあり、チベット高原から流入する沱江はここで半円を書くように曲がり、西の岸に半島のような平地を形成しています。この半島位置し、川に囲まれているため、内江という地名が付けられました。水運が最も重要な交通手段だった昔、ここに多くの港が作られました。内江市は、四川省中部の物質集散地になり、都会として次第に発展してきました。

内江市の周辺は砂糖きびの栽培が盛んで「甜城」とも言われ、製糖が伝統的産業で、砂糖が名産品になっています。内江市は地理的には丘陵が主で、四川省でも開発が早く、人口も多いため、段々畑

や段々水田がいたるところに見られ、農業が発達しています。東南部と西南部の一部の山地に森林と草原が広がり、観光開発が期待されます。

表 5-1-1 内江市の基本情况

市(州)政府所在地	内江	
URL	http://www.neijiang.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	内江市街区域	
市街区域面積	1569 平方キロメートル	
所轄県(市)	威遠県、資中県、隆昌県	
面積	0.5 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 1011.3mm、年間平均気温 17.3℃、年間日照時間 982.1 時間。	
人口	425.1 万人	
民族	漢民族、イ族、回族など	
主要資源	土地資源、森林資源、水利資源、環境資源	
資源産業	冶金建材、食品飲料、医学化学、機械業界と電力生産	
観光資源	聖水寺、西林寺、太白楼、重龍山摩崖石刻、東林寺の千手観音、山東曲阜のまねした孔子廟格局、「巴蜀四つの孔子廟」の始めと言われる資中孔子廟；羅泉鎮、名門望族「国中の国」、雲頂寨、丹青留白の大風堂、隆昌鳥居群など。	
環境評価	良	
環境保護関連産業	再生資源産業、廃水処理、排気処理、ゴミ処理など。	
アウトソーシング産業		
交通	空路	
	水路	水運から発達した都市だから、市内に港が多い。
	高速道路	成都重慶間の重要拠点。
	国道	四川省の真ん中だから、放射状の道路が多い。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

内江市には、内江師範学院、内江職業技術学院を始め、1,440 の学校があり、61.43 万人の学生が

在学中で、教職員数は3.34万人に達しています。文化教育事業は歴史的伝統としっかりした基礎があり、10,000人あたりの大学受験合格率は四川省第2位です。

### 3. 経済的実力

ここ数年来、内江市は「工業で市を強める」戦略を実施し、千億元規模の産業政策を計画し、それぞれ百億元のGDPを生み出す工業団地と企業を育成して、中小企業を発展させることに努めてきました。内江市は、四川省の工業基地であると同時に、成都と重慶の工業部品と食品の供給基地で、2008年は、冶金建材、食品加工、機械製造、医薬加工、電力エネルギーの五つの基幹産業による売上が586.93億元に達しました。これは、工業全体の83%に上ります。

売り上げが1億元を超える企業が121社ありますが、そのうち川威グループは冶金建材分野の代表的な企業で、8年連続40%の成長を続け、2008年の売り上げは150億を突破しました。6億トンという豊かな石炭埋蔵量のおかげで、石炭火力発電においては四川省トップの発電量を誇っています。峨眉山ディーゼル発動機社は全国第8位のディーゼル発動機生産基地で、タイル、鋼材、セメント、飼料などでも知名度が高く、大きなシェアを有する企業が現れています。

表5-1-2 内江市の経済情況

GDP	総額	488.28 億元
	第一次産業	97.84 億元
	第二次産業	262.03 億元
	第三次産業	128.41 億元
	一人当たりのGDP	12309 元
平均給料	国営	23922 元
	民営	14971 元
住民一人当たり可処分所得		11301 元
住民一人当たり消費支出		8253 元
農民一人当たり純収入		4403.2 元
農民一人当たり生活消費支出		3357.0 元
年金加入者数		59.94 万人
年金収入総額		21.54 億元
就職者数		212.90 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

市内には四川省級の工業開発区が3つ、内江市級の工業開発区が4つあって、125社の企業が入居し、261.67億元の売り上げを実現しています。

また、600億協力の天然ガス埋蔵量を誇り、内江市の市民生活の向上と工業発展に必要なエネルギ

一が保障されています。

養豚業では「内江豚」の精肉が主で、ブランドになっています。

#### 4. 交通運輸

内江市は四川省東南部ないし中国西南部の交通の要所で、この分野では成都に次いで重要な場所とされています。

鉄道では成都—重慶線、内江—昆明線、資陽—威遠線、隆昌—瀘州線がここで交差し、営業距離は190キロメートル、19の駅があります。鉄道ネットワークで全国としっかり結ばれています。

高速道路では成都—重慶線、内江—宜賓線、隆昌—納溪線が「T」の字の形で交通の骨格を成しています。41本の県道が市内の2区3県を走り、132本の郷道が市内全域を網羅しています。

沱江を中心にして総延長416キロメートルの水運水路が開通し、74の郷鎮が水路で連絡しています。また、瀘州を経由して長江に入れます。最近、内江市内の川沿いでは堤防が整備され、700メートルにわたる20の波止場が新しく建設されました。これで船による移動がさらに便利になっただけでなく、都市景観も改善されました。

観光地では、電気観光自動車が運行され、観光客の足として活躍するとともに、環境保護のにも役立っています。

天然ガスの輸送に使われるパイプラインも運輸手段の一つです。

#### 5. 都市建設

内江市は三方を川に囲まれ、水に恵まれた都市です。市内に立ってみると、視界がよく、都市の景観を一望に収めることができます。新築した堤防に沿って、さまざまな木や花が植えられ、綺麗な遊歩道になっています。朝には、太極拳やダンスなどをして体を鍛えている市民の姿をよく見かけることができます。日中は、喫茶などのテーブルが並べられ、市民の憩いの場になっています。

川には4つの大橋がかかり、市内の交通は非常に便利です。両岸には立派なオフィスビルやマンションが建てられ、経済発展の恩恵を享受しています。

映画館、劇場、文化会館、図書館、ラジオ局、テレビ局、体育館などの文化的インフラも整っています。

#### 6. 未来展望

成都経済経済区計画の目的は西部地域の工業の中心都市である重慶市と、内陸随一の消費市場を有する成都市との経済面における連携強化にあります。北京天津経済区、長江デルタ経済区、広州深圳

を中心とする華南経済区に次いで、中国経済の第四のエンジンとして大きな期待が寄せられています。両都市間の連携強化のため、2014年中の開業に向け、2010年3月、両都市を結ぶ高速鉄道路線「成渝城際客運專線」の建設が開始されています。開通後は、両都市間が約1時間で結ばれます。

表5-1-3 内江市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	162
道路面積 (万平方メートル)	297
橋梁数 (個所)	34
街灯 (千個)	22
バス保有台数	564
タクシー保有台数(台)	700
公衆便所数 (個所)	83
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	293
水道普及率 (%)	65.52
都市ガス普及率 (%)	65.40
一人当たり道路面積 (平方メートル)	6.00
公園数 (個所)	5
公園緑化面積 (ヘクタール)	144
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	2.91
市街区域の緑化率 (%)	18.41
下水排出量 (万立方米)	2705
下水道の長さ (キロ)	206
下水処理率 (%)	33.90
ごみ処理率 (%)	12.06

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

この二大都市の真ん中に位する内江市は農業、工業、交通、資源、観光業など様々な分野で優位性を持っています。それらを十二分に発揮することができれば、内江市の将来は更に豊かなものになるでしょう。

## 第二節 自貢市——井戸から取る塩

### 1. ハイライト

自貢市といえば、自ずと塩が思い浮かびます。それは、この都市ではいたるところに塩の存在があるからです。地下の深いところの塩水を取り出すためには井戸を掘ることが重要です。市内には井という字の付いている地名が200を下らないといえます。自貢市の名も、最も有名な「自流井」と「貢

井」という2つの地名を取って付けられました。

塩業歴史博物館の庭には「深海井」という井戸がありますが、1,001.42メートルの深さで、人力で1,000メートルまで掘り下げた世界で最初の井戸です。100メートルの木製の塔があり、塩水を取り、天然ガスで水を蒸発させ、豆乳で不必要なものを除いて真っ白な塩ができるまでの昔ながらのプロセスを実演しています。1988年に全国重点保護文物に定められ、自貢市の重要な観光名所になっています。

自貢市の塩は地下深いところの塩水を使用するため、汚染は一切無く、豆乳を使用するという自然な加工方法で処理します。人体に必要な多くの元素を少量ずつ含む上に、血圧が高くなるというメリットがありますから、四川省だけでなく、国内外の市場でも珍重されています。

## 2. 基本情況

自貢市は海に遠い四川省の南部にあり、地下塩水を取って塩を作る長い歴史を持っているため、昔から「塩の都」と呼ばれています。近代になって、1853年に太平天国農民蜂起軍が南京を占領し、コストの安い海塩の供給が途絶え、四川省の塩が湖北省、湖南省などの大市場を獲得したことにより、自貢市の塩業が大きく発展しました。さらに1937年の抗日戦争のさなか、沿海地方が占領されたため、自貢市をはじめとする四川省の塩が再び全国へ供給されました。自貢市は塩で栄えた都市と言えます。

塩業で蓄積された経済力で、自貢市は次第に機械、化学、塩業、紡績、軽工業、食品、照明器具、新型建材などの産業を備え合わせた工業都市へと成長しました。

1972年、自貢市の東北11キロの大山鋪で、1億6千万年前の恐竜及び多くの脊椎動物の化石が発見されました。1977年、1979年、1984年の3回の大掛かりな発掘では、2,800平方メートルの範囲内から、恐竜と古代脊椎動物200体、10,000件以上の化石が出土しました。恐竜、魚類、両棲類、哺乳爬行類などの化石が、現在、自貢恐竜博物館に保存展示されており、自貢市観光の目玉です。

表5-2-1 自貢市の基本情況

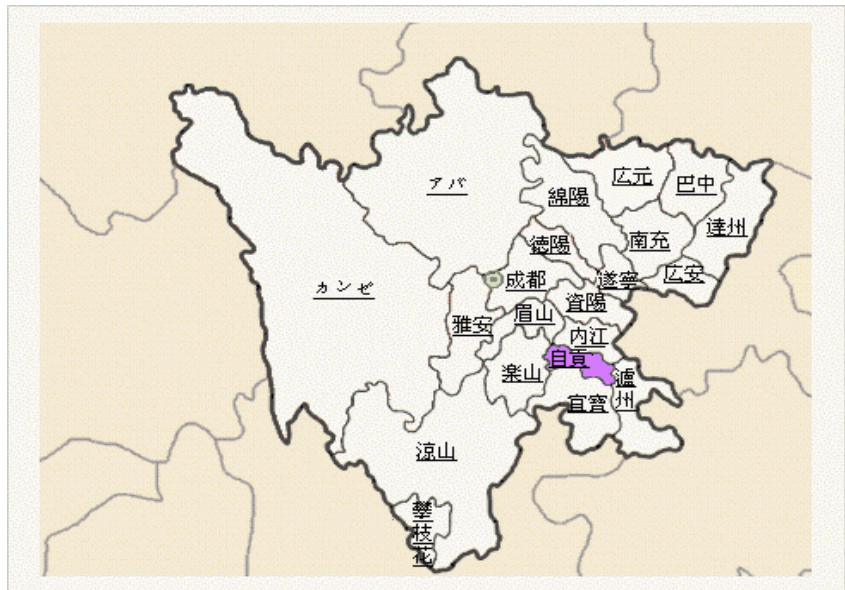


図5-2-1 自貢市の四川省における位置



市(州)政府所在地	自貢	
URL	http://www.zg.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	自貢市街区域	
市街区域面積	1438 平方キロメートル	
所轄県(市)	榮県、富順県	
面積	0.4 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 908.5mm、年間平均気温 18°C、年間日照時間 958 時間。	
人口	325.6 万人	
民族	漢民族以外、少数民族 37 民族を持っている。人数が割合多いのは回民族で、次いでチベット民族、イー民族、満民族、ミャオ民族、トゥチャ族だ。	
主要資源	土地資源、森林資源、水利資源、環境資源	
資源産業	牧畜業、林業、農業、漁業	
観光資源	自貢市は国務院により国家歴史文化名城と評されて、その後も省級景色名所、国家対外開放都市と全国衛生都市と許可された。自貢市は山を背にして水に臨んで、景色も美しく、「千年の塩都市」、「恐竜の故郷」、「南国の灯都市」で有名である。	
環境評価		
環境保護関連産業	ゴミ処理、廃水処理、排気処理、廃タイヤ、廃ゴム、廃プラスチックの回収産業など	
アウトソーシング産業	アニメ産業、化学産業	
交通	空路	良
	水路	
	高速道路	高速道路は 10 年前に開通された。
	道路	一般道路の補修に力を入れるべき。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

もう一つ、世に自貢市の名を知らしめた名物は、年に 1 度、元宵節(小正月)に開催される提灯祭りです。紙、絹、シルク、ガラスなどの材料を用いて作った提灯は、竜灯、走馬灯、工芸灯、動物灯、人物灯、花鳥灯などの種類があり、公園に集中展示され、正月気分が盛り上がります。国家観光局か

らも中国民間芸術コースとして推薦されています。これまで、北京、上海、広州、重慶、香港、マカオ、台湾など200の都市に出展して、延べ1億5,000万人が足を運びました。日本、韓国、シンガポール、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランドなどの外国に50回も巡回出展して、賞賛を受けています。

### 3. 経済的実力

四川省内の上位3都市の発展から自貢市の経済力の推移の一端を垣間見ることができます。50年代は成都、重慶、万州、60年代には成都、重慶、自貢の順になり、70年代には成都、重慶、渡口（現在の攀枝花市）、80年代には成都、重慶、綿陽になりました。重慶が直轄市となってからは成都、綿陽、徳陽になっています。

表5-2-2 自貢市の経済情況

GDP	総額	486.85 億元
	第一次産業	82.11 億元
	第二次産業	247.93 億元
	第三次産業	156.81 億元
	一人当たりのGDP	17348 元
平均給料	国営	25263 元
	民営	22104 元
住民一人当たり可処分所得		11414 元
住民一人当たり消費支出		8682 元
農民一人当たり純収入		4627.0 元
農民一人当たり生活消費支出		3353.4 元
年金加入者数		62.68 万人
年金収入総額		17.31 億元
就職者数		180.58 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

自貢市の工業は以前栄えていたものの、産業の構造調整が遅れ、新興のIT、自動車などの産業が発達しませんでした。いかんにして投資と企業を誘致し、新興産業を育て、経済の新しい成長点とするかが現在の大きな課題です。代表的な企業は久大塩業グループ、鴻鶴化学グループ、東方ボイラー、自貢硬質合金などですが、塩と関係ある企業が多数あります。民営企業のGDPが全体に占める割合は52.4%で、サービス業と製造業を中心とする中小企業の街でもあります。

2009年、西部大開発と国家の内需拡大政策の影響で、発電、石炭、設備製造業、食品加工、金属冶金及び圧延業などが成長を続け、不動産業の発展により、建築業も大きく発展しています。

四川省の重点プロジェクトの自貢機械新素材工業団地、自貢市汚水処理工場第二期工事、自貢—瀘州高速道路の着工などの公共事業は自貢市の経済を牽引し、国際金融危機の影響に対処する有力な手段になっています。

水利灌漑施設の整備により、有効灌漑農地が 115.95 万ムーに達し、農業、養殖業、漁業、林業とともに急速な成長を見せました。

表 5-2-3 自貢市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	498
道路面積 (万平方メートル)	581
橋梁数 (個所)	92
街灯 (千個)	23
バス保有台数	808
タクシー保有台数(台)	1569
公衆便所数 (個所)	225
道路清掃面積 (万平方メートル)	528
水道普及率 (%)	83.26
都市ガス普及率 (%)	73.86
一人当たり道路面積 (平方メートル)	8.05
公園数 (個所)	9
公園緑化面積 (ヘクタール)	378
一人当たり公園緑地面積(平方メートル)	5.24
市街区域の緑化率 (%)	32.46
下水排出量 (万立方米)	6057
下水道の長さ (キロ)	411
下水処理率 (%)	72.81
ごみ処理率 (%)	74.48

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

#### 4. 交通運輸

自貢市市内を鉄道 (内江—昆明線) が貫き、7 つの駅があります。成都、広州、重慶、昆明などの都市へ延びています。

内江—宜賓高速道路も市内を通っており、それを骨格にして、2,121 キロの道路が県、鎮をつなぐネットワークを形成しています。

## 5. 都市建設

自貢市は、1939年に設立され、産業の発達により人口が集まり、四川省南部初の100万人都市になりました。

自貢市は有名な山城で、「半城青山半城楼」という表現がこの都市の特徴を的確に表しています。木が生い茂っている丘の上に聳え立つ新しいマンションは、この都市に立体感を与えるとともに大都会としての雄大さを演出しています。小さな溪流が市内を流れ、水と山と都市とが調和の取れた形で存在しています。2,000年来の塩業の歴史で培われた伝統文化と蓄積された巨大な財産が自貢市に多くの物的遺産を残し、豊かな人文景観を与えています。「西秦会館」に代表されるような建築様式を形成しており、「千年の塩都」「恐竜の故郷」「南国提灯の町」の美称を得ています。

## 6. 未来展望

四川省南部は、農業が発達すると同時にエネルギーと化学工業の資源にも恵まれ、成都と重慶の間という良好な立地条件もあるため、効率的な分業体制を確立すれば、大きな市場に発展する可能性は十分あります。自貢市は歴史的栄光があり、工業の伝統も有りますから、豊かな資源、近代的産業、歴史的文化的伝統、自然遺産の恐竜遺跡という特長を十二分に発揮すれば、自貢市の前には、輝かしい未来が開けるでしょう。

### 第三節 宜賓市——銘酒「五糧液」を生んだ風土

#### 1. ハイライト

宜賓市といえば、まず、連想されるのは中国名酒の「五糧液」でしょう。このことは、上場企業の五糧液社が巨大な経済力を武器に集中的に広告を展開したこともありますが、なんといっても、ブランド確立のための長年の努力の積み重ねの賜物といえます。四川省には以前から多くの酒造工場がありましたが、ブランド力と市場力が欠けていたため、山東省などのブランド力のある国営工場に原酒として納めていました。しかし、当時のブランド力のある酒は品質が安定せず、加えて腐敗が横行していましたから、ブランド倒れの現象が起き、話題を呼びました。

五糧液社は、ここに巨大なビジネスチャンスがあると見て、原酒を購入せず、「五糧春」「金六福」「人民大会堂」などのトレードマークを登録して、その使用料を小さな酒造工場に貸すことにしました。品質管理と瓶詰めをすべて五糧液社が有償で行うことによって、品質を安定させることに成

功しました。つまり、市場での責任はすべて原酒を作る工場のほうにあることになり、工場にとっては真剣勝負です。五糧液社はトレードマーク使用料と瓶詰め作業料で収入を得ることができます。

この責任を明確にした分業システムは大成功して、五糧液社グループのシェアは全国一になりました。そして、五糧液は世界最大の酒造工業に成長することができました。

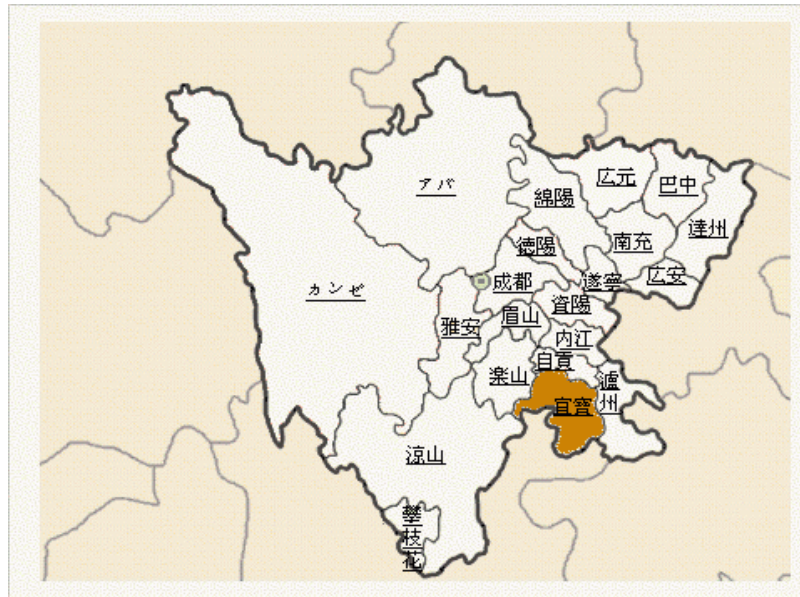


図5-3-1 宜賓市の四川省における位置

## 2. 基本情況

宜賓市は四川省の南部にあり、長江の上流である金沙江と成都を經由して流入する岷江がここで合流して初めて「長江」と呼ばれるようになることから、「万里の長江第一城」とも称されます。

中国人の精神的な支柱として、「論語」がありますが、その冒頭に「朋ありて遠方より来る、亦、楽しからずや」とあります。この言葉通り、中国人は友達になると必ず乾杯をします。中央政府系や軍隊関係者はよく茅台酒を飲みますが、一般にはむしろ五糧液が喜ばれます。

ここには3,000年に及ぶ酒造の歴史があります。長江上流の町で開発が最も早く、長い歴史を誇る都市の一つです。発達した酒造工業は酒の文化を発達させ、宜賓市を文字通り「中国酒都」にしました。

## 3. 経済的実力

2008年、宜賓市の成長率は前年を3つ順位を上げて四川省第4位になり、改革開放以来2番目に速く記録を更新しました。

宜賓市では「工業で宜賓市を強める」政策を実施しています。五糧液食品工業開発区をはじめ、13の工業開発区を作りました。五糧液食品工業開発区には、五糧液グループのほか、高洲酒業グループ、紅樓夢酒業グループ、叙府酒業、叙府茶業、竹海酒業、華夏酒業などの食品企業が入居し、宜賓市の産業の柱となっています。宜賓市独特の自然条件、長い歴史を持つ酒造業及び酒造に関わる豊富な人材が強みとなり、全国の80%の酒造企業と様々な形で連携しています。宜賓市ならではのメリッ

トです。

表 5-3-1 宜賓市の基本情況

市(州)政府所在地	宜賓	
URL	<a href="http://www.yb.gov.cn/">http://www.yb.gov.cn/</a>	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	宜賓市街区域	
市街区域面積	1123 平方キロメートル	
所轄県(市)	宜賓県、南溪県、江安県、長寧県、高県、珙県、筠連県、興文県、屏山県	
面積	1.3 万平方キロメートル	
自然条件	年間降雨量 922.3mm、年間平均気温 18.4℃、年間日照時間 945.6 時間。	
人口	530.8 万人	
民族	漢民族以外、ミャオ族、イ族、回族など 24 少数民族がある。	
主要資源	農業資源、鉱物資源、水利資源	
資源産業	食品、エネルギー、化学工業、化学繊維、機械、紙製造、建材など	
観光資源	自然景色—蜀南竹海、石海洞郷、博望山、西部大峡谷、忘憂谷、筠連岩溶、筠連古楼山、八仙山、七仙湖、金秋湖。人文景色—李庄古鎮、龍華古鎮、流杯池、五粮液工業園區、夕佳山民居、趙一曼記念館、真武山古建筑群、棘人懸棺、丞相祠堂、華藏寺、大觀楼、哪咤行宮、宜賓天池。	
環境評価		
環境保護関連産業	ゴミ処理、廃水排気処理、生態農業	
アウトソーシング産業		
交通	空路	空港あり
	水路	長江水運は四川省の優先発展プロジェクトである。
	高速道路	高速道路は 10 年前に開通された。
	道路	雲南省と四川省南部の交通拠点である。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

また、エネルギー産業も宜賓市の産業経済の大きな柱です。建設中の向家坝水力発電所は、640 万 kW の発電量を誇る中国第 3 の水力発電所で、総投資額は 434 億元です。ダム建設は 2005 年に着工し、2008 年に完成しました。2015 年に全ての工事が完了し、発電を開始する予定です。筠連石炭基地は、

石炭の埋蔵量が 35.82 億トンに上ります。これは四川省全体の 4 分の 1 にあたる量です。2001 年に開発が始まり、今では中国 13 の重点石炭基地のひとつになっています。この他の火力発電建設でも大型プロジェクトが進められています。

化学繊維、紡績、機械製造業も、システム立った産業体系を形成しています。

表 5-3-2 宜賓市の経済情況

GDP	総額	645.86 億元
	第一次産業	124.44 億元
	第二次産業	356.66 億元
	第三次産業	164.75 億元
	一人当たりの GDP	14489 元
平均給料	国営	25721 元
	民営	19935 元
住民一人当たり可処分所得		11862 元
住民一人当たり消費支出		9889 元
農民一人当たり純収入		4512.7 元
農民一人当たり生活消費支出		3160.9 元
年金加入者数		44.01 万人
年金収入総額		20.59 億元
就職者数		317.30 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

#### 4. 交通運輸

宜賓市は、四川省南部の水運、鉄道、高速道路、一般道路、航空を持ち合わせ、地域の中心都市になっています。

鉄道では内江—昆明線が開通し、2009 年に建設が確定した成都—貴陽高速旅客専用線と重慶—昆明高速旅客専用線も宜賓市を経由することになっています。

国道 213 号線と国道幹線 GZ40 が市内を通り、高速道路では内江—宜賓線と宜賓—昆明線が開通、樂山—宜賓線と宜賓—瀘州線が建設されています。さらに金沙江沿江高速道路が計画されています。

菜坝空港があり、北京、上海、昆明、深圳などへの定期便が就航しています。

長江と岷江の合流点にある宜賓市は、水路輸送で栄えた街でした。長江を下ると上海に通じ、金沙江を遡ると雲南省の水富へ辿り着き、岷江により樂山市とつながっています。

交通運輸そのものが宜賓市の「主要産業」として他の産業を力強く支え、地域経済の発展に大きく寄与しています。

## 5. 都市建設

宜賓市の都市建設は、市の長い歴史、強い経済力、便利な交通に支えられ、中国経済発展の上昇気流にも乗って、急速な発展を遂げました。市内に入ると、道路が広く整備され、インフラも整い、新しいオフィスビルや高層住宅が立ち並び、大都会の観を呈しています。

表 5-3-3 宜賓市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	151
道路面積 (万平方メートル)	311
橋梁数 (個所)	14
街灯 (千個)	2
バス保有台数	393
タクシー保有台数(台)	632
公衆便所数 (個所)	66
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	432
水道普及率 (%)	78.59
都市ガス普及率 (%)	90.51
一人当たり道路面積 (平方メートル)	8.53
公園数 (個所)	4
公園緑化面積 (ヘクタール)	534
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	14.64
市街区域の緑化率 (%)	34.01
下水排出量 (万立方米)	4387
下水道の長さ (キロ)	204
下水処理率 (%)	11.88
ごみ処理率 (%)	78.79

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

市の中心部の大観楼は、宜賓市の歴史を刻んだ中国風の建物で、宜賓市のシンボルになっています。金沙江と岷江が合流し、この地より長江となりますが、合流点の半島には長江0キロ記念広場があり、古い町並み、城壁、城門が保存され、観光の名所にもなっています。

川と山に囲まれているため、景観に恵まれているのは言うまでもありません。市内から眺められる翠屏公園は全国第二の都市森林公園になっています。

長江の北岸に位する10里の酒城は、工業団地ながら、鵬程広場、奮進塔、安楽泉、世紀広場、酒史博物館、財富ホテルが建設され、観光客を引き付けています。



## 6. 観光名所

蜀南竹海は、名前の通り 120 平方キロメートルの山々が竹の森に覆われ、中国で最も美しい森林だと評されています。竹は太い節があり、中は空洞になっていますから、節操と虚心を求める中国人の審美情緒によくマッチします。昔から、「食に肉無くとも、居に竹無かるべからず」という言葉があり、竹は中国文人の座右の銘的な存在です。中国文化が見直される時代の風潮の中で、蜀南竹海は観光地として、人気を博しています。

1988 年に国家級景勝地に選ばれ、オリンピックの宣伝映画や劇映画のロケ地にもなり、中国の代表的な山水風景の 1 つになりました。

もう 1 つの景勝地は李荘古鎮です。もともと長江の畔の小さな街でしたが、1939 年、蒋介石政府の重慶移転に伴い、国立同済大学、中央研究院、中央博物館、中央営造学社、中国大地測量所、金陵大学などがここに移転してきました。現在は中国 4 大文化センターの 1 つになりました。明清時代に作られた寺、殿堂、劇楼、古い町並み、古い民家が、学術機関と絶妙に調和して、ここならではの風景をつくっています。ここで多くの学者の業績を偲ぶことは李荘観光の大きな魅力です。戦争終結とともにこれらの機関は南京などの大都会に移されました。李荘にはまた昔の静けさが戻り、遺跡も保存できたわけです。

## 7. 未来展望

宜賓市は五糧液に代表される酒文化、竹文化、長江文化、茶文化という文化伝統を生かし、国家級企業技術センターの科学技術力を動員しつつ、交通運輸と物質集散の要としてのメリットを発揮して、産業経済をさらに発展させようと意欲を燃やしています。

長江沿いに高速道路が建設されますが、成都重慶経済区の中心地帯に位置する宜賓市の発展のために新しいチャンスを提供するでしょう。

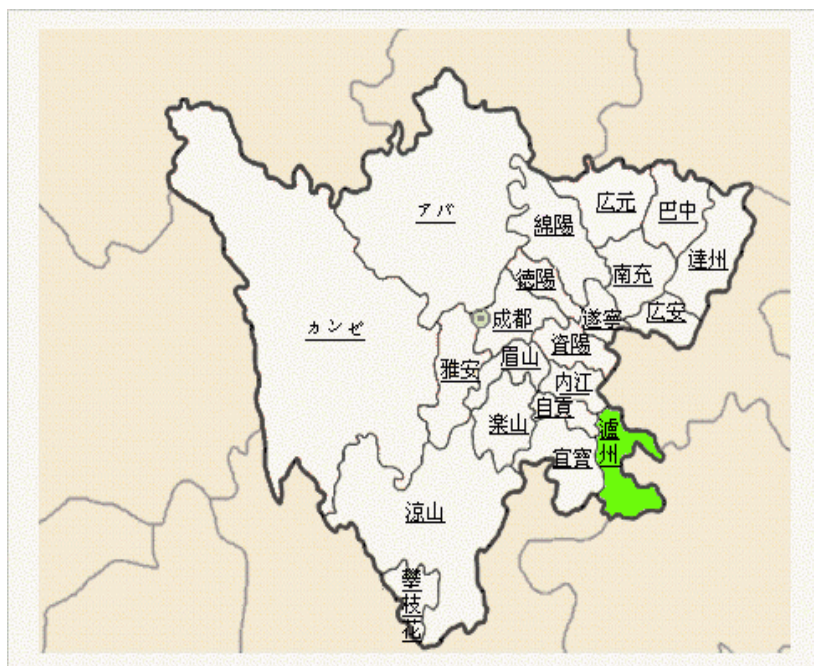
## 第四節 瀘州市——賞味できる歴史 1573 年

### 1. ハイライト

中国でテレビを見ると、1573 ブランドのお酒の広告を目にすることがあるでしょう。そのキャッチフレーズである「あなたの賞味できる歴史は 436 年——国窖 1573」は多くの人の脳裏に焼きつけられ、瀘州産のお酒のブランドアップに貢献しました。瀘州市にも悠久な酒造の歴史があり、現在、瀘州老窖株式会社で使われている最初の前種貯蔵池は明の時代の万暦年間、つま 1573 年に作られたもので、

430年以上もの歴史があり、全国重点保護文物に選ばれています。400種類の微生物の働きで、瀘州産のお酒を香ばしく、柔らかく、爽やかな風味に仕上げています。

瀘州産のお酒は1915年にパナマの万国博覧会に出展して金メダルを獲得したのを皮切りに、これまでに国際的なイベントで金メダルに17回も輝きました。1952年に中国8大名酒に選ばれ、中国の濃香型白酒の代表格になっています。



中国の白酒は五糧液や瀘州老窖に代表される濃香型と茅台

図5-4-1 瀘州市の四川省における位置

酒の代表される醬香型の2種類に分類されています。ほとんどの白酒は濃香型ですが、赤水河流域の特殊な水質により、茅台酒をはじめとする名酒が生まれています。赤水河は瀘州市にその起源を有することから、瀘州においても茅台酒と風味が同じである郎酒ブランドが生まれました。懸命な市場開拓と品質向上の努力により、郎酒は醬香型の中でも大きなシェアを獲得しています。

## 2. 基本情況

瀘州老窖と郎酒は瀘州市の産業経済で最も重要な地位を占めていますが、四川省を主とする西南部へ販売される青島ビールもここで生産されています。

43.32億トンの石炭、407億立方メートルの天然ガス、32.17億トンの硫化鉄鉱など豊富な資源を有し、化学工業の発展のために物資的な基礎条件が整っています。現在、瀘州天然ガス化学有限公司は天然ガスを利用して窒素化学肥料を生産する中国最大の化学工場であり、四川天華、瀘州北方、四川火炬、瀘州墨黒、瀘州鼎力、瀘州宝光などの化学系企業が瀘州市を全国の化学工業の重要な基地のひとつにし、アジア最大の尿素生産基地を形成しています。瀘州市政府は4つの化学工業団地建設を計画し、科学技術、土地、資源、金融、投資などの面で化学工業の急速な発展をサポートしていく政策を打ち出しています。

瀘州市は四川省の機械設備製造業の基地でもあります。自動車クレーン、研削機械、道路施工機械、清掃車、上空作業車、ゴミ圧縮車などが全国に販売されています。CNG自動車の生産基地を目指しています。

表 5-4-1 瀘州市の基本状況

市（州）政府所在地	瀘州	
URL	http://www.luzhou.gov.cn/zhengwu/index.html	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	瀘州市街区域	
市街区域面積	2132 平方キロメートル	
所轄県（市）	瀘県、合江県、叙永県、古蘭県	
面積	1.2 万平方キロメートル	
自然条件	年間降雨量 1052.1mm、年間平均気温 17.7℃、年間日照時間 1178.3 時間。	
人口	493.4 万人	
民族	合わせて 40 民族があつて、漢民族が総人口の 98.47%を占めて、他の 39 少数民族でミャオ民族が一番多い、総人口の 1.26%を占めて、他はイー民族、回民族、満民族、トゥチャ族、チベット民族、モンゴル民族などである。	
主要資源	エネルギー資源、水利資源、鉱物資源	
資源産業	酒製造業、化学工業、機械工業	
観光資源	景色の良い名所が多い。①国家級公園公園佛宝は同緯度では最も完備された常緑広葉樹木地区と評価されており、総面積は 380 平方キロある。②古藺黄荊原始森林、八節洞滝、紅龍湖、二郎美酒河、呉公岩、白馬洞、ウーロン洞なども観光開発の余地はまだまだ大きい。③市街区域茜草堤長江岸辺の瀘州竜眼林観光地は長江に沿って緑の長廊が 5 キロにわたって伸び、世界の旅行専門家に「四川生態旅行と観光農業の最高の場所」と評価された。叙永丹山省級景色名所、省級自然保護区一面稿溪、龍泉洞；瀘県玉蟾山、玉龍湖。④納溪天仙洞、鳳凰湖；江陽区方山、楊橋湖、甘いサクランボ園、桂妃園、瀘州桂園林の“山、水、園、林”。⑤合江省級景色名所筆架山、法王寺、將軍湖と巴蜀一絶—瀘州漢棺、堯墳古鎮、福宝古鎮。⑥龍馬潭区九獅山、大通山、芙蓉島、龍馬潭、洞兵亭など。	
環境保護関連産業	排気処理、廃水処理、ゴミ処理、利用可資源の回収など	
アウトソーシング産業		
交通	空路	空港建設中
	水路	長江水運は四川省の優先発展プロジェクトである
	高速道路	高速道路は十年前に開通され、四川省から貴州省經由で広西自治区の海運港への重要通路である。
	道路	山地だが、瀘州市の強い経済力に支えられ、県道や村道は整備されている。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

### 3. 経済的実力

四川省、雲南省、貴州省、重慶市の境に位置し、交通運輸に有利であるため、古来より商業と貿易が発達しています。例えば、成都の錦、自貢の塩、内江の砂糖、貴州省の鉛、雲南省の銅、瀘州のお米、白酒、漢方薬、豚の毛、ヤギの皮などはここを経由して売られていきます。改革開放以来、瀘州市は地域経済の発展に努め、ほかの地域と相互互惠、相互補完の関係を結び、世界経済を視野に商業貿易を発展させてきました。

47.14 万ヘクタールの耕地、41.88 万ヘクタールの山林があり、日照時間が長く、農業発展の生態条件に恵まれています。

瀘州市は四川省の教育の重点地域でもあります。瀘州医学院は 1951 年に設立され、四川省の重要な医師養成基地で、ここを卒業した多くの学生が西南部の多くの病院に勤務しており、人々の健康のために貢献しています。また、四川警察学院が 1950 年に設立され、警察官の能力向上に大きく貢献しています。

表 5-4-2 瀘州市の経済状況

GDP	総額	508.42 億元
	第一次産業	105.81 億元
	第二次産業	247.21 億元
	第三次産業	155.40 億元
	一人当たりの GDP	11831 元
平均給料	国営	23554 元
	民営	22174 元
住民一人当たり可処分所得		12065 元
住民一人当たり消費支出		8839 元
農民一人当たり純収入		4332.2 元
農民一人当たり生活消費支出		3387.2 元
年金加入者数		38.16 万人
年金収入総額		17.81 億元
就職者数		241.18 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

### 4. 交通運輸

重慶市が直轄市として独立して以来、港湾インフラ整備の資金が瀘州市に投入され、機械化されたコンテナ港として整備され、瀘州市は四川省の長江沿いの最も重要な港になりました。瀘州市の交通

は長江航路をメインにして、長江沿いの大都会との連絡を密にして、西には樂山に遡ることができ、東には重慶、武漢、上海まで行くことができます。

瀘州市は同時に四川省から貴州省経由で広西自治区の北海港への海に出る高速通路の重要拠点です。成都—瀘州間は既に開通し、瀘州—貴陽間、瀘州—宜賓間も建設が進められており、近く完成する予定です。

表 5-4-3 瀘州市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	363
道路面積 (万平方メートル)	677
橋梁数 (個所)	17
街灯 (千個)	31
バス保有台数	718
タクシー保有台数(台)	1117
公衆便所数 (個所)	120
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	612
水道普及率 (%)	77.40
都市ガス普及率 (%)	71.63
一人当たり道路面積 (平方メートル)	10.50
公園数 (個所)	9
公園緑化面積 (平方メートル)	517
一人当たり公園緑地面積 (平方メー)	8.02
市街区域の緑化率 (%)	38.13
下水排出量 (万立方米)	6423
下水道の長さ (キロ)	540
下水処理率 (%)	65.13
ごみ処理率 (%)	100.00

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

鉄道は成都と重慶を結び、瀘州市の重要な交通手段です。

空港は全国の主な都市を空路で結び、瀘州市の交通を一層便利にしています。

## 5. 都市建設

瀘州市も山と川に囲まれた都市です。山と川は都市の発展を制約すると思われがちですが、経済と生産力の発展により、交通インフラが整備され、都市の発展の空間が無限に広げられました。旧市街区域はもとより、新しい龍馬潭区、納溪区にも商業施設、高層住宅、オフィスビルなどが立ち並んでいます。

## 6. 未来展望

瀘州市は重点的に都市インフラと基礎産業を発展させ、科学技術、商業貿易、金融、教育などの第三次産業の推進に力を入れ、都市建設のプロセスを早める壮大な計画を有しています。2009年から2012年の第一段階は快速発展時期であり、都市人口を90万人から100万人に増加させ、市街区域を100平方キロとし、四川省、雲南省、貴州省、重慶市の境に位置する交通、商業貿易、観光センターとなることを目指します。

2013年から2020年の第二段階はグレードアップと推進時期で、都市人口を150万とし、市街区域を150平方キロ、初歩的に四川省、雲南省、貴州省、重慶市の結合部にある総合的サービスセンターへと成長を遂げます。

瀘州市は「成都重慶経済圏」の重要な都市であり、豊富な資源と科学技術人材の優位性を有し、西部化学城としての役割を担っており、また、他の経済区域との相互補完性がありますから、瀘州市にとって地域協調発展は重要な意義を持っています。

## 第五節 樂山市——大仏と峨眉山

### 1. ハイライト

樂山市といえば、樂山の大仏と峨眉山の二ヶ所の世界文化遺産がまず思い出されます（詳しくは付録をご参照されたい）。2008年には樂山を訪れた国内外の観光客は延べ1,234万人に達し、観光関連収入は91.4億元にのぼります。

樂山の人にとって誇りとしていくことは、歴史上、この地が宋代の文豪の蘇東坡から近代の郭沫若まで、多くの文学者を輩出し、李白、杜甫、陸遊などの詩人がここで多くの人々の心に響く詩を詠んだことです。

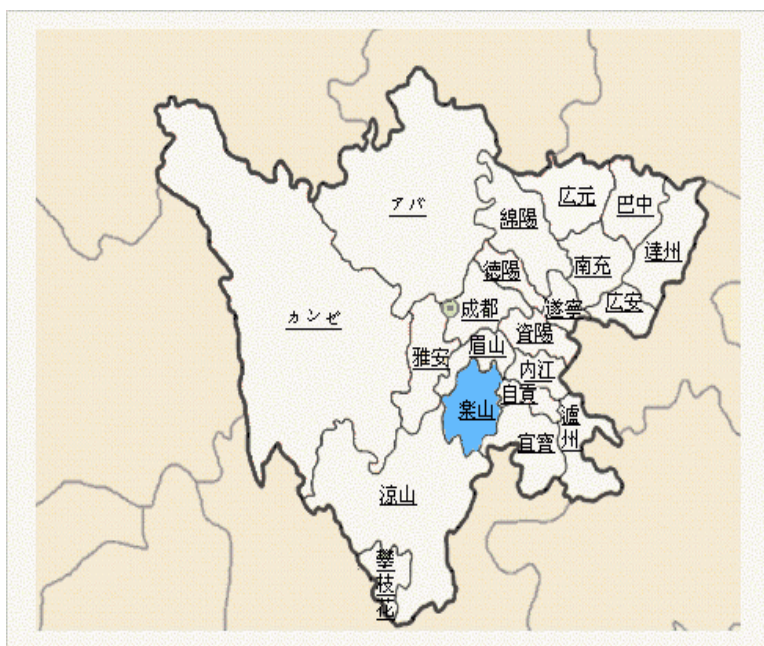


図5-5-1 樂山市の四川省における位置

表 5-5-1 樂山市の基本状況

市(州)政府所在地	樂山	
URL	http://www.leshan.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	樂山市街区域	
市街区域面積	2514 平方キロメートル	
所轄県(市)	五通橋、金口河、峨眉山、犍為県、井研県、挾江県、沐川県、峨辺 イ族自治権、馬辺イ族自治県	
面積	1.3 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、 日照時数)	年間降雨量 1366.3mm、年間平均気温 17.5℃、年間日照時間 990.5 時 間。	
人口	353.5 万人	
民族	41 民族があり、漢民族、イ族、回族、ミャオ族などは世代居住民族 で、イ族を主としての少数民族がある。	
主要資源	土地資源、森林資源、水利資源、環境資源	
資源産業	電子、結晶シリコン太陽電池産業、冶金建材、塩リン化学、農業副 業製品の加工業、清潔エネルギー、観光資源など	
観光資源	国家級 5A 級観光地が 1 所あり、4A 級観光地が 2 所あり、国家級観光 地が 2 所あり、森林公園が 2 所あり、地質公園が 1 所ある。	
環境評価		
環境保護関連産業	ゴミ処理、排気廃水処理、ゴミ処理、新型エネルギー産業、新型材 料	
アウトソーシング産業	IT 業、サービスアウトソーシング	
交通	空路	
	水路	四川省で作られた大型設備はこの港から、長江沿いの都市に運ば れる。
	高速道路	観光の必要から 10 年前に高速道路が開通され、成都から 1 時間あま りで行ける。
	道路	北への道路は整備されるが、南の山地への道路は力を入れるべき。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

## 2. 基本情況

樂山市は岷江、青衣江と大渡川の三本の川が合流する地に位置します。四川省の面積に占める割合は2.64%ですが、豊富で多彩な地形を有しています。市内の馬鞍山は海拔4,288メートルに達するのに対し、岷江の出口では海拔はわずかに307メートルです。一人当たりの水資源の保有量は3,366立方メートルで、全国のトップレベルです。

樂山は悠久な歴史を持っており、3,000年前の古蜀国の遺跡が発見されています。紀元前4世紀、秦に合併されてから、中華文化圏に溶け込みました。唐の時代に嘉州に、宋の時代に嘉定府に、元の時代に嘉定路に、明の時代に嘉定州にそれぞれ呼ばれ、清の時代に嘉定府に昇格され、その下に樂山県が置かれました。そしてこの樂山の名前が今日まで続いています。

新中国になってから、樂山専員公署が設置され、四川省南部の16の県を管轄していました。1985年に樂山市が成立し、1997年の区画調整で眉山など6県が眉山市として独立しました。

樂山市は四川省で最も早く開発された地区の一つで、秦の時代にすでに製塩業と冶金業が成立し、唐の時代には農業と手工業がさらに繁栄していました。現在では、四川省の食糧、肉類、野菜の生産基地だけでなく、石炭、セメント、発電、機械製造、製紙、塩化学の生産基地でもあります。

表5-5-2 樂山市の經濟情況

GDP	総額	562.39億元
	第一次産業	93.47億元
	第二次産業	329.89億元
	第三次産業	139.04億元
	一人当たりのGDP	16737元
平均給料	国営	22609元
	民営	15445元
住民一人当たり可処分所得		12020元
住民一人当たり消費支出		8637元
農民一人当たり純収入		4582.7元
農民一人当たり生活消費支出		4294.4元
年金加入者数		77.61万人
年金収入総額		28.66億元
就職者数		183.62万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

## 3. 經濟的實力

樂山市の社会經濟は近年、急速かつ安定的な發展を保っています。10%以上の成長率を9年間連続で達成、総合的な實力が増し、都市農村の生活レベルが絶えず上昇しています。



樂山市の産業経済の柱はなんといっても、観光業とその関連付帯の交通、飲食、ホテル、農業、商業などです。

工業については、観光業への影響をできるだけ少なくするために、景勝地から離れた地点に工業開発区を設置し、集中的で大規模な工業発展を目指しています。ハイテク企業を誘致して、政策、金融、科学技術、情報のサービスを強化し、樂山の工業を発展させていく計画です。

樂山市は四川省の重要な農業経済区域で、主要農作物は水稻、小麦、玉蜀黍、さつまいも、馬鈴薯、菜種です。しょうが、にんにく、蚕豆は特産品として特に有名で、輸出もされています。お茶、漢方薬、椎茸、たけのこ、花卉なども有名です。

樂山市は世界遺産の大仏と峨眉山があるために、世界での知名度が抜群です。これこそが樂山市対外開放の大きなメリットです。これまでに86の国と地区と貿易関係等を結びました。現在、外資投資企業が61社を数え、2008年度に実際導入外資が7,298万ドルに上り、樂山市政府が設定した5,500万ドルの目標を大幅に超えました。

さらに、北京華聯、春天百貨、ウォルマート、重慶百貨大楼などの大型百貨チェーン店の開店により、樂山市の商業が一層の繁栄を迎えています。

#### 4. 交通運輸

成都—昆明鉄道は樂山市を通り、料金が安いことから、毎日、たくさんの観光客を運んできています。また、成都—貴陽高速鉄道と綿陽—成都—樂山旅客専用線がまもなく建設されます。

高速道路では、成都—樂山間が開通し、100分間で結ばれており、高速バスが20分おきに発車しています。樂山—自貢と樂山—宜賓の間でも高速道路が建設中です。

空路では成都の空港を有効に利用・活用しており、多くの地方空港が苦しい経営状況にある中で、賢明なやり方といえます。

樂山港からは宜賓、重慶、瀘州などへ旅客ばかりでなく、コンテナと大型設備を運ぶことができます。

#### 5. 都市建設

樂山市は三本の川と大仏景勝地に包まれ、すばらしい景色に恵まれています。観光が第一の産業ですから、街の建設は観光客のために工夫を凝らして整備されています。

市街区域の堤防は長く、綺麗な木が植えられ、花壇が作られ、市民と観光客の憩いの場となっています。観光都市らしく、市内には樂中遊園地、嘉州広場、陽光広場、青果山公園、大曲口公園、海棠公園などの公園が作られています。

表 5-5-3 樂山市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	509
道路面積 (万平方メートル)	656
橋梁数 (個所)	38
街灯 (千個)	31
バス保有台数	288
タクシー保有台数(台)	812
公衆便所数 (個所)	121
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	560
水道普及率 (%)	86.83
都市ガス普及率 (%)	70.39
一人当たり道路面積 (平方メートル)	12.78
公園数 (個所)	10
公園緑化面積 (平方メートル)	371
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	7.23
市街区域の緑化率 (%)	38.26
下水排出量 (万立方米)	3287
下水道の長さ (キロ)	428
下水処理率 (%)	49.80
ごみ処理率 (%)	83.72

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

## 6. 未来展望

樂山市は歴史上輝かしい文化を生み出し、近代でも多くの人材を輩出して大きな役割を果たしました。今後はこうした文化的伝統を生かして、百万人口の大都会、国際的な知名度を有し、国内一流、四川省一の観光地に建設して行く計画です。同時に工業を發展させ、成都平野都市群の南部中心、西部經濟發展の成長点となることを目指しています。

現在、時速 300 キロの成都綿陽樂山の旅客専用線が建設されていますが、2014 年に完成すれば成都へ 30 分で行けるようになり、成都經濟圏に溶け込むことでしょう。

## 第六章 攀西経済区——エネルギー、チタンバナジウム新材料、鉄鋼産業基地 1 自治州 2 都市

### 第一節 攀枝花市——一人当たりの GDP では四川省トップ

#### 1. ハイライト

攀枝花市は、1960年代には現在の深圳のように全国からたくさんの労働者、技術者が集まり、四川省の山奥にありながら、鉄鉱と炭鉱を最大限に活用し、大きく発展しました。現在、一人あたり GDP が四川省内でトップになっています。

新中国になった当初の 1950年代は、「北方にもう一つの上海を作ろう」というスローガンの下、内モンゴルの包頭市が新しい都市建設の重点でした。1960年代には中ソの蜜月関係が終わったことから、三線建設の延長として、攀枝花市が脚光を浴び、金沙江を挟んだ峡谷地帯に、新しい都市の建設が始まりました。以降 10年ごとに建設の重点が深圳、浦東新区、重慶、浜海新区へと変わっていきました。攀枝花市は当時の国家プロジェクトの栄光を今にも引き継ぎ、チタンバナジウム新材料の分野で躍進しています。

#### 2. 基本情況

攀枝花市は中国では唯一の花の名前から命名された都市です。攀枝花というのは木綿の花とも呼ばれ、広東省や海南省などの熱帯地方ではよく見かけますが、高山峡谷立体気候の攀枝花市にもよく育ったことから市の花に選ばれました。攀枝花の木は真っ直ぐ空に向かって伸び、枝は水平に伸ばし、形はまるで傘のようです。春には大きな赤い花を咲かせ、花が落ちてから葉を出しますが、春先の攀枝花は燃え上がるように咲き誇り、壮観そのものです。

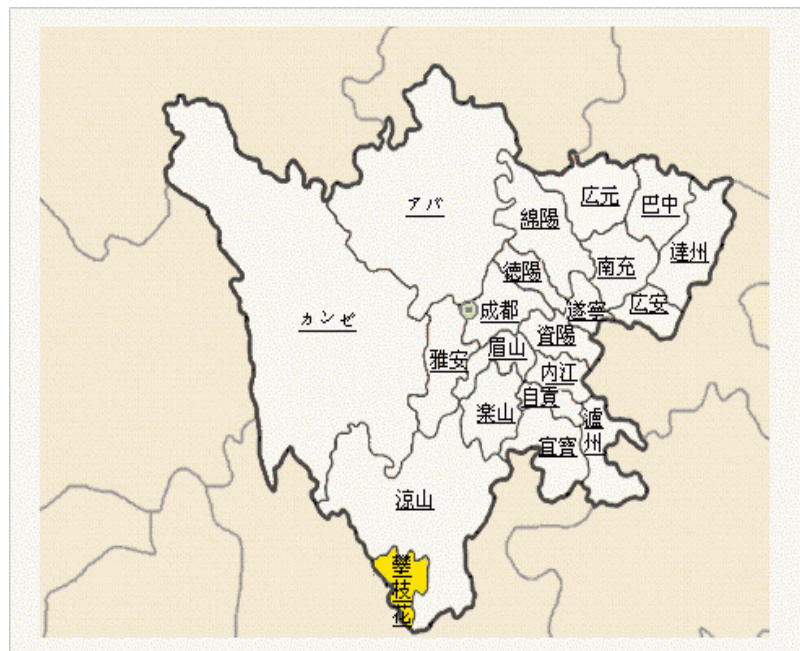


図 6-1-1 攀枝花市の四川省における位置

表 6-1-1 攀枝花市の基本情況

市(州)政府所在地	攀枝花	
URL	http://www.pzhs.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	攀枝花市街区域	
市街区域面積	2018 平方キロメートル	
所轄県(市)	米易県、塩辺県	
面積	0.7 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 756mm、年間平均気温 20.6℃、年間日照時間 2455.2 時間。	
人口	111.2 万人	
民族	42 民族があり、漢民族が総人数の 86.6%を占めて、他の 41 少数民族で一番多いのは彝族で、8.98%を占めて、次いではリス民族、ミャオ民族、ナシ民族、白民族、タイ民族、満民族などである。	
主要資源	土地資源、森林資源、水利資源、環境資源	
資源産業	石炭、鉄鉱、観光業	
観光資源	自然山水景色を主として、もう瀘山観光地、邛海—螺髻山観光地、西昌仙人洞、瀘沽湖観光地、紅格温泉、黒山観光地、龍洞石林、金沙江観光地などの観光地区を作り上げた。	
環境評価		
環境保護関連産業	ゴミ処理、廃水処理、排気処理、エネルギー節約など	
アウトソーシング産業	ソフトウェア、情報サービスなど	
交通	空路	山を削って、空港を建設し、5 年前に開通した。
	水路	
	高速道路	北京から昆明までの G5 高速道路上に位置するが、全線開通に至っていない。西昌市までは開通している。
	道路	面積がそう大きくないから、道路は整備されている。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

四川省南部の最大の都市で、最も裕福な町、資源開発型の町、工業の町、移民の町、山地の町とさ

まざまな顔を持っている表情豊かな街です。

1965年2月5日中共中央と国務院は攀枝花特区の成立を批准して、攀枝花市の歴史が始まりました。40年間の建設を経て、攀枝花市は2008年に中国の活力都市のベスト10入りを果たし、中国最も投資潜在力のある中小都市ベスト20にも選ばれ、中国情報化都市ベスト50にも輝きました。四川省社会科学院編纂の「四川区域総合競争力レポート2008」によると、攀枝花区域の総合競争力はわずかな差で成都市に次いで四川省2位になっています。さらに中国社会科学院編纂の「中国都市総合競争力レポート2009」によると、攀枝花市の都市総合競争力が成都市、綿陽市に次いで四川省3位になっています。

攀枝花市は鉄鉱と炭鉱を持ち合わせたことで発展してきた都市ですが、ある一人の教授によっていち早く、この街の潜在力が見抜かれていました。1936年、重慶にある中国西部科学院の地質研究所主任を務めていた常隆慶教授は当時の攀枝花市区域を視察し、この都市が鉄鉱を豊富に貯蔵している見解を発表し、「もし、成都から西昌経由で昆明への鉄道を敷けば、ここは国内できわめてすばらしい工業区になる」と予測しました。攀枝花市の発展はまさに彼の言い当てたとおりです。

### 3. 経済的実力

鉄鉱の埋蔵量は73.8億トンで、四川省の鉄鉱埋蔵量の72.3%も占め、中国の4大鉄鉱産地の一つです。チタン混合鉄鉱は66.94億トンで、チタン保有貯蔵量4.25億トンにもなり、全国の93%を占め、世界一の保有量を誇っています。バナジウム混合鉄鉱は1,038万トンで、全国の63%を占め、世界3位です。コバルトの保有量は7.46億トンあり、そのほか、クロム、ガリウム、ニッケル、銅、鉛、亜鉛、マンガン、プラチナなど多くの稀有金属があります。非金属資源として、石炭は7.08億トンあり、そのほか、石墨、石灰岩、冶金用白雲岩、セメント用沙岩、耐火粘土、珪藻土、御影石、大理石などがあります。

高山峡谷の地形のため、市内の95本の川が金沙江と雅礮江流域に分かれ、巨大な水力発電能力を備えています。700万kW容量を保有し、3つの水力発電所はすでに347.4万kWの発電を実現しています。

攀枝花市の最大の企業は攀枝花鉄鋼公司です。もともと、攀枝花鉄業公司があつて石炭開発を行っていましたが、攀枝花鉄鋼公司が最大の取引相手だったことから、両社が合併して、他の鉄鋼コンビナートと競争するようになりました。

攀枝花鉄鋼公司は2.5平方キロの丘の上で、年間300万トンの鉄鋼の生産していることから、冶金史上も奇跡と言われています。また、攀枝花市の鉄鉱には多くの稀有金属が混合されていますから、積み重ねた実験と研究を経て、冶金と分離に多くの技術独創を成し遂げています。これらの技術を応用して、生産規模を拡大して、四川省をはじめとする西部地区の発展を支えており、具体的には鉄道レール、鉄板をはじめ、200種類の製品を持ち、家電や自動車などの産業を支えています。

表 6-1-2 攀枝花市の経済情況

GDP	総額	427.61 億元
	第一次産業	19.33 億元
	第二次産業	313.53 億元
	第三次産業	94.75 億元
	一人当たりの GDP	37277 元
平均給料	国营	28942 元
	民营	28542 元
住民一人当たり可処分所得		13343 元
住民一人当たり消費支出		10137 元
農民一人当たり純収入		5062.6 元
農民一人当たり生活消費支出		4436.9 元
年金加入者数		53.90 万人
年金収入総額		21.5 億元
就職者数		64.05 万人

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

日照時間が長く、天然の大温室と言われ、パパイヤ、マンゴー、石榴などの熱帯果物がよく取れます。

攀枝花市は四川省で成都市のほかで唯一の労働力輸入の都市です。綿陽市、自貢市、南充市と並んで、四川省内で重点的に発展政策が実施される都市の一つです。

#### 4. 交通運輸

攀枝花市の交通は国家的計画により実施されるインフラ整備の恩恵を大きく受けています。高速道路では、北京—西安—成都—昆明の幹線高速道路がほぼ全区間開通し、非常に便利になりました。2009 年 12 月に攀枝花市から雲南省の観光の重鎮の麗江市までの高速道路の着工式が行われ、2 年で竣工する予定です。

鉄道では 1970 年に成都—昆明線が開通したことにより攀枝花市は全国と結ばれ、発展に大きく寄与しました。北京へ入る長距離列車は直轄市か省都か副省級都市ですが、K118/7 快速列車は攀枝花市と北京とを連絡し、攀枝花市は地方市として直通列車で北京へ乗り入れる唯一の都市です。

攀枝花市の空港はユニークです。攀枝花市の海拔が 900 メートルですが、海拔 1,900 メートルの小さな山の頂を平らげて空港にしたのです。もし、離陸するとき窓側の席に座っていれば、空母から飛び立つ感覚を味わえるでしょう。成都、重慶、昆明などへの定期便があります。

## 5. 都市建設

世界上の都市はその紀元は文字に記録されていなくても、古代人が種を蒔いた村から進化を始めるのが多いでしょう。「不毛の地」から大きな鉄鋼工業の都市ができたことは稀にしかありません。多くの地質学者、技術者、労働者の並々ならぬ貢献を凝縮しています。これが攀枝花市の大きな特徴です。

表 6-1-3 攀枝花市のインフラ情況

道路キロ数 (キロ)	479
道路面積 (万平方メートル)	531
橋梁数 (個所)	87
街灯 (千個)	30
バス保有台数	599
タクシー保有台数(台)	1439
公衆便所数 (個所)	88
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	474
水道普及率 (%)	91.92
都市ガス普及率 (%)	83.93
一人当たり道路面積 (平方メートル)	8.41
公園数 (個所)	13
公園緑化面積 (ヘクタール)	521
一人当たり公園緑地面積 (平方メー)	8.26
市街区域の緑化率 (%)	39.91
下水排出量 (万立方米)	8660
下水道の長さ (キロ)	528
下水処理率 (%)	28.8
ごみ処理率 (%)	93.56

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

攀枝花市は四川省で成都市の以外で唯一の労働力輸入都市です。人口は115万人で、そのうち、都市人口が69.17万人で、四川省では農村人口を上回る数少ない都市です。流動人口が20万人に達し、全国でも流動率の高い都市です。攀枝花市の80%の住民は全国と四川省内の都市からの移民で、現地の人は昔からの農業地帯の仁和区、塩辺県と米易県に住んでいます。

## 6. 観光資源

市内にある二灘水力発電所のダムは240メートルの高さを誇り、世界第三位です。このダムを中心

に、15 万ムーの雄大な湖と 40 万ムーの森林と険しい景観を形成しています。

ゲサラ生態観光区にはイ族の風情、雄大な自然、高山草原に咲き誇る春の高山ツツジが見ものです。毎年花を咲かせる 10 万本の蘇鉄林も観光客を引き付ける名所です。

## 7. 未来展望

綿陽市、自貢市、南充市と並んで、四川省が重点的に発展させる都市の一つです。

今は攀枝花鉄鋼グループは四川省内の多くの圧延、鍛造工場を合併しており、鉄鋼の総合メーカーに成長しています。営業範囲もグローバル的になっています。中国の国家産業政策には大型飛行機が盛り込まれていますから、チタン材料の需要が増大し、攀枝花鉄鋼グループはその原料と技術の優位から、大きな成長が期待されます。

攀枝花市の住民の自分たちの新しい故郷を大きな自信を持って建設に取り組んでいます。

## 第二節 雅安市——お茶栽培の発祥地

### 1. ハイライト

お茶は、漢方薬の発明者である神農氏が「百草を嘗め、日に七十二の毒に遇い、茶を得て解く」ことで発明したとされますが、お茶が栽培され、文化として定着したのは雅安市の蒙頂山が発祥です。2,000 年前の前漢時代に蒙頂山に住んでいた呉理真が野生のお茶の木を馴らし、お茶の人工栽培を始めました。唐の時代には蒙頂山で取れたお茶が宮廷への貢品とされ、清の時代まで続けられました。

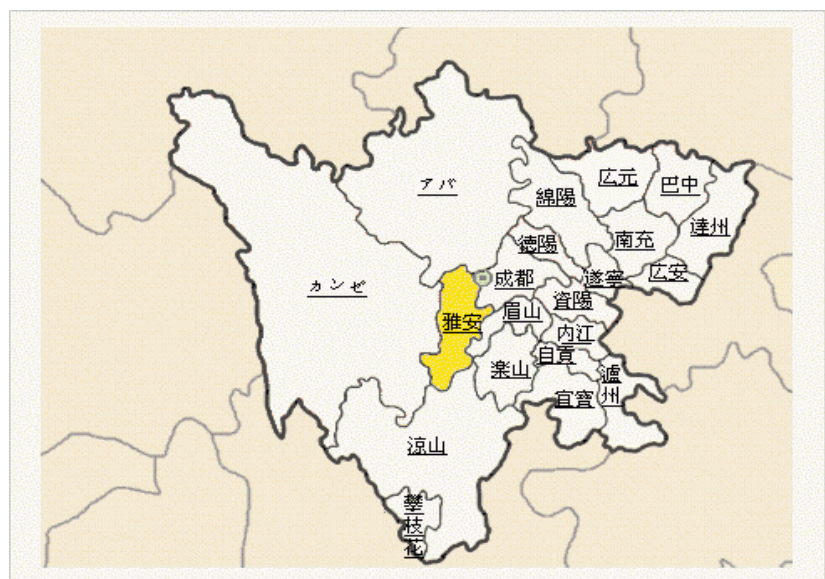


図6-2-1 雅安市の四川省における位置

山の頂には呉理真を祭る祠があり、そこには7本のお茶の木が生えている皇茶園があります。呉理真の手で植えられたというこの7本の木から取ったお茶は、皇帝が天を奉る時に使われたと伝えられています。

お茶は世界三大飲料となりましたが、蒙頂山のお茶は多くの詩人墨客の描写の対象になりました。



唐の時代の詩人の白楽天は「琴里の知聞唯緑水、茶中の故旧是蒙山なり」と蒙頂山のお茶を称えています。黄芽、甘露の二種類が特に有名で人気があります。

また、汶川大地震で、阿坝州の王朗にあるパンダ研究センターが雅安市の碧峰峡に移転され、パンダは雅安市の一つの看板になりつつあります。

## 2. 基本情況

四川省の西南部の四川盆地とチベット高原の境目に位置し、成都から120キロ離れています。雅安市は1950年4月に成立した西康省の省都でしたが、1955年に西康省が撤回され、四川省の管轄となりました。2000年、雅安市が成立しました。

雅安市は交通の要所で、四川省からチベット、雲南省へ行くには必ず通らなければなりません。漢文化と少数民族の文化の結合部であり、現代的な都市部と原始自然生態区との結合部でもあり、古代南方シルクロードの玄関でもあります。四川省の自治州の阿坝州、カンゼ州、涼山州ともに近い距離にあります。

雅安市の年間降雨量は1,800mmにも達し、四川省内で最も雨量の多い地方ですが、集中豪雨が少なく、毎日のように少しずつ雨が降りますから、農作物と生態環境にとって、まさに恵みの雨です。「雅雨」という美称があります。

チベット高原から流れ落ちる青衣江が市内を通り、冷たい水の中に生息する魚は非常に美味しく、「雅魚」が雅安市の名物になっています。

良好な生態環境と美味しい食べ物に恵まれているのに加え、女性に美人が多いことから、「雅女」が、「雅雨」と「雅魚」と並んで雅安市の「三絶」といわれています。

## 3. 経済的実力

雅安市は世界お茶文化の発祥地で、気候と土壌がお茶に適していますから、お茶の栽培が盛んです。お茶の加工企業も多く、大きな産業になっています。

パンダの最初の発見地として有名ですが、このパンダ自然保護区からは、120頭のうち16頭が中国の使者として、ソビエト、アメリカ、イギリス、フランス、日本、朝鮮などへ赴いています。そのすばらしい生態の魅力が観光客を引き寄せており、観光業も雅安市の社会経済の大きな柱です。雅安市はその交通上の重要性から、商業貿易が発達し、大都会とチベット、雲南省、それに四川省内の少数民族自治州との間の物質の相互流通センターでもあります。「民族廊下」として人の交流も盛んです。

雅安市は国家の水力発電の基地であり、また石材の産地としても特に有名です。40億立方メートル以上の御影石や大理石の埋蔵量があり、品種が多く、品質も良いです。生産量が全国第二位で、赤、

表 6-2-1 雅安市の基本情況

市(州)政府所在地	雅安	
URL	http://www.yaan.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	雨城区	
市街区域面積	1070 平方キロメートル	
所轄県(市)	名山県、ケイ経県、漢源県、石棉県、天全県、芦山県、宝興県	
面積	1.5 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 1466.9mm、年間平均気温 16.5℃、年間日照時間 900.3 時間。	
人口	154.5 万人	
民族	漢民族を主として、イ族、チベット族など 29 少数民族がある	
主要資源	水利資源、鉱物資源	
資源産業	主な工業製品は鉱物、電子、化学製品、皮製品、機械加工製品、建材など。農業副業製品はイネ、雑穀、漢方薬の材料、漢源のサンショウ、頂のお茶、干した竹の子、生ウルシ、雪梨など。	
観光資源	観光地は漢高頤闕、白馬泉、碧峰峽、蒙山観光地、唐代摩崖造像、巖道古城遺跡、富林文化遺跡、安順場渡口、田湾河、漢樊敏碑、飛仙閣、蜂桶溝自然保護区、大板橋観光地、上里古鎮、周公山温泉、宝興鄧池溝パンダ郷里などである。	
環境評価		
環境保護関連産業	エネルギー節約、廃固体処理、排気廃水処理など	
アウトソーシング産業	IT	
交通	空路	
	水路	
	高速道路	高速道路は十年前に開通され、産業の発展に大きく寄与した。昆明への高速道路も残りわずかと成った。チベットへの入り口としても重要な位置をしめている。
	道路	昆明とラサへの国道が通っている。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

白、黒、緑、灰色で50の種類があります。そのうち、「中国紅」御影石と「蜀白玉」大理石は雅安市特有のもので、雅安市は中国の主な石材輸出基地になっています。

雅安市には142.5万畝の耕地があり、溪谷の川沿い平地に集中していますから、水稻の栽培に適しています。丘陵地帯には玉蜀黍、ジャガイモ、豆類が産出されます。50.79%の面積が針葉林、広葉林、混合林などの森林に覆われています。

表6-2-2 雅安市の経済状況

GDP	総額	213.22 億元
	第一次産業	46.08 億元
	第二次産業	107.02 億元
	第三次産業	60.13 億元
	一人当たりのGDP	14051 元
平均給料	国営	21210 元
	民営	17806 元
住民一人当たり可処分所得		11604 元
住民一人当たり消費支出		7796 元
農民一人当たり純収入		4155.8 元
農民一人当たり生活消費支出		3984.4 元
年金加入者数		16.91 万人
年金収入総額		8.56 億元
就職者数		91.36 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

#### 4. 交通運輸

南方シルクロードの起点で、西康省の省都になったというかつての栄光もありますが、改革開放までは、交通インフラの整備は立ち遅れていました。現在は成都—雅安高速道路が作られ、成都へはわずか1時間程度で到達できます。この高速道路は北京—西安—成都—雅安—昆明の幹線高速道路の一部で、成都—北京間はほとんど完成し、雅安からトンネルを掘って西昌市を経て昆明への道路が建設中です。西部大開発で、チベットへの高速道路も計画されていることから、雅安の重要性も次第に大きくなるでしょう。

雅安市の交通は、成都方面へは非常に便利ですが、ほかの道路は山の中を蛇行するものが多く、また積載オーバーのトラックも多いことから、しっかりと舗装されているラサ行きを除けば、他の道路は傷みがひどく、修繕する必要があります。

雅安市は観光資源の整備ばかりでなく、交通、宿泊、飲食などを含む観光事業の発展に力を入れて、年間延べ80万人の観光客を引き寄せています。成都から15分おきにバスが発車しています。

## 5. 都市建設

雅安市も四川省の多くの都市と同じように、チベット高原や盆地の周りの高山から流れ落ちる川が市内を通っています。ここが他の都市と違うことは、雅安市を囲む山が森林に覆われ、より美しく見えるのです。川の両岸には森の中に中国風の一階建てや二階建ての喫茶店、コーヒー店、バーやレストランなどが集中的に集まり、市民や観光客は雅安の綺麗な風景と安らぎの生活情緒を楽しむことができます。特に夜には、赤い提灯で照らされる川沿いの幻想的な光景が人々を酔わせています。

表 6-2-3 雅安市のインフラ状況

道路キロ数 (キロ)	125
道路面積 (万平方メートル)	202
橋梁数 (個所)	20
街灯 (千個)	10
バス保有台数	48
タクシー保有台数(台)	344
公衆便所数 (個所)	45
政府清掃道路面積 (万平方メートル)	170
水道普及率 (%)	99.43
都市ガス普及率 (%)	64.81
一人当たり道路面積 (平方メートル)	8.16
公園数 (個所)	15
公園緑化面積 (ヘクタール)	195
一人当たり公園緑地面積 (平方メートル)	7.88
市街区域の緑化率 (%)	22.40
下水排出量 (万立方米)	1528
下水道の長さ (キロ)	176
下水処理率 (%)	52.29
ごみ処理率 (%)	92.78

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

雅安市内には211大学(21世紀の100の重点大学)の四川農業大学があり、教職員と学生は30,000人を越えます。講堂、寄宿舎、実験棟、運動場からなるキャンパスは雅安市の市街区域で大きな面積を占め、街全体に文化的雰囲気をもたらすと同時に、校庭も観光名所になっています。

仏教、カトリック教、キリスト教、イスラム教を信仰する人たちが友好的に生活しており、寺院、教会、モスクがあることが雅安市の特徴で、観光資源にもなっています。

中国経済の高度成長に伴い、青衣江の上に3つの大橋がかかり、大きく拡大しつつある雅安市の交

通を便利にしています。同時に水道、下水、ゴミ処理などの都市インフラが一層整備され、不動産市場も大きく発展しました。新しいマンションやオフィスビルが聳え立ち、市民の居住条件は改善されています。

## 6. 未来展望

西部大開発の目的は西部地区の経済発展、社会進歩、民族団結を実現することによって、国内の有効需要を拡大し、改革開放と近代化のプロセスを推進することにあります。雅安市はまさにこれらの目的をするための前線地帯に位しています。雅安市の大理石、御影石などの資源的優位性も中国不動産業と建築業の発展につれてますます発揮されるでしょう。今後、西部地区の経済社会の発展を速め、東部地区との発展の差を縮める国家プロジェクトを実施される予定で、雅安市の交通、教育、科学技術、資源開発における重要な役割が注目されます。

### 第三節 涼山イ族自治州——衛星打ち上げ基地

#### 1. ハイライト

西昌といえばまず西昌衛星打ち上げ基地のことが思い出されます。現在対外開放されている発射基地の中で、規模が最も大きく、設備技術が最も進んでおり、外国からの受注発射が一番多く、多種類の衛星を打ち上げる能力を備えた基地です。ここは1,500メートルの海拔があり、緯度が低く、地盤がしっかりし、年間晴れの日が320日という気象条件にも恵まれていることから「天然の理想的な打ち上げ基地」と言われています。

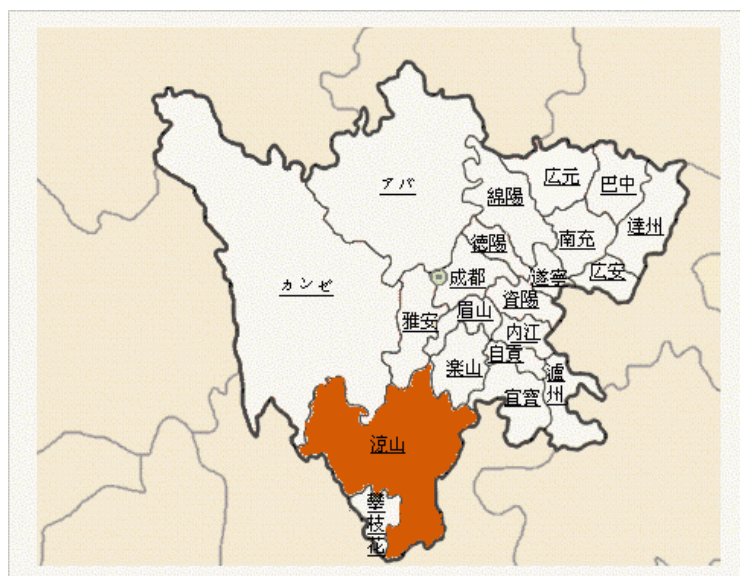


図6-3-1 涼山の四川省における位置

1986年2月1日、中国最初の通信衛星を打ち上げ、他国の衛星を借りる歴史に終止符を打ちました。1990年に率先して外国から受注するビジネスを開始しました。最初に受注したのはアメリカの衛星で、他の5カ国に発注してすべて失敗に終わったのに対し、西昌衛星打ち上げ基地は衛星を軌道にのせることに成功しました。

表 6-3-1 涼山の基本情況

市(州)政府所在地	西昌市	
URL	http://www.lsz.gov.cn/ http://www.scinvest.cn/html/default.htm	
招商局又は商務局	四川省招商引資局	
公開電話	028-66469930	
市街区域	西昌市街区域	
市街区域面積	2655 平方キロメートル	
所轄県(市)	西昌市、塩源县、徳昌県、会理県、会東、寧南、普格、布拖、金陽、昭覚、喜徳、冕寧、越西、甘洛、美姑、雷波、木里自治県	
面積	6.0 万平方キロメートル	
自然条件(降水量、平均気温、日照時数)	年間降雨量 1064.9mm、年間平均気温 17.3℃、年間日照時間 2080.1 時間。	
人口	461.0 万人	
民族	イ族、チベット族、回族、プイ族、リス族 など 10 つの世代居住民族がある。	
主要資源	気候資源、水利資源、鉱物資源、農業資源、観光資源	
資源産業	無公害農業、航空産業	
観光資源	瀘山一環海、秘かな瀘沽湖、「螺髻山」	
環境評価		
環境保護関連産業	汚水処理、ゴミ処理、水土保護	
アウトソーシング産業		
交通	空路	空港あり
	水路	
	高速道路	攀枝花市へは開通されているが、成都へは一部のトンネル工事が残るだけと成っている。
	道路	広大な高原に道路建設が急務。

(2009 年四川省統計年鑑、中国統計出版社 8 月)

2007 年 10 月 24 日に中国最初の月を回る衛星もここから打ち上げています。

このほかにも西昌衛星打ち上げ基地はいろいろな業績に輝いています。

ここは西昌市の観光名所にもなっています。宇宙への関心が向上している今、特に重大な打ち上げがあるときに世界各国から見物に殺到してきています。

## 2. 基本情況

涼山イ族自治州は四川省の西南部の高原地帯にあり、州都が西昌市です。ここには 415.48 万の人口がありますが、181.55 万人のイ族人口が 43.79% を占めています。海拔が 1,500 メートルあり、年中の気候は寒くも無ければ、暑くもありませんから、四季おりおりの花が咲き、常緑の植物が生い茂っています。汚染も少なく、衛星打ち上げ基地にふさわしい環境です。

涼山は昔から、西南辺境へ行く「南方シルクロード」重要な通路でした。2,000 年前の秦と漢の時代にはすでに県が置かれ、中央政権の支配がなされています。「史記」の作家の司馬遷、蜀の宰相の諸葛孔明、元の皇帝のクビライ、地理学者の徐霞客、イタリアの旅行者マルコポーロ、蒋介石などがここで活動したことが文献に記載されています。1935 年に中国赤軍が長征の途中、この領主の小葉丹と兄弟の契りを結び、イ族の居住区を順調に通り返ることができました。

## 3. 経済的実力

西昌衛星打ち上げ基地は観光と内需拡大の大きな牽引力となっています。

もう一つの牽引力はここならではの気候条件です。地形の多様性により、気候を「立体的」に楽しむことが出来ます。雪山を眺めながら、足元には柔らかい草の絨毯が広がっており、まさに「山に四季があり、十里を歩けば、天気が違う」という言葉がこの気候・風土を端的に表しています。成都平野の日照時間の 1.6 倍もあることから、陽光レジャーという新しい観光種類が生まれています。観光業を中心とする第三次産業が大きく成長しました。

豊かな日光は野菜や果物を平野部と違う季節に育て、涼山州は成都や重慶などの大都会の野菜や果物の供給基地になります。旬の季節とずらすことで、高い価格で売ることが出来ます。日光のおかげで、砂糖きびの畝（ムー）あたり生産量が 10 トンにも達し、平均糖含有量が 13.5% にもなります。一年中、養蚕が行われ、繭が大きく、糸の長さが 1,200 メートルに達します。タバコの栽培も盛んで、輸入品にも匹敵する品質を誇っています。

水力発電、鉄鉱、貴金属の資源にも恵まれていますから、西昌新鋼業、涼山鋳業、西昌電力などの有力企業が技術革新を積み重ね、拡張のテンポを速め、川威鐵鋼グループの新規投資も加わることにより、工業の発展と雇用の拡大を大きく促進しました。

涼山州は四川省三番目の林業基地と三番目の牧畜業基地でもあります。

## 4. 都市建設

西昌市の町には大都会のシンボルであるケンタッキーやマクドナルトなどはまだ無いのですが、街

のすぐ近くに邛海という大きな湖があって、イ族が生活する情緒豊かな静かな佇まいを演出しています。

西昌市には4つの別名があります。太陽城、月城、宇宙城、小さい春城です。それぞれ、日照時間の長さ、夜空の透き通っていること、西昌衛星打ち上げ基地のあること、気候が昆明によく似ていることを表しています。2009年、西昌は平遥古城と麗江古城とともに、「中国の最も綺麗な古城」に選ばれました。

表6-3-2 涼山の経済状況

GDP	総額	561.07 億元
	第一次産業	157.63 億元
	第二次産業	246.12 億元
	第三次産業	157.33 億元
	一人当たりのGDP	12896 元
平均給与	国営	30776 元
	民営	24616 元
住民一人当たり可処分所得		11715 元
住民一人当たり消費支出		8042 元
農民一人当たり純収入		3653.3 元
農民一人当たり生活消費支出		2605.9 元
年金加入者数		28.23 万人
年金収入総額		11.12 億元
就職者数		263.04 万人

(2009年四川省統計年鑑、中国統計出版社8月)

毎年、農歴6月24日はイ族の「たいまつ祭り」です。この日にはイ族の人たちが各地から集まって、この盛大な祭りに参加します。

## 5. 交通運輸

涼山州は交通が発達しなかったために、長い間、経済的に遅れた地方と考えられてきました。鉄道の成都—昆明線が開通し、涼山州の南北をつらぬいてから、西昌衛星打ち上げ基地が建設され、人の移動と物資の流通が盛んになり、涼山州の社会経済が飛躍的に進歩しました。

現在、西昌市を中心に高速道路が開通していますが、成都—昆明への高速道路全線開通まではいくつかのトンネルが残るだけで、まもなく開通します。西昌—瀘沽湖線は計画されており、現在、四川省市内の瀘沽湖という有名な観光地へは、雲南省経由で遠回りをして行くしかありませんが、高速道路が開通することで、涼山州の観光は一層の発展が期待されます。広大な面積を有することから、各



県、各鎮にも自動車道が伸びています。

空路では成都を主とし、北京や昆明への定期便が飛んでいます。

## 6. 未来展望

西部大開発で涼山州の交通や都市建設などのインフラの整備が一層早められることが期待され、それに伴い、涼山州の気象資源、鉱物資源、森林資源、農業資源、観光資源などは一層活用されるでしょう。現に高原の野菜と果物は全国で歓迎されています。特殊な産業構造は成都、重慶の相互補完のために無限の可能性を提供してくれます。

## 第2部 震災復興と西部大開発

### 第一章 震災復興事業

#### 第一節 震災からの立ち上がり

##### 1. 全体状況

2009年1月27日に召集された四川省第十一次人民代表大会第三次会議では四川省省長の蔣巨峰氏が「39の重度災害県は震災復興事業が順調に進み、経済成長率が16.2%に達し、今年9月に3年間の震災復興の任務を2年の時間で完成することは確実にになりました」と宣言しました。

2008年9月から正式に始まった震災復興事業は四川省と17の対口支援省が力を合わせて、取り組んできました。

住宅建設では126.3万戸の農村永久住宅がすでに完成し、余震やその他の要素で着工が遅れた19.6万戸の農村住宅も99.9%建設が始まり、そのうちの77%は完成しています。25.9万戸の都市住民住宅も97.1%着工し、74.7%が完成しています。

学校と病院の建設は震災復興の重要プロジェクトについては、3,002校のうち、99.2%着工し、79.7%も完成しています。1,362か所の病院は93.8%が着工し、75.5%は完成しています。老人ホームやリハビリテーション施設の着工率が79%になっています。

インフラの再建も順調に推移しています。12本の高速道路と88本の国道と省道の修復と建設が急ピッチで進められています。農村道路の修復は2.1万キロに達します。震災以前は農村のバスは固定したターミナルも停留所もなく、政府の管理も行き届かず、非合法的な料金徴収も野放しにされていました。一部は非社会的組織の温床にもなっています。交通のインフラの一環として、383のバスターミナル建設が計画され、すでに324か所完成しています。水利施設の修復建設着工プロジェクトは1279か所にのぼり、368.4万人の飲用水の問題を解決しました。35キロボルト以上の送電ネットワーク修復建設は175プロジェクトも完成しています。

北川県、汶川県、青川県の県政府所在地の復興及び映秀鎮、漢旺鎮の復興が急ピッチで進められています。2440社の災害を受けた企業のうち97.6%は生産を再開しており、デパートやスーパーなどの市場サービス施設の建設プロジェクトは6,237か所も着工しています。震災復興と同時に産業構造の調整が実施されており、新たな発展が期待されています。

同時に生態修復と被災者の精神的ケアも積極的に推し進められています。

## 2. 成都市の震災復興の成果

### (1) 都江堰市の復興状況

2008年5月12日の忌々しい汶川大地震では成都市の都江堰市と彭州市も大きな災害を受けました。都江堰市は成都の西に50キロ離れていますが、大地震の震源地である汶川県からは直線距離で40キロしか離れていません。幸いに世界遺産である2,000年も前に作られた都江堰には大きな影響はなく、正常に機能していますが、観光地の中心の二王廟はほとんど倒壊し、学校や病院や住宅なども壊滅的な打撃を受けました。地震発生の日、成都市の300台のタクシーが都江堰市に行き、負傷者を無料で成都市内の病院へ運びました。この愛に満ちた人道的行動は中央テレビを通じて世界中に報道され、人々を感動させました。

上海市が対口支援に乗り出してから一年半経った今、二王廟や青城山の道教の寺社は急ピッチで再建が進められ、街の建物も補強、新装、再建が進んでいます。同時に、学校、病院などの公共施設が建設、使用が開始され、住宅も新しく立ち並んでいます。

上海市は都江堰市のインフラ建設や公共施設の再建を「輸血機能」に喩えて、全力を挙げていますが、それよりもさらに重視しているのは「造血機能」の養成です。つまり、上海市の支援で都市が立派になっても、経済、人民生活、雇用情勢が良くなしないと、都市の再建が完成したとは言えません。上海市は上海の建材、食品、アウトソーシングや環境保護関連の56社の企業を動員して都江堰市に40億元投資させることにより、政府には税金を、再建には材料を、住民には就職先を提供しています。市場メカニズムでの支援は間違いなくウィンウィンの結果をもたらしています。

上海市の商業業者は都江堰市のヤック肉、お茶、漬物、ベーコン、キウイを、テナント料や宣伝費を免除して上海のスーパーで販売できる「緑の通路」を作りました。そして都江堰のキウイを振興するイベントを大々的に催しました。1,000人の労働者を安定的に就職させ、20,000戸の農家を増収させることに成功しました。

上海市の浦東発展銀行が都江堰市に支店を作り、上海進出の企業と現地の企業のために行き届いた金融サービスを提供しています。

農村部の再建は成都市の都市と農村一体化の試験モデル都市の政策と経験が十二分に活用され、地震前よりも立派に建設され、地元の話では住宅や街の発展は20年も繰り上げられていると言います。

成都市は都江堰市の都市化と観光事業の発展を支援するために、成都市内から都江堰市へのモノレールを計画し、建設しました。

総合的な再建措置のおかげで、都江堰市の観光客総数が地震前に回復でき、上海市からの観光客だけで10万人を超え、観光総合収入を3億元も実現しました。再建事業が胡主席の呼びかけに応じて2年で完成される見通しになっています。

## (2) 彭州市の復興状況

もう一つの震災地区の彭州市は成都の北 50 キロ程離れていますが、龍門山を挟んで震源地の汶川県と隣り合わせています。龍門山沿いの白水河や銀廠溝などは成都市民の避暑地であり、観光名所でもあります。山が崩れて谷間に住んでいる観光業農家の一部が埋没するなど、地震の影響の最もひどい地区となりました。

道路が塞がれ、救助隊である解放軍が落石の危険を冒して住民を救助するために谷に沿って進む前に、長官が隊員に酒の入った茶碗を渡し、隊員たちがそれを受けて一気に飲み干し、茶碗を地面に打ちつけて悲壮に山に入ってしまった風景は、成都市民にとって忘れがたいシーンになっています。

福建省の援助で作られた石室白馬中学校は彭州市で最も設備の整った学校になりました。敷地面積が 171 ムーで、建築面積が 3.8 万平米を誇り、コンピュータールーム、実験室、図書館、現代的教育機能室が設けられ、さらにバスケットボールコート、バドミントンコート、テニスコート、運動場などが整備されています。外観は典型的な四川省の民家の特徴を現し、庭園式スタイルに建設されましたが、福建省の要素と融合されて、福建省人民の厚情を滲ませています。

福建省の懸命な援助などもあり、彭州市の社会経済が全面的な回復を果たしつつあります。

## 3. 徳陽市の震災復興

徳陽市の什邡市、綿竹市は龍門山を隔てて、汶川大地震の震源地の汶川県と隣り合っていますから、地震で大きな損害を受けました。現地に行ってみると、平野部から突如として、1,000 メートルほどの山々が聳え立ち、断裂帯の典型的な地形になっています。今回の地震は地球の回転力と月の引力でインドプレートがチベット高原の下に潜り込み、チベット高原がアジア大陸とぶつかり、そこで蓄積された巨大なエネルギーが龍門山断裂帯で爆発した構造的な地震でした。風光明媚な景色が広がり、かつてここは「三線建設」が大々的に推進された場所でしたが、今回の地震でこのような壊滅的な打撃を受けるとは思いもよらないことでした。

災害がさらにひどかった漢旺鎮は、9 万人もいた東方電気の企業城下町でしたが、山が崩れ、地面が 4 メートルが隆起し、半分の建物がひび割れ、倒れ掛かって、残りの半分が瓦礫と化してしまったのです。14:28 で針を止めた時計塔は地震当時の報道で象徴的な存在となりましたが、今は、静かな佇まいで地震の爪痕の深さを物語っています。銀行の看板、レストランの面影、病院の赤十字、税務署のビルが往時の繁栄を伝えてくれます。国務院の許可を得て、ここは地震遺跡博物館として永久保存されることになりました。

徳陽市の行政区域では 4135 社の工業企業が震災で直接損失は 1,000 億元を超え、亡くなった人は 10,000 人を数えることになりました。380 万の徳陽市市民が切望したことは、徳陽が 1 日も早く復興することでした。温家宝総理が徳陽の東方電気を視察して、「人さえ居て、私たちの両手さえあれば、必ずや、東方電気を再建できます」と宣言し、職員たちを励ましました。

江蘇省が綿竹市を、北京市が什邡市を、それぞれ支援を始めました。一年経った今、東方電気の新しい工場が徳陽市街区域のすぐ近くの平野部に何ヶ所も立ち並び、新しい学校、病院、道路、老人ホーム、水道給水所が新築されて、農家と新しい住宅も次々と建てられていきました。一部の住民や政府機関がまだ仮設住宅に入っていますが、人々の顔には未来への希望に満ちています。

同時に災害地区の経済発展のために、江蘇省政府が江蘇省の100の企業を動員して、100億元投資して、江蘇省工業団地を作り、地元の人々の就職に資しています。北京市は道路インフラを中心に、地元の経済発展の土台作りにも余力を遣しません。

#### 4. 綿陽市の震災復興

綿陽はチベット高原の東の斜面に位置し、チベット高原もアジア大陸も大きなプレート

であることから、綿陽市内には3本の大きな断裂帯が走っていると言われています。歴史上幾度か大きな地震が発生しており、1933年に発生した茂汶地震も、1976年に発生した松潘地震も、それに今回の汶川大地震も3本の断裂構造帯に起こっています。綿陽市北川県は震源地の汶川と山一つしか隔てていませんから、山崩れで、県の中心部が土砂に覆われ、4分の3の建物が崩壊し、4分の1の建物も倒れ掛かっています。犠牲者と行方不明者が2万人を超えています。新中国になってから、災難が最も大きく、波及範囲が最も広く、復興が一番難しいとされる地震になりました。廃墟と化した旧北川県の県城は国務院の許可を得て、地震遺跡博物館を建設することになりました。

北川県の救援活動は最も壮烈で、中央テレビによって大々的に報道され、日本の救援チームも駆けつけました。

地震後にできた最大の3億立方メートルもある唐家山堰き止め湖も綿陽市市街区域を脅かし、マスコミの報道で全国人民の神経を尖らせました。国際的援助と解放軍戦士の懸命な努力により、その危険を未然に防ぐことに成功しました。

国務院が早速、経済的実力で中国トップレベルにある山東省を北川県応援の相手に決めました。山東省では早速7.2億元の資金を投下して、農村部の永久住宅の補助金に当てました。これまでには3



図1-1-1 漢旺鎮にある地震博物館



図1-1-2 漢旺鎮にある地震時計塔

万個の住宅を建設、補強などを実施した結果、2.3 万戸の地震で家を無くした農民のほとんどが新しい家に引っ越すことができるようになりました。

同時に農村部の道路、学校、病院など9.4 億元を投資した165 のプロジェクトのうち、153 のプロジェクトが竣工して、使用開始されました。

新しい北川県の県政府は安県安昌鎮の東南部約10 平方キロの山間平野に建設することになり、今度の地震で唯一の県政府所在地を移して建設する県となりました。農家の復興が終わった今、新しい県政府庁舎の建設が急務となりました。



図1—1—3 震災経験後の江油市

2009年6月8日午後、四川省と山東省の要人の立会いのもとで、北川県の新しい県政府は花束も風船も爆竹も演奏隊もない起工式を迎え、建設が正式に幕を上げました。現場には「新しい北川を建設しよう」というスローガンが大きく掲げられています。総工費は43 億元が予定され、道路、水道、下水、電気、通信などのインフラもさることながら、政府庁舎、チャン族文化センター、地震博物館、商業施設、学校、病院、住宅、工業団地、農業モデルパークなど59 のプロジェクトが建設され、2010年9月30日に完成する計画です。

綿陽市ではまた、河南省が江油市を、河北省が平武県を、遼寧省が安県をそれぞれ支援しています。

## 5. 広元市の震災復興

青川県は山に囲まれた谷間にある静かな街ですが、そこに行くには、山谷の小さな川に沿って進み、いくつかの大きい山を越える必要があります。都会の人にとっては一苦勞です。龍門山断裂帯に近いので、汶川大地震では大きな損害を蒙りました。現地への道中では、橋が途絶えていたり、山崩れの現場を通るなど、地震の爪痕の深さをまざまざと見せ付けられる旅でした。

今、県政府所在地に入っても、ひび割れの入っている住宅や地震で壊れて廃棄された自動車を目の当たりにすることができ、再建が遅れている感は否めません。というのは、山間地帯で交通が不便な現地で再建をするか、高速道路に近く、もっと平らな竹園鎮に場所を変えて街を再建するかについて、様々な観点から長期間にわたって検討されていたからです。最終的には青川県全体の均衡発展のために山間地帯の跡地に再建することになりました。

極重災害区 of 青川県は浙江省が震災復興の支援をすることになっています。浙江省政府が青川県の震災復興を非常に重要視して、早速、186 のプロジェクト、35 億元の投資を決め、7,000 名の援助要

員が現場に赴きました。県政府所在地の建設場所が決まらないという事情があったものの、農村の再建や道路のトンネルを着実に建設していきました。青川県に行く途中、学校や民家や堤防が斬新な姿で現れています。

今、浙江省スピードが青川県で再現され、県政府所在地にも多くの新しいマンションが次々と建てられ、道路や水道などのインフラも急ピッチで進められています。

震災復興後の経済発展と人民生活の向上を促すために、浙江省の133のスーパーでは青川県の商品を販売しており、浙江省の援助で青川県商品流通センターと50のチェーンストアを造り、直接9,000人の雇用を確保しました。浙江省の援助で青川県のほとんどの工業企業が生産活動を回復しており、現在は6企業が入居し、総投資が7億元の工業団地も建設されています。農村では「一村一品」、「一郷一業」というスローガンのもとで、農民の収入アップに貢献しています。

広元ではこのほかに平武県も震災区になっており、河北省が援助に乗り出しています。



図1-1-4 震災区の青川県の街風景

## 6. アバ州の震災復興

汶川県は汶川大地震の震源地で、マグニチュード8の大地震であることから、地震による大災害が世界を驚かせました。同時に、災害を前にして、現地で生活する被災者の人々のたくましさ、市民社会の成熟による自主的なボランティア活動、解放軍の懸命な救助活動、日本の救援チームを始めとする国際援助、各省の迅速かつ効果的な支援活動は世界に多くの感動を与えました。

汶川県は龍門山断裂帯に位置し、成都平野からアバ州に入る入り口にあって、九寨溝や黄龍、四姑娘山、草原景色を観光するために必ず通る重要な交通の要所です。水力発電を中心とするアバ州の工業基地で、山崩れで救援活動が妨げて、余震が続く中、この道路が再開するには3ヶ月以上もかかりました。

地震後、国務院はいち早く経済力ナンバーワンの広東省を汶川県支援に指定して、再建に取り掛かりました。一ヶ月以内に仮設住宅を建設し、生活に必要な衣食住などを解決し、道路、マンション、民家、学校、病院の再建が始まりました。

一年経って、2009年の5月12日に胡錦濤国家主席も出席して汶川県映集鎮に汶川大地震一周年記

念大開が開かれました。一年前にここは251発の原子爆弾の爆発を集中的に受けた衝撃に相当する地震に襲われましたが、今、災害地区の人民は震災の打撃から立ち上がりました。党中央と国务院の震災復興を推し進める決意が表明され、災害地区の被災者も支援する人々にとって大きな励ましとなりました。

震災時に多くの学校が倒壊し、学生たちは全国各地の学校に分散され、勉強しました。広東省の再建は今年9月1日の新学期に合わせて、まず16の学校を中心に進められました。

汶川県にはもともと83の学校がありましたが、再建を契機に16にまとめられて、学生たちが新しい学校で学費や食事代の補助を受けながら、全寮制となるなど、よりよい条件で勉強できるようになります。新しい学校には教学棟、寄宿舎、食堂、運動場のほかに、学術ホール、プラスチック陸上運動場、室内プールなどの近代化した施設が増設されました。16の学校の建築面積は22.25万平米に達し、震災前の83の学校よりも6.75万平米多く、1,000席増えました。今年の9月1日までに全部竣工して利用されています。

学校建設が汶川県再建の一番のハイライトになります。

このほかに、湖南省が理県、山西省が茂県を相手にそれぞれ震災復興を支援しています。

## 第二節 震災復興の政策措置

### 1. 財政出動政策

地震直後に中央と各地政府は直ちに震災復興基金を作り、住民への補助、投資プロジェクトへの補助、国営企業の資本金注入、銀行借金の利息補填などの方式で、都市と農村の損壊住宅、公共施設、インフラ回復及び工業、農業、サービス業の復興を重点的に支援をしてきました。

### 2. 税務優遇政策

2008年7月1日から、震災地区に対して増値税の控除範囲を拡大します。国家の制限する産業を除いて、企業の新規購入の機械設備に含まれる増値税の控除を認めます。もっとも、この政策は全国的に金融危機対策として実施されています。

重度震災地区にて損失を受けた企業に対して、2008年度の企業所得税（法人税）を免除しました。企業の受けた災害救助の資金は企業所得税から控除することを認められます。

震災地区の企業または震災復興を支援する企業に対して、国内で調達が難しい物資と設備を輸入して、震災復興に利用する場合、3年間優遇輸入税率を適用します。

企業または個人経営者が自社生産、または委託加工、または購入した貨物を公益団体、県以上の人民政府、またはその他の部門を通じて、震災地区に寄付する場合、増値税、都市維持建設費、教育付



加費を免除するとともに、年度企業所得税または個人所得税から控除することが認められます。

災害救助と震災復興に使われることを証明できる新規購入の特殊車両に対し、車両取得税が免除されます。

震災地区の企業が新規招聘の労働者の中、地震で仕事がなくなった都市住民を採用する場合、県級労働保障部門の認定を経て、営業税、都市維持建設費、教育付加費と企業所得税から、一人当たり 4,000 元の枠で控除を受けることができます。

### 3. 政府基金と政府行政事業的な費用を軽減する政策

重度震災地区の企業と個人の負担を軽減するために、3 年以内に政府基金と政府行政事業的な費用を減免します。中国では三峡ダム建設基金、大型ダム移民扶助基金、映画事業発展基金、水路運送付加費などが電気代、映画の切符、船のチケットと一緒に徴収されていますが、これが政府基金です。行政事業的な費用は会社設立や資格取得の時にかかる手数料のことをいいます。

### 4. 金融政策

銀行の震災区への貸出を奨励します。市場メカニズムのもとで、資本と保険の機能を発揮して震災復興を支援します。政府としては震災地区の信用環境建設に力を入れ、金融リスクと道徳リスクを防ぎます。道徳リスクとは自分の利益を最大化すると同時に他人に不利なことをしてしまうことです。たとえば、高い保険をかけていれば、財産管理の努力を怠るとか、震災区で国家救助の資金が借りやすくなりますが、土地の値上がりを期待して、返済能力以上に借り入れるとか、強勢の企業が消費者に不利な契約を強要するとかの現象を言います。信用社会を建設するためにはこうした道徳リスクをも防がなければなりません。

### 5. 産業政策

国家の産業政策に従い、現地の資源環境条件に適合し、震災復興計画中の優勢産業を優先的に発展させます。重点的に農業、牧業、農産物加工業、大型発電設備基地、ハイテク、エコ建材及び化学肥料、農薬、飼料の生産などを回復させます。

産業の復興は構造調整に留意し、ハイレベル、循環経済、省エネ、低炭素経済、ハイテク産業を発展させることになり、資源浪費や汚染の企業を淘汰されます。

また、環境に配慮し、産業集中エリアを作ることにより効率を高めます。

## 6. 土地と鉱物資源に関する政策

震災地区の住民安置住宅、倒壊した行政機関、学校の建物は復興建設のために新たに加えた土地について土地使用料を免除します。

政府投資、社会寄付及び自己調達で商品開発以外の住宅用地、BOT や TOT の方式による経営的インフラ建設用地、公共施設用地については、政府から土地提供をします。

投資が大きく、現地経済の発展に著しく役立つ工業団地または大型商業施設用地については実際の状況に即し、地価を下げ、地価を上げて払下げます。

鉱物資源使用料の中央収入を3年間、地方政府に鉱山復興発展の基金として還付します。

## 7. 就職援助と社会保険に関する政策

震災地区企業が復興に際し、就職困難な人員を採用した場合、規定により、社会保険（年金）の補助をします。

震災で営業を中止し、再開をする個人経営者には規定により、小額担保付借金を供与します。震災地区の個人営業者に対して、3年間、管理費、登記費、ライセンス発行費などの行政事業費用を免除します。

## 第三節 震災復興の資金源

### 1. 震災復興の事業規模

汶川大地震の直接損失は8,541億元ですが、計画では、再建のための投資は1兆7,000億元に達します。そのうち、国家の財政出動は8,858億元で、39の震災県で実施される32,728の重点プロジェクトに投資されます。対口支援の資金は財政資金と企業投資に分かれますが、総額は3,000億元に上り、道路、住宅、工業団地、農業モデルパークなどに投資されます。その資金は地元の企業努力と銀行からの融資から賄われています。震災区に行くと、社会経済の発展が20年は速まったとの声が聞かれるほど、大規模に実施され、成果をあげています。

四川省では農村の恒久的住宅126万3,000棟、都市部の恒久的住宅は約31万2,500棟の再建が必要で、補修を要する被害を受けた住宅は約141万7,500棟に達しますが、農村部の震災復興はほぼ終わり、95%の農民は新しい住宅で春節を迎えることができました。四川省政府は2008年10月から2010年9月までに、震災復興の全体の計画の85%を完成すると発表しています。つまり、北川、汶川、青川の3つの県と映秀と漢旺の重度震災区を除いて、33の県の震災復興を期限までに完成しなければ

なりません。

震災復興の目的は「家庭に住宅があり、世帯に職があり、住民に保障があり、インフラが整備され、経済が発展し、生態が改善される」ことにあります。

## 2. 対口支援

対口支援はまさに中国の特色あるやり方で、社会主義のメリットを説明するためによく例えとして引用されます。2009年末までに全国各地が震災区で3126の支援プロジェクトを確定、そのうちの1,211の建設援助プロジェクトを完成し、全体の38.74%を占めています。すでに682.13億元の資金が交付されています。

同時に対口支援の各省は震災区の経済発展に大きな関心を寄せ、地元の企業の販路開拓で協力するだけでなく、震災区に工業開発区を作り、支援側の関連企業の動員と誘致に努めています。

対口支援の相手省は次の通りです。

広東省——汶川県

山東省——北川県

浙江省——青川県

江蘇省——綿竹市

北京市——什邡市

遼寧省——安 県

上海市——都江堰市

吉林省——黒水県

湖南省——理 県

河北省——平武県

福建省——彭州市

山西省——茂 県

河南省——江油市

安徽省——松潘県

江西省——小金県

湖北省——漢源県

重慶市——崇州市

黒龍江省——劍閣県

### 3. 企業と住民の自助努力

震災区の企業は政府の土地、税制、資金、融資の支援を受け、工場の再建に励み、生産技術の改善、生産能力の向上を実現しています。住民も政府の救助や融資を受け、住宅の新築や増改築に努めました。

## 第四節 震災復興の中のビジネスチャンス

### 1. 工業団地

震災復興での優遇政策を利用して各地とも工業団地を作りました。住宅が完成しても職がなければ本当の震災復興ではありません。工業団地には現在、主に現地企業と対口支援の省からの企業が入居しており、今後震災区の経済発展の柱になると見込まれています。

現在、沿海地方の地価と人件費の高騰、内陸地の内需の増大により、製造業が内陸地への移転が盛んに行われています。震災地方の対口支援を行う沿海部の省や市は産業移転を震災復興の一環として政策的に指導しており、震災地の政府もそれを歓迎し、優遇条件を提供していることから、工業団地への企業入居が順調に進められています。現地の企業は農産物加工業が主ですが、対口支援の省からの企業はアパレル、縫製、電子部品など業種も業態もさまざまです。いずれも四川省の市場に照準を合わせています。

四川省には日本企業の工場がありませんが、中国の流通が発達していることから、四川省の人も日本商品を購入することができます。しかし、四川省で販売するのであれば、四川省で製造を行うことに勝ることはありません。四川省市場または西南部市場に狙いを定める日本企業が震災区の工業団地に入れば、きっと歓迎されるでしょう。

江油工業開発区、<http://www.scinvest.cn/html/park/2007-08/2007081522.html>

安県工業開発区 <http://anxian.my.gov.cn/ax>

北川—山東工業開発区、

彭州工業開発区、<http://kfq.scpz.cn/>

徳陽高新技术産業園区<http://www.dyetd.com/> が特に有名です。

### 2. ビジネスチャンス

地震を経て震災区の人たちは貯金が無意味なものと考えようになり、内需が非常に盛んになっています。綿陽市を例にとると、毎日 300 台以上の乗用車が販売され、住民の外食の回数も著しく増え

ています。まだ、日本料理屋がありませんし、味千ラーメンさえありません。震災復興で大型な商業施設が政府主導で建設されており、ビジネスチャンスは十分あります。

綿陽や徳陽などはすでにアメリカ系のマクドナルド、KFC、ピザハットが入っており、日本の飲食店を中心とするサービスを受けられる環境が整っていると思います。

## 第二章 四川省と西部大開発

### 1. 西部大開発の奨励政策

中国では現在、国内企業と外資企業を問わず、税制や土地の政策については全て同じ制度が実施されています。

しかし、各地方政府は現地の産業を発展させるために、外国企業に対しても国内企業に対しても均等に、多くの優遇措置を実施しており、それらは主に4つの分野に分類されます。

- 1) 財政支援政策：手数料の減免、ブランド発展政策による支援、国有企業買収時の不良資産の償却、中国地名商標を獲得した時の奨励など。
- 2) 金融支援政策：信用融資、上場、債権の発行の面の支援。
- 3) 要素支援政策：鉄道、道路、港湾の重点保障リストアップ、人材募集の面の支援。政府保有の不動産の廉価借用など。
- 4) 税収優遇政策：2010年までに法人税の部分免除、技術移転時の法人税免除、環境保護企業の場合の投資免税、技術開発費の控除など。

実際に投資する場合には、政策を研究し、政府の関連部門と交渉する必要があるでしょう。

### 2. 西部大開発における四川省

10年前に西部大開発戦略が打ち出されてから、四川省はインフラ建設、生態保護、産業構造調整、科学技術振興、改革開放の五つの面で力を入れて推し進めたことにより大きな進歩を遂げ、経済は当初の工業化初期から工業化中期の段階に入ることができました。10年間の大きな変化は三つに概略できます。

第一に、四川省の総合的な実力が著しく高められ、人民の生活が大幅に改善されました。2007年に四川省のGDPが10,000億元を突破し、全国で9番目の10,000億元のハードルを超える省になりました。さらに2009年にはGDP14,151億元を実現し、10年前の1999年の3,700億元からは3.8倍にもなりました。10年間の発展により物質的技術的な基礎を固めていたからこそ、大地震災害と国際金融危機の逆風の中でもこの大きな成果を成し遂げることができました。

人民生活の向上については、四川省を旅すると、衣食住及び交通条件が10年前より豊かになったことに気づくことができます。2008年の都市住民の可処分所得は12,633元で、1999年の2.3倍です。農民の純収入は4,121元で、1999年の2.23倍になりました。

第二に、インフラ、都市と農村の建設、生態環境、社会事業も大きく進歩し、人々の生産生活条件が改善されました。省内の道路総長が23.1万キロに達し、西部大開発前の倍となり、高速道路は2,188

キロに達し、建設中の2,955を加算すると5,100キロにもなります。双流空港の旅客数はここ数年続けて全国5位にランクされており、最近、第二滑走路も使用が開始され、全国で4番目の二本の滑走路を持つ空港になりました。

2008年には都市化率が37.3%に達し、10年前より6ポイント上がりました。

長江の上流にある四川省にとっては、生態環境の改善は避けて通れない課題です。2.88億ムーの天然林が保護され、斜面25度以上の耕地を森林に還す退耕還林事業は2,777.4万ムーに達し、放牧をやめ草原に還す退牧還草事業は7,500万ムーになっています。森林面積が6%も増加し、667.5万ムーの表土流失を工事と生態方法で防ぐことに成功しました。このことから四川省から長江に流出した土砂は46%も減少しました。

10年前に42の大学に在学する学生は18万人でしたが、現在は94校に100万人近くの学生が在籍しています。

第三に、改革開放の深化、市場メカニズムの完備です。幹部と人民の改革意識、開放意識と市場経済意識が劇的に高まり、発展を制約する観念的障害を乗り越えることができている。企業の市場の主体としての役割が確立し、市場に適応し、リスクを防ぐ能力とレベルも高められています。政府の役割の転換が順調に推移し、国営企業の改革、財政税務改革、投資融資体制の改革、都市と農村の統合発展改革において大きな成果を収めました。

去年の西部博覧会で4,700億元の契約が調印され、世界トップ500社の中ですでに145社が四川省で拠点を構え、ビジネスを展開しています。四川省政府のサービス機能が働き、発展環境が投資者に認知され、喜ばれていることを物語っています。

四川省はこれまでの成果を踏まえて、今後10年間で全面的に小康目標を実現し、全国の平均レベルに達するために邁進しています。

### 3. 西部大開発の政策措置について

西部大開発の政策措置は多岐にわたって豊富多彩な内容が含まれています。中国では国債の発行は中央政府しかできず、地方が特殊なプロジェクトにつき、債券を発行する場合、中国政府の許可が必要ですから、西部大開発の政策措置の中心が政策サポートと資金の還付です。たとえば、退耕還林事業と退牧還草事業は何千万人の生活と関連し、社会の安定と調和にも関係し、しかも巨大な投資が必要であることから、中央政府の強力な支援がなければ、地方政府のみでは独自にやり遂げることはできません。インフラ建設も同様に、中央政府の計画、許可、資金的援助がなければ完成させることはできません。

また、深圳、上海浦東新区や天津滨海新区のように、国家プロジェクトとして指名されると、中央政府が資金力を集中して発展させることができます。現在、成都重慶経済区は国家プロジェクトの有力候補になっています。

現在は北京天津経済区、上海を中心とする長江デルタ経済区、広州と深圳を中心とする珠江デルタ経済区が中国経済の大きな牽引力になっていますが、中国全体の均衡発展を実現するには成都重慶経済区が重要な意義があります。

成都と重慶はもともと同じ四川省にあり、重慶が直轄市になってからも両方は特殊な親密関係にあります。成都重慶の間には長江という水運で繋がると同時に、二本の高速道路と二本の鉄道で連絡されています。交通動脈沿いには15の都市があつて、四川省で最も発達している地区です。成都と重慶の牽引力で、西南部全体の発展が期待されています。

四川省の課題はいかにして成都重慶経済区の一極である成都周辺の経済ボリュームを大きくするかにあります。

#### 4. 西部大開発の課題

ここ10年来、四川省の経済社会は引き続き良好な発展の勢いを保っていますが、長期にわたり蓄積された構造的、体制的な問題も顕著になり、世界金融危機の影響も日増しに現れています。中国政府が近年、西部地方の内需拡大を促し、さらに西部大開発への支援を強めているのは、西部地区の奥行きが深く、発展潜在力が大きいという利点を生かし、全国経済の安定的な回復と発展の勢いを強固なものとするためです。

長期的には、西部地域の発展なしには中国全体の近代化はないという観点から、次の5つの戦略を実施することで、中国発展の地域格差を解消し、全体の発展を図ります。

第一に、国内外を網羅貫通する通路を建設し、先見的で安全で効率的なインフラ体系を打ち立てます。第二に、西部地区の大掛かりな産業構造調整を支援し、特色のある優位産業、ハイテク産業、新興戦略的産業が協調的に発展するという新しい局面をつくります。第三に、生態環境保護と建設の力の調和のとれた発展を促進し、積極的に清潔発展、循環発展と安全発展を推し進め、低炭素排出を特徴とする工業、建築業、交通体系を建設します。第四に、民生改善を重点とする社会事業の発展を速め、教育、医療衛生、就職、社会保障などの領域に存在する矛盾を解決して、政府公共サービスのレベルアップに努めます。第五に、人的資源の獲得および能力向上に力を入れます。積極的に国内外の優秀な人材と頭脳を誘致して西部地区における創業を支援し、多種多様な人材の育成に尽力します。第六に、引き続き改革開放を深化させ、西部地区と国内外の交流協力をさらに質を高めて大規模に実施します。中国政府は次第に西部地区への地方還付の規模を大きくし、内需拡大のための投資を引き続き西部地区に傾け、財政、税務、金融、土地、環境保護、産業などの政策を実施・改善し、西部地区の開発開放を速めるために更なる良好な市場環境を整えます。



## 5. 西部大開発における国際協力

西部地区は周辺隣国とエネルギー資源の相互補完性が強く、良好な協力の基礎と発展の展望があります。周辺隣国とのエネルギー資源面での協力を引き続き発展させ、新たな協力の領域と方式を模索し、拡大して行くことが西部大開発の今後の課題です。国際エネルギー企業を誘致し、西部地区のエネルギー利用効率アップ、炭鉱災害防止、石炭層ガスの開発利用などのプロジェクトに参加することを奨励しています。そのために積極的に西南西北地方の国際交通大動脈を構築しています。

西部地区には100あまりの税関がありますが、すでに国境地区の総合税関体制を形成しており、経済貿易と投資協力の深化を希望しています。中国政府は西部辺境地区が周辺隣国とさらに経済貿易の往来を拡大し、国境を跨いだ一つの市場を形成し、国際協力センターと国境開発開放区の建設を推進し、インフラ領域での交流協力を強め、輸出輸入商品の経営範囲、輸出輸入商品の許可枠、ライセンス管理、人員往来などの面で手続きを簡素化し、参入のハードルを低くするなどの政策を実施します。また、合理的に産業移転重点受け入れ地区と模範エリアの建設を計画し、外国資本を西部地区のハイテク産業、先進製造業、近代化農業、近代化サービス業等の分野で誘致します。中国西部地区と周辺隣国には豊富な観光資源を持ち、共同で国を跨る観光スポットと世界古代文明の観光地域の建設が期待されます。

ここ数年来、中国西部地区と周辺隣国との両国間または多国間の協力は積極的な進展が見られました。中国政府は中国とアセアン自由貿易区が来年予定通り実現させており、引き続き上海協力機構国家間の経済貿易協力をさらに発展させています。また、積極的に「蘭倉江—メコン川流域協力」を推進し、広西南寧における中国—アセアン国際博覧会、中国西部国際博覧会、中国南アジア商務フォーラムの実施に全力で取り組んでいます。

## 第3部 四川省の個別産業に関する日中貿易

### 投資ビジネスの可能性と課題

#### 第一章 資源関連産業

##### 第一節 四川省資源概況

###### 1. 概況

四川省は中国でも有数の豊富なエネルギー資源、鉱物資源、水資源に恵まれた省です。地下鉱物資源は現在判明しているだけでも132種類に上り、天然ガスの埋蔵量は新疆のタリム盆地と内モンゴルのホルンベル草原に及ばないものの全国トップレベルにあり、水力発電資源は僅差でチベットに劣りますが、稼働発電量では文字通り全国一を誇っています。

四川省で最も発達している成都市、綿陽市、徳陽市、資陽市、眉山市から成る成都経済区は盆地の底にあり、昔から農業が発達した一方で、現代産業を発展させていくエネルギー資源、鉱物資源、水力発電資源が乏しいことから、ハイテク、先進的な製造業とサービス業が発展の重点になっています。

他方、盆地の周りは4つの経済区に分かれ、いずれも資源に依存した産業構造になっています。

アバチベット族チャン族自治州、カンゼチベット族自治州の2つの少数民族自治州が含まれる四川省西北生態経済区は、豊かな鉱物資源、水力発電資源、観光資源を有しています。

広元市、巴中市、達州市、広安市、遂寧市、南充市の6都市から成る四川省東北経済区では、天然ガスを中心としたエネルギーと化学工業が重点です。成都市の電力の増大を見込み、南充市にて原子力発電所の建設が計画されています。

樂山市、内江市、自貢市、瀘州市、宜賓市から成る四川省南部経済区は樂山市は樂山の大仏や峨眉山など観光資源に恵まれているほか、天然ガスや岩塩を原料にしたエネルギーと化学工業が重点です。

攀枝花市、涼山イ族自治州、雅安市から成る攀枝花西昌経済区では、豊富なチタン、バナジウム、鉄鉱、石炭に恵まれています。

###### 2. 資源についての定義

資源とは人間の生活や産業等の諸活動の為に利用可能なものを言います。広義には人間が利用可能な領域全てであり、狭義には諸活動に利用される原材料です。中国では一般的にはかなり広義的な解釈が行われています。鉱物資源やエネルギー源や水などの天然資源のほか、人力資源、観光資源、

農業資源、森林資源、水産資源、海底資源、海洋資源、遺伝資源、電波資源、経済的資源、教育的資源などがあります。

### 3. エネルギー資源

四川盆地の天然ガスの資源総量が 71,851 億立方メートルあり、全国天然ガス資源総量の 19%を占めます。同時に四川省の天然ガスの重要生産エリアの生産量が 175 億立方メートルで、全国生産総量の 24.7%に当たります。天然ガス輸送用のパイプラインは 2,500 キロにもなります。現在のペースでいけば、350 年以上も開発を続けることが可能です。地質調査が進むにつれて、さらに多くのガス田が発見されることが期待されています。しかし、社会経済の発展により、四川省自身の使用量が 100 億立方メートルを突破し、今後も増える傾向にあります。

石油の貯蔵量は、天然ガスと比べるとごくわずかにすぎず、6,796 万トンの埋蔵量が確認されていますが、一人当たりの石油保有量は全国平均の 10.9%にすぎません。

2012 年にはさらに 5,900 億立方メートルの埋蔵量が発見され、生産量が 548 億立方メートルを超え、パイプラインがさらに 2,630 キロ建設され、315 億立方メートルの輸送能力が増加されると計画されています。2015 年には生産量がさらに 730 億立方メートルにアップされ、3,073 キロのパイプラインが新築され、輸送能力が 375 億立方メートルに増えるでしょう。

### 4. 鉱物資源

地質条件が複雑で、マグマ活動が頻繁に起こり、鉱物資源が形成されやすく、種類もとても多いです。攀枝花市と西昌市周辺には全国の 13.3%の鉄、93%のチタン、69%のバナジウム、83%のコバルトが埋蔵されており、32 種の鉱物の埋蔵量が全国で上位 5 位に入っています。

全国第一位がチタン、バナジウム、硫鉄鉱、溶錬水晶、工学蛍石、ガラス用水晶など 6 種類あります。

全国第二位がリチウム、よう素、塩鉱、晶質石墨、石綿、雲母、レンガ用沙岩など計 11 種類です。

第三位がプラチナ系金属、鉄鉱、ベリリウム、溶剤用灰岩など計 5 種類です。

第四位がマグネシウム冶金用白雲岩、軽稀土鉱、カドミウム、鋳型用沙岩、青い石綿、ガラス用白雲岩、セメント添加用粘土など計 8 種類です。

第五位がリン鉱の 1 種類のみです。

豊富な埋蔵量を有する 90 種類の鉱物は工業的に開発価値が高く、四川省の工業発展にとって重要な役割を担っています。しかし、四川省の石炭保有貯蔵量は 97.33 億トンで、全国の貯蔵量の 0.9%にしかすぎません。

## 5. 水力資源

四川省はチベット高原の東の斜面に位置し、長江と黄河が四川省を挟みながら東へ流れていますが、水力資源総量をの発電量に換算すると1.43億キロワットで、チベットに次いで全国二位です。

四川省には1,300本の川があり、ほとんどが長江流域にあります。西部大開発は四川省の水力資源の開発のための大きなチャンスを提供しています。1万キロワット級の川が737本あり、経済的に4,018億キロワット/時間を発電することができます。金沙江、雅礮江、岷江、沱江、嘉陵江、渠江、涪江などが全国的に有名です。

四川省の計画は水力発電を大きく発展させ、火力発電の効率をアップさせることです。2010年には四川省の発電量を水力発電の3,000万キロワットを含む4,500万キロワットに増加させ、電力産業の売り上げを1,200億元、2012年には発電量を水力発電4,000万キロワットを含む5,700万キロワットにし、売り上げを1,730億元、2015年には発電量を水力発電6,430万キロワットを含む8,230万キロワットにし、売り上げ3,000億元を実現します。原子力発電については2020年に200万キロワットの能力を実現します。四川省を国際的な水力発電基地と「東電西送」の重要基地とすることを目指します。そのため、ネットワークの建設に力をいれ、2010年には110–500千ボルト輸送変電工事を1,768ヶ所建設し、送電線路を1.6万キロを新設します。華中、華東と西北のネットワークとの連絡を強化します。

## 6. 林業資源

四川省は中国の西南部の長江上流にあり、水と気温に恵まれた亜熱帯気候エリアに属することから、中国では最も豊富な林業資源に恵まれ、中国二位の林業地区です。林地面積は3.42億ムーで、市内面積の47%を占めています。材木の総量は16.73億立方メートルで全国2位に位置し、34.3万ヘクタールの面積が森林に覆われています。森林は四川省西部の高山高原地区、西南部の山地、盆地周辺の山地、盆地中の丘陵、平野部へと行くにつれて順次減っていきます。自然林が3分の2を占め、主に四川省西部の高山高原地区、西南部の山地に分布し、人工林が3分の1で、盆地周辺の山地、盆地中の丘陵に植えられています。

四川省の植物の種類は1万種類にのぼり、これは中国の植物の種類全体の3分の1に相当し、全国で2位の種類数の多さです。裸子植物は100種類あり全国1位、被子植物は8,500種類程度あります。また、419種の国家重点保護野生植物のうち、四川省には63種あります。そのうち、一級が13種、二級が50種です。

豊かな森林を有することから、脊椎動物が1,259種類生息し、全国総種類数の45%を占めます。また、国家重点保護野生動物が145種生息するなど、中国ないし世界の希少生物の宝庫といえるでしょう。

四川省はパンダの故郷で、野生パンダが1,206頭(2004年第三次全国パンダ全数調査データによる)生息し、全国の76%を占め、人口飼育のパンダが200頭余りで、文字通り全国一です。

四川省はもともと材木産出の基地でしたが、西部大開発で、特に長江上流の生態林保護政策が実施されてからは、林業地区のみならず農業地区や市街区域においても樹木が厳重に管理されています。林業の伐採は間伐を主にして、計画的に管理されています。

## 7. 観光資源

四川省が中国の地形を3段の階段に例えると2段目に位置し、風光明媚な観光資源に恵まれています。例えば、九寨溝、黄竜、峨眉山、海螺溝、四姑娘山、稻城と亜丁、青城山などの景勝地です。(詳しくは付録を参照)

## 8. その他の資源

生物資源が比較的に多く、毎年、利用可能な人畜糞尿が3,148.53万トン、柴薪が1,189.03万トン、わらが4,212.24万トン、メタンが10億立方メートルあります。泥炭は20億トンの埋蔵量が確認されています。

活用可能な太陽エネルギー、風エネルギー、地熱エネルギーも豊富にあり、開発が待たれています。

## 第二節 四川省の資源関連産業特徴

### 1. 概況

四川省はもともと「三線」建設の重点地区で、10年前に始まった西部大開発でも四川省は重点地区でした。西部大開発の重要な目的の1つが西部の資源を開発して、社会経済の発展レベルを引き上げようとすることにあります。「西電東送」(中国西部の水力発電や火力発電による電気を東の沿海地方に輸送すること)と「西気東輸」(中国西部の天然ガスを東の沿海地方に輸送すること)が行われ、西部地区のインフラ整備のための資金が大規模に投入されています。資源産業は四川省ので主要産業として、工業体系で重要な位置を占めています。石油は外からの輸入に依存しますが、天然ガス、電力、鉱物資源、農産物などはすべて輸出しています。

## 2. エネルギー産業

天然ガスと石油は中国最大の石油会社である中国石油やシノペックが独占的に開発を行っています。天然ガスは四川省内の需要を満たすほか、「西気東輸」の為にも貢献しています。他方、石油については、南充市には石油精錬工場がありますが、四川省の需要のごく一部しかまかなえず、輸入に頼っています。ガソリンの販売は都市部では中国石油やシノペックのチェーン店に加盟しているガソリンスタントが主なルートですが、民間のガソリンスタントのほか、エッソやモービルなどの外資系のガソリンスタントもあります。

天然ガス資源が豊富なため、四川省では「気化全川」（四川省全体の天然ガス使用量を増やし、他の資源の消費量を削減すること）の計画を打ち出し、住民生活に天然ガスの使用を促すプロジェクトを通じて、大気汚染を抑え、自動車にもガスボンベを装備することでガソリンへの依存を減らし、コスト削減、大気浄化にもつなげています。

## 3. 鉱物開発産業

四川省の金属鉱物資源の開発は、国営企業または国営企業から転換した株式会社によって行われますが、石炭や大理石や御影石などの非金属資源は地元の企業や民間企業が開発を担当しています。これらは地方政府に資源使用料を払うことにより開発を行うことができます。特に大理石、御影石、石炭などは最近の建築ブームにより価格が上昇していることから、鉱物資源開発は多くの富裕層を生み出しています。

成都市は 2008 年にすべての炭鉱を閉鎖していますが、石炭資源に頼る他の地方でも、ここ数年問題となっている炭鉱事故を抑えるために政府主導の炭鉱の吸収合併が進み、技術力と資金力のある大企業が採掘の主導権を握っています。

## 4. 水力発電所

現在、四川省には 49 プラス 10/2 ヲ所（10 ヲ所が雲南省、チベット自治区との境界にある）の大型水力発電所があります。年間発電量は 4,169 億 kW/時間です。中型発電所は 253+12/2 ヲ所あり、年間発電量は 960.56 億キロワット/時間です。小型発電所は 1,597 ヲ所あり、年間発電量は 439.29 億キロワット/時間です。二灘水力発電所は三峡ダム発電所に次ぎ、四川省水力発電の 24%を占め、全国の 5%の水力発電量を誇り、特に有名です。

西部大開発で瀑布溝、溪洛渡を始め、建設中の大型発電所が何ヶ所もあります。

## 5. 林業産業の現状

工業原料林、特色経済林、生物エネルギー林、優勢林産加工業と生態観光業の5つの分野から林業産業が形成されており、発展、拡大しています。

工業原料林は竹、アカシヤ、ユーカリ、楊樹などのリサイクルできる林を主とします。

特色経済林は胡桃、山椒、銀杏、栗、オリーブなどです。

2007年には林業関連企業は2万社に達し、農業産業化四川省級牽引企業が26社、国家級農業産業化重点牽引企業が2社あり、これらの企業は農民の収入アップに大きく貢献しています。

最近、山林権利証書の発行が話題になっています。もともと、農民が山林を持っていても、権利の確認が難しく、間伐、伐採をするたびに政府の許可を得なければならず、申し込みが許可されない場合も少なくありませんでした。これらのことから、農民が林業に資金投入をする積極性と創意性が失われていました。今後は山林権利証書の発行によって、農民が主権者という権利が確認され、法律の許す範囲で自由な伐採ができるようになります。

権利と収益が保障されるようになれば、農民の積極性と創意性が喚起されるでしょう。しかも、山林権利証書で金融機関から融資を受けることができますから、林業の大きな発展が期待されます。

## 6. 観光産業

四川省の観光産業が豊かな観光資源に恵まれているだけでなく、「農家楽」はじめとする草の根の観光業も発達しています。他所の観光客だけでなく、四川省内の住民もまた観光客になることで、観光産業の規模を大きくしています。

### 第三節 外資投資奨励プロジェクト

#### 1. 基本情況

資源関連産業では農業資源と観光資源は外資投資の奨励分野ですが、その他は禁止分野になっています。しかし、禁止されている分野でも、ハイテクと関連していれば奨励分野になるなど、ケースバイケースであることから一概に決めることはできず、個別に検討を要します。

1996年12月19日に成都イトーヨーカドーが成都で開業しました。この時期はまだ中国がWTO加盟を果たしておらず、外資による小売業はむしろ警戒されていました。しかし、イトーヨーカドー社の投資意向を受けて、成都市と四川省は積極的に中央の各省庁との交渉に乗り出しました。その懸命な努力が報われ、成都イトーヨーカドーが成都で根を下ろし、今日の成功を迎えています。今でも、当時の対外連絡と企業誘致を担当した人から苦心談をよく聞きます。まさに「志有る者は事遂に成る」

という言葉のとおりです。

特に外資企業による投資が安い原材料、安い人件費を求める在来型の投資から、地元の経済発展に貢献することによって、自社も発展する溶け込み型の投資に変わりつつあることから、市場が大きく、資源の産出地に近い四川省はますます魅力ある投資先になるでしょう。

四川省招省引資局のホームページを調べれば、誘致プロジェクトがサービス貿易類、ハイテク類、インフラ類、農業産業類、優勢資源類、装備製造類、文化観光類の7種類に分類されていますが、そのうちの優勢資源類は明白に資源関連産業と関係あるように、詳しく調べると、農業資源と観光資源のみが奨励対象といえるでしょう。

## 2. 鉱物とエネルギー関連の投資奨励プロジェクト

2007年改訂発表の「外商投資産業指導目録」から鉱物とエネルギーに関する投資奨励プロジェクトをピックアップしてみました。中国側が技術的に遅れている分野やリスクのある分野が多いですが、「合資、協力に限る」、「協力に限る」、「中国側51%の出資比率に限る」など条件が付け加えられている分野もあることから、投資を行う際には十分な調査が必要となります。

- ・炭鉱ガスの採掘、開発及び利用（合資、協力に限る）
- ・石油、天然ガスのリスク調査、開発（合資、協力に限る）
- ・低浸透石油、天然ガスの開発（合資、協力に限る）
- ・原油最終率向上及び関連新技術の開発応用（合資、協力に限る）
- ・地質調査、ボーリングなどに関する石油開発新技術の開発及び応用（協力に限る）
- ・石油頁岩、石油砂、重油、超重油など特殊石油資源のボーリング、開発（協力に限る）
- ・鉄鉱、マンガン鉱の調査、採掘及び選鉱
- ・末期炭鉱利用率向上の新技術開発と応用、および鉱山生態回復技術の総合利用
- ・海底可燃氷の調査と開発（協力に限る）
- ・大型石炭化学製品の生産（中国側51%の出資比率に限る）
- ・海底石油開発のための石油調査、ボーリング、開発用の設備製造
- ・ソーラー電池生産専用のプラントの製造
- ・100万kW原子力発電所の重要設備の製造（合資、協力に限る）
- ・発電所の脱硫、脱硝酸、集塵器技術及び設備製造
- ・原子力発電所、火力発電所の密封部品の設計、製造
- ・原子力発電所用の大型鋳物や鍛造部品の製造
- ・送電トランス設備（合資、協力に限る）
- ・ソーラー、地熱、汐エネルギー、波浪発電、ごみ発電、1.5兆ワット及びそれ以上の風力発電のプラントや重要部品の製造（合資、協力に限る）



- ・太陽エネルギー空調、暖房システム、太陽エネルギー乾燥装置の製造
  - ・特殊と稀有石炭の調査と開採掘（中国側 51%以上の合資合弁）
  - ・重晶石の調査と採掘（合資、協力に限る）
  - ・貴金属（金、銀、プラチナ）の調査、採掘
  - ・ダイヤモンドなどの貴重非金属鉱の調査、採掘
  - ・燐鉱の開発、選鉱
- （その他）

アメリカは国家戦略として自国企業の世界各国への投資を積極的に進めています。西側の国々の市場が伸び悩むにしたがって、石油需要が旺盛で伸び続けている中国が注目の的となっています。最近のBP社、エクソン・モービル社、シェブロン・テキサコ社、シェル社などの中国への投資からは、石油メジャーの戦略転換をうかがうことができます。

これらの石油メジャーは先端的技術と莫大な資本力を持ち、本国政府の強力なバックアップを受けていることから、早くから中国で調査と石油精練の合弁企業に投資しています。イギリスのBP社による中国への投資が最も多く、総額は45億ドルに達し、中国で36ヶ所のガソリンスタンドと多くの天然ガスの合弁会社を展開しています。シェル社は中国での投資が17億ドルを超え、20社の合弁企業と40ヶ所のガソリンスタンドを有しています。

### 3. 農業産業

四川省招省引資局のホームページから農業資源プロジェクトを抜粋しました。中国政府の農民増収を促したいという本音をうかがうことができます。

- ・玉蜀黍茎による中密度合板生産ライン
- ・こんにゃく栽培加工プロジェクト
- ・ミネラルウォーター生産プロジェクト
- ・山椒加工基地建設プロジェクト
- ・動物骨加工プロジェクト
- ・養蚕基地及び蚕糸総合開発利用プロジェクト
- ・たけのこシリーズ製品開発プロジェクト
- ・紙製品包装印刷工業団地
- ・岳池県白酒生産
- ・雨潤食品産業グループの都江堰養豚基地
- ・塩源県唐辛子栽培及び深度加工プロジェクト
- ・製革及びアパレル工場
- ・現代農業モデルパーク

- ・青いイチゴ総合開発
- ・万源無公害お茶産業化開発プロジェクトなどです。

必ずしも日本企業のニーズにフィットするわけでもありませんが、四川省ではこのようなプロジェクトが必要とされています。

これまでに葡萄の巨峰、りんごの国光、稲の品種などが日本のODAにより中国に入っています。しかし、これはあくまで無償援助によるものでした。中国も市場経済のメカニズムが樹立されており、今度は商業ベースの農業を必要としています。日本企業としては積極的に中国の巨大市場を攻略する作戦を練ることが求められます。

#### 4. 観光産業

観光産業は四川省政府が重点的に奨励する分野ですが、投資が大きく、現地政府との協力が成功の決め手となります。以下にいくつか抜粋します。

- ・観光土産品の生産加工プロジェクト
- ・庄上リゾート観光生態パークプロジェクト
- ・竹林溝自然生態観光とリゾート開発プロジェクト
- ・周公山温泉パーク開発プロジェクト
- ・周公山森林開発プロジェクト
- ・中華朱羅紀公園観光区
- ・自貢市古鎮全体開発プロジェクト
- ・塩リハビリテーションリゾート基地開発プロジェクト
- ・中国西部紅原遊牧部落文化村建設プロジェクト
- ・瀘州市江陽職業学校の建設
- ・雲湖国家級観光森林公園
- ・岳池県翠湖景勝地観光開発
- ・月亮湾草原生態観光区
- ・清溪ホテル建設（四つ星以上のホテル）などです。

中国で観光資産を持ち、中国の発展とともに資産価値を高めていくことができれば、良い投資先となりえるでしょう。政府との良好な協力関係をいかに構築するか、観光業に関するノウハウを持っているか、などのリスクを事前に検討し、十分に対策を練っておく必要があります。

最近、ディズニーランドが上海で建設されることが話題になっています。アメリカの観光業が中国へ進出する最大の案件でしょう。上海市としては上海の産業構造調整の重要な一環として歓迎しています。日本としても、観光業のノウハウを活かして、日本文化に根ざしたプロジェクトを中国で展開すべきでしょう。

## 5. 実施する上で注意すべき点

鉱物資源やエネルギー資源は原則として、資金力と技術力のある大企業の役割になります。日本の大企業はすぐれた情報力を有していることから、西部大開発を契機に中国経済の発展とともに歩む土台を構築することが強く期待されています。鉱物資源の採掘にあたっては、環境問題、現地住民の立ち退き、道路などのインフラ整備も関連することから、現地政府の果たす役割が大きく、日本企業が独自に対応することは難しいと思われます。資源関連のプロジェクトには合資・合弁の条件が付いていますが、これはむしろ、外国の企業をリスクから保護するためのものとも解説できると思います。現に、中国国内の企業でも現地の政府と住民との関係をうまく処理することができず失敗に終わった例が多々あります。

鉱物資源開発そのものは、外資には開放されていませんが、資源の産地に近い方は輸送コストが安い。うえ、比較的容易に安定的な供給を確保できることから、四川省は魅力ある投資先ということができまが、現地の産業政策や商品の売れ先、特に協力する相手の状況を含め、事前に市場調査をしっかりとしておくことが重要です。

不動産も外資進出の奨励分野ではありませんが、実際に中国で不動産事業を展開している日本企業がたくさんあります。上海市のシンボルに高層ビルの多くは外資系資本が入っています。エネルギーの分野でもモービル社やシェル社が入っています。要は中国の企業と関係を持ち、中国市場を立ち入って、研究する必要があります。

国際エネルギー組織 (IEA) が発表したレポートによると、15 年後には中国がアメリカを追い越し、世界最大の石油と天然ガスの消費国になると予測しています。

2009 年 11 月 13 日の「ウォール・ストリート・ジャーナル」によると、エクソン・モービル社が 45 億ドル投資し、シノペック社と合弁して、中国福建省で 1 日当たりの生産能力が 24 万バレルに上る世界最大級の石油精錬工場を作り、同時にアメリカにあるすべてのガソリンスタントを売却し、中国で 750 ヶ所のガソリンスタントを設けると報道されました。エクソン・モービル社の今後の中国経済にかける並々ならぬ意気込みがよくわかります。

中国は義理人情の世界ですから、地方経済の発展に貢献すれば、その見返りとして利益をあげることはむしろ当たり前のことと考えます。エクソン・モービル社の決意には中央政府も地方政府も深い恩を感じたに違いありません。

日本には「だめでもともと」という言葉がありますが、中国の資源関係産業に投資をするのであれば、奨励分野ではないから諦めるのではなく、自社の技術的長所をもって粘り強く、辛抱強く取り組むという意気込みが必要です。

日本の中小企業も技術的優位性をフルに活用して、農業資源や観光資源関連のプロジェクトに参入し、中国経済に根付くことを通じて、自らが中国経済の「上昇気流」になるという心構えが必要だと

思います。

中国の資源と日本の技術が手を結んだ暁には、本当の強いアジアが生まれることでしょう。

## 第二章 環境保護事業

### 第一節 環境保護産業の定義

#### 1. 定義

国家経済貿易委員会が 1990 年に発表した定義によると、「環境保護産業」とは汚染を防止し、環境を改善することを目的に行われる各種の生産経営活動です。環境保護産業は広範な各産業・分野に跨り、相互に浸透しあう新興産業であり、未来の産業として最も発展の潜在力のある産業とされています。環境保護産業の発展に力を入れることは、エネルギーを節約し、循環経済を実現し、社会経済の持続的発展を促進するために大きな意義を有しています。

「環境保護産業」については、国際的な狭義と広義の 2 種類の定義があります。

狭義には環境汚染制御、排出削減、汚染処理及び廃棄物処理のために設備とサービスを提供する産業を指します。すなわち、環境について末端処理をすることに重点が置かれています。

広義には測定、防止、制限及び環境破壊克服のために関連製品とサービスを提供する産業を含みますが、同時に汚染物質排出と原料消費を最小化にするための生産技術と製品をも含みます。この定義は「製品生命周期」について主眼が置かれ、製品の設計から生産、使用、廃棄物の処理、循環使用に至るまでの過程を含みます。

#### 2. 上記定義のメリットとデメリット

上記の定義は伝統的な産業分類法に基づいて行われたもので、その特徴は環境保護産業の三次産業における位置づけを明らかにし、国民経済の統計と分析に適していることです。しかし、生態環境の保護と持続的発展のために重要な「資源開発と保護」への注意が欠けています。例えば、環境に対して無害であることを目指すグリーンな生産技術とグリーンな製品は製品生命周期の中で重要な意味を持ち、環境汚染に対する究極的な解決策となることから、より大きな注意を払われるべきでしょう。

#### 3. 分類：

環境保護産業は 1) 環境保護の設備の生産と経営、2) 資源の総合利用、3) 環境保護サービス業、4) クリーン製品の 4 分野に分類されます。各地の促進計画では前の 3 つの分野を重点としており、4) は範囲が広く、各産業の努力に任されているのが現状です。

次に環境保護産業の企業は、国際的な定義によれば次の 4 種類に分けることができます。1) 自然資源の開発と保護に関連する生産とサービスを提供する企業、2) 省エネ、原料消費削減、製品の有害物

質含有量減少に関連する技術研究開発、設備生産とサービスを提供する企業、3) 廃棄物の循環使用、処理処置に関連する技術研究開発、設備生産とサービスを提供する企業、4) 環境観測、汚染防止などの生産経営活動をする企業。

#### 4. 環境保護の設備の生産と経営

環境保護産業の4分野のうち、当該分野はさらに7つの領域に分類されます。

1) 水汚染を防止・浄化する設備の生産・販売・運営、2) 空気汚染を防止・浄化する設備の生産・販売・運営、3) 固体廃棄物の処理・処置・回収・再利用をする設備の生産・販売・運営、4) 騒音振動を防止・吸収する設備の生産・販売・運営、5) 放射線、電磁波を防止・保護する設備の生産・販売・運営、6) 環境保護用の薬剤の開発・製造・販売、7) 環境監視用の計測器の生産・販売・運営。

#### 5. 資源の総合利用

当該分野はさらに5つの領域に分類されます。

1) 廃棄資源を回収して作った各種の製品、2) 石炭、石油などを節約する設備、3) 沼気（沼などで、有機物の腐敗・発酵によって生成する気体。メタンを主成分とする）の利用、4) 酒造のカズの再利用、5) 混合鉱物の総合開発利用。

とりわけ、5)は四川省にとって重要な意味があります。なぜなら、四川省の鉄鉱石にはチタンやバナジウムが豊富に含まれており、鉄よりも価値はるかに大きいからです。

#### 6. 環境保護サービス業

当該分野はさらに6つの領域に分類されます。

1) 環境保護のための技術開発とサービス、2) 環境工事の設計の施工、3) 環境監視サービス、4) 環境関連コンサルタント、5) 環境汚染防止施設の運営（主に汚水処理工場のBOT運営）、6) 環境排出ノルマの貿易と金融サービス。

#### 7. クリーン製品

有機農業、有機肥料、新素材、省エネ商品などの分野。

## 第二節 四川省の環境保護産業の特徴

### 1. 国際と国内の環境保護産業の現状

1992年の全世界の環境保護産業のGDPは2,500億ドルでしたが、2008年には14,800億ドルに達し、年間の平均成長率は11.8%となって、今最も発展の可能性を秘めた産業と言えるでしょう。アメリカ、ドイツ、日本などの先進国は全世界の環境保護産業の主導権を握り、2008年にはそれらの国々で市場全体の70%を占めています。その重点は汚染防止、固体廃棄物処理処置、資源の総合利用、観測計測機器などの分野における技術開発と設備製造、環境貿易及び金融サービスです。ドイツの著名なコンサルタント会社であるローラン社の研究によると、2030年にはドイツの環境保護産業のGDPは1兆ドルに達し、自動車産業と機械製造産業を超え、ドイツの最大の産業になると予測しています。

中国の環境保護産業の成立は先進国に比べて20年も遅れ、技術、製品、GDPなどの面で大きな差があります。GDPを例にとると、2008年の中国の環境保護産業のGDPが7,900億元で、全世界の7.6%にすぎないのが現状です。しかしその成長は早く、ここ数年来、平均18%の成長率を記録しています。一部の技術と製品は世界で先進的なレベルに迫り、または、すでに追いついています。

### 2. 環境保護産業での協力が日中間のハイライトに

中国と日本はともにエネルギー消費大国で、省エネと環境保護の分野での交流と協力は双方の利益に適合しています。日本から中国への円借款が終了してから、この分野での協力が特にクローズアップされています。2004年からは、日本の経済産業省と中国の国家発展改革委員会との間で循環経済について交流と協力を展開しています。

今では日本の技術が中国の電力、自動車、電機、トランス、鉄鋼、建築などの分野で活用されています。

### 3. 四川省の環境保護産業の現状

四川省の環境保護産業は初歩的な段階ではありますが、徐々に発展の土台を築きつつあります。2008年、四川省には環境保護産業の企業数は800社を突破し、売り上げが1,000万元を超える企業は150社に達し、同産業内の全従業員数は50,000人で、同産業のGDPが170億元になると推測されています。全国の環境保護産業GDPの3%占めています。

特に資源総合利用分野では都市汚水130万トン/日の処理能力を有し、高速鉄道の騒音防止壁の製造が中国のトップレベルにあり、自動車排気ガス浄化器が中国環境保護製品の認定を受け、東風自動車グループ、長安鈴木社、奇瑞自動車など7社の90車種に装備されています。

そして、科学技術開発能力が高いレベルにあります。特に成都市には多くの大学と研究所が集まり、化学、軽工業、冶金、原子力、電子、電力、紡績の国営設計事務所（計画経済の名残ですが、設計市場を独占に近い形で占有しています）には環境保護の技術部門を設けています。四川大学の国家級脱硫技術開発センターは既に多くの研究成果を発表し、一部は生産に応用されています。

表2-2-1 四川省各地の汚染物質排出状況その1

市州	化学酸素需要量			二酸化硫黄		
	2008年	同比昨年	累計比	2008年排	同比昨年	累計比
四川	749100	-2.84%	-4.33%	114.78	-2.62%	-11.59%
成都市	138979	-6.79%	-12.81%	15.973	-3.32%	2.83%
自貢市	26970	-0.99%	-1.99%	3.965	-5.92%	-5.11%
攀枝花市	17338	1.20%	10.57%	10.689	-5.76%	4.23%
瀘州市	41227	5.27%	18.37%	5.777	21.10%	127.83%
徳陽市	23677	-7.18%	-16.96%	2.371	-2.20%	-7.94%
綿陽市	33179	-7.77%	-6.63%	5.86	-1.61%	-24.71%
広元市	23803	-2.09%	-5.06%	3.855	-0.89%	4.02%
遂寧市	23502	0.25%	-9.74%	1.013	5.19%	11.45%
内江市	21692	2.07%	-5.92%	11.075	-13.53%	-29.97%
樂山市	49139	-1.01%	-0.80%	8.727	3.54%	1.92%
南充市	45839	-6.68%	-1.28%	2.085	2.26%	0.01%
眉山市	60229	-0.48%	-8.94%	2.755	-2.95%	-1.80%
宜賓市	65860	-0.67%	0.18%	11.593	-10.95%	-32.35%
広安市	25388	-2.09%	-6.90%	6.241	48.04%	-49.84%
達州市	46386	-4.91%	-2.38%	12.982	-12.15%	-7.24%
雅安市	12636	2.76%	7.99%	0.695	7.75%	25.60%
巴中市	17801	-2.24%	-2.90%	1.422	6.51%	-4.52%
資陽市	28971	-1.53%	8.38%	2.794	-1.19%	1.43%
アバ州	8752	-1.96%	-1.28%	0.426	-2.73%	5.45%
カンゼ州	8270	-1.06%	13.31%	0.357	10.87%	20.54%
涼山州	29459	-3.22%	-7.66%	4.125	-0.75%	1.03%

四川省環境保護局提供

また、四川省では積極的に工場を郊外への移転が進められています。市街区域の工場は経営が苦しく生産設備が古いところが多いことから、市街区域の敷地を売却することにより、郊外でより大きな工場が建設できるだけでなく、設備の更新投資もできることから一挙に近代化し、競争力が増えています。

表2-2-2 四川省各地の汚染物質排出状況その2



市州	アンモニア窒素		
	2008 年排出量	同比昨年増幅	累計比 2005 年増幅
四川	63025	-0.94%	-5.16%
成都市	16336	-1.80%	-9.41%
自貢市	3038	-0.10%	3.34%
攀枝花市	1269	0.45%	-7.11%
瀘州市	3488	2.11%	10.51%
徳陽市	1659	-2.37%	5.96%
綿陽市	2649	-2.55%	0.54%
広元市	2974	-0.64%	-14.45%
遂寧市	2771	0.14%	-3.33%
内江市	2405	0.21%	-1.14%
樂山市	2206	-0.32%	-12.14%
南充市	3739	-2.19%	0.43%
眉山市	5539	-0.14%	-2.84%
宜賓市	2790	-0.32%	12.73%
広安市	1945	-0.65%	-32.10%
達州市	2681	-1.57%	-8.42%
雅安市	687	0.96%	-18.66%
巴中市	1665	-0.72%	-4.93%
資陽市	2195	-0.42%	2.15%
アバ州	649	-0.66%	0.66%
カンゼ州	872	-1.13%	2.37%
涼山州	1467	-0.88%	-4.84%

四川省環境保護局提供

西部大開発の重要な内容としては「退耕還林」（山地に分布する 25 度の斜面の畑の耕作をやめ、果物や生態林に戻すこと）と「退牧還草」（過度に放牧していた草原については、放牧をやめて、草原に戻すこと）があり、四川省では長江上流の生態林建設と保護が重要なプロジェクトになっています。四川省政府と企業の努力により、主な汚染物質の排出量は年を追って減少しています。

成都是四川盆地の底にあり、地理的な原因から、日照が少なく、曇りの日が多いことから、汚染がひどいと思われがちですが、実際には、一週間も滞在すれば大気環境が想像よりも悪くないことに気付くでしょう。昔から、「蜀犬日に吠える」という言葉がありますが、この言葉には二つの意味があります。一つが、曇りの日が多いことから、たまに顔を覗かせる太陽に犬が怪しんで吠えることです。もう一つが、四川省では人々が谷間に住んでおり、太陽は昼間の短い時間しか谷間を照らさないから、犬が怪しんで吠えることです。憂うつになる人がいても、汚染とは関係ありません。

成都をはじめとする四川省の都市には、農村からの多くの若者が集まっています。彼らは学校を卒業してから、都市の生活にあこがれて都市で就職をしますが、実は彼らの多くが農村で野良仕事をしたことがなく、恐らく今後も都会に住み続けるでしょう。これらの要因から、人口増加による環境へ

の圧力が増大しています。政府としては、環境関連政策を制定し、関連する産業を育成・発展させ、都市の持続的発展を確保しなければなりません。

#### 4. 既存の問題

急速な経済発展がもたらした環境面における歴史的な「つけ」が幾重にも蓄積し、汚染処理が複雑さを呈しており、環境保護の情勢は厳しさを増しています。加えて、長い間、法律の整備がされていなかったことから、環境保護の技術が遅れ、また経済的実力も依然として低い水準にあることから、環境問題がさらに悪化する可能性もあります。

さらに、環境保護産業の構造は必ずしも合理的ではありません。成都を例にとると、産業を先導するような大企業が形成されておらず、413社の企業のうち80%が中小企業です。413社の内訳は、資源回収企業が102社、環境サービス企業が231社、環境保護製品生産企業が80社です。環境保護製品は一般的なもので、プラントとしての機能が欠けています。資源回収では金属、紙の回収が多く、農作物のわらや動物の糞尿を処理する企業が少ないです。環境サービス企業も設計と施工に限り、融資、システム集積、技術トレーニング、施設運営を含んだ一貫したサービスはまだ提供できません。

中国では、環境保護産業は政府の支援のもとで推し進められますが、四川省では国内のほかの都市に比べて、資金、人材、サービス面でのサポートが足りません。産学研の連携の強化が求められます。

#### 5. 環境保護産業発展の市場分析

2006年から2010年までは中国の経済構造の重要な戦略的調整期であり、同時に生態建設と環境保護も重要な政策として打ち出されています。中央政府は污水处理工場の建設のために3,300億元を投資しており、2009年に環境保護インフラ建設費を増加したことにより、環境保護産業はかつてない大きな発展のチャンスと市場空間が生まれました。国内の600社の石炭発電所が脱硫装置を導入するだけで600~1,000億元規模の需要が生まれ、同様に自動車排気ガスの浄化器でも120億元の産業が形成されており、水汚染防止分野の市場にはさらに大きな産業の形成が期待されています。中国の家電や電子機器の更新ピークの到来につれて、廃棄物の処理にも大きな市場が現れると予測されています。社会新農村建設が深化するにしたがって、生態建設、循環経済と低炭素経済が重点分野として浮上するのは間違いなく、污水处理、ゴミ処理、土壌と炭鉱の修復、省エネなどの分野も大きな可能性を秘めています。

四川省は2008年5月12日の汶川大地震により、長江上流の生態建設の任務が重くのしかかっており、未だ道遠しの状態です。震災復興の計画では環境保護への配慮が充分なされており、当該産業の振興と事業の大々的な実施が期待されます。

環境が四川省の発展、人民の生存にとって非常に重要です。四川省にとっては環境が生産力であり、

競争力でもあります。

## 6. 四川省の発展理念と目標

四川省では「市場を活用して、科学技術発展をサポートし、企業を主体とする」方針を打ちたて、市場経済に適応する環境保護産業の市場システムを樹立することにより、環境保護産業を四川省経済の新しい成長を牽引する産業にする戦略的目標を立てています。

成都市は四川省の環境保護産業発展のフロントランナーで、2012年には特色ある製品と競争力のある企業群を育成し、環境保護産業のGDPを260億元にして、年間成長率45%を目指すという野心的な計画を発表しています。

大気汚染の防止、水汚染の防止、資源の総合利用、環境サービス、環境保護材料などが発展の中心です。

## 第三節 政府が企業誘致のために公表するプロジェクト

### 1. 分類上の戸惑い

統計局出版の年鑑にも、招商引資局のホームページの企業誘致リストにも、伝統的な企業分類がなく、環境保護産業の分類がありません。それもそのはずで、環境保護産業は他の産業と交差し、浸透していることから、他の産業に依存しない環境保護産業はありえないのです。

実際、環境保護産業の製造業は伝統的な製造業と切っても切れない関係にあって、製造業自身は環境に配慮した製品でないと早晩行き詰まると自覚しており、エコと低炭素関連の技術開発のために、懸命に努力しています。

環境保護サービス業は伝統的な設計事務所、政府の外郭団体の観測所、研究所などが本業を拡大し、またはより強固な地盤を獲得するために派生してきたものです。中央政府が環境観測士という資格を設けることによって、市場の需要に応じて純粋な民間企業も生まれることが期待されています。

資源再利用の分野でも政府の許認可のハードルが高いですが、技術的なハードルはそれほど高いわけではなく、利益も大きいことから、民間企業の参入が相次いでいます。四川省の最大の課題の一つである混合鋁の総合開発は、これらの大企業数社に任されています。

グリーン製品の生産は農業、工業、林業、サービス業に跨りますから、全社会の継続的な努力と意識の向上が求められます。

## 2. 農業、ハイテク、製造業に散在するプロジェクト

政府の発表した企業誘致のリストから、環境保護産業に該当すると思われるものを以下にピックアップします。

- ・太陽光シェルスーラー電池発電の生産及び産業化建設
- ・太陽エネルギー発電及び综合利用
- ・太陽エネルギー発電システム生産ライン
- ・作物のわらや茎など生物エネルギー発電プロジェクト
- ・工場化農業生態パークの建設
- ・高品質無公害緑茶産業化開発プロジェクト
- ・玉蜀黍茎の中密度合板ライン、
- ・標準化養殖基地の建設

非常に専門的な分野で評価の難しい情報が多いことから、企業の担当者等との詳細な打ち合わせが必要です。

## 3. 現実との差

政府の「外資投資方向を指導する規定」によりますと、中国政府が奨励する外資投資分野は以下のようになっています。

- 1) 農業新技術、農業総合開発、エネルギー、交通と重要原材料工業に属するもの、
- 2) ハイテク、先進的適用技術に属し、製品の性能を改善し、企業の技術と経済性を高め、または国内生産能力不足の新設備、新材料を生産できるもの、
- 3) 市場の需要に適応し、製品のグレードをアップし、新興市場を開拓し、または、製品の国際競争力を増強できるもの、
- 4) 新技術、新設備に属し、エネルギーと原材料を節約でき、資源と再生資源の総合利用ができ、環境汚染を防止できるもの、
- 5) 中西部の人的と資源的強勢を利用し、国家の産業政策に合致するもの、
- 6) 法律、行政法規の規定するその他の情況。

これらを踏まえると、環境保護産業は政府の奨励する分野に入ることは間違いありません。

しかし、政府が日本企業の個別の事業内容や需要を必ずしも理解できているわけではないため、中国の実情を理解した上で、個別に中国対策を立てる必要があります。

## 第四節 民間企業が望む協力

### 1. 民間企業のおかれている現状

改革開放後、中国の民間企業は劇的な進歩を遂げました。環境保護の分野においても設備製造を中心に頭角を現し始めています。しかし、現時点では設備や技術や開発能力にも限界があり、現在は大きな市場ニーズのおかげでなんとかやっていますが、今後は、各社は新しい技術を導入して競争力を強め、シェアを拡大し、業界で不動の地位を固めたいとする願望を強く持っています。伝統的な製品を作っている民間メーカーでさえも、排煙や汚水に関する政府の規制を受けていることから、新しい技術を導入して規制をクリアすることにより、安定的な生産を維持して行こうと考えています。

特に土地譲渡金が各地の政府の収入源になっている現状では、民間企業の競争力が弱ければ当然税収が少なくなり、政府が土地を明け渡すための立ち退きの対象になるリスクも考えられます。今後も、産業構造調整が政府の仕事の中心になりますが、1平米あたりの税収がいくらかということが調整（淘汰または外地への移転）されるかどうかの指標となると思われます。現に、製造業の成都周辺の地方への移転が増えていますが、移転先でも、様々な注文がつけられています。

以上のことから、中国の産業構造調整は中国民間企業の環境保護への指向を高めており、このことは日本企業と日本の技術に大きな投資市場を提供しているといえましょう。民間企業が日本の技術と手を携えれば、きっとウィンウィンの結果になると期待されます。

### 2. 民間企業へのインタビュー

多くの中国の民間企業と接触してきましたが、一部では、大企業などで政府から土地と資金と税収と政府調達面で便宜をはかってもらえる企業もありますが、これはあくまで少数の企業で、大半の企業は資金難、独創技術の欠如、市場開拓の能力の欠如に悩んでいます。

中国は今「世界の工場」と呼ばれていますが、航空、鉄道、道路、金融、通信、資源関連は国営に独占されています。輸出の主力は外商投資企業であって、一般の輸出を行う中国の民間企業の大半は人手を要する一方で利益の少ない産業に集まっています。このため、輸出するよりも国内で販売するほうが利益があがる状況にあり、外国企業とタイアップして、中国国内市場と国際市場をより競争力のある形で開拓していこうと考えています。

日本企業が中国市場で利益を上げようと思えば、現金で投資し、コストの安い中国企業と熾烈な競争をするよりも、ソリューションの販売、自社商品のOEM生産、地域ごとの自社商品の販売権利の譲渡、技術や特許やノウハウでの出資、コンサルティングやマーケティングなどの形態のほうがより適切な進出方法だと思います。中国でも市場メカニズムが機能し、上記のビジネスが十分成り立ちますし、中国の企業からもより歓迎されるでしょう。

特に環境技術や省エネ分野では日本企業は多くのノウハウや技術を持っており、中国の市場と企業と協力すればウィンウィンの結果が得られるでしょう。これこそ四川省の民間企業が望んでいる日本企業との協力方法です。また日本企業にとっても、中国の企業のコネ、販売ネットワーク、生産能力を巧みに利用したほうが有利なはずで

四川省で製造した商品を日本に持ち帰って売るならば、運送コストがかかり、四川省は沿海部と比べ条件は劣りますが、中国市場で売るならば、四川省はちょうど中国の中央に位置し、産業基盤が磐石で、日本との協力を望む中小企業が多いことから、絶好の生産基地になります。環境関連の商品ならばなおさらで、四川省は汚染のない水に恵まれていることから、断然有利です。

### 3. 民間企業が望む協力

投資して合弁会社を作ることがこれまでの主な協力方法とされてきました。しかし、資金協力よりも、技術供与をして、成功報酬で利益を回収する方法、OEM で製品を引き取る方法、発注して加工してもらう方法、アウトソーシングの方法など、お互いのより大きな利益になる選択肢はあります。

特に中国で「金余り」の現象が起こっている今、製造業に限って投資することは最善の方法ではないといえるでしょう。

中国政府は重点プロジェクトの養成、ハイテクの技術と製品の導入、ハイテクの技術と製品の開発を武器に、環境保護産業の発展に取り組んでいます。中国の西部地方は幅員が広く、人口が多く、山河が美しく、豊かな資源に恵まれ、14 の国々と国境を接しており、大きな発展可能性を秘めています。ここで製品を製造すれば、周辺に多くの有望な市場が存在することから、まさに投資と協力拠点作りをするに値する場所といえるでしょう。

## 第五節 実施する上で注意すべき点

### 1. ケースバイケースの調査研究が必要

環境保護関連産業の性質上、大企業の独壇場ではなく、製品が多岐にわたることから、むしろ中小企業が主役だと思われ

ます。日本では中国と関係の有する企業が成功し、関係を有しない企業はは成功しないとよく言われますが、中国へ投資し、中国で協力の拠点を作ることは言葉で言うのは簡単でも実際には非常に困難なことです。

日本の大企業のほとんどが中国へ進出し、または、何らかの方式で中国と関係を持っています。沿海部で工場を有していれば、その商品は四川省には必ず流れてきます。

しかし、中小企業は大企業のような情報力を持ち合わせていませんから、海外進出に関しては第一歩から劣勢に立たされています。実際、中国に投資して失敗に終わった企業はたくさんあることから、

海外進出をためらったり、諦めてしまう中小企業も多いでしょう。

中小企業の直面している問題は心理的要因と市場的障害があります。心理的要因としては以下の点が挙げられます。

- ① 言葉が分からない
- ② 外国人と取引したことがなく、国際ビジネスの経験がない
- ③ 相手の素情が分からないから、第一歩が踏み出せない
- ④ 品質や価格を見極めるノウハウがない
- ⑤ トラブルが発生した時の対処ができない
- ⑥ 貿易や投資に携わる実務になれる人材が求めにくい
- ⑦ 信用できる中国メーカーに関する正しい情報がない。

市場的障害としては市場の大きさに却って戸惑ってしまうことがあります。言うまでもなく、事前の十分なマーケティングが欠かせません。何を売るか (What) 、何処で売るか (Where) 、誰に売るか (Who) 、誰が売るか (Who) 、どのように売るか (How) 、の方針の絞り込みが大切です。中国の市場は広大で、ニーズも日本の13倍 (人口は13倍) まで行かないまでも、今後大いに伸びる市場なのです。

孫子兵法に曰く、「勝者先んじて勝ちて後に戦いを求め、敗者先んじて負けて後に勝ちを求む」とありますが、軽々に投資して後で苦労するよりも、まず、理念、技術、人脈、製品、市場など実力で勝ってから、事業を展開したほうが良いと思われれます。要するに、ケースバイケースの調査研究が必要です。

他方、日本の資金や技術を切望している中国側の中小企業としても、中国で製品を売ることから、心理的な戸惑いはありませんが、市場的に全く同じ問題を直面しています。すなわち、中小企業の中国進出は誰もが試行錯誤を続けているのが現状なのです。

このため、日中間の中小企業向けの情報発信が非常に大切で、中小企業向けのコンサルタントも必要です。

## 第三章 アウトソーシングサービス産業

### 第一節 アウトソーシング産業の現状

#### 1. 脚光を浴びる成都のアウトソーシング業

アメリカのジャーナリストのトーマス・フリードマンは著作「フラット化する世界」の中で、「アウトソーシングはグローバル化を実現するための十の原動力の一つである」と述べています。2009年10月に開催された西部博覧会で、成都市の企業は大手アウトソーシング発注会社から3つの大きな注文を受けたと報道されました。

国際的にみると、電子情報技術の進歩につれて、先進国が経済構造の調整を早め、グローバル的に資源の配置が行われることで、産業の発展途上国への移転がさらに加速されて、中国は製造業に次いで、世界のアウトソーシングの重点地区になりました。

2006年、成都は中国の「アウトソーシング基地都市」に指定されました。2007年、成都アウトソーシング業は総売上額270億元を実現し、前年比31%増の成長となりました。従業員数は10万人を超え、2008年には世界新興アウトソーシング都市ベスト50入りを果たしました。2009年、成都は北京、上海とともに国務院によって、「中国アウトソーシングモデル都市」に指定され、成都ハイテクパークを中心に、温江区、武侯区、都江堰市にアウトソーシング産業基地を形成しています。

アウトソーシング業は送料がかからないうえ、時差も無いことから、中国の奥地に位置する成都に適しています。成都の大学と研究所からは毎年多くのアウトソーシング人材を提供されており、アットホームな生活環境も人材の流動性を下げていることから、安定経営の助けとなっています。

#### 2. 政府が最も推奨している花形産業

過去30年来、中国は「世界の工場」という役割を演じることにより、輸出型の経済発展モデルを確立してきました。しかし、世界的に経済状況が悪化し、輸出の需要が減り、国内の資源が逼迫してきたことから、持続発展可能な新しい道として、次第に発展の中心がアウトソーシングを中心とするサービス業に移転しつつあります。

ソフト産業は中国が力を入れている主要な発展領域です。2007年に中国ソフト産業の規模は前年比21%増の5,843億元に達しています。

大地震と金融危機のダブルパンチを経た四川省の09年は、経済全体に強い逆風が吹き荒びましたが、四川アウトソーシング産業に関しては、金融危機の影響で発注側の低コスト・高サービス指向が強まったことにより、かえって、成都のような後進的アウトソーシング地方に新しいチャンスをもたらしました。統計によれば、2009年1月から7月までに成都のアウトソーシング企業は前年同期比50%



増の 1.55 億ドルの注文を獲得し、欧米からの発注は 4 倍も増えています。

表 3-1-1 2008 年企業別アウトソーシング業績統計表（トップ 20）

企業名	契約数	契約金額(万ドル)	去年比
成都建築材料工業設計研究所有限公司	4	1868.31	-
新電情報科技（成都）有限公司	4	1044.77	-
成都ソフミット有限公司	12	259.88	-78.30%
新波コンピュータシステム（成都）有限公司	68	206.76	-
四川スカイコンピュータソフト有限公司	13	203.97	49.00%
四川省化学設計院	1	200.00	-
成都シグマ科技有限公司	36	172.95	528.20%
成都ソニーデジタル科技有限公司	1	100.00	-64.10%
成都啓明ソフト有限公司	2	87.50	-39.50%
成都市奇点ソフト有限公司	2	86.75	-
成都万創科技有限公司	7	65.70	-
成都鋭の獅科技有限公司	7	41.90	-
マイプ（四川）通信技術有限公司	64	40.69	-60.70%
成都海析バイオテック有限公司	1	40.00	-
成都造易ソフト有限公司	1	34.66	-
成都金海洋コンピュータ科技発展有限公司	9	32.39	-
四川抗生材工業研究所	2	24.87	-
成都融微ソフトサービス有限公司	1	24.13	-
成都奥知智能ソフト有限公司	1	14.99	-
総計	240	46564.85	67.60%

データは商務部アウトソーシング登録システムに拠る。

成都の競争力は労働力と土地の安さにあると思われがちですが、実はそうではありません。成都の人件費をはじめとする企業運営コストは沿海部の 80%といわれ、中国の中西部ではむしろ一番高いのです。実は、成都の競争力の強さは整備されたインフラ、十分な人材供給、政府の強力なサポートと生活しやすい自然環境にあります。

表 3-1-2 2009 年現在の国内企業と外資系企業の売上高

企業分類	契約数(件)	契約金額(万ドル)	去年比(%)
国内企業	64	2639.19	113.80%
外資系企業	201	1968.53	30.00%
総計	265	4607.72	67.60%

データは商務部アウトソーシング登録システムに拠る。

インテルや SMIC が成都に工場を設立したことは、成都の競争力を端的に物語っていると同時に、成都の IT 産業を押し上げるための大きな推進力にもなっています。

政府としては、資源・エネルギーの消費量が少なく、多くの雇用を生み出す可能性を秘めるこの産業を重視しており、積極的に発展のための政策措置を講じています。

### 3. アウトソーシングサービス産業の現状

アウトソーシング産業全体の従業員数は 10 万人に達すると推測されています。四川省商務庁に登録している 170 社のアウトソーシング企業のうち、15 万ドル以上の売り上げを誇る 28 社の大企業のうち 27 社が成都市に、1 社が綿陽市に立地しています。また、CMMI（ソフトウェア開発能力の成熟度を評価する指標）認証をパスした企業が 15 社、認証を申し込み中の企業が 50 社あります。そのうち、3 社が CMM/CMMI レベル 5 と認定されており、ISO27001 (BS7799) 情報安全認証を実施している企業は 4 社あります。

表 3-1-3 2008 年国別契約統計表（トップ 10）

国または関税独立地区	契約数 (件)	契約金額(万ドル)	去年比 (%)
香港	5	13.5612	/
日本	2	9.6430	-90.80%
シンガポール	24	74.0683	740583.00%
アラブ酋長国連盟	2	46.3200	/
台湾	5	32.0574	/
アジアその他の地方	31	113.5396	/
オランダ	3	0.4622	/
カナダ	1	15.5000	/
アメリカ	27	439.0981	894.80%
オーストラリア	4	81.0700	/
総計	104	825.3200	227.30%

データは商務部アウトソーシング登録システムに拠る。

中国ではアウトソーシング企業に対して、獲得した契約数と売り上げをインターネットで商務部に登録させる制度があり、それを根拠に税務データと照合をして優遇政策を講じていることから、正確なデータとして定評があります。本文の企業の契約数や売り上げデータについてはそこから引用します。

アウトソーシング産業では国内企業が契約数と契約金額とともに外資系企業を上回っています。外資系企業の多くが本社からの仕事をこなすだけという事情があるでしょうが、ソフミットという地元企業がアメリカ、日本、ヨーロッパ、東南アジアに営業専門の支社を作り、2007 年のピーク時に契約

金額が2,639万ドルで、登録契約の57.3%を占めたことがありました。

2007年に四川省はIBM、SONY、Besot、Microsoftなど、世界トップ500社に名を連ねた有名企業を誘致することに成功しました。同時に、国内の有力企業であるking soft、Santa、Net ease、Ten centなども成都ハイテクパークに入居しました。

四川省のアウトソーシング業務のクライアントは主に先進国の30カ国に分布しています。

## 第二節 政府の優遇政策

### 1. ソフトパークの優遇政策と優遇内容

成都には天府ソフトパーク、成都高技術孵化パーク、ソフト基地西部パーク、成都輸出加工ゾーン、高技術商務プラザなどがあり、多くのソフト企業、アウトソーシング企業、電子工業工場等が入居しています。いずれも綺麗なオフィスビル、現代的な事務機器、緑化された環境、先進的通信回路を有しており、技術者たちがインターネットを通じて直接成都と世界を結んでいます。IT企業が集中しているビジネス団地は、グローバル化の花形として、成都市、ひいては四川省の誇りとなっています。

表3-2-1 2007年四川省のアウトソーシング産業の業務内訳

契約種類	契約数(件)	契約金額(万ドル)
ITO	250	2207.00
OS 関連	3	12.68
応用ソフト開発関連	167	836.85
ゲーム、アニメ、マルチメディア関連	80	1357.47
BPO	15	2400.72
企業管理関連	3	309.90
業務内容関連	6	218.61
インターネット管理関連	6	1872.21
総計	265	4607.72

成都市商務局提供

ここではハイテク企業として認定を受けて、税金と売り上げが一定の基準に達していれば、次のような優遇政策の対象になります。

- ①家賃、設備、通信費などの補助の申請。
- ②税収上の控除などの優遇政策。
- ③成長性が見込まれる企業と個人に対しては、政府が特別資金サポート。
- ④成都高新投資グループのベンチャー投資の対象となる。

- ⑤自社でオフィスビルを投資する場合の財政援助。
- ⑥技術開発による収入は営利性が免除される。
- ⑦企業の人材育成に対し、政府が資金援助。
- ⑧海外に支社や営業事務所を設立し、一年以上経てば、政府の海外市場開拓基金の補助を受けることができる。

## 2. アウトソーシングサービス産業の内容

アウトソーシング産業は ITO（インフォメーションテクノロジーアウトソーシング）と BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）と KPO（ノウハウプロセスアウトソーシング）に大別されます。ITO では主にシステム開発やコーディング、嵌め込みソフト、ゲーム、マルチメディアなどに関連する業務となりますが、BPO ではデータ入力、翻訳、登録受付、コールセンター、図書館の電子ファイル化、ホームページの管理など、インターネットで送受信可能なありとあらゆるもの、端的に言うと、「総務も財務も中国へ」という場合にはこれに含まれます。KPO は研究開発センターに代表されるような頭脳のアウトソーシングですが、研究開発は間接的に売り上げを促進し、企業内で実施される性質なものですから、統計が難しく、具体的データもありません。マイクロソフト社、ノキア社の研究開発センターはこのような性格を持っています。

成都には 40 の大学がコンピュータ関連の学部を設置しており、それをバックボーンに、ITO も BPO も優秀な業績をあげています。

ITO のアウトソーシングでは、新電情報科技（成都）有限公司がシンガポールテレコムグループのユーザー向けコンピュータシステムの設計、開発、テスト及びメンテナンスを一手に引き受けました。年間契約金額は 731.25 万ドル（1,170 万シンガポールドル）にも上り、成都アウトソーシング業界史上最大の契約になりました。四川省の対外プラント輸出や工事請負の急速な発展もデータ処理や図面処理などの BPO を牽引しています。

最近では Ubisoft や CPsoft、Bwin に代表されるゲーム、アニメ、マルチメディアのアウトソーシングが盛んになっています。

## 第三節 アウトソーシング産業の展望

### 1. アウトソーシングサービス産業の展望

Mckinsey & Co. の統計によれば、世界の潜在的なアウトソーシング需要は 5,000 億ドルを超えており、そのうちの 90%は未知の市場領域にあります。2020 年には 18,000 億ドルに膨れ上がり、うち 80%は現時点では掌握されていない新しい領域から生まれるとみられています。政府部門の外注、マ

スコミのアウトソーシング、中小企業からのアウトソーシング、中国を含んだ発展途上国からのアウトソーシングなど、その市場規模は想像を絶します。

中国商務部では優位産業を育成して地域発展のエンジンとし、十分に内需を拡大し、大規模なアウトソーシングプロジェクトへの多くの企業の参加を促し、人材のトレーニングに力を入れよう指導しています。これは図らずも成都のアウトソーシングを発展戦略と一致しています。

成都市では電子情報産業を経済のバッファー、また安定成長のための基礎とすることを決めています。アウトソーシング産業を発展させるためには人材育成が最も重要な課題ですが、40の大学の力を動員するだけでなく、企業の即戦力になるような職業訓練体系を確立し、企業への人材輸送システムの構築を目指しています。

世界50の新興アウトソーシング都市に加え、全国の11のアウトソーシング模範都市として、2009年には、国際金融危機の影響で発展が緩やかになりましたが、成都のアウトソーシングの土台となるソフト及び情報サービス産業の売上高650億元になり、年初掲げたソフト・アウトソーシング輸出高4億ドルという目標も実現しました。

綿陽市ではテレビのシェアを30%誇っている長虹社が、政府の支援によりアウトソーシング専門の子会社を設立し、ITアウトソーシング業界への参入を宣言しました。

## 2. 四川省の企業誘致活動

他の産業の企業誘致は原材料、資源、土地、人件費、市場の優位性をアピールし、また企業誘致のためのプロジェクトリストが作られています。しかし、アウトソーシング産業におけるニーズは顧客により様々であることから、頼りになるのは人材とインターネット環境だけとなります。

成都是1,000万人の人口を有し、大学数も西部地域では最も多く、コンピュータ人材と日本語人材に恵まれています。日本語科を設置している大学は四川大学、西南交通大学、成都理工大学、西華大学、西南民族大学、四川外国語学院成都学院の7校、その他にも日本語学校がたくさんあります。

金融危機の影響のもとで、多くの国際企業がその業務をアウトソーシングの形で中国に移転させ、コストを下げることで競争力を高めています。このことは成都のアウトソーシング産業に歴史的なチャンスをもたらしています。成都是既に人材育成や基地建設などに多くの資金を投下しており、アウトソーシング企業の発展のために広範囲のサポートを提供しています。成都是自身の優位性を有する資源と産業発展レベルに応じて、情報技術、マルチメディアと金融の三大分野のアウトソーシングサービスの発展に重点を置くことを決定しています。

### 3. 実施する上で注意すべき点

自社にアウトソーシングする必要がある業務については、IBM、SONY、Ubisoft、Microsoft、SAP、ノキア社のように成都で業務処理センターを作ったほうが有利だと思われます。しかし、このような子会社は親会社への依存が強く、他社からも敬遠されることが多いことから、積極的な進取の精神が欠けがちです。国内企業が外資系企業よりも多くの契約を取っているのはこのためです。また、子会社の経費予算が年を追って増えるのも頭痛の種です。

以上の理由により、当該産業で利益をあげるためには、中国の国内企業と提携したほうがより有利といえるでしょう。まず、中国の国内企業はコストを下げる能力に優れ、そのコストが安定しています。また、四川省には大きな奥行きがあり、人材さえ確保できれば、さらに奥地へ移転してコストをさげる余地があります。

日中両国では共通の言語である「漢字」が使用されており、中国の企業には日本語が分からなくても、日本語入力ができるソフトの開発や高精度のOCRの整備などの経営努力がなされています。経済の回復にしたがって、日本からのアウトソーシングの多量受注が期待されています。

## 第四章 外資企業が参入可能なプロジェクト ——共生の場としての四川省

### 第一節 中国経済の中の四川省経済の見方

#### 1. 中国経済 2010 年の展望

振り返れば、2008年には8,451億の損失を出した汶川大地震があり、同時に中国人自身を大いに鼓舞した五輪開催がありました。もしも晴天の霹靂ともいふべき金融危機がなければ、間違いなく二桁成長が実現できたはずでした。経済のグローバル化が進むなかで、金融危機の津波は米国に止まらず、中国にも輸出企業を中心に影響が及び、08年の経済成長率が07年の13%増から9%増に大きく鈍化しました。2009年の経済はまさに下り坂から始まりました。

中国政府は積極的な財政政策と金融緩和政策を打ち出し、震災復興、インフラ建設、民生改善、医療年金の改革、免税措置を実施して、経済成長の回復に取り組んできました。終わってみると、中国の自動車販売が1,300万台を突破するなど、内需が新たな成長期を迎え、世界の成長センターはアジアに移ったことが見せつけられた1年でした。

中国国家统计局の姚景源チーフエコノミストは北京で09年12月6日に、「中国経済のV字型回復が進んでいることがはっきり示されており、09年の中国経済の成長率8%維持の実現は全く問題ない」と世界に宣言し、同時に「経済総量を見ると、2010年の中国はなお外需の持続的悪化と内需の構造的不足という2つの問題に直面する」とも述べています。

建国60周年を迎えた2009年は中国経済の底堅さを国内外に見せつけました。「中国経済が世界を牽引する」という言葉があながち大げさではなくなりました。「自信は黄金よりも貴い」との温家宝総理の言葉は有名ですが、09年に培われた中国人の自信は10年の経済発展を大きくプラスの面へと向かわせるでしょう。世界の表舞台に出た中国は10年の経済の行方は今まで以上に注目を集めています。

09年の中国経済は大きなVを描いたとすれば、10年はまた大きな山になると予想されます。一つは上海万国博覧会と広州アジア大会といった国際イベントの景気浮揚効果が考えられます。国際イベントは単なる関連の公共工事だけでなく、ヒトとモノの移動により消費が活性化するのも重要な要因です。もう一つは現在実施されている4兆元の財政出動により、すでに350キロの时速の高速鉄道の運行や高速道路の開通など、経済の新しい牽引力になることが期待されています。4兆元の景気刺激策のうち、その半分の2兆元は10年に実施されるため、大きな効果を発揮することが期待されています。

## 1. 四川省の経済の展望

2008年の四川省は、汶川大地震を経験したことから、余震の中で、仮設住宅の建設や負傷者の治療、学生の入学、生産回復などを中心とする震災復興が主な課題でした。四川省の人々はあまり貯蓄せず、よくお金を使うことから、経済は内需牽引型といわれ、地震後には我先に自動車と不動産を購入していたことがニュースになりました。輸出専門の企業が少なく、震災復興の大きなニーズに牽引されたことから、金融危機の影響は小さなものでした。

2009年に入ってから、四川省は西部大開発の重点地区で、財政出動の主なプロジェクトの震災復興とインフラ建設の受け皿になっています。各省も中央の呼びかけに応じて、財政収入の5%にもものぼる「対口支援」も積極的に行いました。特に内需拡大のため、胡錦濤総書記が3年計画の震災復興を2年で完成しようと号令を發しました。2010年には、四川省で5月12日までにはさらに急ピッチで震災区の道路、住宅、商業施設、公共施設の建設が進められ、内需がさらに刺激され、拡大することが期待されています。震災区の工業開発団地や農業モデルパークも稼働し、経済成長の新しい成長点になるでしょう。

同時に、四川省全体では多くの高速道路、高速鉄道、地下鉄、モノレールが開通・着工することから、インフラは一層整備されます。

産業構造は調整され、雇用が拡大され、都市化がさらに進むでしょう。

## 3. 四川省への日本企業参入の展望

中国が1987年に対外開放政策を実施してから、世界の製造業は中国へ移転を始めました。しかも、多くは輸出を目的とした商品生産が主でした。製造業である以上、物流が伴うことから、中国国内の輸出企業も奥地に工場を設立すると、人件費が安くても、運賃と納期で負けることから、工場の建設は敬遠されることにより経済のグローバル化へ参加の度合いが低くなり、奥地が経済的に立ち遅れる原因となりました。

現在は中国への投資は単なる人件費や原料の安さを求めるのではなく、企業が有する技術やサービスで地域の経済繁栄に貢献し、溶け込むことによって自らも発展するという考え方が浸透しており、内需旺盛な四川省に対する考え方も変わりました。

産業発展のための原料や資源に富む四川省はまさに工業の発展には最適な場所です。加えて、中国西部の3億人を有する市場は大変魅力的です。

特にインターネットの発達により、オフィスの仕事の多くはアウトソーシングという形で世界中のどこへでも発注できますし、先進国のコストダウンの切り札となります。物流も税関も通りませんから、四川省の豊かで教育を受けた人材は大いに活躍し、活用されるでしょう。

四川省は日本に対する偏見が無く、物さえよければ、必ず売れる理想的な市場です。四川省は日本



に対して、豊かな資金力や最先端の技術でなく、アジアの繁栄をともに分かち合いたいという志向を求めており、日本での成功を四川省でもう一回繰り返すという夢の舞台を提供することができるでしょう。

中西部地区外商投資強勢産業目録（2008年訂正）では次のプロジェクトが優遇事業として歓迎されています。

- 1) 野菜、果物などの種子（遺伝子組み換えの種子を除く）の開発、生産（中国側 50%以上の出資が条件）
- 2) 豚、肉牛、肉羊などの家畜の飼育と深度加工
- 3) 退耕還林、退牧還草、天然林保護などの国家重点生態プロジェクトに続く産業開発。
- 4) 水を節約できる灌漑技術、土壌を保護する耕作技術の開発と応用。
- 5) 稀土深度加工および応用製品の生産
- 6) チタンバナジウム鉄鉍新技術、新製品の開発（中国側 50%以上の出資が条件）
- 7) 天然ガス下流科学製品の開発（「天然ガス利用政策」に列挙された制限類と禁止類を除く）
- 8) シルク製品の深度加工。
- 9) 高性能無機フッ素化学製品の生産（「外商投資産業指導目録」に列挙された制限類と禁止類を除く）
- 10) 動植物薬剤資源の開発生産（「外商投資産業指導目録」に列挙された制限類と禁止類を除く）
- 11) 特殊品種（超白、超薄、Low-E）のガラスの技術開発と深度加工
- 12) 日産 4000 トン及び 4000 トン以上のセメント新型乾式生産
- 13) 高性能ラジアルプラタイヤの生産
- 14) 自動車部品製造（ギア、エンジックランクシャフト、ピストン、緩衝装置、クラッチ、ライト、計装器など）
- 15) クレーン、掘削機、積載自動車、液圧機、コンクリート機械、ローラー、フォークリフト、ブルドーザーなどの工事用機械の製造（中国側 50%以上の出資が条件）
- 16) デジタル医療設備及び重要部品の開発及び生産
- 17) 天然ガスコンプレッサーの製造
- 18) 通信関連業務（但し、WTO 加盟時に承諾した開放プロジェクトに限る）
- 19) 道路旅客運輸業務（中国側 50%以上の出資が条件）
- 20) 都市ガスの供給、熱の供給、上水ネットワークの建設と経営（大都会では中国側 50%以上の出資が条件）
- 21) 観光資源の保護、開発、経営及び関連施設の建設。

## 4. アジアの共生

成都市にはイトーヨーカドー4店舗が展開しています。開業当初から日本的サービスを前面に打ち出し、しっかり成都で根を下ろし、今では成都市民から最も人気を集める店となっています。2008年に、イトーヨーカドー双楠店はチェーン店の中でも売り上げが1番、利益2番となり、2009年は前年よりもっといい業績を記録することが期待されています。

その成功の要因は、中国の需要をただ取り込むという発想でなく、中国の豊かな社会づくりに寄与し、結果として生まれる市場の果実を得るというそのビジネスモデルに尽きます。

幕を開けた2010年代は世界的な構造変化が加速し、米国の過剰消費に世界中がもたれ掛かれれば何とかという時代は終わりを告げました。世界は今まで以上に安定と調和が要求されています。

日本は高度な科学技術と生産技術を持ち、特にサービス業は世界でトップレベルを誇っています。単に商品やサービスを売るのではなく、現地に溶け込んだ商品・販路づくりや人材育成に力を入れ、現地の発展に日本のどんな資源が活かせるかと志を高く持ち、考え抜くことが求められています。いわばアジアへの共生です。

すでに多くの日本企業がアジア向け製品開発に走り出しています。パナソニックは、中国で家電製品が行き渡っていない農村地帯にどんなニーズが眠っているのかを徹底的に調べています。もっとも、パナソニックは日本でもこうして自社の飛躍につなげた歴史的ないきさつがあります。ぜひ、日本での成功を中国でも繰り返してほしいものです。

孫子の兵法に学ぶまでもなく、顧客と市場、社会を知り、自分を知ることこそが王道で、日本の再出発には、持てる資産を自覚する「ニッポン総棚卸し」が求められます。そして、アジアの飛躍に日本人と技術と文化を生かすことで、共生と新たな成長への道を切り開きたいものです。

## 第五章 結び

### 第一節 「世界の工場」から「世界の消費市場」へ

#### 1. 消費市場として成長し続ける

四川省の広漢市では 1977 年に全国に先駆けて人民公社の看板を下ろし、農村改革の幕上げを宣言しました。以降、農民の積極性と創意性が喚起され、中国の食糧難の緩和と解消に大きく貢献をしました。そして今、中国で最大の民営企業である希望グループは四川省にあります。

対外開放政策の実施以来、中国は経済高度成長のレールに乗り始めました。世界の製造業の中国への移転が進むにつれて、中国は賃金が安くて教育を受けた人的資源を活用し、急ピッチで整備されるインフラ、土地コストが廉価という条件によって、たちまち「世界の工場」にまで成長を果たしました。四川省は盆地という山に囲まれた奥地に位置することから、外国資本が大挙して沿海地域に進出してきた一方で、四川省は取り残され、自力で発展の道を模索するしかありませんでした。

このプロセスの中で、中国人の消費も少しずつではありますが、着実に増え続けました。改革前は中国人には 1 台の自家用車もありませんでしたが、32 年経った今、自動車の生産、販売台数はともに 1,000 万台を超える世界一の座に登りつめることができました。

#### 2. 日本のサービス業を受け入れる土壌がある

四川省の人民の懸命な努力と西部大開発の政策により、中国経済発展の上昇気流に乗って四川省経済も大きく発展を遂げ、西部地方における経済の中心となり、GDP1 兆元クラブの仲間入りを果たしました。自動車の消費では、成都が自家用車全国 2 位を占めています。

ルイヴィトンやグッチなどの世界的なブランドは中国の富裕層の人気を集め、もはや世界一の消費市場になっています。成都の町の中心街にも世界的ブランドのネオンが輝くようになりました。

20 年で 20 倍になった経済力を背景に、人々の生活は改革開放以前の食糧難の頃に考えられないほどに豊かになっています。いまや中国は世界の中で最も伸び盛りの市場であり、各国の企業を引きつけています。四川省にも世界トップ 500 社のうち、135 社が拠点を構えています。

閉ざされた盆地にある四川省が世界に向けて扉を開く時代を迎えました。日本と歴史的な握手をする準備もできています。日本の製品を四川省でどう売るか、サービスをどう提供するかが今後の大きな課題になるでしょう。イトーヨーカドーはいい手本を示していますが、四川省は現地に溶け込む日本企業による進出を温かく歓迎します。

## 第二節 中国の GDP が世界 2 位へ

### 1. 世界 2 位の GDP をどう読むか

2009 年の中国の GDP は国家統計局の発表によると、335,353 億元で、49,092.81 億ドルに換算され、日本の GDP の 96%に当たります。話題になっていた世界 2 位は先延ばしになりました。2010 年には中国の GDP が日本を越えて、世界 2 位になることが確実視されています。一部の専門家は、中国が十数年のうちに米国を越えて世界最大の経済大国になるとの予想を打ち出しています。

これについては、四つの視点から見なければならないと思います。第一に、中国の GDP 総額が日本に近付き、または越えたとしても、一人当たり GDP では日本は未だ中国の 13 倍近くあります。中国の人口は日本よりはるかに多く、GDP 総額だけを見ることにはあまり意味がありません。第二に、為替レートという魔法がありますから、物価、人件費、土地の価格を総合的に考えれば、13 倍の差がないと思われる要素もあります。第三に、一人あたりの名目 GDP は世界で 100 位以下、依然として発展途上国であることを、中国人は謙虚に冷静に受け止めるべきと考えます。第四に 08 年の米国の GDP は 14 兆 3,000 億ドルにのぼり、中国の 3 倍余りですから、中国の GDP が米国を超えるにはまだしばらく時間がかかると思われるため、論じるには早すぎるでしょう。

### 2. 日本にとってチャンスである

中国の経済発展は、日本側から見ると、商品とサービスを売り込むための大きな市場が現れたことになります。これまで日本の商品とサービスは、質も価格も高すぎることから、中国人から敬遠され、日本企業も遠慮した時期がありましたが、こうした考え方が改められるべき時が来ています。

一人当たり GDP の 13 倍の差は、日本の企業にとって、日本での成功をもう一度再現することができる絶好の舞台を中国が提供してくれるとあってよいでしょう。その夢を現実のものにするかどうかは、各企業の勇気と決断にかかっています。

## 第三節 未来展望

### 1. 内需は膨張しつつある

ここまで、四川省について様々な面から考察を加えてきましたが、歴史上、四川省は中国に対して多くの誇れる貢献と実績を積み重ねてきました。そして今、交通と通信の発達により、四川省は再び歴史の表舞台へ押し出されようとしています。

2009 年末には、旅立つ友を見送る李白の詩に登場する楼閣「黄鶴楼」で有名な武漢から広州までの高速鉄道が開通し、約 1,000 キロの距離が 3 時間で結ばれました。営業時の最高速度 350 キロは世界最速を誇っています。

中国の 30,000 キロの高速鉄道網の整備は景気刺激策の一つで、自動車に偏る輸送手段を変える環境対策としても重視されています。車両などの技術を日本やドイツから取り入れ、中国で生産しますが、そこは「世界の工場」らしく、既に輸出の計画もあります。30 年来の改革開放政策の成功を象徴する成果といえるでしょう。

2010 年には、四川省でも多くの鉄道や高速道路の建設が着工し、または開通しています。財政出動、インフラ建設、内需の拡大、社会保障、福祉事業の発展によって、2010 年も中国経済は引き続き安定的な発展が期待されています。

## 2. パートナーであると同時にライバルの日中関係

中国の企業は「世界の工場」に甘んじず、既にアフリカや中近東や東南アジアに工場を作り、家電や通信機器や自動車を生産し、販売しています。一方、インターネットの発達により、ソフト開発、データ処理、マルチメディア、ゲーム、などの先進国のオフィスの業務もアウトソーシングの形で中国に移転しています。

日本と中国のライバルであると同時にパートナーであり、パートナーであると同時にライバルであるという関係が確実に進展・深化しています。日本は技術とサービス面での優位性を発揮して、この面での競争について優位に立つ必要があります。

## 附録1： 四川省の文化と風土

### 第一節 四川料理

中国料理の特徴については、南は甘く、北は塩辛く、東は辛く、西は酸っぱいと言われることが多いです。中国地図を広げると、四川省はちょうどその真ん中にあり、様々な味が入り混じっているのが最も顕著な特徴だと言えます。

社会と生活のリズムが速くなるにつれて、刺激的で四川料理が世界各地で受け入れており、辛い四川料理を食べればダイエットに効果的と考える人も増えています。

辛さという特徴は、色、味、そして鮮明なイメージを伴い、目と舌に訴えることができます。

四川料理の人口に膾炙する理由について考えてみました。色、香、味、形、音、質、器、意の八つの字にまとめることができるかと思います。

色については、四川料理に唐辛子、豆板醤、塩付した唐辛子やラー油をたくさん使う赤色という特徴が象徴的です。四川料理の代表のマーボー豆腐店に入ってみると、実は、辛くないメニューのほうが多いと思います。しかし、辛くはなくても素材の色を大事にしたり色の工夫がしているのです。つまり、四川料理の伝統として、まず目で楽しんでもらうことに努力してきました。

香については、四川省の地理的、気候的な原因により、唐辛子のほかに、山椒、胡椒、シソ、シナモン、生姜などをはじめ、香辛料をたくさん使う習慣があります。最近ではわさびを使う料理が増えています。角煮などの煮込み料理は特に濃厚な芳香を放ちます。

味については、豊富な香辛料は香りだけでなく、豊富多彩な味をもたらしています。四川料理のメニューを見れば、料理名は味付けと材料の前に来ています。味付けの種類は椒麻（胡椒と唐辛子）、麻辣（山椒と唐辛子）、魚香（塩付した唐辛子、しょうがと豆板醤、ネギ、にんにくも入れ、複合的な味付け）、椒塩（胡椒と塩のあっさりした味付け）、蒜香（にんにくの粉を熱した油に沁みこませ、上げる材料にもしみこませる味付け）、荔枝（氷砂糖と果物による味付け）、塩味（野菜の味をそのまま大事にしようとする味付け）、怪味（魚香よりももっと複雑で複合的な味付け）など数え切れないほどです。

形については、形にこだわることで客人の食欲を刺激するという、もてなしの心が込められています。形があまりにもきれいなので、食べるのが忍びない場合もあります。

音については、代表的な料理は、お焦げの料理と水煮牛肉です。この二つの料理の共通点は音が出ることです。お焦げの料理ではお焦げを盛った大きなお皿に、お客さんの前でスープをかけると、ザーという音を立て、お客さんの食欲が増進されます。水煮牛肉ではできた料理に唐辛子の粉をまぶして、その上に熱した油をかけておくのが作法ですが、必ず、お客さんの前で油が音を立てながら、沁みこんでゆくのを見せます。これがもっと重要な作法だそうです。

質については、四川料理では「腕よりも材料」と言われ、どんなに上手な腕でも良い材料にかなわないと考えられています。たとえば、豚のどの部分の肉がどういう作り方に合うとか、羊のどの部分の肉がどの季節に食べるのにふさわしいかなどについて、全て料理人はもちろん一般市民の頭にも入っています。これは中国には古くから「医食同源」という考え方があり、どんな食べ物がどんな季節にとりいれると体にいいと決められているからです。

器について、「美食は美器に如かず」とよく言われますが、中国の陶磁器は有史以前より発達し、宋、元、明、清代を通じて、その技術は世界の最高水準にあったことは周知の通りです。料理の美観、食卓の演出など器の果たす役割は大きいのです。一方、中国料理は味本位で実質的なものを求める傾向が強く、日本料理などに比べると器、盛り付けは繊細さに欠けるといわれてきました。特に改革開放後、中国の経済の発展に伴い、流行し始めた新派川菜（四川料理）は器、盛り付けに対する概念を大きく変えてきています。器の品質が店の格付けや料金の決め方には大きく影響するようになってきています。

意については、それぞれの料理にそれぞれの物語が秘められて、その物語が料理の趣をより奥行きのあるものにしていきます。例えば、「マーボー豆腐」は今世界的な料理になりましたが、この店は1842年に成都の万福橋という場所で開業し、料理人を務めていたのが陳店主の奥さんの劉でした。彼女は顔に少しあばたがありますから、陳マーボー（麻婆：あばたのおかみさん）と呼ばれていました。劉は、油樽の底をきれいに拭いたり、売れ残りの牛肉を集めてひき肉にしたりして、豆板醤をたくさん使うことで、安く、美味しい豆腐料理を考案しました。辛く、熱く、柔らかく、香ばしく、新鮮で、ご飯にかけて食べることでたちまち評判になり、小さい店は以降「陳マーボー豆腐店」という看板を掛けて大きくなりました。開放後、一度は国有化されましたが、老舗ということで、看板と味は多くの人を引き付けています。

## 第二節 四川省に関連する唐詩

「若くして蜀に入らず、老いて四川省をでない」と言われる同時に「昔より多くの詩人が蜀に入る」という言葉があります。つまり、四川省は生活がしやすく、頑張ってみようという気概が生まれにくく、むしろ、老後の生活に適しているのです。しかし、詩人や芸術家は別です。

漢の時代の司馬相如や楊雄を始めて、唐の時代にはベスト3に入る李白、杜甫や白樂天、宋の時代に至っては蘇東坡や陸遊、現代では郭沫若や巴金などはいずれも四川省で生活したり創作したりした経験があります。

杜甫：四川省の文化史上、作品が多く、思想的に優れ、影響の一番大きいのはまず杜甫の右を出る人がいないでしょう。現在では成都の杜甫の草堂があり、全国で杜甫研究と記念と観光の名所になっています。河南省にうまれたこの詩人は立派な理想を持ちながら、実現できず、常に貧苦な生活に悩まされていました。そのために彼は社会の低層で喘いでいた民衆の苦しみをよく理解して、詩作にも反映させましたから、彼の詩は「詩史」とも呼ばれ、詩人の彼は「詩聖」と称えられています。中国の各地を流浪した挙句、社会が安定し、経済繁盛の成都に受け入れられ、友人の高適の援助のもとで、成都の西の郊外に草堂を作って初めて小康生活を送ることができました。759年から768年まで彼が四川省で9年間も滞在し、詩作に励みました。この間、綿陽、三台、閬中にも足を運び、川に沿って雲陽、奉節にも旅して生涯詩作の半分に当たる700首の詩を詠んでいました。このために杜甫は四川省の人にこよなく愛され、五代の時から杜甫の草堂が再建され、宋の時代には草堂の近くに杜公祠を作り、杜甫を奉りました。以来、歴代の人に修繕され、建築と造園が次第に増えていきました。そのほか、閬中に三賢祠があり、四川省に生活した杜甫、司馬光、陸遊を奉ることになっています。蒼溪県には杜里堤と杜少陵放船台という地名があり、瀘州に杜甫石という町があり、雲陽の桓侯廟に詩史堂が設けられることなどはすべて四川省の人の杜甫に対する永久の記念です。

### 七絶

花卿に贈る	杜甫
錦城絲管日紛紛	錦城の糸管 日に紛紛たり
半入江風半入雲	半は江風に入り半は雲に入る
此曲只應天上有	此の曲只だ天上に有る応し
人間能得幾回聞	人間能く幾回か聞くを得ん

この詩は成都当時の音楽の盛んな情況を描いていますが、まず、一日中いつでも綺麗な音楽が聞こえ、空間的には広い川の真ん中でも雲の上でもその音楽が響いて、さらに音楽の品質については天上の神仙の享受すべきもので、人間の世界では到底聞けないぐらいの素晴らしいものです。杜甫にこのような詩を詠ませた現実の裏付けは確認されていませんが、杜甫のこの詩は単なる文学的な誇張ではないことを、是非四川に確かめに来て下さい。



## 七律

### 蜀相

丞相祠堂何處尋，  
錦官城外柏森森。  
映階碧草自春色，  
隔葉黃鶯空好音。  
三顧頻煩天下計，  
兩朝開濟老臣心。  
出師未捷身先死，  
長使英雄淚滿襟。

### 杜甫

丞相の祠堂何處にか尋ねん  
錦官城外柏森森たり。  
階に映ずる碧草は自ら春色にして、  
葉を隔つる黄鶯空しく好音。  
三顧頻煩なり天下の計、  
兩朝開濟す老臣の心。  
出師未だ捷たざるに身先づ死し、  
長へに英雄をして涙襟に満たしむ。

杜甫も中国知識人として諸葛孔明と同じように国と人民に奉仕し、功績を立て、名前を後世に残したい理想に燃えていましたが、軍閥乱闘の時代に生活して志を得ない杜甫は諸葛孔明を参拝し、自分の理想を託していたに違いありません。この詩から当時の武侯の祠は建築物も立派であり、鬱蒼と茂る柏の木に囲まれ、木の上で鶯が鳴いて、春爛漫の美しい景色ですが、詩人の気持ちはますます重くなっています。ということは、諸葛孔明が志している国家統一の理想が空しく夢に終わってしまったことは、諸葛孔明と同じ考えを持っていた詩人のような英雄が思わず涙を零さずにはいられなかったのです。

## 七絶

### 絶句

两个黄鸝鳴翠柳，  
一行白鷺上青天。  
窗含西嶺千秋雪，  
門泊東吳万里船。

### 杜甫

兩個の黄鶯翠柳に鳴き、  
一行の白鷺青天に登る。  
窓に含む西嶺千秋の雪、  
門に泊まる東吳万里の船。

中国の小学校の教科書にも選ばれ、成都の人が成都を紹介する時にもっとも引用回数の多いこの詩は当時の成都の環境と経済の繁栄状況を巧みに描いています。鶯が柳に鳴き、鷺が列を作って空を飛んでいることは今日の成都が目指して、それに向かって邁進している理想であり、この理想像を提示してくれた杜甫に心から感謝したいのです。成都市内には海拔4,500メートルの西嶺雪山があり、沱江の成都を出るところは海拔200メートルしかなく、この巨大な落差は成都の地形と風景を豊富多彩なものにしています。都江堰の建設により、成都平野を灌漑して「天府の国」を成就させただけでなく、成都市内から船に乗って武漢、南京などの呉と呼ばれる地方と行き来できるようになっています。唐の時代には「揚一益（成都の別名）二」という言葉があり、つまり、繁栄度においては揚州が一番

で成都が二番目だということです。

七律

登る楼

杜甫

花近高楼傷客心、	花に近き高楼客心を痛み、
万方多難此登臨。	万方に多難なる此の登臨を。
錦江春色来天地、	錦江春色天地に来たり、
玉墨浮雲変古今。	玉墨浮雲古今を変える。
北極朝廷終不改、	北を極める朝廷終に改めず、
西山寇盜莫相侵。	西山の寇盜相侵かすこと莫れ
可怜后主還祠廟、	憐れむべく后主祠廟に還るを、
日暮聊為梁甫吟。	日暮聊かも梁甫吟を為す。

杜甫が成都に滞在している時の心境を如実に吐露しています。各地で戦乱が起きる時代には成都の花に囲まれる高楼に登れば、塗炭の苦しみに喘いでいる人民を思いやり、自分のさ迷う生活を顧み、ますます心を痛めています。錦江は成都の別名でもありますが、ここによく春がやってきました。玉墨山に横たわる浮雲は幾度も時代の変遷を見守ってきたか、今度は希望に満ちたい時代が必ず訪れるとの認識を述べています。全国的には北の反乱軍を素早く鎮め、成都では西山の山賊がもう来ないことを祈ります。自分の政治的理想が実現できない無念さから、日が暮れる時にいつも諸葛孔明が好んでいた梁甫吟を詠いましょう。梁甫吟は葬式の歌の音楽を借りて、世を憂う歌詞で歌うものだと推測されます。

茅屋 秋風の破る所と為る歌 杜甫

安得广厦千万間	安くんぞ広厦の千万間なるを得て
大庇天下寒士具歡顔	大いに天下の寒士を庇って俱に歡顔せん。
風雨不動安如山	風雨にも動かず 安きこと山の如し。
嗚呼何時眼前突兀見此屋	嗚呼 何れの時が眼前に突兀として此の屋を見ば、
吾庵独破受凍死亦足	わが庵は独り破れて凍死を受くとも亦た足れり。

杜甫の思想を端的に表す詩として、高い評価を受けています。自分の藁葺の家が秋の風に藁を飛ばされ、雨漏れと冬の寒さに脅かされるとき、詩人の発した感想は、何千万軒の広い家があれば、天下の貧しい人を幸せに住んで、風に吹かれることもなく、雨に濡れることもなく、安定した生活を送ってもらいたいものですね。もし、目の前にこのような家が現れてくれれば、我が家が破れて、私が寒さで死んでもいいのです。これは理想が現実に勝ち、意志が感嘆に勝つ詩という芸術の最高の境地で

しょう。このような現実な感触から、内面的な渴望をそのまま、飾らず偽らず歌い上げる手法は杜甫の詩に多く見受けられます。

春夜雨を喜ぶ	杜甫
好雨知時節，	好き雨は時節を知り
当春乃發生。	春に当たりて乃ち發生
隨風潜入夜，	風に随ひて潜かに夜に入り
潤物細无声。	物を潤して細やかにして聲無し
野徑雲俱黑，	野徑 雲は俱に黒く
江船火独明。	江船火は独り明らかなり
曉看紅湿処，	曉に紅の湿れる処を看れば
花重錦官城。	花は錦官城に重からん

成都の気候を形容するときが一番引用される詩です。春雨の忘我的献身的な奉仕精神はまさにこの賛美に値します。いい雨は恰も人の気持ちができるように農作物が一番渴いている春に決まって降ってきてくれます。しかも、そよ風とともにひそかに夜に降り、静にこの世界を潤してくれます。雨が降るときには、野原の小道が確認できないほど、暗くなり、人々も一日の労苦を癒すために、深い眠りに入っていますから、漁業や運送業の船に生きる人たちは増水を警戒したり、船のぶつかりあいを防止したりするための明かりは特に鮮明に見えます。曉になって成都の花はみんな雨の粒をいただいて、春雨の洗礼の結果として重たそうに咲いています。

#### 七律

客至る

杜甫

舍南舍北皆春水，	舍南舍北皆春水、
但見群鷗日日来。	但見る群れる鷗日々来たるを。
花径不曾縁客掃，	花道は曾て客に縁りて掃かず、
蓬門今始為君開。	蓬門今始めて君の為に開く。
盤飧市遠无兼味，	盤餐市遠く兼味無く、
樽酒家貧只旧醅。	樽酒家貧しく只旧醅す。
肯与隣翁相对飲，	敢えて隣翁と相向かい飲み、
隔籬呼取尽余杯。	籬を隔てて呼び寄せて余杯を尽くせと。

長い流浪生活を終え、家の周りが水に囲まれ、毎日カモメが飛びまわっている成都の草堂に住み着いて間もないころ、お客さんが尋ねえて着ました。世間の雑踏から離れて、カモメを友に閑静な暮ら

しを送っている詩人がこの詩で自分の喜びを素直に謳いあげています。お客さんのために草花がはえている小道を掃いて歓迎するのに間に合わず、早速、小枝で編んだ門を開けましょう。でも、市街地が遠いから豪華な宴会を催すことができなく、経済的に貧しいから、今年の新酒でなく、去年に醸造したお酒で持て成すことはちょっと情けないです。もし、隣りのお爺さんと一緒に楽しく飲んでもいいのなら、私は柵を隔てて呼んできて一杯尽くしましょう。事前に予約することなく、都合がよければ、いつでもお酒の杯を交わせる素朴で市民的な生活は楽しくて、羨ましいです。

李白：四川省生まれの唐の時代のもっとも偉大な詩人です。25歳までに四川省で勉強し、剣道を学び、唐の皇帝と同じ祖先だと自称し、各地を遊歴して後、科挙試験のために西安に赴きますが、失敗して、旅を続けます。玉真公主の推薦で都に入って翰林という官職につきます。しばらくして、讒言で追われます。戦乱を鎮めるために永王の軍隊に入隊しますが、永王が権力闘争に負けて殺され、李白が貴州省に流され、途中で恩赦に会い、叔父の李陽氷のところへ病気で亡くなるまで寄宿します。李白の詩はその奔放闊達な性格と波瀾に満ちた人生のおかげで、ロマンチックな詩風が培われ、現実生活を謳い、名山大山を描き、壮大な理想と豪快な情緒を披露します。当時でも彼の詩作が「鬼神を泣かせる」として喜ばれ、時代とともに彼の詩が読まれ、研究されることになっています。

#### 七絶

早發白帝城	李白
朝辭白帝彩雲間、	早（つと）に白帝城を發す 彩雲の間
千里江陵一日還。	千里の江陵 一日（いちじつ）にして還（かへ）る。
兩岸猿聲啼不住、	兩岸の猿聲（ゑんせい）啼（な）き住（や）まざるに、
輕舟已過萬重山。	輕舟已（すで）に過ぐ萬重（ちよう）の山。

貴州省に流され、途中の白帝城で恩赦に会い、すぐに船を引き返し、東に江陵へ向かうことにしました。そのときの喜びの気持ちが時代を超えて私たちに直に伝わってきています。白帝城は今の重慶市管轄になりますが、むしろこの詩で有名になった長江沿いの港町です。当時の水面の海拔は100メートルぐらいでしょうが、今は三峡ダムが建設され、175メートルになりました。李白が彩雲の間という言葉で白帝城の高さを強調し、後の船の速さを連想させます。どのぐらい早いかというと、三峡の山に生息している猿の鳴き声が聞こえますが、その声の一声が未だ止まないうちに、軽い船がすでに万重の山を過ぎてしまったのです。江陵が李白の故郷ではないのに「還る」という言葉を使うことは李白の船よりも早い気持ちの爽快さは手に取るようによくわかります。

## 七絶

### 峨眉山月歌

李白

峨眉山月半輪秋，  
影入平羌江水流。  
夜發清溪向三峽，  
思君不見下渝州。

峨眉山月半輪の秋，  
影は平羌江水に入りて流る  
夜清溪を發して三峽に向ひ  
君を思へども見ず渝州に下る

李白が 26 歳に四川省を離れる時にも長江を經由して行ったのです。当時、成都から樂山宜賓經由で長江に入って上海や南京に行くことは中国東西交通の大動脈でした。峨眉山の近くを通った時、流れる川の水に投影する月が詩人の船とともに遠く旅する夢のような景色に惹かれますが、三峽に向かって渝州まで来ると、晴れる秋の夜なのに、私の友の月よ、あなたはどこにいますか。李白の月に託している気持ちが滲み出ています。

陸遊は南宋時代の著名な詩人で、9,300 首の詩を後世に残し、作品のもっとも多い詩人になっています。当時、女真族の金の国によって北宋が滅ぼされましたが、陸遊は詩人でありながら、軍事的才能にも優れ、金の統治下の山東省から、蜂起部隊を率いて南宋へ還ってきたのです。彼の理想はあくまでも金の国を破って宋の回復にあります。南宋の皇帝を代表とする支配階層は南方の安逸な生活に満足して進取の精神に欠けていました。陸遊は 82 歳まで祖国の統一のために鬪魂を燃やしますが、報われずじまいでした。陸遊は成都で地方官僚を勤めていましたが、生活情緒も詩人らしいのです。

## 七絶

### 梅花

陸遊

当年走馬錦城西，  
曾為梅花醉似泥。  
二十里中香不斷，  
青羊宮至浣花溪。

当年馬を走らせる錦城の西、  
曾て梅花のために酔うて泥の如く。  
二十里中香断たず、  
青羊宮より浣花溪に至る。

成都の人は梅が好きで、唐の時代から梅の花の酒を飲む風習があります。陸遊も梅の寒さを凌ぐ高潔さに共感を覚え、梅のイベントに参加していたでしょう。成都の西に馬を走らせて旅すると、梅のために泥酔していました。青羊宮から浣花溪に至るまでの 10 キロにわたって梅の香りが漂っています。現在、成都の幸福梅林には 20 万本の 200 種類の梅の木が植えられており、全国四大梅林に数えられています。

### 七絶

劍門の道中微雨に遇ふ 陸遊

衣上征塵雜酒痕，	衣上の征塵雜酒の痕，
遠游無處不消魂。	遠游消魂せざる處無し。
此身合是詩人未？	此の身合に是れ詩人なるべしや未だしや？
細雨騎驢入劍門。	細雨驢に騎して劍門に入る。

1172年の冬、陸遊が金の国との戦いの前線から成都へ赴任します。三国時代から熾烈な戦いがくりひろげられていた劍門の関を通るとき、自分の境遇を考えて、叙情的な詩を作りました。前線から繁栄きわまる成都への複雑な気持ちから、衣服の上に旅の埃と酒の跡を混ぜることになりました。李白、杜甫、孟浩然、李賀などの詩人はみんな驢馬に乗る詩を認めましたから、糠雨の中を驢馬に乗る自分のことを思い、自分も詩人らしく振り舞いましょう。本当の気持ちは前線で金の国の軍隊と闘いたいと考えています。

薛涛は西安生まれ、官僚の父に連れられ、四川省に入ってのち、音楽の芸者になりました。詩に長け、当時の成都の長官をはじめ、有名人と広い交際を持ち、彼女の詩が喜ばれていました。後に松の花模様の便箋を作って生計を立てていたと伝えられています。現在、成都に彼女を記念する望江公園があります。

### 七絶

友人に送る 薛涛

水国蒹葭夜有霜，	水国蒹葭の夜に霜有り
月寒山色共蒼蒼。	月寒く山色共に蒼蒼なり。
誰言千里自今夕，	誰か言ふ千里今夕よりかと
離夢杳如関塞長。	離夢杳として関塞の長きが如し。

中国最初の詩集の「詩経」に「蒹葭蒼蒼たり、白露が霜となる。所謂伊人、水の一方に在り。」という恋人を思い慕う詩がありますが、成都は都江堰のおかげで水国とも呼ばれ、「詩経」の情景と同じく、月が冴えている寒い夜に遠方に旅する友人とお別れを告げますが、詩人の別れ惜しむ気持ちを十二分に醸し出しています。この手法は日本にも伝わり、和歌の世界では本歌取りとして定着しています。「千里今夕より」というのは諸葛孔明が呉に使う友人を見送ったことに言った「万里の行此処から始まる」に由来しますが、千里の旅は今宵からといったのは誰でしょうか、私の夢は山を越え、川を渉り、遠いところにあなたに付き添っています。

唐の時代に李白、杜甫、白楽天のほか、劉禹錫、王勃、蘆照隣、高適、岑参、李商隱、元稹などの有名詩人がみんな四川省に詩を残しています。宋の時代には陸遊のほか、蘇東坡、黄庭堅、範も四川省に創作の筆を執っています。

### 第三節 四川省の観光資源

中国の地形図を広げてみると、チベット高原を最上段、新疆、内モンゴル、陝西省、四川省につながっている雲貴高原が第二階段で、東北平野、華北平野及び華東華南の広い平野丘陵地帯が第一の階段というように、階段型になっていることに気がつくでしょう。平野地帯には人文的遺跡が多いのに対して、自然の遺産は階段のつなぎ目にあると言われていています。四川省は二つの階段に挟まれていることから、チベット高原の東の斜面に最高のコンカ山は海拔7,556メートルもある一方で、長江が重慶へ注ぐ出口の地点ではわずか海拔200メートルしかなく、地形の複雑さが四川省をもっとも雄大な自然と美しい景色に恵まれる地帯にしています。

四川省の観光資源は単なる自然の風景ではありません。古くから漢民族の重要な一部分がここで生活していたことから、人文的な要素も多く含まれているのが特徴です。至る所で、諸葛孔明の波浪に富んだ生涯を偲ぶところもあれば、李白や杜甫の詩に描かれているところもあります。道教仏教ゆかりの名山もあれば、異国情緒にあふれる少数民族の生活もあります。まさに、複合的な観光名所としか言いようがありません。

四川省の観光の目玉の一つに「国宝」と言われるパンダがあります。パンダは中国の友好使者として多くの国々に送られ、世界的にパンダブームを惹き起こしています。生存地の四川省はどのような場所なのか確かめてみたいということが、世界中の人々が四川旅行に足を運ぶ目的でもあります。

#### 1. 成都市内観光

2008年2月、成都是杭州と大連と一緒に世界観光組織と中国国家観光局の授けられる最高観光都市の名誉に輝きました。同時に成都是都市規模が適切で、悠々自適な生活習慣があるから、最もリラックスできる都市と中国「第四の都市」とほめたたえられました。チベット高原から流れ落ちる二本の川は成都を一番初めに通過することから、豊富な水資源と汚染のない水に恵まれています。2,000年前に作られた都江堰というダムは現在でも機能しており、成都平野の水田を灌漑しています。これは成都在「天府の国」と呼ばれる所以です。豊かな自然環境のおかげで、成都是中国西部で唯一東部の都市に匹敵する経済発展を成し遂げました。商業を例にみると、イトーヨーカドー4店、パックスン5店、西武1店、伊勢丹1店、好又多8店、カルフォーラ5店、メトロ1店、オールマート2店、オーシャン2店、易初蓮華3店、B&Q2店、新世界百貨、太平洋百貨のように中国に進出した外資系の商業企業が軒並み成都に顔を出揃えています。中国国内の中堅デパートの王府井百貨と北京華連、人民商

場、国美 17 店、蘇寧 9 店、永樂 11 店、五星 5 店も加わり、成都是中国一の商業激戦区となっています。

四川省は北京時間を使っていながら、北京とほぼ二時間の時差があります。この二時間の時差が四川省の内需拡大にかかわる消費概念を大きく左右していると言われます。夏に 9 時前後によく暗くなりますから、5 時半に仕事を終えても、家にはすぐに帰ってじっとせず、外へ遊びに行きたいという衝動に常に駆られています。ちなみに、四川省の喫茶室、麻雀荘、マッサージ室、バーやカラオケは全国でも多く、伝統ある四川料理の美味しさも手伝って、外食企業にとって多くのチャンスを提供しています。成都是観光、飲食、レジャーを総合的に楽しめる街といえるでしょう。

経済発展に伴い、成都の都会部のバラックや貧民窟の改善は既に完了しており、新しい建築物はポストモダン的な形の奇抜さと色彩の多彩さを競っています。

北京ではお金があれば車を買ひ、上海ではお金があれば建物を買ひます。成都では両方を買わなければならないとよく言われますが、確かに成都の人々の消費概念と地理的なメリットは、観光だけでなく、四川省で仕事をし、生活していく人をますますひきつける力を増しています。

## 2. 謎の古蜀文化（三星堆遺跡から金沙遺跡へ）

「蚕叢（さんそう）及び魚鳧（ぎょふ）、開国いかに茫然たるか」と李白は歌っています。つまり、唐の時代では、秦の始皇帝が四川省の地を武力で自分の版図に入れたまでは、四川省にかつて蚕叢と魚鳧が蜀の国を開いたことについてはすでに茫然になっていました。その理由については李白が続けて、「爾来四万八千歳、秦塞と人煙を通せず」と詠んでいます。やはり、蜀という国が農業で定住し、蚕と漁業も営まれ、蜀の人民は以前のように、野獣を追ってさ迷う生活をやめたようです。

中華思想の影響で、周りの民族のことを東夷西戎南蛮北狄と記しますから、四川省の王様についても容赦なく蚕叢と魚鳧のように獣の名前でもって名前を記録しています。日本も最初は倭人として記録され、後になって自分たちの国名は日本だと強く主張して定着したわけですが、蜀の人たちも自分たちの王朝は開明王朝だと主張して、以降は開明王朝というイメージのいい名前になっています。

しかし、その蜀の国はかつてどこに存在し、どのような国だったのかは長い間、謎に包まれていました。1929 年の春、成都の北 50 キロの地元の農民は田畑を耕していた時、偶然に精美な玉石器を発見しました。その玉石は古代蜀国の地域的特色が濃く、人々の注目を浴びました。この時に 3,000 年から 5,000 年も眠っていた三星堆の文明が蘇ったのです。

1986 年、考古学者により、大掛かりな発掘作業が行われ、たくさんの青銅器、玉器、象牙が葬られるふたつの祭祀坑を始め、多くの文物が発見されました。

三星堆文化の奇特なところは、ここから出土した数多くの青銅面があります。中国中部の河南省からすでに、鼎、盆など多くの精美な青銅器が出土しましたが、面は出土しませんでした。三星堆遺跡から出土した青銅面のほとんどは眉が太く、目が大きく、鼻が高く、口が大きく、あごはほとんどな



いものでした。その表情は笑っているようでいて笑っておらず、怒っているようで怒っていない神秘的なものでした。詳しく見ると、これらの青銅面は両耳の上にそれぞれ小さな穴がひとつあり、この種の面は顔の形が今の地元の人間と大きな差があるため、専門家もこの面の表わす意味が分からないそうです。

また、三星堆遺跡から、細くて高い青銅で鑄造した人像も出土しました。この人像は容貌が青銅面の特徴と同じで、燕尾服のような長衣を着ていて、はだしで高い土台の上に立っています。銅像の高さは約170センチ、世界に既存する最も高い青銅像になっています。銅像の両手は片手が高いところにあり、もう一方が低いところにありますから、物を握る様をしています。出土した時は、手の中には何も握っていませんでした。専門家によっては、この銅像の表情や手まねから、一般人と異なる祈祷師或いは神のようであり、銅像のいた場所は祭祀場だったようだと推測されています。

面と銅像のほか、そこからまた金杖、青銅の「神の木」、象の歯なども出土しました。蜀の国の青銅技術の高さと文化の発達を物語っています。

この文化はその後どうなったかは神秘的ベールに包まれていましたが、2001年2月成都市西郊外の蘇坡郷金沙村で都市の再開発が行われていたところ、偶然、三星堆に継ぐ最も重要な発見がなされたのでした。遺跡から出土した貴重な文化財は1,000余点を数え、金器30余件、玉器と銅器がそれぞれ400余件、石器が170件、象牙器が40余件含まれ、このほか、大量の陶器がありました。

「太陽神鳥」、「玉琮」、「彩木人像」は金沙遺跡で出土した最も精美な文化財であり、金沙遺跡の「三絶」と称されています。特に「太陽神鳥」の金箔は、厚さが0.02センチメートルしかなく、「太陽神鳥」の図案はすでに中国文化遺産の正式なシンボルマークと指定されました。2006年末、大規模な金沙博物館が完成し、2007年3月末、4月の初めには全面的に對外開放されました。3,000年余年前にここで生活した祖先が創造した偉大な文明を見ることができます。

金沙遺跡の文明は三星堆遺跡の文明を引き継いでいることが確認されていますが、なぜ、三星堆遺跡の人たちが自分の故郷を捨て、金沙へ引っ越してきたのでしょうか。最も説得力のある推論をひとつご紹介しましょう。実は三星堆遺跡文明はその出土した面や人形からもわかるように、お下げのついている神職の人と、世俗的な人に分かれていました。中国の一番古い王朝の夏は天命を自らの政権の寄り所としていました。殷族が夏を滅ぼしたときに「革命」という言葉が使われました。続いて殷商時代は神鬼を政権の根拠としていました。神鬼崇拜は家畜だけでなく人間そのものを犠牲として神に奉げる残酷な儀式を伴いますから、人間を大事にする周に取って代わられました。おそらく、人間をより大事にする思想は蜀の国でも革命を引き起こしました。

その革命のおかげで、神権を象徴するような器などは「祭祀坑」という場所に葬られ、世俗の人たちが神職関連の人を置き去りにして成都へと引っ越していったことは現在推測されています。いくつかのグループに分かれて北へ西へと転々としていき、その中で成都平野へ引っ越してきた部族は一番有力で後で四川省西部を統一したとも考えられています。その証拠として金沙遺跡では祭祀関連の出土品が少なくなり、より生活感に富んだ特色になっているのです。

両遺跡でも兵器が全然見つからなかったことは、蜀の国はいかに平和的な国であったかを物語っているようですが、秦の始皇帝の兵馬俑坑に代表されるような強力な軍隊が繰り出された時には、蜀の文明は滅亡の運命から逃れるすべはありませんでした。

いずれにして、古蜀文化の存在は中華文明には多くの文化が合流して出来上がったもので、漢民族もほかの民族と融合して成長してきたのを証明し、特にグローバル化が進んでいる今日において、民族ってどんなものか、他民族と他文化との付き合い方についても多くの示唆をしてくれているのです。

### 3. 三国文化（武侯祠、剣門の関、張飛の植えた柏の並木道路、陳寿の書齋及び墓）

四川省には劉備、諸葛孔明、関羽、張飛、趙雲にまつわる地名、祠、伝説がありますが、何しろ、2000年も昔のことですから、確認できないところも多いのです。影響力が大きく、現存するものをご紹介します。

成都の武侯祠は、諸葛亮、劉備及びその他の蜀漢の英雄たちを記念するのに、世界でも最も影響力が大きく、訪れる人も多い三国遺跡の博物館です。諸葛孔明の政治理想は漢の初めの時期の「虚君実相」で、劉備の亡き後、劉禅を皇帝として尊敬しますが、権力を宰相としてしっかり掌握していました。現在では多くの民主主義の国に政治形態としてすっかり定着していますが、封建時代では、皇帝が許さない方式でした。ちなみに、諸葛孔明が亡くなった後、蜀漢が存続した時代では、民衆による大掛かりの記念行事が許可されませんでした。

ここには、劉備及び彼の二人の夫人の合葬墓である恵陵、劉備を祭る漢昭烈廟、諸葛亮を祭る武侯祠、劉備、関羽、張飛の三人の義兄弟を祭る三義廟などの遺跡が数多く集まっております。唐、宋の時代に、ここはすでに有名な観光地になりました。明の時代に君臣合祀、つまり劉備と諸葛亮と一緒に祭る形式が形成され、現在残っている建築物は、主に清の康熙 11 年（1672 年）に修復されたものです。

武侯祠には歴代の文人墨客が残した詩や対句がたくさんありますが、中には清の時代に趙藩が書いた対句が特に有名です。

能攻心則反側自消、従古知兵非好戦、  
不審勢即寛嚴皆誤、後来治蜀要深思。

現代語に訳せば、心を攻めることができれば、反対する相手が自ら消え、昔から戦争上手な人は戦いを好まず、情勢を理解していなければ、寛大な政策をとっても厳しい政策をとっても過ちになり、以降蜀を治める人は深く考える必要がありましょう。

昔、劉邦が秦の首都咸陽に攻め込み、秦の厳しい法律に代わって、「人を殺し、傷つけ、もの盗みだけ刑罰する。」と約束しました。秦の厳しい法律に喘いでいる人たちが非常に喜び、劉邦を暖かく

迎え入れました。人心を得たことは後に項羽を打ち負かす大きな原因にもなりました。でも、劉備が成都を手に入れた時には諸葛孔明は厳しい法律を作って治めようとしていました。諸葛孔明が言うには、前の劉璋は法律を弛ませ、社会秩序を乱れさせたことから、私たちに成都を取るチャンスを与えられた、従って同じ方法を採用することはないとのことでした。

1958年毛沢東が成都を視察した時に、この対句の前に長く立ち、物思いに耽り、それ以降、四川省へ就任する人には武侯の祠に行ってこの対句を読めと言うようになったそうです。

現在のインターネットの書き込みにはこの対句が企業経営に役立ったとか、人生に対する理解が深まったなどいろいろあります。

隣の「錦里」という巷は飲食、刺繍、お土産、出し物などの店が集まり、昔ながらの成都を演出して人気を博しています。

成都から北へ150キロ、剣門の関があります。今では高速道路を利用して1時間余りで簡単に行けます。そこには険しい山脈は嶺を72個もつなげていますが、北側がまるで剣で切ったよう崖にで、南は緩やかになって、四川省を守っています。剣門の関所だけは20メートルぐらいの谷があり、通行できます。昔から「一夫関に当たれば、万人開くこと莫れ」と言われています。この関所を巡って三国時代も含め、古来多くの戦が繰り広げられました。

剣門の関所のすぐ近くに張飛が植えたと言われる柏並木道路があります。3キロにわたって、2、3人では抱え込めない、樹齢1,700年ぐらいの古木が鬱蒼と生い茂っています。これは四川省を出る道の一部ですが、かつてはもっと長く続いていたと考えられます。道路工事などで破壊が続いていますが、この3キロの並木をぜひいつまでも保存してほしいものです。

三国志の旅なら著者の陳寿を省くわけにはいきません。彼の故郷は四川省南充市の閬中というところがありますが、周りには古戦場など三国時代ゆかりの遺跡が豊富に散在している静かな町です。閬中は都市計画として四川省の古い町並みを保存していることから、観光名所として人気があります。魏蜀呉の駆引きはよく知られるところですが、ここでは「魏誌倭人伝」が日本についての最初の体系的な記録であることを思い出していただきたいのです。陳寿ゆかりの蔵書楼があって三国志ファンを引き付けています。

#### 4. 世界自然遺産（九寨溝と四姑娘山）

九寨溝と四姑娘山の共通の特徴は四川省内のチベット高原の東の斜面にあることですが、何千万年前の氷河侵食で斜面に大きな谷ができ、谷から見上げると、一番高いところは雪山で、その次は高山草原、さらに降りてくると、灌木があり、針葉樹があり、広葉樹があつて、世界中の植物を同時に目の当たりにすることは自然界の恩恵と言わざるを得ません。また、谷底は夏でも雪山、モミジ、せせらぎと四季をひとつの山で楽しめるのもまた嬉しいところです。その谷底には溪流があり、無数の湖、瀧、早瀬、浅瀬があり、汚染はなく、透き通った水が太陽光線に合わせ、夢幻的な色を呈しています。

九寨溝と黄龍は1992年12月14日世界自然遺産に登録され、1995年人間と自然生物圏保護区に登録され、1997年世界生物保護ネットに参加し、豊富な観光資源と動植物資源に恵まれたこの山奥にある神秘観光聖地は世界的に注目されるようになりました。上記の特徴のほかに、野生のパンダ、金糸猴などの動物と紅杉、紅松、沙羅樹などの植物も数多くあります。九寨溝には合わせて110個の湖があり、大規模な滝（瀑布）も4箇所もあり、その美しい自然の恵みは世界中の人々の心をつかんでいます。

九寨溝の近くには光明名高い黄龍観光区があります。ここは第四紀の氷河侵食でできた大規模なカルスト地形で、河水に炭酸カルシウム分を多く含まれていることから、河水が山上から麓へと流れるうちに段々と枯れた木の枝、落ち葉や石が堆積し、数多くの湖が形成されました。同時に川底にも黄色い炭酸カルシウム分が溜まり、上空から見ると河全体が一匹のドラゴンが山を登っている形をしていたことから黄龍と名づけられました。

麓から河底沿いの3.6キロの観光道を登っていくと、およそ2,300個余りの湖が段々畑のように分



布し、8つぐらいの湖の群を成して、高原の澄んだ空の下、日に照らされて五色の色に輝いています。「人間の仙境」と言われる所以です。

四姑娘山は4つの5,300メートルから6,200メートル級の山からなっており、特に四番目の四姑娘山は絶壁が切立つゆえに多くの登山家にとって憧れの登山聖地

図1—3—1 九寨溝の景色

地です。自然景色の素晴らしさから「東方のアルプス」とも呼ばれています。実際観光するのは4つの山に挟まれている谷の長坪溝、双橋溝、海子溝です。

四姑娘山の景色は九寨溝とほぼ似ていますが、開発はされほど進んでいませんから、本当の自然が残っていると評価されています。観光の目玉は高山植物です。5月からシャクラゲ、桜草など、6月から8月までは青いケシ、赤いケシ、黄色いケシ、白いケシを始め、エーデルワイス、草ジンチョウゲ、アツモリそう、キランソウ、キンポウゲなどの花が山一杯に咲きますので、植物愛好家達の楽園になります。

## 5. 楽山の太夫

1996年峨眉山と一緒に世界文化遺産と自然遺産に登録された楽山大仏は、成都市から約130キロ離れ、バスで約1時間半かかる楽山市郊外にあります。凌雲山のふもとには岷江と青衣江と大渡河の三本の川が合流しており、遠くから眺めると、凌雲山はあたかも眠っている仏に見えます。唐の時代にその凌雲山の一部を彫り、そのまま高さが71メートルもある川に向かって座る仏にしますから、その趣は倍増すると同時に、その苦勞も想像を絶します。この巨大な仏像が誕生して以来ずっと世界一の地位にありますが、現代の私たちが見ても、ただ驚嘆するばかりです。

表1-3-1 大仏の寸法

身長	71.0メートル	
頭の長さ	14.7メートル	
頭の直径	10.0メートル	
首の長さ	3.0メートル	
耳の長さ	7.0メートル	二人が並んで立てる
指の長さ	8.3メートル	
足の長さ	11.0メートル	足の甲に100人が座れる
足の幅	9.0メートル	

秦の始皇帝の時から成都から船に乗って楽山を経由して、長江に入り、中国東部地方と往来する航路が開通され、唐の時代にはますますこの航路の利用が盛んになっていました。李白も杜甫も幾度ここを旅行したことを想像できます。しかし、この地は三本の川が合流していますから、洪水がよく起こり、船の沈没事故も頻発していました。

紀元713年、唐則天武后時代の末期、凌雲山で修行している海通和尚は楽山大仏手前の三江合流点には悪龍があるから、船がよく沈没すると考え、その悪龍を追い払い、衆生を災難から救い出すための方法として、仏像を造り、仏様の力を借りて、悪龍を鎮めようと思いつきました。同年、海通和尚の主催で、三江合流点に位置している凌雲山で巨大な仏像造像工事が着工しました。あまりにも大規模な仏像の工事なので、紀元803年、工事着工から90年の歳月を費やし、ようやく完成に至りました。工事中、凌雲山から削られた沢山の岩石が合流点の河床に捨てられたことから、河の流れを緩やかにさせることができました。楽山の太夫が建造されてから船の沈没事件が少なくなったのはこのためです。人々の苦勞が報われ、楽山大仏が治水工事にもつながりました。

楽山大仏が彫られた凌雲山の岩石が紅砂頁岩で、材質が柔らかいという脆く、雨や風に浸食されやすいですから、完成当時は山の地形を利用してすっぽり仏を覆う大きな仏殿が作られ、巧妙な排水システムも施されました。河からは仏の顔だけが眺められていました。1,200年も保存できたのはこの保

護措置に依るところが大きいのです。後に仏殿は火事に遭い焼失しましたが、幸いにも現在では、ハイテク設備でしっかり保護されています。

大仏が弥勒菩薩のイメージを採用しているのは、当時の則天武後が「自分が弥勒菩薩の化身」と自ら信じて、政府も宣伝に力を入れたからだそうです。

## 6. 峨眉山

峨眉山は、その道教や仏教との深い関係、雄大な景色、豊富な動植物の種類、中国歴史への影響により、1996年に世界文化自然複合遺産に登録されました。成都市から約156キロ、今は高速道路で約2時間と簡単に行くことが可能です。前漢時代では秦の時代の法家理念から国家イデオロギーが道教思想に変わり、峨眉山には時代の風潮に合わせて道教の道館が建てられました。紀元3世紀半ば、インドからの仏教修行者がその雄大な自然に引かれ、峨眉山に修行のために来たことから、仏教のお寺が建てられました。紀元420年（東晋時代）、新しく訳された仏教経典「華嚴経」では峨眉山を普賢菩薩の修行山としたことから、仏教のお寺の建造が盛んになりました。唐の時代、特に則天武后以降は仏教が国家的宗教の地位を断固たるものになり、峨眉山に151箇所の仏教お寺も造られ、繁昌の一途を辿りました。北宋時代には道教が他の地へ移り、峨眉山はすっかり仏教の名山として知られるようになりました。紀元980年、宋太宗の命令で高さ7.85メートル、重さ62トンの普賢菩薩銅像が造られ、万年寺に安置されました。このことがきっかけで、峨眉山は正式的に普賢菩薩の修行道場と認められました。峨眉山も五台山、普陀山と九華山とともに中国四大仏教名山になりました。

峨眉山の最高峰万仏頂の海拔が3,099メートル、2番目高い峰金頂の海拔が3,077メートルで、海拔500メートルの四川盆地の縁から2,500メートルも高く聳え、遠くから眺めると、少女の眉毛に似ていることから「峨眉山」と名づけられたのです。現在、峨眉山には20箇所程度のお寺が残り、仏教ゆかりの遺跡や歴代の詩人墨客の書道彫刻がいたるところに散在しています。麓から登っていくと、鬱蒼とした森を通りながら、報国寺、伏虎寺、万年寺、洗象池、華蔵寺など有名な寺院を順次拝んでいくことで、きっと心身ともに洗われる感覚を体験することができるでしょう。頂上に近づけるにつれて、中国の水墨絵の生まれる所以を納得できる風景を見下ろすことができます。日の出、御来迎や雲海も観光客を引き付ける魅力のひとつだと言われます。特に峨眉山の雲海は見渡す限り、果てしなく広がり、波打つような雲の大海原に、いくつかの山の頂が雲の上にちょっと顔を覗かせて、さながら島のように見えて、峨眉山の趣を一層生き生きと際立たせます。

報国寺は麓にあり、明末清初にできたお寺ですが、清の支配者は儒教の三教合一を国家イデオロギーにしていますから、ここでは儒教人物、仏教の仏様、道教の神様の造像を一緒に奉っています。清の康熙皇帝がこの交通条件の一番よく、信仰者が通いやすいお寺を大掛かりの改造をさせ、報国寺と新しく命名しました。日中戦争時には、蒋介石と宋美齡夫人が峨眉山の紅珠山別荘に泊まった時、よくお寺参りに来て、今でも蒋介石肉筆の「尽忠報国」の扁額があまり目立たないところにかかって

います。七仏殿の陶磁七仏像、高さ 2.3 メートル重さ 25 トンの鐘と、14 階建ての紫銅でできた華嚴塔が貴重な文物です。

伏虎寺は峨眉山麓にある尼さんのお寺で、千年もの歴史がある原始の森に囲まれています。不思議な自然現象でこのお寺の仏殿の屋根にはいつでも落ち葉が見られません。清の康熙帝も不思議に思い、お寺に対し「離垢園」の額を書いて送ったのです。今でもその額が伏虎寺の本殿に奉られています。

峨眉山の寺院はそれぞれ特徴があり、すべてを挙げることはできませんが、特筆すべきは山頂にある華嚴寺です。紀元一世紀に建立されたお寺で、建立当時は「普元殿」と称していましたが、明時代に「新明華嚴寺」に改名され、純金でお寺の仏殿に金メッキを施されたと記録されていますが、火災で元の華嚴寺が惜しくも焼失しました。現在の華嚴寺は 1980 年代に再建されたのです。25 メートルほどの高さの大きな金メッキの座れる仏の像が本殿となり、100 以上の階段の大の上に建造され、遠くからでも見上げて見ることができます。山頂の明るい太陽に照らされ、金色に輝き、仏教の威厳を十二分に具現しています。大きな仏の像の周りには信仰者によって多くの蠟燭が点され、本殿の入り口から入ってすぐの広々とした空間に仏様が奉られている荘厳な光景は、人々を神秘的で幻想的な世界へと導きます。

## 7. 都江堰と青城山

都江堰というダムは成都市の都江堰市にあり、市街地から 50 キロで、高速道路を利用すれば 30 分で行くことができることから、成都を訪れる人は必ずといっていいほど、観光に行く名所になっています。チベット高原から流れ落ちる岷江の平野部への入り口に位置し、2,300 年も前に作られました。幾度の大きな地震を経ましたが、今日でも正常に機能しており、直径 100 キロの成都平野に水を提供し続けています。成都平野は西から東にかけて 150 メートルの落差もあり、自流感慨に適しています。平野を縦横に廻らされた用水路は成都平野を隈なく潤わせ、旱魃も洪水も知らない中国有数の農業発達地帯にしたのです。それは四川省が昔から「天府の国」と呼ばれる所以です。この世界で空前絶後の水利施設が 2000 年 12 月に、峨眉山、樂山、九寨溝、黃龍に次いで世界文化遺産に登録され、四川省の 5 番目の世界遺産になりました。

何の目的で作られ、どう作られ、どんな構造を持って、どうして 2,300 年も機能し続けられたかはもちろん、単なる技術的な問題ではなく、中国の古代哲学に深く関係し、人と自然が調和の取れた持続的発展可能な手本を示してくれているのです。

実は岷江が玉墨山に阻まれて、成都平野に入らず、その豊富な水量が空しく傍を通過していったのです。古代蜀国の宰相の鼈靈も玉墨山を掘りぬけて、岷江の水を平野に引こうという考えもあったとも伝えられていますが、当時の技術レベルの制約から、幻想にしか過ぎませんでした。紀元前 376 年、秦の始皇帝が軍隊を派遣して城壁もない平和的な古代蜀国を滅ぼしたことは「三星堆と金沙遺跡」に

て記述した通りです。秦軍の将軍の司馬錯は支配を固めるために、現在の成都のあたりに城壁に囲まれた城を作りました。「一年に邑と成り、二年に都に成る」との記載から成都という都市の名前が2,300年前から今日に至るまで変わらず定着しました。

当時は中国の戦国時代にあって、斉、楚、燕、韓、趙、魏、秦の7国が中国を統一するために熾烈な戦いが繰り返されていました。秦国は成都を基地として岷江から長江に出て、南方の楚を攻める戦略を立てましたが、陸路で食糧を運ぶためには、特に山道では消耗が激しく、遠くまで運ぶことはできませんでした。成都周辺に大きい河がなかったことから、楚の攻略計画は軍需物質の運搬に制約があったことから不完全燃焼に終わってしまいました。

紀元前272年、秦の始皇帝の命令を受けて李冰が四川省の長官として赴任しました。彼が3年間をかけ、四川の地形と文化、経済、技術を詳しく調査して、岷江の水を分けて引き、成都へと流す治水案を考案しました。これには二つの技術的革新が裏付けになっています。第一に四川省に豊富にある竹で籠を作り、中に石を入れて、それを使って川水をせき止める工法でした。第二に、当時また火薬が発明されていないことから、施工する山に薪を堆積し、火をつけ、その上に水をかけ、岩を粉砕してから工事を進める工法でした。

紀元前270年、秦の中央政府から予算をもらい、工事が大掛かりに始まりました。4年間竹籠工法で岷江を内江と外江という2本の河に分ける魚嘴という分水堤防を造りました。さらに岩石粉砕工法で内江側の玉墨山を40メートルも掘り下げ、20メートル幅の用水路を作り、内江の水を成都へ導くことが成功しました。さらに成都からまた岷江に戻る2本の運河を造りました。成都に集まった軍需物質と軍隊は以前のように苦労することなく、長江沿いのいろんなところ到達できるようになりました。紀元前223年、秦の国の100万人の軍隊が成都から出発して、楚の国を滅ぼし、2年後中国を統一しました。前述の通り、この航路は楽山大仏の作られる原因を生み出し、近代まで利用されてきました。

この山を掘り削ってできたU型のところは宝瓶口と言い、都江堰の水利施設のコントロールに大きな役割を果たしています。すなわち、夏の降水量の多い時期には内江の水位が上がり、余分の水をそのまま飛沙堰を通過して外江に戻すことができ、冬などの渇水期に水位が下がり、内江へより多くの水を引き込むことができるよう、自動制御がなされているのです。この自動制御の考え方は様々なところに生かされています。魚嘴では建設場所、大きさ、長さ、高さ、傾斜度、水流流速、流量などすべて精密に計算設計をされています。増水期は上流から流れてきた岷江総水量の60%が外江に入り、40%が内江に流れます、渇水期が逆になり、60%の水量が内江に入り、40%の水量が外江に入ります。そうすると、うまく内江に入る水量をコントロールして、増水期は洪水にはならず、渇水期は農業灌漑用水を確保できます。同時に河の曲がり具合をうまく利用して内江へ20%の沙(砂)、外江へ80%の沙を分ける働きもしており、自然の摂理をうまく利用して「四六分水」と「二八分沙」の2つの効果を同時に実現しています。2,300年の歳月の試練に耐えられるわけも納得が行きます。

紀元前256年、この軍事用に使う都江堰水利プロジェクトが正式に完成をしました。岷江の内江の



水が都江堰から成都へ流れる途中、成都平野を通るので、地元の農民が自発的に小さい河を作り、内江から水を導入して自分の田圃を灌漑します。やがて、成都平野には何千本もの灌漑用水路が掘り廻らされ、土肥沃の成都平野が都江堰のお陰で「天府の国」が成就したわけです。

この大きな業績により、成都の人々は二王廟を作り、李冰とその息子李二郎を神様として祭りました。二王廟の一番高いところに秦堰楼という建物があり、ここからは都江堰の全景を見下ろすことができ、古いダムを通じて先祖の功績を偲ぶことは非常に有益な体験となることでしょう。「深淘灘、低作堰」、つまり深く河床を掘り下げ、ダムは低く作るというこの「治水六字訣」は、自然を尊敬し、社会、経済、人間関係にも共通する中国哲学の精髓として関心を呼んでいます。諸葛孔明を始め、歴代の四川省の長官はいずれもこの水利施設を重要視し、維持管理に力を入れています。宝瓶口の土砂を浚う目安は現在でも李冰が埋めた鉄牛ですから、その叡智には感心せずにはられません。現在、毎年春、盛大に行われている放水節はその名残で、先人の知恵に思いを馳せ、観光の重要イベントにもなっています。

青城山は同じく成都市の都江堰市にあり、市街地から 68 キロ離れて、高速道路を利用するとわずか40分で行くことができますが、樹木が生い茂り、都会から遠く離れたユートピアのような景色を備えています。都会の雑踏に疲れた人はここで安らぎを感じ、人生を考えさせる場所だと賞賛されています。成都を訪れる人ばかりでなく成都住民になじみやすく、多くの人が別荘を構えています。道教の発祥地としても避暑地としても特に名高いのです。

後漢時代に道教の「天師」張陵が青城山へ来て、ここの風景に魅かれ、道教と縁があると判断し、庵を結んで伝道活動を開始しました。老子を教祖として四川省の少数民族の原始的宗教をも取り入れ、「天師道」を作り、信者を集めました。本人は青城山で逝去し、後世に「天師」と崇められました。以降、青城山が道教発祥地の一つになりました。天師道はその弟子の継承発展により、全国に広がりました。

唐の時代の末期、著名な道士杜光庭が青城山に来て、天師道を上清道と結合させて、修行して道を悟ったら、清天に昇ることができると称して、より広範な信者を集めました。同時に彼は当時の四川省にある前蜀の皇帝の顧問を勤めており、青城山に30年生活し、ここで多くの本を著わし、道教の発展に大きく貢献しました。

明の時代には、師について修行し、結婚せず、殺生しないことを道義とする全真道竜門派の地として盛りを迎え、宮殿や造園の維持を大がかりに行われました。明末の戦乱で道士が逃げ、清初に武当山の全真道竜門派道士が来て教務を再開して繁栄期を迎えました。

現在、建福宮、老君閣、園明宮、上清宮、天師洞などの遺跡があり、いずれも、山の地形をうまく利用して、「道教の自然に帰る」の理想を十二分に発揮しています。

2000年11月都江堰と一緒に自然と文化遺産に登録されました。

## 8. パンダの故郷

1869年の春、フランスの伝道師ダイウィーが四川省宝興県鄧池溝カトリック教会の神父として生物標本の採集中、李という地元の住民に家へ招かれた際に、壁に飾ってある白黒の動物の皮に深く惹かれました。「白熊」、「竹熊」または「黒白熊」とも呼ばれるものだと紹介されると、ダイウィーが直感的に新しい新種が発見されたと興奮したと伝えられています。彼は20人の狩人を雇ってこの種の動物を捕獲しようとしましたが、3月23日に「白熊」が送られてきました。残念ながら搬送しやすくするために、殺されていました。5月4日によく生きた「白熊」が捕まえられました。ダイウィー氏は早速体重を量ったり状況を記録したりして、これまでにない科学観察をしました。

一定期間の丁寧な飼育の後、ダイウィー氏がフランスに持ち帰ろうと決めましたが、鉄道も自動車もない時代に大洋の彼岸まで運ぶことは容易なことではありませんでした。案の定、この「白熊」は旅の苦勞と気候の変化に耐えられず、成都に着く前に亡くなってしまいました。やむなくダイウィー氏はこの「白熊」を標本にして持ち帰り、フランス国家博物館に送って展示をしました。世界最初のパンダ標本はこのように世を問うたことはダイウィー氏も思わなかったでしょう。

誰もわからないこの新種がフランスで展示されてから、大きな関心を集めました。皮からは大きな白い顔にメガネをかけたような黒い目をしていることが確認されますが、世の中にそんな動物は存在せず、変わった熊だと断定する人もいました。博物館の主任のエドワーズ氏は十分な研究をした後、熊でもなく、猫でもなく、中国のチベットで発見されたレッサーパンダに似ていて、ジャイアントパンダと命名しました。猫に似た大きな熊の意味ですから、中国語訳では「大猫熊」と呼ばれます。

1939年、重慶動物園では動物標本展が開催されましたが、「猫熊」が注目の的となりました。名前は中国語とラテン語ともに横書きで表記されますが、当時人々は中国語の縦書きの習慣に従って、右から左へ読みますから、大半の参観者は「熊貓」と呼びました。それがマスコミの影響なども手伝って、まもなく定着しました。パンダの現代中国名称はこのようにした誕生したのでした。

パンダの発見はヨーロッパでブームを巻き起こしました。アメリカのルーズベルト大統領の二人の息子も中国へ駆けつけて、越西県で一頭のパンダを殺して標本にしてアメリカに持ち帰ったのです。今、西洋諸国のほとんどの博物館にはパンダの標本があります。

ダイウィー氏がパンダを発見してから67年後の1936年、ローズ女史が生きた幼年パンダをアメリカへ持ち込むことに成功して、各地の巡回展示で大きな反響を呼びました。

パンダが外国で人気を博して以来、中国国内での地位も次第に高くなっていきます。20世紀40年代からは政府が外国人の捕獲活動を制限し始め、パンダもおかげで保護されました。

パンダの先祖は肉食習性の動物でしたが、気候の変動で肉が見つからず、山に生い茂っている竹を食べ、それが習性になりました。竹の栄養分は少なく、大半は消化できない繊維質ですから、パンダの食べる量は非常に多く、一頭の成年のパンダの一日15から20キロの竹を食べ、多量の消化できな

い繊維質を排泄します。パンダの活動する縄張りでは繊維質の糞がよく見られます。たまに肉食の習性を現し、鼠などを捕まえて食います。

パンダの生息地は季節との関係が大きく、冬と春は海拔3,000メートル以下の雪の少ない山谷で活動し、冬眠の習性はありません。夏と秋は海拔3,000メートル以上の涼しいところで生活します。固定した住み家がなく、転々としながら生活しています。動きは鈍いですが、聴覚が発達しており、ちょっとしたでも異常があると、すぐに木の上に登って隠れてしまいます。これは何十万年の試練を耐えてきた生存の本能なのでしょう。

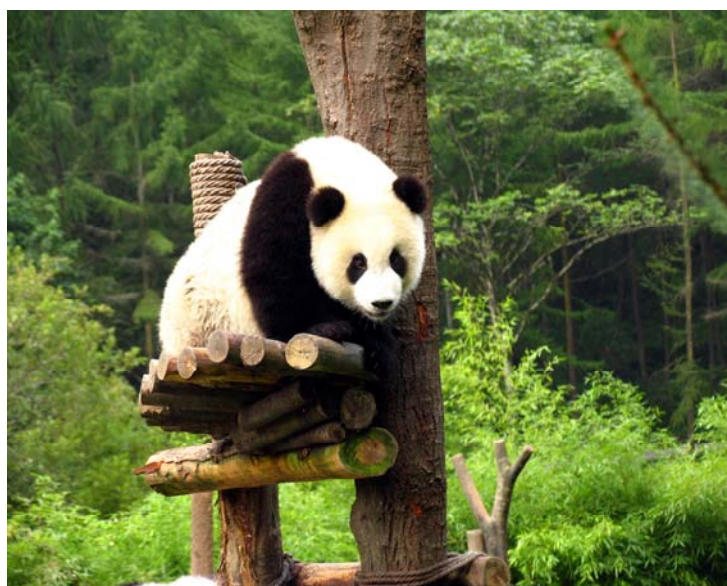


図1-3-2 成都パンダ繁殖飼育センター

孤独な性格ですから、発情期にだけ雄と雌が同居生活をします。繁殖力が低く、通常、一回に一頭の子供を産みますが、同時に二頭を出産することもあります。体重が100キロを超える成年パンダの子供は、生まれた時には驚くほど小さく、0.1から1.15キロしかありません。母体の重量の千分の一に相当しますから、育てるのが難しいです。出生から青年まで2年かかります。

現在、中国の野生パンダは1,000頭と推定されており、四川省、陝西省、雲南省、貴州省の広大な地域に生息しています。この広大な地域は野生パンダの繁殖をますます難しくしています。300万年来ほとんど変わらず、古代哺乳類の研究に重要な意義を持ち、「活きた化石」とも言われています。

四川省では林業部管轄の臥龍パンダ保護センターと建設部管轄の成都パンダ繁殖飼育研究センターの二つの保護施設があります。外交使者として外国へ共同研究に送られたパンダはこの2か所から出ています。

成都パンダ繁殖飼育研究センターは成都の郊外にあり、広い敷地に丘と湖のある綺麗なところです。パンダの主食の竹がたくさん生い茂っていますが、パンダに食べさせる竹は遠い郊外に専用の山から運んできています。ここでは栄養分補給のために、竹の葉っぱにトウモロコシと肉を入れたパンダケーキを開発、またビタミン補給のためにリンゴも食べさせており、竹はむしろ食後のデザートになっています。パンダの別荘が丘の竹林に点点と散在しています。近年は双子出産のパンダが多く、パンダの保育院でも多い時には20頭以上集まる盛況で、成都観光の目玉にもなりました。

## 9. 最後のシャングリラ、稻城と亜丁

1933年、アメリカの作家ジェームスヒルトン氏が「失われた地平線」という小説を発表しました。70年前に数人のイギリス人が戦乱をさけるために、小さな飛行機で逃げますが、その飛行機がハイジャックされ、機械の故障で夜に全く見知らぬ草原に緊急着陸しました。乗員の4人は無事でしたが、ハイジャックをしたパイロットは重傷を負い、亡くなり前に、ここは中国のチベットで、近くにシャングリラというラマのお寺があり、そこにたどりつけば、生きられると言いました。

生きたいという本能から、4人はシャングリラを苦勞の末、なんとか見つけることができました。そこは雪山に囲まれ、草原には色とりどりの花が咲き誇っており、風吹くと草が低くなって、放牧されている牛や羊が見え、谷の底には金鉱があつて、オリエント文化の神秘的な中核地帯でした。この住民がまた人懐かしく、心温かく迎え入れてくれました。現地への理解が深まるにつれて、彼らはこの住民が長寿であり、100歳を超えても若く見え、まるでここでは時間が意味を失っていることを発見したのです。さらに驚くことに、彼らが250歳でシャングリラを100年も精神的に支配した転生活仏の接見を受けたことです。シャングリラを離れば若さも失われるそうです。ここにはチベット族を主とし、多くの民族が雑居し、信仰も仏教、儒教、道教と多岐にわたっています。習慣も信仰も文化も違う人々がここで尊敬しあい、陽光と雪山の恩恵を受けながら、幸せに生活しています。シャングリラの世界ではすべて「適度」を最高の理想にして、「やりすぎ」と「及ばず」は罪悪視されます。

この感動的なストーリーは世界の人々を魅了し、映画版の「失われた地平線」も上映され、シャングリラは永久、平和、調和、安らぎを象徴する流行語として人々の心に深く根付いたのです。確かにシャングリラはヨーロッパの文化価値観に人間楽土の境地を植え付けたことで大きな意義がありました。

では、ストーリーの舞台となるシャングリラは一体どこにあるのでしょうか。中国では雲南省説、四川省説、チベット説の三つの学説が激しく言い争って譲りませんが、雲南省は率先して国家に申請し、7つの理由で中甸県をシャングリラ県に改名し、ほかの説を凌ぐ勢いをみせています。四川省の稻城と亜丁は最後のシャングリラと称するようになりました。時間による最後の証明を待つという負け惜しみの気持ちからでしょう。

稻城と亜丁はともに四川省東南部のカンゼチベット族自治州にあり、気候は高原季風気候で、最低気温は約マイナス5度、最高気温は12度ぐらいで、海拔3,800メートルありますが、一年中春のような快適な気温に恵まれています。この景色には「失われた地平線」に描写されたように、雪山に囲まれ、ラマ教寺院、天然牧場、高原農園、チベット族村、青空、せせらぎ、ポプラの森、温泉、美しい伝説の光景が揃っていますが、唯一金鉱が見つからないのは残念です。現代の工業が全くなく、自然の風景が昔のまま残っていることは素晴らしいですが、交通が不便で、受け入れ施設も遅れていま

すから、観光客よりも、撮影愛好家の訪れる聖地となっていました。しかし、稻城空港の建設がすでに始まっており、「最後のジャングリラ」にも新たな未来が開かれそうです。

その他の国家級に選ばれた観光資源は剣門蜀道、コンカ山、蜀南竹海、西嶺雪山、石海洞郷、邛海、光霧山、白龍湖、天台山、竜門山などがあります。

## 附録2：四川省アウトソーシングサービス企業ベスト20

企業名	業務内容
成都建築材料工業設計研究所有限公司	設計及び図面処理
新電情報科技（成都）有限公司	通信系ソフトの開発、研究及びメンテナンス
成都ソフミット有限公司	ITO、BPO、KBO 全般
新波コンピュータシステム（成都）有限公司	システム開発受注
四川スカイコンピュータソフト有限公司	システム開発受注
Virtuoso コンピュータソフト（成都）有限公司	ゲームとテレビ番組
成都シグマ科技有限公司	システム開発
成都ソニーデジタル科技有限公司	テレビ番組用システム及び設備
成都啓明ソフト有限公司	システム開発
成都CP ソフト有限公司	ゲームを中心にマルチメディア
成都万創科技有限公司	システム開発
成都鋭の獅科技有限公司	システム開発
マイプ（四川）通信技術有限公司	通信系システム開発
成都Ubisoft コンピュータソフト有限公司	ゲーム制作、発行、運営
Kingsoft	ゲーム、アプリケーション、セキュリティ
成都金海洋コンピュータ科技発展有限公司	システム開発
四川抗生材工業研究所	製薬関連ソフト
四川漢科コンピュータ情報技術有限公司	システム開発、マルチメディア
成都国騰ソフト有限公司	通信系システム開発

### 附錄 3：四川省環境保護関連企業ベスト 20

企業名	資格	代表者	業務範囲/備考
成都神科環境保護科技工事有限会社	甲級	廖明沢	騒音、振動
成都加傑爾環境保護有限会社	甲級	李余斌	廃水、固形廃物
四川金海環境保護工事株式会社	甲級	史代琪	廃水、廃気、固形廃物
四川省環境保護工事会社	甲級	楊曉蓉	廃水、廃気、固形廃物、 騒音
四川亜太環境工事有限会社	甲級	李開春	廃水
四川兆興環境保護科技發展有限会社	甲級	顔招強	廃水、廃気、騒音、振動
華特科技（四川）環境工事有限会社	甲級/臨時	龍開渝	廃水、固形廃物
成都華日環境総合技術中心有限会社	甲級	楊治敏	廃水、廃気、騒音
成都市信高工業設備設置工事会社	甲級	瀋斌	廃水
四川康達環境保護実業發展有限会社	甲級	李偉	廃水、廃気、固形廃物
四川浩瓏科技有限公司	甲級/臨時	陳静	廃水、環境オンライン監督と警報システム
四川海諾爾環境保護産業投資有限会社	甲級	駱毅力	廃水、廃気、固形廃物
四川鑫穗生物科技有限公司	甲級	李国棟	廃水、環境生態保護項目
四川志雲環境保護建築工事有限責任会社	甲級	曾毅	廃水、廃気、騒音
四川大通機械電力設備有限会社	甲級	汪建南	廃水、廃気、固形廃物
四川省ひ林環境保護産業發展有限会社	甲級	王大志	廃水、廃気、環境生態保護項目、騒音、振動
四川新瑞德環境保護科技發展有限責任会社	甲級	宋岱峰	廃水、廃気
中国電子システム工事第三建設有限会社	甲級	駱邦国	廃水、廃気、固形廃物、 騒音
四川省彭州国泰環境保護有限会社	甲級/臨時	駱明君	廃水、廃気、固形廃物
成都至宇環境科技有限公司	甲級	周正光	廃水、固形廃物

## 附録4：四川省資源関連企業ベスト20

企業名	業務内容
中国石油四川販売分公司	加工済みのオイルの卸売りと小売りを経営する業務
中国石油化工有限公司西南分公司	オイルガスを探察、開発、商売すること
四川華油集团公司	天然ガスの生産と提供すること
攀鋼集团有限公司	鋼鉄、バナジウムとチタン製品の研究、開発、生産、 商売など
四川江油長城特鋼有限公司	特殊鋼
四川恒森石油天然ガス開発有限公司	天然ガスの生産と提供すること
四川石油天然ガス建設工程有限責任公司	天然ガス地面長輸パイプ工程の建設;石油化学装置工 程の建設
五粮液集团有限公司	五粮液シリーズの酒の生産経営、製造業、工業の包装、 光電気のガラス、物流、製菓
延長シェル(四川)石油有限公司	加工済みのオイルの小売りする業務
四川国棟建設集团有限公司	新型建築材料、建築を請け負う、ガラスを深い加工す る、不動産開発
四川昇達林産工業集团有限公司	木(竹)の人造繊維板、各類の木(竹)の床板、木(竹) の質の化粧板、線などを加工、生産
四川省鈷業有限公司	鈷脈を探察、鈷物の開発、技術の研究と資産運営を通 じて合理的に四川省の地質鈷物の資源を開発
二灘水電站開發有限責任公司	水力発電
四川省電力公司	四川省電力網の計画、建設、運営と電力供給
カンゼ州康定硅工場	金属のケイ素を生産すること
郫県啓明電力有限責任公司	電力供給
四川瀘天化株式会社	天然ガスを原料にして尿素を生産
四川順通鈷業集团有限公司	石炭業と鈷業は主として、エネルギーの貿易、鋼材の 貿易、セメントの貿易、建築施工、漢光ホテル、道路 輸送、金融保障などの業務も
四川愛衆投資株式集团有限公司	水力発電、資産経営、対外投資、都市インフラ建設
川化集团有限責任公司	化学肥料と化学工業。中国、現在最大の合成アンモニ アとメラミンを生産企業



四川省の基礎調査と震災復興への取組み

## 四川省の経済・産業ガイド

---

2010年3月発行

発行 財団法人日中経済協会

東京本部

東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル 〒100-0014

TEL 81-03-5511-2511 (代) FAX 81-03-5511-2519

URL <http://www.jc-web.or.jp>

成都事務所

〒610015

中国四川省成都市人民南路一段86号 城市之心大廈18楼N座

TEL 86-28-8620-3380

FAX 86-28-8620-3393

---